法学部 法律学科（2014年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 休講	1学期	1	2	1年	
	異文化理解の基礎 ANT110F 休講	1学期	1	2	1年	
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	1年	1
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	1年	2
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	3
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	1年	4
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	1年	5
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	1年	6
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	1年	7
	可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期	2	2	2年	
	現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	2年	8
	言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	1学期	2	2	2年	9
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	2年	10
	共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	2年	11
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	2年	12

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高　京子	1学期 2年	2	2	13
	情報社会を読む INF200F 浅羽　修丈	2学期 2年	2	2	14
	地域資源管理論 ENV200F 廣川　祐司	2学期 2年	2	2	15
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 徳永 政夫　他	1学期 1年	1	2	16
	教養基礎演習I GES101F 伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	17
	教養基礎演習I GES101F 稲月 正	1学期 1年	1	2	18
	教養基礎演習I GES101F 神原　ゆうこ	1学期 1年	1	2	
	教養基礎演習I GES101F 小林 道彦	1学期 1年	1	2	
	教養基礎演習I（防衛セミナー） GES101F 戸蒔　仁司	1学期 1年	1	2	19
	教養基礎演習I GES101F 日高　京子	1学期 1年	1	2	20
	教養基礎演習I GES101F 廣川　祐司	1学期 1年	1	2	21
	教養基礎演習I GES101F 石川　敬之	1学期 1年	1	2	22
	教養基礎演習I（発達障がいセミナー） GES101F 伊野 憲治	1学期 1年	1	2	23
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫　他	2学期 1年	1	2	24
	教養基礎演習II GES102F 眞鍋　和博　他	2学期 1年	1	2	25

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 伊原木　大祐	2学期 1年	1	2	26
	教養基礎演習II GES102F 稲月　正	2学期 1年	1	2	27
	教養基礎演習II GES102F 神原　ゆうこ	2学期 1年	1	2	28
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期 1年	1	2	
	教養基礎演習II（防衛セミナー） GES102F 戸蒔　仁司	集中 1年	1	2	29
	教養基礎演習II GES102F 日高　京子	2学期 1年	1	2	30
	教養基礎演習II GES102F 廣川　祐司	2学期 1年	1	2	31
	教養基礎演習II GES102F 石川　敬之	2学期 1年	1	2	32
	教養基礎演習II（発達障がいセミナー） GES102F 伊野　憲治	2学期 1年	1	2	33
	教養演習AI GES201F 伊原木　大祐	1学期 2年	2	2	34
	教養演習AI GES201F 稲月　正	1学期 2年	2	2	35
	教養演習AI GES201F 神原　ゆうこ	1学期 2年	2	2	
	教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期 2年	2	2	
	教養演習AI GES201F 徳永　政夫、高西　敏正	1学期 2年	2	2	
	教養演習AI（防衛セミナー） GES201F 戸蒔　仁司	1学期 2年	2	2	36

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＡＩ GES201F 日高　京子	1学期 ２年	2	2	37
	教養演習ＡＩ GES201F 石川　敬之	1学期 ２年	2	2	38
	教養演習ＡＩ（発達障がいセミナー） GES201F 伊野　憲治	1学期 ２年	2	2	39
	教養演習ＡII GES202F 伊原木　大祐	2学期 ２年	2	2	40
	教養演習ＡII GES202F 稲月　正	2学期 ２年	2	2	41
	教養演習ＡII GES202F 神原　ゆうこ	2学期 ２年	2	2	42
	教養演習ＡII GES202F 小林 道彦	2学期 ２年	2	2	
	教養演習ＡII GES202F 徳永　政夫、高西　敏正	2学期 ２年	2	2	
	教養演習ＡII（防衛セミナー） GES202F 戸蒔　仁司	集中 ２年	2	2	43
	教養演習ＡII GES202F 日高　京子	2学期 ２年	2	2	44
	教養演習ＡII GES202F 二宮　正人	2学期 ２年	2	2	
	教養演習ＡII GES202F 石川　敬之	2学期 ２年	2	2	45
	教養演習ＡII（発達障がいセミナー） GES202F 伊野　憲治	2学期 ２年	2	2	46
	教養演習ＢＩ GES301F 伊原木　大祐	1学期 ３年	3	2	47
	教養演習ＢＩ GES301F 稲月　正	1学期 ３年	3	2	48

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢⅠ GES301F 神原　ゆうこ	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅠ GES301F 小林 道彦	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅠ GES301F 徳永　政夫、高西　敏正	1学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅠ（防衛セミナー） GES301F 戸蒔　仁司	1学期 3年	3	2	49
	教養演習ＢⅠ GES301F 日高　京子	1学期 3年	3	2	50
	教養演習ＢⅠ GES301F 石川　敬之	1学期 3年	3	2	51
	教養演習ＢⅠ（発達障がいセミナー） GES301F 伊野 憲治	1学期 3年	3	2	52
	教養演習ＢⅡ GES302F 伊原木　大祐	2学期 3年	3	2	53
	教養演習ＢⅡ GES302F 稲月　正	2学期 3年	3	2	54
	教養演習ＢⅡ GES302F 神原　ゆうこ	2学期 3年	3	2	55
	教養演習ＢⅡ GES302F 小林 道彦	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ GES302F 徳永　政夫、高西　敏正	2学期 3年	3	2	
	教養演習ＢⅡ（防衛セミナー） GES302F 戸蒔　仁司	集中 3年	3	2	56
	教養演習ＢⅡ GES302F 日高　京子	2学期 3年	3	2	57
	教養演習ＢⅡ GES302F 二宮　正人	2学期 3年	3	2	

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習ＢⅡ GES302F 石川　敬之	2学期 3年	3	2	58
	教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー） GES302F 伊野　憲治	2学期 3年	3	2	59
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川　大介　他	1学期 1年	1	2	60
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部　竹川大介	2学期 1年	1	2	61
	地球の生いたち GOL001F 長井　孝一	2学期 1年	1	2	62
	自然史へのいざない BIO001F 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター　日高京子	2学期 1年	1	2	63
	くらしと化学 CHM001F 秋貞　英雄	1学期 1年	1	2	64
	現代人のこころ PSY003F 森永　今日子	1学期 1年	1	2	65
	人間と生命 BIO002F 日高　京子	2学期 1年	1	2	66
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高　京子　他	2学期 1年	1	2	67
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍　有二　他	1学期 1年	1	2	68
	私たちと宗教 PHR006F 佐藤　眞人	2学期 1年	1	2	69
	思想と現代 PHR004F 伊原木　大祐	1学期 1年	1	2	70
	文化と表象 MCC001F 真鍋　昌賢	2学期 1年	1	2	71
	言語とコミュニケーション LIN001F 漆原　朗子　他	2学期 1年	1	2	72

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 PHR001F 真武　真喜子	2学期	1	2	1年	73
	文学を読む LIT001F 生住　昌大　他	2学期	1	2	1年	74
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	1年	75
	民主主義とは何か PLS002F 中道　壽一	1学期	1	2	1年	76
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	1年	77
	政治のなかの文化 ANT001F 神原　ゆうこ	2学期	1	2	1年	78
	人権論 SOC004F 柳井　美枝	1学期	1	2	1年	79
	ジェンダー論 GEN001F 力武　由美	1学期	1	2	1年	80
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治　他	2学期	1	2	1年	81
	共生の作法 LAW001F 今泉 恵子　他	1学期	1	2	1年	82
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	1年	83
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	1年	84
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期	1	2	1年	85
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期	1	2	1年	86
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木　大祐	1学期	1	2	1年	87

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期 1年	1	2	88
	都市と地域 RDE002F 南 博 他	1学期 1年	1	2	89
	現代の国際情勢 IRL003F 尹 明憲 他	1学期 1年	1	2	90
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期 1年	1	2	91
	グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期 1年	1	2	92
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期 1年	1	2	93
	国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期 1年	1	2	
	国際社会と日本 IRL004F 阿部 容子 他	2学期 1年	1	2	94
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期 1年	1	2	95
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期 1年	1	2	96
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期 1年	1	2	97
	歴史の読み方II HIS005F 赤司 友徳	1学期 1年	1	2	98
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	99
	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期 1年	1	2	100
	ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期 1年	1	2	101

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史 HIS001F 山﨑 勇治 他	1学期	1	2	1年	102
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	1年	103
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	1年	104
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	1年	105
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1年	106
	人文地理学 GEO110F 外枦保 大介	2学期	1	2	1年	107
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	1年	108
	地誌学 GEO112F 外枦保 大介	1学期	1	2	1年	109
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	1年	110
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	1年	111
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 髙西 敏正	1学期	1	2	1年	112
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	1年	113
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	1年	114
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 髙西 敏正	2学期	1	2	1年	115
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	1年	116

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	1年	117
	自己管理論 HSS003F 山本 浩二	2学期	1	2	1年	118
	フィジカル・エクササイズI（ソフトボール） HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	1年	119
	フィジカル・エクササイズI（サッカー） HSS081F 山崎 将幸	1学期	1	1	1年	120
	フィジカル・エクササイズI（テニス） HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	1年	121
	フィジカル・エクササイズI（バレーボール） HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	1年	122
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	1年	123
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	1年	124
	フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ） HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	1年	125
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 山崎 将幸	2学期	1	1	1年	126
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	1年	127
	フィジカル・エクササイズII（バスケットボール） HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	1年	128
	フィジカル・エクササイズII（バレーボール） HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	1年	129
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	1年	130
	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 山崎 将幸	2学期	1	1	1年	131

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	1年	132
	フィジカル・エクササイズII（サッカー） HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	1年	133
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	1年	134
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	1年	135
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	1年	136
	キャリア・デザイン CAR100F 見舘 好隆	1学期	1	2	1年	137
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	1年	138
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 休講	2学期	1	2	1年	
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見舘 好隆	1学期	2	2	2年	139
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見舘 好隆	2学期	2	2	2年	140
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	2年	141
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	1年	142
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	1年	143
	プロジェクト演習I CAR280F 見舘 好隆	1学期	2	2	2年	144
	プロジェクト演習II CAR281F 見舘 好隆	2学期	2	2	2年	145

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習III CAR380F 見舘　好隆	1学期	3	2	3年	146
	プロジェクト演習IV CAR381F 見舘　好隆	2学期	3	2	3年	147
■教養特講	教養特講I（教養を磨く『新聞のちから』） SPL001読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月　正、永末　康介	2学期	1	2	1年	148
	教養特講II（グローバリゼーションと倫理的消費） SPL002F 大平　剛	1学期	1	2	1年	149
	教養特講III（まなびと講座Ａ） SPL003F 休講	1学期	1	2	1年	
	教養特講IV（まなびと講座Ｂ） SPL004F 眞鍋　和博	2学期	1	2	1年	150
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽　修丈	1学期	1	2	法律１－１．再履	151
	データ処理 INF101F 棚次　奎介	1学期	1	2	法律１－２．再履	152
	データ処理 INF101F 浅羽　修丈	1学期	1	2	法律１－３．再履	153
	データ処理 INF101F 米谷　雄介	1学期	1	2	法律１－４．再履	154
	データ処理 INF101F 佐藤　貴之	2学期	1	2	１学期未修得者再履	155
	情報表現 INF230F 休講	1学期	2	2	2年	
	情報表現 INF230F 中尾　泰士	2学期	2	2	2年	156
	情報表現 INF230F 棚次　奎介	2学期	2	2	2年	157
	情報表現 INF230F 浅羽　修丈	2学期	2	2	2年	158

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報メディア演習 INF330F 浅羽　修丈	2学期 3年	3	2	159
	情報メディア演習 INF330F 中尾　泰士	2学期 3年	3	2	160
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I（律政群1-A） ENG101F 下條　かおり	1学期 律政群1 - A	1	1	161
	英語I（律政群1-B） ENG101F 葛西　宏信	1学期 律政群1 - B	1	1	162
	英語I（律政群1-C） ENG101F 永末　康介	1学期 律政群1 - C	1	1	163
	英語I（律政群1-D） ENG101F 吉田　禎子	1学期 律政群1 - D	1	1	164
	英語I（律政群1-E） ENG101F 安丸　雅子	1学期 律政群1 - E	1	1	165
	英語I（律政群1-F） ENG101F 船方　浩子	1学期 律政群1 - F	1	1	166
	英語I（律政群1-G） ENG101F 酒井　秀子	1学期 律政群1 - G	1	1	167
	英語I（律政1-H） ENG101F 十時　康	1学期 律政1 - H	1	1	168
	英語I（律政群1-I） ENG101F 木梨　安子	1学期 律政群1 - I	1	1	169
	英語II（律政群1-A） ENG111F ホセ・クルーズ	2学期 律政群1 - A	1	1	170
	英語II（律政群1-B） ENG111F 永末　康介	2学期 律政群1 - B	1	1	171
	英語II（律政群1-C） ENG111F 葛西　宏信	2学期 律政群1 - C	1	1	172
	英語II（律政群1-D） ENG111F 吉田　禎子	2学期 律政群1 - D	1	1	173

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II（律政群1-E） ENG111F 安丸　雅子	2学期 律政群１－Ｅ	1	1	174
	英語II（律政群1-F） ENG111F 下條　かおり	2学期 律政群１－Ｆ	1	1	175
	英語II（律政群1-G） ENG111F 酒井　秀子	2学期 律政群１－Ｇ	1	1	176
	英語II（律政1-H） ENG111F 十時　康	2学期 律政１－Ｈ	1	1	177
	英語II（律政群1-I） ENG111F 木梨　安子	2学期 律政群１－Ｉ	1	1	178
	英語III（律政群1-A） ENG102F デール・スティール	1学期 律政群１－Ａ	1	1	179
	英語III（律政群1-B） ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期 律政群１－Ｂ	1	1	180
	英語III（律政群1-C） ENG102F ロバート･マーフィ	1学期 律政群１－Ｃ	1	1	181
	英語III（律政群1-D） ENG102F ダンカン・ウォトリィ	1学期 律政群１－Ｄ	1	1	182
	英語III（律政群1-E） ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期 律政群１－Ｅ	1	1	183
	英語III（律政群1-F） ENG102F マイケル・バーグ	1学期 律政群１－Ｆ	1	1	184
	英語III（律政群1-G） ENG102F デビット・ニール・マクレーラン	1学期 律政群１－Ｇ	1	1	185
	英語III（律政1-H） ENG102F 葛西　宏信	1学期 律政１－Ｈ	1	1	186
	英語III（律政群1-I） ENG102F 伊藤　晃	1学期 律政群１－Ｉ	1	1	187
	英語IV（律政群1-A） ENG112F デール・スティール	2学期 律政群１－Ａ	1	1	188

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV（律政群１-Ｂ） ENG112F ジェイムズ・ヒックス	2学期 律政群１ - Ｂ	1	1	189
	英語IV（律政群１-Ｃ） ENG112F ロバート･マーフィ	2学期 律政群１ - Ｃ	1	1	190
	英語IV（律政群１-Ｄ） ENG112F ダンカン・ウォトリィ	2学期 律政群１ - Ｄ	1	1	191
	英語IV（律政群１-Ｅ） ENG112F クリストファー・オサリバン	2学期 律政群１ - Ｅ	1	1	192
	英語IV（律政群１-Ｆ） ENG112F シェーン・ドイル	2学期 律政群１ - Ｆ	1	1	193
	英語IV（律政群１-Ｇ） ENG112F デビット・ニール・マクレーラン	2学期 律政群１ - Ｇ	1	1	194
	英語IV（律政１-Ｈ） ENG112F ケネス・ギブソン	2学期 律政１ - Ｈ	1	1	195
	英語IV（律政群１-Ｉ） ENG112F 伊藤 晃	2学期 律政群１ - Ｉ	1	1	196
	英語V（律政群２-Ａ） ENG201F ダニー・ミン	1学期 律政群２ - Ａ	2	1	197
	英語V（律政群２-Ｂ） ENG201F 村田　希巳子	1学期 律政群２ - Ｂ	2	1	198
	英語V（律政群２-Ｃ） ENG201F 酒井　秀子	1学期 律政群２ - Ｃ	2	1	199
	英語V（律政群２-Ｄ） ENG201F 吉田　禎子	1学期 律政群２ - Ｄ	2	1	200
	英語V（律政群２-Ｅ） ENG201F 漆原 朗子	1学期 律政群２ - Ｅ	2	1	201
	英語V（律政群２-Ｆ） ENG201F 安丸　雅子	1学期 律政群２ - Ｆ	2	1	202
	英語V（律政群２-Ｇ） ENG201F 木梨　安子	1学期 律政群２ - Ｇ	2	1	203

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語V（律政２-Ｈ） ENG201F 三宅　啓子	1学期 律政２ - Ｈ	2	1	204
	英語V（律政群２-Ｉ） ENG201F 大塚　由美子	1学期 律政群２ - Ｉ	2	1	205
	英語VI（律政群２-Ａ） ENG211F 薬師寺　元子	2学期 律政群２ - Ａ	2	1	206
	英語VI（律政群２-Ｂ） ENG211F 村田　希巳子	2学期 律政群２ - Ｂ	2	1	207
	英語VI（律政群２-Ｃ） ENG211F 酒井　秀子	2学期 律政群２ - Ｃ	2	1	208
	英語VI（律政群２-Ｄ） ENG211F 吉田　禎子	2学期 律政群２ - Ｄ	2	1	209
	英語VI（律政群２-Ｅ） ENG211F 漆原　朗子	2学期 律政群２ - Ｅ	2	1	210
	英語VI（律政群２-Ｆ） ENG211F 安丸　雅子	2学期 律政群２ - Ｆ	2	1	211
	英語VI（律政群２-Ｇ） ENG211F 木梨　安子	2学期 律政群２ - Ｇ	2	1	212
	英語VI（律政２-Ｈ） ENG211F 三宅　啓子	2学期 律政２ - Ｈ	2	1	213
	英語VI（律政群２-Ｉ） ENG211F 大塚　由美子	2学期 律政群２ - Ｉ	2	1	214
	英語VII（律政群２-Ａ） ENG202F シェーン・ドイル	1学期 律政群２ - Ａ	2	1	215
	英語VII（律政群２-Ｂ） ENG202F ホセ・クルーズ	1学期 律政群２ - Ｂ	2	1	216
	英語VII（律政群２-Ｃ） ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期 律政群２ - Ｃ	2	1	217
	英語VII（律政群２-Ｄ） ENG202F ジャマール・ミラー	1学期 律政群２ - Ｄ	2	1	218

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII（律政群２-Ｅ） ENG202F ケネス・ギブソン	1学期 律政群２ - Ｅ	2	1	219
	英語VII（律政群２-Ｆ） ENG202F アルバート・オスカー・モウ	1学期 律政群２ - Ｆ	2	1	220
	英語VII（律政群２-Ｇ） ENG202F マーニー・セイディ	1学期 律政群２ - Ｇ	2	1	221
	英語VII（律政２-Ｈ） ENG202F 船方　浩子	1学期 律政２ - Ｈ	2	1	222
	英語VII（律政群２-Ｉ） ENG202F 薬師寺　元子	1学期 律政群２ - Ｉ	2	1	223
	英語VIII（律政群２-Ａ） ENG212F シェーン・ドイル	2学期 律政群２ - Ａ	2	1	224
	英語VIII（律政群２-Ｂ） ENG212F ホセ・クルーズ	2学期 律政群２ - Ｂ	2	1	225
	英語VIII（律政群２-Ｃ） ENG212F クリストファー・オサリバン	2学期 律政群２ - Ｃ	2	1	226
	英語VIII（律政群２-Ｄ） ENG212F ジャマール・ミラー	2学期 律政群２ - Ｄ	2	1	227
	英語VIII（律政群２-Ｅ） ENG212F ケネス・ギブソン	2学期 律政群２ - Ｅ	2	1	228
	英語VIII（律政群２-Ｆ） ENG212F アルバート・オスカー・モウ	2学期 律政群２ - Ｆ	2	1	229
	英語VIII（律政群２-Ｇ） ENG212F マーニー・セイディ	2学期 律政群２ - Ｇ	2	1	230
	英語VIII（律政２-Ｈ） ENG212F ポール・ガラフ・スティール	2学期 律政２ - Ｈ	2	1	231
	英語VIII（律政群２-Ｉ） ENG212F 薬師寺　元子	2学期 律政群２ - Ｉ	2	1	232
	英語IX（済営律政３年） ENG301F 伊藤　晃	1学期 済営律政３年	3	1	233

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語X（済営律政３年） ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	済営律政３年	234
	英語XI（済営律政３年） ENG302F ダニー・ミン	1学期	3	1	済営律政３年	235
	英語XII（済営律政３年） ENG312F ダニー・ミン	2学期	3	1	済営律政３年	236
■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	済営人律政群１年	237
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	済営人律政群１年	238
	中国語III CHN102F ホウ ラメイ（彭腊梅）	1学期	1	1	済営人律政群１年	239
	中国語IV CHN112F ホウ ラメイ（彭腊梅）	2学期	1	1	済営人律政群１年	240
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	英済営人律政群２年	241
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	英済営人律政群２年	242
	中国語VII CHN202F 張 瑾	1学期	2	1	英済営人律政群２年	243
	中国語VIII CHN212F 張 瑾	2学期	2	1	英済営人律政群２年	244
	朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	済営律政群１年	245
	朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	済営律政群１年	246
	朝鮮語III KRN102F チャン ユンヒャン	1学期	1	1	済営律政群１年	247
	朝鮮語IV KRN112F チャン ユンヒャン	2学期	1	1	済営律政群１年	248

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語V KRN201F チャン　ユンヒャン	1学期	2	1	済営比人律政群２年	249
	朝鮮語VI KRN211F チャン　ユンヒャン	2学期	2	1	済営比人律政群２年	250
	朝鮮語VII KRN202F チャン　ユンヒャン	1学期	2	1	済営比人律政群２年	251
	朝鮮語VIII KRN212F チャン　ユンヒャン	2学期	2	1	済営比人律政群２年	252
	ロシア語I RUS101F 芳之内　雄二	1学期	1	1	英中国済営比人律政１年	253
	ロシア語II RUS111F 芳之内　雄二	2学期	1	1	英中国済営比人律政１年	254
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	1	1	英中国済営比人律政１年	255
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	1	1	英中国済営比人律政１年	256
	ロシア語V RUS201F 芳之内　雄二	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	257
	ロシア語VI RUS211F 芳之内　雄二	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	258
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	259
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	260
	ドイツ語I GRM101F 古賀　正之	1学期	1	1	済営人律政１年	261
	ドイツ語II GRM111F 古賀　正之	2学期	1	1	済営人律政１年	262
	ドイツ語III GRM102F 山下　哲雄	1学期	1	1	済営人律政１年	263

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語IV GRM112F 山下　哲雄	2学期	1	1	済営人律政１年	264
	ドイツ語V GRM201F 山下　哲雄	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	265
	ドイツ語VI GRM211F 山下　哲雄	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	266
	ドイツ語VII GRM202F 山下　哲雄	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	267
	ドイツ語VIII GRM212F 山下　哲雄	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	268
	フランス語I FRN101F 山下　広一	1学期	1	1	済営人律政１年	269
	フランス語II FRN111F 山下　広一	2学期	1	1	済営人律政１年	270
	フランス語III FRN102F 中川　裕二	1学期	1	1	済営人律政１年	271
	フランス語IV FRN112F 中川　裕二	2学期	1	1	済営人律政１年	272
	フランス語V FRN201F 坂田　由紀	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	273
	フランス語VI FRN211F 坂田　由紀	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	274
	フランス語VII FRN202F 小野　菜都美	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	275
	フランス語VIII FRN212F 小野　菜都美	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	276
	スペイン語I SPN101F 岡住　正秀	1学期	1	1	中国済営人律政１年	277
	スペイン語II SPN111F 岡住　正秀	2学期	1	1	中国済営人律政１年	278

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語III SPN102F 辻　博子	1学期	1	1	中国済営人律政１年	279
	スペイン語IV SPN112F 辻　博子	2学期	1	1	中国済営人律政１年	280
	スペイン語V SPN201F 青木　文夫	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	281
	スペイン語VI SPN211F 青木　文夫	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	282
	スペイン語VII SPN202F 辻　博子	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	283
	スペイン語VIII SPN212F 辻　博子	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	284
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水　順子	1学期	1	1	留学生１年	285
	日本語II JSL102F 則松　智子	1学期	1	1	留学生１年	286
	日本語III JSL103F 徐　暁輝	1学期	1	1	留学生１年	287
	日本語IV JSL111F 清水　順子	2学期	1	1	留学生１年	288
	日本語V JSL112F 則松　智子	2学期	1	1	留学生１年	289
	日本語VI JSL113F 徐　暁輝	2学期	1	1	留学生１年	290
	日本語VII JSL104F 小林　浩明	1学期	2	1	留学生２年	291
	日本語VIII JSL114F 清水　順子	2学期	2	1	留学生２年	292
	日本事情（人文）A JPS101F 清水　順子	1学期	1	2	留学生１年	293

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情（人文）B JPS102F 則松　智子	2学期	1	2	留学生１年	294
	日本事情（社会）A JPS103F 小林　浩明	1学期	1	2	留学生１年	295
	日本事情（社会）B JPS104F 小林　浩明	2学期	1	2	留学生１年	296
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 LAW100M 山口　亮介	1学期	1	2	１年	297
	現代法曹論I LAW200M 川上　修	2学期	1	2	１年	298
	現代法曹論II LAW201M 天久　泰	1学期	2	2	２年	299
	法律実務論I LAW390M 本多　寿之	1学期	3	2	３年	300
	法律実務論II LAW391M 細川　眞二	2学期	3	2	３年	301
	法学基礎演習I SEM111M 今泉 恵子	1学期	1	2	１年	302
	法学基礎演習I SEM111M 石塚　壮太郎	1学期	1	2	１年	303
	法学基礎演習I SEM111M 大杉　一之	1学期	1	2	１年	304
	法学基礎演習I SEM111M 小野 憲昭	1学期	1	2	１年	305
	法学基礎演習I SEM111M 小池　順一	1学期	1	2	１年	306
	法学基礎演習I SEM111M 近藤　卓也	1学期	1	2	１年	307
	法学基礎演習I SEM111M 重松 博之	1学期	1	2	１年	308

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I SEM111M 清水　裕一郎	1学期 1年	1	2	309
	法学基礎演習I SEM111M 高橋　衛	1学期 1年	1	2	310
	法学基礎演習I SEM111M 津田　小百合	1学期 1年	1	2	311
	法学基礎演習I SEM111M 二宮　正人	1学期 1年	1	2	
	法学基礎演習I SEM111M 朴　元奎	1学期 1年	1	2	312
	法学基礎演習I SEM111M 福本　忍	1学期 1年	1	2	313
	法学基礎演習I SEM111M 矢澤　久純	1学期 1年	1	2	314
	法学基礎演習I SEM111M 水野　陽一	1学期 1年	1	2	315
	法学基礎演習I SEM111M 山口　亮介	1学期 1年	1	2	316
	法学基礎演習I SEM111M 土井　和重	1学期 1年	1	2	317
	法学基礎演習II SEM112M 今泉　恵子	2学期 1年	1	2	318
	法学基礎演習II SEM112M 石塚　壮太郎	2学期 1年	1	2	319
	法学基礎演習II SEM112M 大杉　一之	2学期 1年	1	2	320
	法学基礎演習II SEM112M 小野　憲昭	2学期 1年	1	2	321
	法学基礎演習II SEM112M 小池　順一	2学期 1年	1	2	322

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II SEM112M 近藤　卓也	2学期 1年	1	2	323
	法学基礎演習II SEM112M 重松 博之	2学期 1年	1	2	324
	法学基礎演習II SEM112M 清水　裕一郎	2学期 1年	1	2	325
	法学基礎演習II SEM112M 高橋 衛	2学期 1年	1	2	326
	法学基礎演習II SEM112M 津田　小百合	2学期 1年	1	2	327
	法学基礎演習II SEM112M 二宮 正人	2学期 1年	1	2	
	法学基礎演習II SEM112M 朴　元奎	2学期 1年	1	2	328
	法学基礎演習II SEM112M 福本　忍	2学期 1年	1	2	329
	法学基礎演習II SEM112M 矢澤　久純	2学期 1年	1	2	330
	法学基礎演習II SEM112M 水野　陽一	2学期 1年	1	2	331
	法学基礎演習II SEM112M 山口　亮介	2学期 1年	1	2	332
	法学基礎演習II SEM112M 土井　和重	2学期 1年	1	2	333
	外国文献研究I LAW290M 小野 憲昭	1学期 2年	2	2	334
	外国文献研究I LAW290M 土井　和重	1学期 2年	2	2	335
	外国文献研究II LAW291M 福本　忍	2学期 2年	2	2	336

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	外国文献研究II LAW291M 水野　陽一	2学期 2 年	2	2	337
	法哲学専門演習I SEM311M 重松　博之	1学期 3 年	3	2	338
	法哲学専門演習II SEM312M 重松　博之	2学期 3 年	3	2	339
	法哲学専門演習III SEM411M 重松　博之	1学期 4 年	4	2	340
	法哲学専門演習IV SEM412M 重松　博之	2学期 4 年	4	2	341
	法制史専門演習I SEM311M 山口　亮介	1学期 3 年	3	2	342
	法制史専門演習II SEM312M 山口　亮介	2学期 3 年	3	2	343
	法制史専門演習III SEM411M 山口　亮介	1学期 4 年	4	2	344
	法制史専門演習IV SEM412M 山口　亮介	2学期 4 年	4	2	345
	憲法専門演習I SEM311M 石塚　壮太郎	1学期 3 年	3	2	346
	憲法専門演習I SEM311M 中村　英樹	1学期 3 年	3	2	347
	憲法専門演習II SEM312M 石塚　壮太郎	2学期 3 年	3	2	348
	憲法専門演習II SEM312M 中村　英樹	2学期 3 年	3	2	349
	憲法専門演習III SEM411M 石塚　壮太郎	1学期 4 年	4	2	350
	憲法専門演習III SEM411M 中村　英樹	1学期 4 年	4	2	351

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	憲法専門演習IV SEM412M 石塚　壮太郎	2学期 4年	4	2	352
	憲法専門演習IV SEM412M 中村　英樹	2学期 4年	4	2	353
	行政法専門演習I SEM311M 近藤　卓也	1学期 3年	3	2	354
	行政法専門演習II SEM312M 近藤　卓也	2学期 3年	3	2	355
	行政法専門演習III SEM411M 近藤　卓也	1学期 4年	4	2	356
	行政法専門演習III SEM411M 福重 さと子	1学期 4年	4	2	357
	行政法専門演習IV SEM412M 近藤　卓也	2学期 4年	4	2	358
	行政法専門演習IV SEM412M 福重 さと子	2学期 4年	4	2	359
	刑法専門演習I SEM311M 土井　和重	1学期 3年	3	2	360
	刑法専門演習I SEM311M 大杉　一之	1学期 3年	3	2	361
	刑法専門演習II SEM312M 土井　和重	2学期 3年	3	2	362
	刑法専門演習II SEM312M 大杉　一之	2学期 3年	3	2	363
	刑法専門演習III SEM411M 土井　和重	1学期 4年	4	2	364
	刑法専門演習III SEM411M 大杉　一之	1学期 4年	4	2	365
	刑法専門演習IV SEM412M 土井　和重	2学期 4年	4	2	366

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	刑法専門演習IV SEM412M 大杉　一之	2学期 4年	4	2	367
	刑事訴訟法専門演習I SEM311M 水野　陽一	1学期 3年	3	2	368
	刑事訴訟法専門演習II SEM312M 水野　陽一	2学期 3年	3	2	369
	刑事訴訟法専門演習III SEM411M 水野　陽一	1学期 4年	4	2	370
	刑事訴訟法専門演習IV SEM412M 水野　陽一	2学期 4年	4	2	371
	刑事学専門演習I SEM311M 朴　元奎	1学期 3年	3	2	372
	刑事学専門演習II SEM312M 朴　元奎	2学期 3年	3	2	373
	刑事学専門演習III SEM411M 朴　元奎	1学期 4年	4	2	374
	刑事学専門演習IV SEM412M 朴　元奎	2学期 4年	4	2	375
	社会保障法専門演習I SEM311M 津田　小百合	1学期 3年	3	2	376
	社会保障法専門演習II SEM312M 津田　小百合	2学期 3年	3	2	377
	社会保障法専門演習III SEM411M 津田　小百合	1学期 4年	4	2	378
	社会保障法専門演習IV SEM412M 津田　小百合	2学期 4年	4	2	379
	労働法専門演習I SEM311M 石田　信平	2学期 3年	3	2	380
	労働法専門演習II SEM312M 石田　信平	2学期 3年	3	2	381

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	労働法専門演習III SEM411M 石田　信平	2学期 4年	4	2	382
	労働法専門演習IV SEM412M 石田　信平	2学期 4年	4	2	383
	国際法専門演習I SEM311M 二宮　正人	1学期 3年	3	2	384
	国際法専門演習II SEM312M 二宮　正人	2学期 3年	3	2	385
	国際法専門演習III SEM411M 二宮　正人	1学期 4年	4	2	386
	国際法専門演習IV SEM412M 二宮　正人	2学期 4年	4	2	387
	民法専門演習I SEM311M 小野　憲昭	1学期 3年	3	2	388
	民法専門演習I SEM311M 福本　忍	1学期 3年	3	2	389
	民法専門演習I SEM311M 矢澤　久純	1学期 3年	3	2	390
	民法専門演習I SEM311M 清水　裕一郎	1学期 3年	3	2	391
	民法専門演習II SEM312M 小野　憲昭	2学期 3年	3	2	392
	民法専門演習II SEM312M 福本　忍	2学期 3年	3	2	393
	民法専門演習II SEM312M 矢澤　久純	2学期 3年	3	2	394
	民法専門演習II SEM312M 清水　裕一郎	2学期 3年	3	2	395
	民法専門演習III SEM411M 小野　憲昭	1学期 4年	4	2	396

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習III SEM411M 福本　忍	1学期 4年	4	2	397
	民法専門演習III SEM411M 矢澤　久純	1学期 4年	4	2	398
	民法専門演習III SEM411M 清水　裕一郎	1学期 4年	4	2	399
	民法専門演習IV SEM412M 小野 憲昭	2学期 4年	4	2	400
	民法専門演習IV SEM412M 福本　忍	2学期 4年	4	2	401
	民法専門演習IV SEM412M 矢澤　久純	2学期 4年	4	2	402
	民法専門演習IV SEM412M 清水　裕一郎	2学期 4年	4	2	403
	民事訴訟法専門演習I SEM311M 小池　順一	1学期 3年	3	2	404
	民事訴訟法専門演習II SEM312M 小池　順一	2学期 3年	3	2	405
	民事訴訟法専門演習III SEM411M 小池　順一	1学期 4年	4	2	406
	民事訴訟法専門演習IV SEM412M 小池　順一	2学期 4年	4	2	407
	企業法専門演習I SEM311M 今泉 恵子	1学期 3年	3	2	408
	企業法専門演習I SEM311M 高橋 衛	1学期 3年	3	2	409
	企業法専門演習II SEM312M 今泉 恵子	2学期 3年	3	2	410
	企業法専門演習II SEM312M 高橋 衛	2学期 3年	3	2	411

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■総合科目	企業法専門演習III SEM411M 今泉 恵子	1学期 4年	4	2	412
	企業法専門演習III SEM411M 高橋 衛	1学期 4年	4	2	413
	企業法専門演習IV SEM412M 今泉 恵子	2学期 4年	4	2	414
	企業法専門演習IV SEM412M 高橋 衛	2学期 4年	4	2	415
■理論法学科目	法思想史 LAW210M 重松 博之	1学期 2年	2	2	416
	外国法 LAW212M 森谷 克之	1学期 2年	2	2	417
	日本法制史 LAW312M 山口 亮介	2学期（ペア） 2年	2	4	418
	法社会学 LAW211M 林田 幸広	2学期 2年	2	2	419
	法哲学 LAW310M 重松 博之	1学期 3年	3	2	420
	比較法文化論 LAW313M 篠森 大輔	集中 3年	3	2	421
	紛争処理論 LAW311M 林田 幸広	2学期 3年	3	2	422
■公法科目	日本国憲法原論 LAW120M 中村 英樹	1学期 1年	1	2	423
	憲法人権論 LAW220M 石塚 壮太郎	2学期 1年	1	2	424
	憲法機構論 LAW221M 石塚 壮太郎	1学期 2年	2	2	425
	憲法訴訟論 LAW320M 中村 英樹	2学期 2年	2	2	426

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■公法科目	行政法総論 LAW121M 福重 さと子	1学期（ペア） 2年	2	4	427
	行政争訟法 LAW222M 近藤　卓也	2学期 2年	2	2	428
	国家補償法 LAW321M 福重 さと子	1学期 3年	3	2	429
	地方自治法 LAW223M 岡本　博志	1学期（ペア） 3年	3	4	430
	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 岡本　博志	2学期 3年	3	2	431
■刑事法科目	刑法犯罪論 LAW130M 土井　和重	2学期（ペア） 1年	1	4	432
	刑法犯罪各論I LAW230M 大杉　一之	1学期 2年	2	2	433
	刑法犯罪各論II LAW330M 大杉　一之	2学期 2年	2	2	434
	刑事訴訟法総論 LAW231M 水野　陽一	2学期 2年	2	2	435
	刑事訴訟法各論 LAW331M 水野　陽一	1学期 3年	3	2	436
	犯罪学 LAW232M 朴　元奎	1学期（ペア） 3年	3	4	437
	刑事司法政策I LAW332M 朴　元奎	1学期 3年	3	2	438
	刑事司法政策II LAW333M 朴　元奎	2学期 3年	3	2	439
■社会法科目	社会法総論 LAW140M 津田　小百合	2学期 1年	1	2	440
	社会サービス法 LAW242M 津田　小百合	2学期 2年	2	2	441

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■社会法科目	所得保障法 LAW243M 津田　小百合	2学期 2年	2	2	442
	雇用関係法 LAW240M 石田　信平	2学期 2年	2	2	443
	労使関係法 LAW241M 石田　信平	2学期 2年	2	2	444
	独占禁止法 LAW340M 高場　俊光	1学期 3年	3	2	445
	知的財産法 LAW341M 木村　友久	1学期 3年	3	2	446
	環境法 LAW342M 下村　英嗣	集中 3年	3	2	447
	社会法の現代的展開 LAW343M 柴田　滋	2学期 3年	3	2	448
■国際関係法科目	国際法I LAW250M 二宮　正人	1学期 2年	2	2	449
	国際法II LAW251M 二宮　正人	2学期 2年	2	2	450
	国際私法 LAW252M 中林　啓一	集中 3年	3	2	451
	国際取引法 LAW350M 大隈　一武	集中 3年	3	2	452
	現代国際関係法 LAW351M 春　具	集中 3年	3	2	453
■民事法科目	民法総則 LAW160M 小野　憲昭	1学期（ペア） 1年	1	4	454
	物権法 LAW260M 福本　忍	2学期 1年	1	2	455
	担保物権法 LAW261M 清水　裕一郎	2学期 2年	2	2	456

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■民事法科目	債権総論 LAW263M 清水　裕一郎	1学期（ペア） 2年	2	4	457
	債権各論 LAW262M 矢澤　久純	2学期（ペア） 1年	1	4	458
	親族法 LAW264M 小野 憲昭	1学期 2年	2	2	459
	相続法 LAW265M 小野 憲昭	2学期 2年	2	2	460
	民事訴訟法総論 LAW266M 小池　順一	1学期 2年	2	2	461
	民事訴訟法各論 LAW267M 小池　順一	2学期 2年	2	2	462
	倒産処理法 LAW362M 小池　順一	1学期 3年	3	2	463
	民事執行法 LAW363M 春日川　路子	集中 3年	3	2	464
	民事法の理論的展開 LAW360M 福本　忍	1学期 3年	3	2	465
	民事法の実務的展開 LAW361M 伊藤　聖一	2学期 3年	3	2	466
■商事法科目	企業活動と法 LAW273M 今泉 恵子	2学期 2年	2	2	467
	会社法I LAW270M 高橋 衛	1学期 2年	2	2	468
	会社法II LAW271M 高橋 衛	2学期 2年	2	2	469
	企業取引法I LAW272M 今泉 恵子	2学期 2年	2	2	470
	企業取引法II LAW372M 前越　俊之	2学期 3年	3	2	471

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■商事法科目	証券市場と法 LAW370M 前越 俊之	2学期 3年	3	2	472
	企業法の現代的展開 LAW371M 木村 友久	2学期 3年	3	2	473
■関連科目A	政治学 PLS100M 秦 正樹	1学期 1年	1	2	474
	都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期 1年	1	2	475
	日本政治論 PLS110M 秦 正樹	2学期 1年	1	2	476
	行政学 PAD100M 森 裕亮	1学期 1年	1	2	477
	ＮＰＯ論 PLC114M 楢原 真二 他	1学期 1年	1	2	478
	政策構想論 PLC110M 大澤 津	1学期 1年	1	2	479
	政治過程論 PLS210M 秦 正樹	2学期 1年	1	2	480
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期 1年	1	2	481
	西洋政治史 PLS111M 西 貴倫	1学期 1年	1	2	482
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期 1年	1	2	483
	公共政策論 PLC211M 楢原 真二	1学期 2年	2	2	484
	政策理論特講 PLS213M 松田 憲忠	集中 2年	2	2	485
	政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期 2年	2	2	486

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■関連科目A	現代政治思想 PLS212M 大澤　津	1学期 2年	2	2	487
	地方自治論 PAD211M 森　裕亮	1学期 2年	2	2	488
	都市経営論 PAD213M 田代　洋久	2学期 2年	2	2	489
	途上国開発論 PLC215M 三宅 博之	1学期 2年	2	2	490
	政策評価論 PLC310M 楢原 真二　他	2学期 2年	2	2	491
	政党政治論 PLS211M 中井　遼	1学期 2年	2	2	492
	都市政策論 PLC219M 田代　洋久	1学期 2年	2	2	493
	福祉政策論 PLC217M 狭間　直樹	1学期 2年	2	2	494
	環境政策論 PLC216M 申　東愛	2学期 2年	2	2	495
	アジア地域社会論 PLC222M 三宅 博之	2学期 2年	2	2	496
	地域統合論 PLS214M 中井　遼	2学期 2年	2	2	497
	自治体政策研究 PLC214M 楢原 真二	2学期 2年	2	2	498
	公共経営論 PAD212M 狭間　直樹	2学期 2年	2	2	499
	政治文化論 PLS215M 大澤　津	2学期 2年	2	2	500
	地方行政改革論 PAD310M 森　裕亮	1学期 2年	2	2	501

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■関連科目A	応用政策特講 PAD214M 中道　壽一	集中 2年	2	2	502
	行政組織論 PAD210M 横山　麻季子	1学期 2年	2	2	503
	対外政策論 PLC213M 坂本　隆幸	2学期 2年	2	2	504
	比較政策論 PLC210M 坂本　隆幸	1学期 2年	2	2	505
	国際機構論I IRL312M 山本　直	1学期 3年	3	2	506
	国際機構論II IRL313M 山本　直	2学期 3年	3	2	507
	国際協力論I IRL211M 大平　剛	1学期 3年	3	2	508
	国際協力論II IRL212M 大平　剛	2学期 3年	3	2	509
	国際人権論 IRL213M 山本　直	2学期 3年	3	2	510
	国際紛争論 IRL214M 川上　耕平	1学期 3年	3	2	511
	倫理学 PHR210M 清水　満	2学期 2年	2	2	512
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 小賀　久	1学期 3年	3	2	513
	高齢者に対する支援と介護保険制度１ SOW220M 石塚　優	1学期 3年	3	2	514
	高齢者に対する支援と介護保険制度２ SOW221M 石塚　優	2学期 3年	3	2	515
	外国文献研究B SEM392M 山中　亜紀	2学期 3年	3	2	516

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■関連科目B	ミクロ経済学I ECN112M 休講	1年	1	2	
	ミクロ経済学II ECN210M 休講	2年	2	2	
	マクロ経済学I ECN113M 休講	1年	1	2	
	マクロ経済学II ECN211M 休講	2年	2	2	
	公共経済学 ECN262M 牛房 義明	1学期 2年	2	2	517
	国際経済論I ECN240M 休講	2年	2	2	
	国際経済論II ECN241M 休講	2年	2	2	
	経済地理学I ECN242M 休講	2年	2	2	
	経済地理学II ECN243M 休講	2年	2	2	
	金融論I ECN260M 休講	2年	2	2	
	金融論II ECN261M 休講	2年	2	2	
	経営組織論 BUS212M 山下 剛	1学期 2年	2	2	518
	企業ファイナンスI BUS214M 松本 守	1学期 2年	2	2	519
	企業ファイナンスII BUS215M 松本 守	2学期 2年	2	2	520
	経営戦略論 BUS213M 浦野 恭平	2学期 2年	2	2	521

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■関連科目B	財務会計論I ACC214M 西澤 健次	1学期 2年	2	2	522
	財務会計論II ACC215M 西澤 健次	2学期 2年	2	2	523
	会計監査論 ACC216M 任 章	2学期 2年	2	2	524
	国際貿易論I ECN345M 水戸 康夫	1学期 3年	3	2	525
	国際貿易論II ECN346M 水戸 康夫	2学期 3年	3	2	526
	国際金融論I ECN363M 休講	3年	3	2	
	国際金融論II ECN364M 休講	3年	3	2	
	産業組織論I ECN341M 川崎 晃央	1学期 3年	3	2	527
	産業組織論II ECN342M 川崎 晃央	2学期 3年	3	2	528
	証券市場論 BUS330M 久多里 桐子	1学期 3年	3	2	529
	中小企業論 BUS313M 別府 俊行	1学期 3年	3	2	530
	財政学I ECN361M 前林 紀孝	1学期 3年	3	2	531
	財政学II ECN362M 前林 紀孝	2学期 3年	3	2	532
	地方財政論 ECN365M 難波 利光	1学期 3年	3	2	533
	労働経済学I ECN343M 畔津 憲司	1学期 3年	3	2	534

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■関連科目B	労働経済学II ECN344M 畔津 憲司	2学期 3年	3	2	535
	人的資源管理論 BUS310M 福井 直人	1学期 3年	3	2	536
	ビジネス英語研究 ENG232M 松田 智	2学期 3年	3	2	537
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	538
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	2学期 1年	1	2	539
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期 2年	2	2	540
	教育制度論 EDU227M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	541
	教育課程論 EDU360M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	542
	社会科教育法A EDU240C 休講	1学期 3年	3	2	
	社会科教育法B EDU241C 休講	2学期 3年	3	2	
	社会科教育法C EDU242C 下地 貴樹	1学期 3年	3	2	543
	社会科教育法D EDU243C 吉村 義則	2学期 3年	3	2	544
	公民科教育法A EDU244C 下地 貴樹	1学期 3年	3	2	545
	公民科教育法B EDU245C 吉村 義則	2学期 3年	3	2	546
	道徳教育指導論 EDU262M 田中 友佳子	2学期 2年	2	2	547

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	1学期 2年	2	2	548
	教育方法学 EDU260M 下地 貴樹	1学期 2年	2	2	549
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期 2年	2	2	550
	教育相談 EDU264M 楠 凡之	1学期 2年	2	2	551
	教育実習１ EDU380C 楠 凡之 他	2学期 3年	3	2	552
	教育実習２ EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	553
	教育実習３ EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	554
	教職実践演習（中・高） EDU490C 休講	2学期 4年	4	2	
■選択科目	教育心理学 PSY220M 下地 貴樹	2学期 2年	2	2	555
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期 2年	2	2	556
	教育社会学 EDU225M 作田 誠一郎	集中 2年	2	2	557
	人権教育論 EDU228M 弓野 勝族	1学期 2年	2	2	558
	生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期 2年	2	2	559
	教育工学 EDU265M 休講	2学期 2年	2	2	

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 休講	2学期	1	2	1年	
	異文化理解の基礎 ANT110F 休講	1学期	1	2	1年	
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	1年	560
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	1年	561
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	1年	562
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	1年	563
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	1年	564
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	1年	565
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	1年	566
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 二宮 正人	1学期	1	2	1年	
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	1年	567
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	1年	
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	568
	文学を読む LIT001F 休講	2学期	1	2	1年	

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	1年	
	民主主義とは何か PLS002F 中道　壽一	1学期	1	2	1年	569
	人権論 SOC004F 柳井　美枝	1学期	1	2	1年	570
	ジェンダー論 GEN001F 力武　由美	1学期	1	2	1年	571
	障がい学 SOW001F 休講	2学期	1	2	1年	
	社会調査 SOC003F 稲月　正	2学期	1	2	1年	572
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期	1	2	1年	573
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期	1	2	1年	574
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	1年	
	現代の国際情勢 IRL003F 尹　明憲　他	1学期	1	2	1年	575
	開発と統治 IRL002F 三宅　博之　他	2学期	1	2	1年	576
	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	1年	
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮　正人	2学期	1	2	1年	577
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	1年	
	歴史の読み方I HIS004F 赤司　友徳	1学期	1	2	1年	578

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期 1年	1	2	
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	579
	人物と時代の歴史 HIS001F 山﨑 勇治 他	1学期 1年	1	2	580
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 休講	2学期 1年	1	2	
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期 1年	1	2	581
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期 1年	1	2	
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期 1年	1	2	
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 山本 浩二	2学期 1年	1	2	582
	フィジカル･エクササイズI（バドミントン） HSS081F 徳永 政夫	1学期 1年	1	1	583
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 休講	2学期 1年	1	1	
■情報教育科目	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期 1学期未修得者再履	1	2	584
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期 2年	2	2	585
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 LAW100M 山口 亮介	1学期 1年	1	2	586
■公法科目	日本国憲法原論 LAW120M 休講	1年	1	2	
	憲法人権論 LAW220M 中村 英樹	2学期 1年	1	2	587

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■公法科目	行政法総論 LAW121M 近藤　卓也	1学期（ペア） 2年	2	4	588
■社会法科目	社会法総論 LAW140M 石田　信平	2学期 1年	1	2	589
■国際関係法科目	国際法I LAW250M 休講	2年	2	2	
	国際法II LAW251M 休講	2年	2	2	
■商事法科目	会社法I LAW270M 高橋　衛	1学期 2年	2	2	590
	会社法II LAW271M 高橋　衛	2学期 2年	2	2	591
■関連科目A	ＮＰＯ論 PLC114M 楢原　真二　他	1学期 1年	1	2	592
	地方自治論 PAD211M 森　裕亮	1学期 2年	2	2	593
	福祉政策論 PLC217M 狭間　直樹	1学期 2年	2	2	594
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 高崎　陽子	1学期 3年	3	2	595
	高齢者に対する支援と介護保険制度１ SOW220M 休講	3年	3	2	
	高齢者に対する支援と介護保険制度２ SOW221M 休講	3年	3	2	
■関連科目B	ミクロ経済学I ECN112M 朱　乙文	2学期 1年	1	2	596
	ミクロ経済学II ECN210M 朱　乙文	1学期 2年	2	2	597
	マクロ経済学I ECN113M 田中　淳平	2学期 1年	1	2	598

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■関連科目B	マクロ経済学II ECN211M 田中　淳平	1学期 2年	2	2	599
	国際経済論I ECN240M 末永　勝昭	1学期 2年	2	2	600
	国際経済論II ECN241M 末永　勝昭	2学期 2年	2	2	601
	経済地理学I ECN242M 近江　貴治	1学期 2年	2	2	602
	経済地理学II ECN243M 柳井　雅人	2学期 2年	2	2	603
	金融論I ECN260M 後藤　尚久	1学期 2年	2	2	604
	金融論II ECN261M 後藤　尚久	2学期 2年	2	2	605
	経営戦略論 BUS213M 休講	2年	2	2	
	財務会計論I ACC214M 休講	2年	2	2	
	国際金融論I ECN363M 前田　淳	1学期 3年	3	2	606
	国際金融論II ECN364M 前田　淳	2学期 3年	3	2	607
	中小企業論 BUS313M 別府　俊行	1学期 3年	3	2	608
	財政学I ECN361M 休講	3年	3	2	
	財政学II ECN362M 休講	3年	3	2	
	人的資源管理論 BUS310M 福井　直人	1学期 3年	3	2	609

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	610
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	2学期 1年	1	2	611
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期 2年	2	2	612
	教育制度論 EDU227M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	613
	教育課程論 EDU360M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	614
	社会科教育法Ａ EDU240C 下地 貴樹	1学期 3年	3	2	615
	社会科教育法Ｂ EDU241C 下地 貴樹	2学期 3年	3	2	616
	社会科教育法Ｃ EDU242C 休講	1学期 3年	3	2	
	社会科教育法Ｄ EDU243C 休講	2学期 3年	3	2	
	公民科教育法Ａ EDU244C 休講	1学期 3年	3	2	
	公民科教育法Ｂ EDU245C 休講	2学期 3年	3	2	
	道徳教育指導論 EDU262M 田中 友佳子	2学期 2年	2	2	617
	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	1学期 2年	2	2	618
	教育方法学 EDU260M 下地 貴樹	1学期 2年	2	2	619
	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期 2年	2	2	620

法学部 法律学科（2014年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 EDU264M 楠 凡之	1学期 2年	2	2	621
	教育実習１ EDU380C 楠 凡之 他	2学期 3年	3	2	622
	教育実習２ EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	623
	教育実習３ EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	624
	教職実践演習（中・高） EDU490C 楠 凡之 他	2学期 4年	4	2	625
■選択科目	教育心理学 PSY220M 田島 司	2学期 2年	2	2	626
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育社会学 EDU225M 休講	1学期 2年	2	2	
	人権教育論 EDU228M 弓野 勝族	1学期 2年	2	2	627
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期 2年	2	2	
	教育工学 EDU265M 大塚 一徳	2学期 2年	2	2	628

ことばの科学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　序(1)：ことばの不思議
第2回　序(2)：ことばの習得
第3回　ことばの単位(1)：音韻
第4回　連濁
第5回　鼻濁音
第6回　ことばの単位(2)：語
第7回　語の基本：なりたち・構造・意味
第8回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第9回　ことばの単位(3)：文
第10回　動詞の自他
第11回　日本語と英語の受動態
第12回　数量詞
第13回　時制と相：方言比較
第14回　ことばと脳：言語野と他の領域
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度…10%　課題…30%　期末試験…60%

ことばの科学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要　/Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

国際学入門 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法––哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代とは何か【概説】
３回　近代の勃興【ガリレイと科学革命】
４回　生活世界の概念（１）【フッサールの科学批判】
５回　生活世界の概念（２）【ハイデガーの世界論】
６回　生活世界の変容（１）【近代産業社会】
７回　生活世界の変容（２）【戦争の美学】
８回　確認テスト
９回　生活世界の変容（３）【政治の美学】
１０回　生活世界の変容（４）【ホロコースト】
１１回　生活世界の変容（５）【全体主義と思考能力】
１２回　生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
１３回　古代世界の公共空間（１）【古代文明と戦争】
１４回　古代世界の公共空間（２）【アテナイ民主政】
１５回　古代世界の公共空間（３）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…40%　　学期末試験…60%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識･理解の獲得、②課題発見･分析･解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障と防衛(1)
　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障と防衛(2)
　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障と防衛(2)
　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてくだい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命と環境 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高・中尾）
２回　自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）　【物質の単位】【自然科学】
３回　自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）　【元素】【原子】【超新星爆発】
４回　自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）　【DNA】【タンパク質】
５回　生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）　【種】【学名】【系統樹】
６回　生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）　【細胞膜】【共生説】
７回　生物の多様性（３）生態系と進化（日高）　【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回　遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）　【突然変異】【遺伝学】
９回　遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）　【有性生殖】【減数分裂】
１０回　遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）
１１回　科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）　【血液型】【星座】
１２回　科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）　【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回　科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）【ミトコンドリア】
１４回　関連ビデオ鑑賞（日高）
１５回　質疑応答とまとめ（日高）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題４０％、期末テスト６０％

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
・ ２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの １【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの ２【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウエア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

情報社会への招待 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

現代社会と文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と文化	ANT210F

授業の概要　/Course Description

グローバルな現代世界において,異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身ににつけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。しかし、授業中に指示した資料に目を通し、以下の参考文献を含め関連する文献は、図書館などを活用して、各人の興味にあわせて読んでおくこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
○浮ケ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
○太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
○陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
○本多俊和ほか2011『グローバリゼーションの人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：授業の説明　/ 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部　現代社会において異文化を理解するということ
第2回　文化を「知る」とはどういうことか？
第3回　ナショナリズムと文化
第4回　「未開の人々」へのエキゾチズム
第5回　植民地主義と文化
第6回　先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義
第7回　多文化主義の可能性と限界
第8回　分類の不明瞭さ①：国籍・人種
第9回　分類の不明瞭さ②：移動する人々
第10回　中間テスト

第II部　文化の違いを超えて？
第11回　近代・ポスト近代という時代の認識と文化
第12回　身体の近代化
第13回　中間テストの解説
第14回　普遍的な医療と普遍的でない身体
第15回　癒しの多様性　/　講義全体の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%
そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
・高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
・講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者（または代替課題の未提出者）、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。ただし、自分で情報を集め、吟味する能力は問われます。講義で自分が学んだことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとする意識が大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
・「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生、および「異文化理解の基礎」（昨年度開講、本年度開講なし）を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード　/Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝　幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語と認知	LIN210F

授業の概要　/Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書　/Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

第1回　序（漆原・全員）
第2回　眼はどのように動いているか、それをどう測定するか（中溝）
第3回　文を読むとき、眼はどのように動いているのか（中溝）
第4回　言語活動時、脳のどこが働いているか（中溝）
第5回　ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
第6回　ことばはどのように失われるのか（失語症・失文法）（漆原）
第7回　脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
第8回　ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
第9回　特別講義（外部講師）：2016年度実績　東京大学教授　大堀　壽夫氏
第10回　文の形と意味をつなぐもの（文法形式と意味の類像性）（杉山）
第11回　左右の区別がなかったら（ことばと思考・言語相対論）（杉山）
第12回　概念と言葉（概念におけるプロトタイプ効果など）（ストラック）
第13回　隠喩とは何か（隠喩論）（ストラック）
第14回　詩とほのめかし（アイコン性、phonaesthemesなど）（ストラック）
第15回　まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション（全員）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　20%　　レポート　16% x 5 = 80%
（すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。）

言語と認知 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
＊「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生社会論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		

共生社会論	SOW200F

授業の概要　/Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
第8回：自閉症とは【自閉症】
第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意　/Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

共生社会論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共同体と身体 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共同体と身体	PHR210F

授業の概要　/Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　日本的身体の哲学
３回　日本的身体のイメージ
４回　古代ギリシャの身体観１【プラトン】
５回　古代ギリシャの身体観２【ソポクレス】
６回　古代ギリシャの身体観３【通時的概観】
７回　キリスト的共同体の身体
８回　近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
９回　身体・家族・社会１【精神分析的アプローチ】
１０回　身体・家族・社会２【脳科学的アプローチ】
１１回　身体・家族・社会３【シュレーバー症例】
１２回　身体・家族・社会４【差別される身体】
１３回　身体の社会的統制１【政治と規律】
１４回　身体の社会的統制２【統制される身体】
１５回　身体の社会的統制３【処罰される身体】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業で扱われる内容は、１年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

心身二元論　身体像　精神病理　規律と監視

戦争論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

戦争論	PLS210F

授業の概要　/Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
第３回　ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
第４回　戦争概論～戦争の定義
第５回　戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
第６回　戦争の経歴(2)革命戦争
第７回　戦争の経歴(3)近代戦争
第８回　両大戦の特徴(1)総力化
第９回　両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
第10回　日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
第11回　核兵器の構造
第12回　核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
第13回　核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
第14回　核兵器の役割（抑止概念、抑止条件、相互確証破壊）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命科学と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命科学と社会	BIO200F

授業の概要　/Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、（１）生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、（２）DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、（３）食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、（４）遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　生命科学の基礎（１）遺伝子の概念　【DNA二重らせん】
３回　生命科学の基礎（２）生命活動の実行役　【タンパク質】
４回　生命科学の基礎（３）ゲノム　【ヒトゲノム計画】
５回　DNAでわかること（１）遺伝と疾患　【メンデル遺伝】
６回　DNAでわかること（２）個性と体質　【遺伝子検査】
７回　DNAでわかること（３）DNA鑑定　【多型】
８回　安心・安全とは（１）食品と医薬品　【健康食品】
９回　安心・安全とは（２）遺伝子組換え作物　【カルタヘナ法】
１０回　安心・安全とは（３）人体と放射線（外部講師）【確率的影響】【がん】
１１回　生命の倫理（１）モデル生物（外部講師）【動物愛護】
１２回　生命の倫理（２）ES細胞とiPS細胞　【再生医療】
１３回　生命の倫理（３）ゲノム編集　【遺伝子操作】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

生命科学と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleにより提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。基礎部分をより体系的に学びたい者は２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

情報社会を読む 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会を読む	INF200F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

●情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
●最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
●未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
●未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　身の回りにあるICTと情報社会　【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
２回　位置情報を利用したサービス　【ジオメディア】【GPS】
３回　演習１：位置情報を利用した未来のサービスを読む
４回　ソーシャルメディアがもたらすコミュニケーションの変化と集合知　【SNS】【ミニブログ】
５回　ソーシャルメディアを利用したビジネスモデル　【ソーシャルコマース】
６回　演習２：ソーシャルメディアを利用した未来のサービスを読む
７回　コンピュータは持ち歩くから着る時代へ　【ウェアラブルコンピュータ】
８回　近未来の入力装置　【モーション操作】
９回　演習３：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
１０回　カメラは何を認識できるか　【画像処理】【画像認識】
１１回　個人を特定できるコンピュータとその危険性　【顔画像認証】
１２回　画像認識はどこまで人間に近づけるか【画像認識】【機械学習】
１３回　演習４：画像認識を利用した未来のサービスを読む
１４回　人間の社会生活に入ってきた自律型ロボット【人工知能】【技術的特異点】
１５回　自律型ロボットが人間社会に及ぼす影響について【雇用問題】【道徳】【法整備】

情報社会を読む 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・　５０％、授業中に実施するグループワーク課題・・・　４０％、レポート・・・　１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、授業内容を反復すること。
事前課題を北方Moodleで提供することがあるので、参照して学んでおくこと。
授業時間外では、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくと、課題に取り組みやすくなる。

履修上の注意　/Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイディアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。
また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード　/Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地域資源管理論	ENV200F

授業の概要　/Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
①漁業権（漁業法）・ 草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
②地域資源を有効に活用する手法　- フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約　ー滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟についてー

上記の事例を、いくつかの紛争事例・ 裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著（２００６）『コモンズ論再考』晃洋書房
角谷 嘉則著（２００９）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
神谷由紀子編著（２０１４）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　地域資源の考え方
第3回　行き過ぎた市場主義経済の弊害
第4回　生業とは何か？
第5回　適応した共助の仕組み
第6回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み①　- 日本の伝統的な茅資源の利用方法についてー
第7回　静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み②　- 株式会社制度を利用した現代的地域資源の共同管理システムー
第8回　地域資源の過少利用問題を超えて
第9回　地域資源を活用したまちづくりの実践　- フットパスとは何か？ -
第10回　外部講師の講演　「フットパスはどうやって創るのか？」
第11回　フットパスのまとめ
第12回　地域資源としての都市環境　- 景観問題の観点から -
第13回　都市の特徴と管理組織
第14回　総括と復習
第15回　おわりに

地域資源管理論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

最終試験：１００％（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、最終試験の一発で決定する。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。
そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクレーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。
尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクレーション種目」なども多数実践していきます。

教科書　/Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　グループデイスカッション（１）
２回　グループデイスカッション（２）
３回　グループデイスカッション（３）
４回　グループゲーム　（１）
５回　グループゲーム　（２）
６回　自分自身を理解する
７回　自分自身を人に理解させること
８回　野外活動とは？
９回　キャンプ実習についての講義（１）安全性と有効性
１０回　キャンプ実習についての講義（２）野外炊飯
１１回　キャンプ実習についての講義（３）テント設営
１２回　キャンプ実習の実施（１）
１３回　キャンプ実習の実施（２）
１４回　キャンプ実習の実施（３）
１５回　キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け）　…８０％　　レポート　…２０％
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

履修上の注意　/Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費（約４０００円）かかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係――単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回目の授業に出席する必要があります。
本基礎演習に履修登録済みの場合（２年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している４年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については７月初頭に提示する予定）。この授業は２年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。
（１）社会学的なものの見方・考え方
（２）文献資料の調べ方
（３）質的社会調査の考え方とやり方
（４）レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書　/Textbooks

『知的複眼思考法』、苅谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業内容の紹介
第２回　創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』（１）
第３回　考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』（２）
第４回　問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』（３）
第５回　複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』（４）
第６回　自分の「問い」をたてる
第７回　情報を集める（１）- 図書館の利用
第８回　情報を集める（２）- Webサイトの利用
第９回　情報をまとめる（１）- ブレーンストーミング
第10回　情報をまとめる（２）- KJ法
第11回　自らの問いと方法を明確にする
第12回　質的社会調査の考え方
第13回　フィールドワーク
第14回　アクティブ・インタビュー
第15回　調査倫理について

教養基礎演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…４０％　　レポート…６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論 等を含めること（レジュメの作成方法については授業中に説明する）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅰ	GES101F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度…５０％　レポート…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I（防衛セミナー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼンカを身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社（2015年）
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認（１）【酵素】【代謝】
３回　基本的事項の確認（２）【遺伝子】【DNA】
４回　基本的事項の確認（３）　テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備（１）
６回　グループによるプレゼンテーションの準備（２）
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション（１）
１２回　個人によるプレゼンテーション（２）
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方–』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
第3回：環境問題についての考え方について
第4回：テキストの輪読①
第5回：テキストの輪読②
第6回：テキストの輪読③
第7回：テキストの輪読④
第8回：テキストの輪読⑤
第9回：テキストの輪読⑥
第10回：テキストの輪読⑦
第11回：テキストの輪読⑧
第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
第13回：プレ・レポート報告会
第14回：プレ・レポート報告会
第15回：プレ・レポート報告会＋まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (１００％)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I（発達障がいセミナー）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅰ	GES101F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：発達障がいの世界１（発達障がいとは）
第３回：発達障がいの世界2（自閉症理解の歴史）
第４回：発達障がいの世界3（支援法の基礎）
第５回：発達障がいの世界４（応用行動分析学的アプローチ）
第６回：発達障がいの世界５（ＴＥＡＣＣＨプログラム的アプローチ）
第７回：発達障がいの世界６（構造化）
第８回：発達障がいの世界７（コミュニケーション指導法）
第９回：発達障がいの世界８（行動問題への対応）
第１０回：資料輪読、ディスカッション。
第１１回：資料輪読、ディスカッション。
第１２回：資料輪読、ディスカッション。
第１３回：資料輪読、ディスカッション。
第１４回：資料輪読、ディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容５０％
議論への参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意　/Remarks

教養基礎演習I（発達障がいセミナー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。
そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクレーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。
本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書　/Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自分自身を理解すること（１）
３回　自分自身を理解すること（２）
４回　自分自身を人に理解させること（１）
５回　自分自身を人に理解させること（２）
６回　人を理解すること（１）
７回　人を理解すること（２）
８回　スキー実習についての講義（１）（場所の選定）
９回　スキー実習についての講義（２）（スキーの安全性）
１０回　スキー実習についての講義（３）（スキー技術）
１１回　スキー実習についての講義（４）（スキー実習について）
１２回　スキー実習の実施（１）
１３回　スキー実習の実施（２）
１４回　スキー実習の実施（３）
１５回　スキー実習の実施（４）

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務付け）　…　８０％　　レポート　…２０％
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林　敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

地域経済の活性化策としてどの地域も力を入れている観光振興。
本授業では、民間事業者や行政の様々な取組みや観光産業の現状、その他今後の方向性等を学習することによって、地域社会への貢献および観光振興に資する人材の育成を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市観光情報ファイル『彩遊季』

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス (オリエンテーション)
第2回：北九州市の観光について
第3回：北九州市の歴史・ 文化1　門司
第4回：北九州市の歴史・ 文化2　小倉
第5回：北九州市の歴史・ 文化3　若戸
第6回：北九州市の歴史・ 文化4　八幡
第7回：北九州市と文学
第8回：北九州の観光素材1　世界遺産・ 近代化遺産
第9回：北九州の観光素材2　産業観光・ 工場夜景
第10回：北九州の観光素材3　北九州フィルムコミッション
第11回：企業と観光
第12回：観光案内ボランティア1
第13回：観光案内ボランティア2
第14回：観光案内ボランティア3
第15回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業の貢献度：40%
・ 理解度確認テスト：30%
・ レポート：30%

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に各回の詳細テーマを提示しますので、事前にテーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光資源や制度、取組みについて復習し、考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

横断的学習を行うに当たり、グループディスカションや屋外活動および作業などが課されることもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は北九州市観光協会提供の講義です。近代化遺産や産業観光などの観光振興の推進に力を入れている北九州市の現状について学んでいただきます。将来旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域活性化などに興味がある人には最適です。

キーワード　/Keywords

観光振興、人材育成、地域活動、横断的学習

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については１２月後半に提示する予定）。この授業は、２年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

（１）「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
・質的調査と量的調査の違いを理解する。
・インタビューをするためには、どのようなことが必要なのかを学ぶ。
・調査倫理について理解する。

（２）インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
・自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
・どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
・資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書　/Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
○谷富夫編,2008,『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』,世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「問い」をたてる
第３回　論証戦略を立てる（方法を考える）
第４回　情報を集める - 北九大図書館
第５回　情報を集める - CiNii、国立国会図書館（NDL-OPAC）、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第６回　質的社会調査の考え方
第７回　フィールドワーク
第８回　インタビュー
第９回　ライフヒストリー分析
第10回　調査の企画
第11回　データの作成から論文の執筆まで
第12回　質的調査の応用
第13回　質的調査と調査倫理
第14回　インタビュー調査
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　課題（レポート）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジュメを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード　/Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

レポートの書き方と入門：
　本演習では、「調べ物をしてレポートの書く」ということがよくわからない学生（主として1年生）向けに、レポートの書き方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、比較的最近出版されたとなった文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、論点の見つけ方、関連資料の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身つけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書　/Textbooks

演習で用いるテキストは第1回目の出席者の興味関心にあわせて、第1回目の演習で決定します。候補は次の2冊です。
『風評被害』（関谷直也・光文社新書）
『民族とネイション』（塩川伸明・岩波新書）
たとえば、欧州難民問題やヨーロッパ社会の右傾化は、日本でも報道されます。これらについて知りたいと思ったとき、単に情報を調べるだけという段階から一歩進むため、問題を理解するための土台として、報道によって作られるイメージの問題（前者）やそもそも民族やナショナリズムとは何か（後者）という議論を扱いたいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか（編）2006　『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
○専修大学出版企画委員会（編）2009『知のツールボックス』 専修大学出版会
○白井利明・高橋一郎　2008　『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：レポートを書くとは？今学期のテキストについての相談
第2回　大学における本の読みかた・探しかた
第３回　読んだ本をどう活用するのか？
第４回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第5回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第6回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第7回　テキスト輪読型の演習における報告と議論
第8回　テーマの見つけかた
第9回　レポート構想報告
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　文章を推敲する：レポート相互添削
第14回　文章のブラッシュアップのために
第15回　レポート最終報告会

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意　/Remarks

・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・毎年この演習は1学期に開講していましたが、今年度は2学期開講で、レポートの書き方に特化したものとします。
・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード　/Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI（教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI）を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中（8月中下旬～9月上旬）にかけて、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

防衛白書

教養基礎演習II（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認 (１) 【細胞】
３回　基本的事項の確認 (２) 【再生医療】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備 (１)
６回　グループによるプレゼンテーションの準備 (２)
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション (１)
１２回　個人によるプレゼンテーション (２)
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいは１学期までに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書　/Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書）　￥840＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
第3回：テキストの輪読①
第4回：テキストの輪読②
第5回：テキストの輪読③
第6回：テキストの輪読④
第7回：テキストの輪読⑤
第8回：テキストの輪読⑥
第9回：テキストの輪読⑦
第10回：テキストの輪読⑧
第11回：テキストの輪読⑨
第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
第13回：プレ・ レポート報告会
第14回：プレ・ レポート報告会
第15回：プレ・ レポート報告会＋まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度）　50%
期末レポート　50%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。

そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード　/Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：教養基礎演習Iの復習。
第３回：教養基礎演習Iの復習。
第４回：教養基礎演習Iの復習。
第５回：資料を輪読し、ディスカッション。
第６回：資料を輪読し、ディスカッション。
第７回：資料を輪読し、ディスカッション。
第８回：資料を輪読し、ディスカッション。
第９回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１０回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１１回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１２回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１３回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１４回：資料を輪読し、ディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容50％
議論への参加度50％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養基礎演習II（発達障がいセミナー）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

履修上の注意　/Remarks

伊野担当の教養基礎演習I（発達障がいセミナー）を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係――単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習AI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回目の授業に出席する必要があります。
なお、本演習に履修登録済みの場合（２年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している４年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については７月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習AI 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

AI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）文献レビューの方法（レジュメの作り方）
（５）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
○『実証研究の手引き–調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
その他、適宜、紹介する。

教養演習AI【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を集める２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）１
第９回　文献レビュー（テキスト批評）２
第10回　文献レビュー（テキスト批評）３
第11回　文献レビュー（テキスト批評）４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）５
第13回　文献レビュー（テキスト批評）６
第14回　文献レビュー（テキスト批評）７
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40%　レポート…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習AI（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。
この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に３回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習AI（防衛セミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習AI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼンカを身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社　(2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認（１）【酵素】【代謝】
３回　基本的事項の確認（２）【遺伝子】【DNA】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備（１）
６回　グループによるプレゼンテーションの準備（２）
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後に実施）
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション（１）
１２回　個人によるプレゼンテーション（２）
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習AI【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習AI【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習ＡＩ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習AI（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション。
第2回：教養基礎演習の復習。
第3回：教養基礎演習の復習。
第4回：資料の輪読、ディスカッション。
第5回：資料の輪読、ディスカッション。
第6回：資料の輪読、ディスカッション。
第7回：資料の輪読、ディスカッション。
第8回：資料の輪読、ディスカッション。
第9回：資料の輪読、ディスカッション。
第10回：資料の輪読、ディスカッション。
第11回：資料の輪読、ディスカッション。
第12回：資料の輪読、ディスカッション。
第13回：資料の輪読、ディスカッション。
第14回：資料の輪読、ディスカッション。
第15回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容50％
議論への参加度50％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

履修上の注意　/Remarks

伊野担当教養基礎演習（発達障がいセミナー）I、IIを履修済みであることが望ましい。

教養演習AI（発達障がいセミナー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習AII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については１２月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

AII（２学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会１
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会２
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習AII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　　レポート（論文）…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

国籍・国境について考える：
　本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べることが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれません。どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
（候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『＜群島＞の歴史社会学』石原俊著・弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　新聞からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第3回　映像からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第4回　テキスト輪読と議論
第5回　テキスト輪読と議論
第6回　テキスト輪読と議論
第7回　テキスト輪読と議論
第8回　テキスト輪読と議論
第9回　レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　最終レポート報告会

教養演習AII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
・ 報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・ レジュメの作成・関連文献の読書・レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意　/Remarks

・ 初回の授業でテキストなどを決定するので、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
・ テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード　/Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習ＡII（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＡＩの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI（教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI）を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中（8月中下旬～9月上旬）にかけて、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習AII（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認 (１) 【細胞】
３回　基本的事項の確認 (２) 【再生医療】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備 (１)
６回　グループによるプレゼンテーションの準備 (２)
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション (１)
１２回　個人によるプレゼンテーション (２)
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。
・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習AII 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

教養演習AII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＡII（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡII	GES202F

授業の概要　/Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書　/Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：教養演習ＡI復習。
第３回：教養演習ＡI復習。
第４回：視聴およびディスカッション。
第５回：視聴およびディスカッション。
第６回：視聴およびディスカッション。
第７回：視聴およびディスカッション。
第８回：視聴およびディスカッション。
第９回：視聴およびディスカッション。
第１０回：視聴およびディスカッション。
第１１回：視聴およびディスカッション。
第１２回：視聴およびディスカッション。
第１３回：視聴およびディスカッション。
第１４回：視聴およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッションでの発言内容５０％
ディスカッショへの参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習AII（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習（発達障がいセミナー）I、IIおよび教養演習（発達障がいセミナー）AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢＩ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、日本の人類学者である中根千枝の名著『適応の条件』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

中根千枝『適応の条件』、講談社現代新書、1972年、756円（2017年現在・税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で用意すること。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中根千枝『タテ社会の人間関係––単一社会の理論』、講談社現代新書、1967年
○中根千枝『タテ社会の力学』、講談社現代新書、1978年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に【受講者数調整】を実施します。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第１回目の授業に出席する必要があります。
なお、本演習に履修登録済みの場合（２年生以上）でも、初回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消しますので、気を付けてください。卒業を予定している４年生も同じ扱いとします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については７月前半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

BI（１学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。
（１）自らの関心に沿った「問い」の立て方
（２）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
（３）情報収集の方法
（４）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
○『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
○『実証研究の手引き–調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　「テーマ」について考える
第３回　「問い」を立てる
第４回　論証戦略を考える（方法を検討する）
第５回　情報を集める１ - 北九大図書館
第６回　情報を収集する２ - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
第７回　論文検討会１
第８回　文献レビュー（テキスト批評）１
第９回　文献レビュー（テキスト批評）２
第10回　文献レビュー（テキスト批評）３
第11回　文献レビュー（テキスト批評）４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）５
第13回　文献レビュー（テキスト批評）６
第14回　文献レビュー（テキスト批評）７
第15回　論文検討会２

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…40%　課題…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（１・２学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習BI（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

別称「防衛セミナー」。１、２、３年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見･分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（戸蒔）
２回～１４回　現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする
　　計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意　/Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習BI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼンカを身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社（2015年）
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認（１）【酵素】【代謝】
３回　基本的事項の確認（２）【遺伝子】【DNA】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備（１）
６回　グループによるプレゼンテーションの準備（２）
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション（１）
１２回　個人によるプレゼンテーション（２）
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

教養演習BI【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習ＢＩ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢＩ（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢＩ	GES301F

授業の概要　/Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
第３回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
第４回：自閉症スペクトラムの理解（療育・ 教育・ 支援方法の変遷）。
第５回：支援法の基礎（構造化）。
第６回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
第７回：支援法の基礎（行動問題）。
第８回：支援の実践およびディスカッション。
第９回：支援の実践およびディスカッション。
第１０回：支援の実践およびディスカッション。
第１１回：支援の実践およびディスカッション。
第１２回：支援の実践およびディスカッション。
第１３回：支援の実践およびディスカッション。
第１４回：支援の実践およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

支援法の理解度５０％
議論への参加度５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『大人の友情』を取り上げる。

教科書　/Textbooks

河合隼雄『大人の友情』、朝日文庫、2008年、497円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、初回ガイダンス出席後に各自で購入しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（授業のルール、成績評価等の説明）
２回　読解と議論１
３回　読解と議論２
４回　読解と議論３
５回　読解と議論４
６回　読解と議論５
７回　読解と議論６
８回　読解と議論７
９回　読解と議論８
１０回　読解と議論９
１１回　読解と議論１０
１２回　読解と議論１１
１３回　復習と補助学習１
１４回　復習と補助学習２
１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）…50%　　レポート…50%
（２回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全１５回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習ＢⅡ【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・課題内容については１２月後半に提示する予定）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢII 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月　正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

この演習では、１年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

BII（２学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回２名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、１～２ヶ月に１度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「論文執筆計画書」の報告
第２回　文献レビュー（テキスト批評）１
第３回　文献レビュー（テキスト批評）２
第４回　文献レビュー（テキスト批評）３
第５回　文献レビュー（テキスト批評）４
第６回　論文検討会３
第７回　調査法の検討１
第８回　調査法の検討２
第９回　文献レビュー（テキスト批評）５
第10回　文献レビュー（テキスト批評）６
第11回　論文検討会４
第12回　文献レビュー（テキスト批評）７
第13回　文献レビュー（テキスト批評）８
第14回　レポート報告会
第15回　まとめ

教養演習ＢII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　レポート・論文…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（１）文献概要、（２）内容要約、（３）論点整理、（４）議論を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意　/Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（１学期・２学期）受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード　/Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習BII 【昼】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

国籍・国境について考える：
　本演習では、国籍・国境に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて国籍・国境に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読解し、意見を述べることが求められます。そのうえで、自分の問題意識に沿って資料を集め、考察を深めることを最終的な目的とします。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。今回のテーマについては、インターネット上に玉石混交の情報が飛び交っているかもしれません。どのように信頼できる最新の情報にたどり着くかも重要なポイントです。知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に合わせて、国籍・国境に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
（候補：『パスポート学』陳天璽編・北海道大学出版会、『＜群島＞の歴史社会学』石原俊著・弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：本演習の目的説明、テキスト決定
第2回　新聞からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第3回　映像からわかること、専門書からわかること（講義と議論）
第4回　テキスト輪読と議論
第5回　テキスト輪読と議論
第6回　テキスト輪読と議論
第7回　テキスト輪読と議論
第8回　テキスト輪読と議論
第9回　レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
第10回　レポート構想報告
第11回　レポート構想報告
第12回　レポート構想報告
第13回　レポート構想報告
第14回　レポート相互添削
第15回　最終レポート報告会

成績評価の方法　/Assessment Method

・授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
・報告の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します。

教養演習BII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・レジュメの作成・関連文献の読書・レポートの作成にはそれなりに時間が必要です。妥協しないでください。

履修上の注意　/Remarks

・初回の授業でテキストなどを決定するので第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
・単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
・テキストを購入する資金はそれなりに必要です。注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・今年度は、ビジョン科目「現代社会と文化」で、ここ数年学生の関心が高い国籍や国境に関わるテーマで演習を行います。担当者の授業を履修している受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード　/Keywords

国境、国籍、民族、文化

教養演習ＢII（防衛セミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

教養演習ＢIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI（教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI）を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。

②研修は、夏季休業期間中（8月中下旬～9月上旬）にかけて、３回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する（500円程度＋αのみかかります）。

③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

防衛白書

教養演習ＢⅡ（防衛セミナー）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修　海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

第2回研修　航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
　　現地での研修（5時間）

第3回研修　陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
　　バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）＋現地での研修（5時間）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度50％＋レポート50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　3024円　羊土社 (2015年)
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　1890円　数研出版 (2012年)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　基本的事項の確認 (１) 【細胞】
３回　基本的事項の確認 (２) 【再生医療】
４回　基本的事項の確認・テーマの決定
５回　グループによるプレゼンテーションの準備 (１)
６回　グループによるプレゼンテーションの準備 (２)
７回　グループによるプレゼンテーション
８回〜９回　DNAに関する実験
１０回　個人によるプレゼンテーションの準備
１１回　個人によるプレゼンテーション (１)
１２回　個人によるプレゼンテーション (２)
１３回　関連映画鑑賞
１４回　質疑応答
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み１０％、発表６０％、期末レポート３０％

教養演習BII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第１回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード　/Keywords

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。
多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 オリエンテーション

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回振り返り研修

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する前には、自らの担当業務について前回までの振り返りを行っておき、当日、スムーズに業務に入れるようにしておくことが必要です。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの報告や情報共有のための作業も重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習ＢⅡ【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（４２１Ｌａｂ．）に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、４２１Ｌａｂ．が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー）【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＢⅡ	GES302F

授業の概要　/Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：支援法に関する文献輪読。
第３回：支援法に関する文献輪読。
第４回：支援法に関する文献輪読。
第５回：支援法に関する文献輪読。
第６回：支援法に関する文献輪読。
第７回：支援法に関する文献輪読。
第８回：支援の実践およびディスカッション。
第９回：支援の実践およびディスカッション。
第１０回：支援の実践およびディスカッション。
第１１回：支援の実践およびディスカッション。
第１２回：支援の実践およびディスカッション。
第１３回：支援の実践およびディスカッション。
第１４回：支援の実践およびディスカッション。
第１５回：まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

支援法の理解度５０％
報告内容５０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習ＢⅡ（発達障がいセミナー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習（発達障がいセミナー）Ⅰ、Ⅱおよび教養演習（発達障がいセミナー）ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松　文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然学のまなざし	ENV002F

授業の概要　/Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系· 理系と人間の頭を２つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書　/Textbooks

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■竹川
第１講　自然学で学ぶこと
第２講　今西錦司という人がいた
第３講　バックミンスターフラーという人がいた
第４講　人類の進化と狩猟採集生活
第５講　自然学における日常実践
第６講　カボチャ島の自然学【食と資源】
第７講　風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
第８講　自然学の視点の重要性
■岩松
第９講　近世の旅と自然
第１０講　山村暮らしと故郷
第１１講　山と森の自然観
第１２講　竹の産業史
第１３講　竹の文化
第１４講　木の文化
第１５講　第９〜１４講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

（竹川）
講義で紹介するさまざまな活動に参加する　・・・ 15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える　・・・ 15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く　・・・ 20%
（岩松）
小レポート…25%　試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　到津の森公園、文学部　竹川大介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		

動物のみかた	Z0L001F

授業の概要　/Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書　/Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編　小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　動物園学概論１（動物園の歴史）
２回　動物園学概論２（人と公園の歴史）
３回　キーパーの仕事１（動物の飼育と歴史）
４回　キーパーの仕事２（動物園のみかた）
５回　キーパーの仕事３（動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割）
６回　キーパーの仕事４（どうぶつと人間のくらい）
７回　キーパーの仕事５（動物園とデザイン）
８回　キーパーの仕事６（動物園の植栽）
９回・１０回　校外実習（到津の森公園）
１１回　獣医の仕事１（どうぶつの病気）
１２回　獣医の仕事２（どうぶつたちとくらそう）
１３回　動物園学まとめ１（動物園を振り返る）
１４回　動物園学まとめ２（新しい動物園とは）
１５回　まとめ（外部講師講演）

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート … ８０％　　平常の学習状況 … ２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意　/Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることで人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード　/Keywords

動物園

地球の生いたち 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　長井　孝一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地球の生いたち	G0L001F

授業の概要　/Course Description

我々の住む地球は太陽系の第３惑星として，今から約４６億年前に誕生した。その４６億年の地球史の中で，大地や海，大気が形成され，地球生命が誕生し，さらに，そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約３８億年前に誕生し，長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今，地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として，その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在，我々はこれまでにも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では，地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず，プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会），1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店），861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）,1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方　【地質時代と絶対年代】
２回目：生きている地球１ 【地球惑星の構成としくみ】
３回目：生きている地球２ 【ウェゲナーと大陸移動説】
４回目：生きている地球３ 【プレートテクトニクストとプルームテクトニクス】
５回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
６回目：地球地球史を記録する地層と化石１　【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
７回目：地球地球史を記録する地層と化石２　【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
８回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
９回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
１０，１１回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
　　１０回目：カンブリア爆発の特徴と原因
　　１１回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
１２回目：繰り返す大量絶滅１【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
１３回目：繰り返す大量絶滅２ 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
１４回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
１５回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し，授業の内容を復習すること。また，シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない，可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて，授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して，地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード　/Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター　日高京子

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要　/Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思います。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【　】内はキーワード、（　）内は担当学芸員名)。

１回　ガイダンス
２回　自然史博物館見学（１）〜博物館を楽しもう
３回　植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋）　【食物連鎖】【共生】
４回　アンモナイトの古生物学（御前）　【化石】【進化】【古生態】
５回　鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）【絶滅危惧】【多様性の保全】
６回　石の声が聞こえる（森）　【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
７回　化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）【化石の有用性】【生命史】
８回　骨から知る脊椎動物進化（大橋）　【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
９回　化石が語る魚類の進化（籔本）　【魚類化石】
１０回　深海生物〜その形と適応的意義（下村）　【深海】
１１回　昆虫の多様性と進化（蓑島）　【分類】【学名】
１２回　二次的自然と哺乳類（馬場）　【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
１３回　タイトル未定
１４回　自然史博物館見学（２）〜課題研究
１５回　まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： http://www.kmnh.jp/
講義タイトルおよび順序は変更になることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

・２回の博物館見学は原則必須とする。
・授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ １回目の博物館見学は10月15日（日）、２回目は１１月以降各自で自由に行う。
・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

くらしと化学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　秋貞　英雄 / Akisada　Hideo / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

くらしと化学	CHM001F

授業の概要　/Course Description

化学物質とその物性は自然を豊かにし、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民はその中で、身近な問題での科学・技術情報への一定の興味とその開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、基礎的な化学知識を理解することが必要とされます。　そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子構造が自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質(無機物、有機物）と身近な現象や材料との関わりを、生活に必要な生体物質(糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境問題はそれに影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書　/Textbooks

「あなたと化学」 - くらしを支える化学15講 -
著者：齋藤勝裕 著
出版社：裳華房
定価2160円（本体2000円＋税8％）/ 2015年9月発行
ISBN 978-4-7853-3505-2　C3043

参考書(図書館蔵書には ○）　/References（Available in the library: ○　）

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳　(丸善) \2200円、 ISBN 978-4-621-04227-4
「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善)￥2200+税　ISBN978-4-621-08016-0 演習用として
○「沈黙の春」R. Carson著、青木 梁一訳　(新潮社)
○「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著　(翔泳社)

くらしと化学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1) 1章 原子と分子が全てをつくる - 原子の構造と化学結合 -
2) 2章 私たちは空気で囲まれている - 気体の状態と性質 -
PV=nRTから言えること、気体の種類
3) 3章 地球は水の惑星 - 水の特性と物質の状態 -
液体・固体とは、水は特殊な物質
4) 3章補足　プリント (＋14章一部) 界面とコロイド・ゲル (分子とマクロ物質の境界領域で) 。
5) 5章　元素の80％は金属元素 - 金属の多彩な性質 -
補足：無機化合物、ガラス、コンクリート
6) 4章、12章：酸・塩基、酸化・還元 - 電池
7) 4章、12章：44章　炭が燃えると熱くなる - 化学反応とエネルギー変化 -
12章　電気ってなんだろう？ - 発光と化学エネルギー -
8)　6章　有機物は炭素でできている - 有機化学超入門 -
化学構造と物性、有機化合物の分類
9)　11章　プラスチックってなんだろう？ - 高分子の化学 -
10)　7章　生命体をつくるもの - 生体分子の世界 -
糖、脂質、タンパク質、核酸
11)　9章、10章：9章　私たちの食べているもの - 食料品の化学 -
10章　毒と薬は同じもの？ - 医薬品と毒物の化学 -
12)　8章　シャボン玉のふしぎ - 分子膜のはたらき -
13)　13章　原子力と電力の関係って？ - 原子力と放射線の化学 -
14)　15章　環境は化学で成り立っている - 化学からみた地球環境 -
15) まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。授業で出たり、一般に見られる化学的現象とその理解を結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など) ２０％、期末試験８０％で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意　/Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料 (プリント) を必ず受け取る (翌週も配る) 。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくと良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通しておく。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード　/Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基
電池、化学反応、アミノ酸、糖、資質、拡散、温暖化物質、放射能

現代人のこころ 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　森永　今日子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツーアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書　/Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. ガイダンス，グループ分け
2. 心理学とは　NHK大心理学実験　研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有　GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル（アサーション、説得的コミュニケーション）
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%)　+　PT個人ポイント(20%)　+　試験(40%) - 【平常点（減算式）】
※ PTとはポスターツアーを指し、、グループで作り上げるものです。詳細は講義中に説明します。
※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合（講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等）による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

グループ課題（レポートおよびポスター）作成のために必要。

現代人のこころ 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意　/Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。
☆アクティブラーニングとは…
教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）
講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。
学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。
※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。
主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。
主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード　/Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

人間と生命 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人間と生命	BIO002F

授業の概要　/Course Description

ヒトの体は約６０兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には２万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで（１）体はどのような物質からできているか、（２）遺伝子は体の何をどのように決めているのか、（３）細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、（４）体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　体を作る物質（１）細胞の構成成分　【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
３回　体を作る物質（２）食物分子と代謝　【酵素】【触媒】
４回　体を作る物質（３）遺伝物質DNA　【二重らせん】
５回　体を作るしくみ（１）遺伝子発現　【セントラルドグマ】
６回　体を作るしくみ（２）遺伝子できまること　【ゲノム】【体質】
７回　体を作るしくみ（３）発生と分化　【転写因子】【胚】
８回　細胞の社会（１）細胞の増殖　【細胞周期】【細胞死】
９回　細胞の社会（２）シグナル伝達　【受容体】【シグナル分子】
１０回　細胞の社会（３）社会の反逆者・がん　【がん遺伝子】
１１回　体を守るしくみ（１）寿命と老化　【染色体】【テロメア】
１２回　体を守るしくみ（２）細菌とウイルス　【ウイルス】【細菌】
１３回　体を守るしくみ（３）免疫　【自然免疫】【抗体】
１４回　関連ビデオ鑑賞
１５回　質疑応答・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題　４０％
期末テスト　６０％

人間と生命 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

環境都市としての北九州 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科 三宅　博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科, 松永　裕己 / マネジメント研究科　専門職学位課程 村江　史年 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		

環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要　/Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト　2016年改訂版　900円+税
http://www.city.kitakyushu.lg.jp

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高）
２回　持続可能な社会をめざして〜ESD〜（法学部・三宅）
３回　北九州の自然・生態系（外部講師）
４回　北九州における環境政策（外部講師）
５回　環境問題と市民の関わり（外部講師）
６回　環境問題とソーシャルビジネス（外部講師）
７回　環境首都検定に向けて（外部講師）
８回　施設見学・環境ミュージアム
９回　小テスト（日高）
１０回　北九州の環境経済（経済学部・牛房）
１１回　環境ビジネスとエコタウン事業（マネジメント研究科・松永）
１２回　環境問題と企業の取り組み（外部講師）
１３回　施設見学・エコタウン
１４回　環境問題に関するシンポジウム（外部講師）
１５回　環境問題と学生の取り組み（421Lab・村江）

成績評価の方法　/Assessment Method

環境首都検定の成績（４０％）、小テストおよび授業中の課題（６０％）

環境都市としての北九州 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。
・ 環境ミュージアム見学は１１月２３日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は各自で見学すること。
・ 環境首都検定は１２月３日（日）
・ エコタウン（バスツアー）は１２月２７日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。

＊授業スケジュールは変更の可能性もある。第１回目ガイダンス時に確認すること。
＊環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd

キーワード　/Keywords

環境、ESD、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名
/Instructor

龍　有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科（19～）, 伊藤　洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科（19～）
李　丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科（19～）, 黎　暁紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科（19～）
泉　政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科（19～）, 宮里　義昭 / Yoshiaki MIYAZATO / 機械システム工学科（19～）
吉山　定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科（19～）, 松田　鶴夫 / Tsuruo MATSUDA / 環境技術研究所
髙島　康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科（19～）, 福田　展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科（19～）
高　偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科（19～）, 保木　和明 / Kazuaki HOKI / 建築デザイン学科（19～）
二渡　了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科（19～）, 望月　慎一 / Shinichi MOCHIZUKI / 環境生命工学科（19～）
河野　智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科（19～）

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21 世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		

未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要　/Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：社会における環境技術の役割
第２回：身近にある土壌汚染のリスクと対策
第３回：ナノレベルの材料設計とその応用：環境問題の解決を目指して
第４回：廃棄物の発酵ガスから水素および液体燃料の合成
第５回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その１・燃料電池）
第６回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その２・消防戦術）
第７回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について（その３・エンジン)
第８回：環境モニタリングシステムの開発について
第９回：生活環境を向上させる最適化手法
第10回目：環境に配慮する建築デザイン
第11回目：都市・建築における省エネルギー・自然エネルギー利用と環境技術
第12回目：地震の多い日本で安全な建物をつくり長く使うための技術
第13回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み
第14回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生みだすバイオテクノロジー
第15回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポートおよび小テスト30%
期末課題50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意　/Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード　/Keywords

環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　佐藤 眞人 / Sato　Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

私たちと宗教	PHR006F

授業の概要　/Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。

授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・ イスラム教・ 道教などと比較しながら理解を深めてもらう。

教科書　/Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ ちくま文庫）
○末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
○末木文美士『日本仏教史』（新潮社・ 新潮文庫）

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　授業の概要説明
２回　日本人の宗教観
３回　宗教の諸類型
４回　宗教の構成要素
５回　仏教について１（インド仏教と日本仏教）
６回　仏教について２（中国の宗教と中国仏教）
７回　仏教について３（日本仏教の諸宗派）
８回　仏教について４（日本仏教の祖先崇拝・ 本覚思想）
９回　神道について１（日本の神と祭り）
１０回　神道について２（神道の成立）
１１回　神道について３（神仏習合の教説）
１２回　神道について３（神仏習合の諸相）
１３回　日本宗教の特色１（神道と仏教の共存）
１４回　日本宗教の特色２（神仏隔離と近代の神仏分離）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　７０％　平常の学習状況　３０％

私たちと宗教 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を自分で読んでいくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード　/Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要　/Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『哲学の歴史　第９巻--反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
○『哲学の歴史　第１２巻--実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　実存の思想（１）【概説】
３回　実存の思想（２）【キルケゴール】
４回　実存の思想（３）【ハイデガー】
５回　実存の思想（４）【サルトルの哲学】
６回　実存の思想（５）【サルトルの文学】
７回　実存の思想（６）【メルロ=ポンティ】
８回　実存の思想（７）【補足】
９回　精神分析の思想（１）【前期フロイト】
１０回　精神分析の思想（２）【後期フロイト】
１１回　精神分析の思想（３）【フロイト以後】
１２回　フェミニズムの思想（１）【第一波～第二派】
１３回　フェミニズムの思想（２）【日本のウーマン・リブ】
１４回　フェミニズムの思想（３）【フレンチ・フェミニズム】
１５回　フェミニズムの思想（４）【クイア】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

文化と表象 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　真鍋　昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		

文化と表象	MCC001F

授業の概要　/Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　【表象論事始め】　理論的背景
３回　【表象の歴史的追尾】イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
４回　イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
５回　イメージとしての〈日本〉③【演劇】
６回　イメージとしての〈日本〉④【映画】
７回　イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
８回　イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
９回　イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
１０回　【特別講義】
１１回　【表象分析事始め】映画を事例として①【活字から映像へ】
１２回　映画を事例として②【原作とテーマ設定】
１３回　映画を事例として③【作り手の複数性】
１４回　映画を事例として④まとめ
１５回　全体総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点 (課題・コメントカードなど)　… 25%　　期末レポート　…　75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

文化と表象 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

言語とコミュニケーション 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山﨑　和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス　非常勤講師 平野　圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田　憲 / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要　/Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのはなぜなのでしょうか。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書　/Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『コミュニケーションの心理学』松尾　太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
○『異文化コミュニケーション』古田　暁著、有斐閣、1999年。
○『社会言語学への招待–社会・文化・コミュニケーション』田中　春美（他）著、ミネルヴァ書房、1996年。
○『社会言語学入門–生きた言葉のおもしろさにせまる』東　照二 著、研究社出版, 1997年。
○『ジェンダーの言語学』永原　浩行（他）編、明石書店、2004年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。
第1回　序：「ことば」とは（漆原）
第2回　コミュニケーションとことばの発達（漆原）
第3回　言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション（漆原）
第4回　語用論（山﨑）
第5回　ことばと文化（山﨑）
第6回　異文化間コミュニケーション（山﨑）
第7回　会話の規則（平野）
第8回　日本語の方言（平野）
第9回　ことばのバリエーション（平野）
第10回　（予定）外部講師による特別講義
第11回　認知発達とコミュニケーション（松田）
第12回　ヒューマンエラーとアフォーダンス（松田）
第13回　ことばとジェンダー（漆原）
第14回　グローバル化とコミュニケーション（漆原）
第15回　まとめ（担当者によるパネル・ディスカッション）（漆原）

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…20%　　レポート…20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
＊「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

芸術と人間 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　真武　真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

芸術と人間	PHR001F

授業の概要　/Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、表現の原動力となるものを考察し、現代社会との関係、影響力を探っていく。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「現代アート事典　モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集」　美術手帖編集部　美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」著・ 中ザワヒデキ　アートダイバー　2014
「20世紀末・ 日本の美術――それぞれの作家の視点から」編著・ 中村ケンゴ　アートダイバー　2015

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. 寺山修司　劇的想像力について
4. 中平卓馬　なぜ植物図鑑か
5. フランク・ ステラ ミニマル/マキシマル
6. 高松次郎　不在を追いかけて
7. ロバート・ スミッソン　大地の改造計画
8. ウォールター・ デ・ マリア　　わたしに電話をください
9. アネット・ メッサジェ　　聖と俗のメッセンジャー
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. ソフィー・ カル フィクションとしての写真
12. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
13. 山口圭介 原発に抗する
14. ヤノベケンジ 失われた遊園地
15. 会田誠 道程

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　2 回　　60%
レポート(学期末)　40%

芸術と人間 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
(2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード　/Keywords

文学を読む 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	生住　昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内　重雄 / ＫＯＵＣＨＩ　ＳＨＩＧＥＯ / 比較文化学科 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, 村上　義明 / 北方キャンパス　非常勤講師 畑中　佳恵 / 北方キャンパス　非常勤講師, 藤崎　祐二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

文学を読む	LIT001F

授業の概要　/Course Description

◎総合テーマ
大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手に取ってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなものですが、それは本当なのでしょうか？　さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い
ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。
今年度の「文学を読む」では、担当教員が大学１年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティヴなメッセージについて、熱く語ります。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

①言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
②「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
③修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書　/Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　文学理論の歴史概観（畑中佳恵）
第３回　トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」（畑中佳恵）
第４回　イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」（畑中佳恵）
第５回　イギリス文学への誘い（木原謙一）
第６回　イギリス文学のメッセージ性・まとめ（木原謙一）
第７回　日本上代文学への誘い（藤崎祐二）
第８回　日本上代文学へのメッセージ性（藤崎祐二）
第９回　まとめ（藤崎祐二）
第10回　日本近世文学への誘い（村上義明）
第11回　日本近世文学のメッセージ性・まとめ（村上義明）
第12回　日本現代詩への誘い（稲田大貴）
第13回　日本現代詩のメッセージ性・まとめ（稲田大貴）
第14回　日本現代文学への誘い（河内重雄）
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート＝100％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習（作品を読む、作者について調べる、など）と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代正義論	PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
○マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上）（下）』(早川書房、2010年）
○盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
○川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
○川本隆史『ロールズ　-　正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　現代正義論とは　～　問題の所在
第２回　現代正義論とは　～　本講義の概観
［第３回～第７回まで　「正義」の応用問題（生命倫理と法）］
第３回　脳死・臓器移植①　～　臓器移植法の制定と改正
第４回　脳死・臓器移植②　～　法改正時の諸論点
第５回　脳死・臓器移植③　～　改正臓器移植法の施行と課題
第６回　安楽死・尊厳死①　～基本概念の整理と国内の状況
第７回　安楽死・尊厳死②　～諸外国の状況
第８回　現代正義論①　～　ロールズの正義論
第９回　現代正義論②　～　ロールズとノージック
第10回　現代正義論③　～　ノージックのリバタリアニズム
第11回　現代正義論④　～　サンデルの共同体主義
第12回　現代正義論⑤　～　共同体主義【論争】
第13回　現代正義論⑥　～　アマルティア・センの正義論
第14回　現代正義論⑦　～　センとロールズ・ノージック
第15回　まとめ

現代正義論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ＮＨＫ教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード　/Keywords

ロールズ　ノージック　サンデル　正義　脳死　尊厳死

民主主義とは何か 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　中道　壽一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の３つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運 動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、１９３８年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。
そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○Ｊ・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
第１回　はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
第２回　「デモス」と「クラティァ」について
第３回　二つの民主主義伝統について
第４回　近代市民革命と自由民主主義について
第５回　現代民主主義の理論の比較・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第６回　現代民主主義の理論の比較・・参加民主主義論、共生の民主主義論
第７回　現代民主主義の理論の比較・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第８回　まとめのグループ討論、グループ発表
第９回　民主主義の運動（組織）について・・１９８９年の東欧革命、１９６８年の「青年の反乱」の日独比較
第１０回　民主主義の運動（組織）について・・１９３８年の日独青少年交歓事業について
第１１回　民主主義の制度について・・議院内閣制と大統領制の比較
第１２回　議院内閣制民主主義の諸問題について
第１３回　大統領制民主主義の諸問題について
第１４回　民主主義制度の比較のまとめ・・首相公選制について
第１５回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。
日常の授業への取り組み　２０％
小テスト　１０％
レポート（任意）　２０％
定期試験　５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、
国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。
多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。
毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失しないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

社会学的思考	SOC002F

授業の概要　/Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケーム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会学的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは１つになることもある。）

教科書　/Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　社会学的な考え方とは
第３回　社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
第４回　社会と個人をつなぐ１ - デュルケム１【集合意識と行為】
第５回　社会と個人をつなぐ２ - デュルケム２【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
第６回　社会と個人をつなぐ３ - デュルケム３【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
第７回　社会と個人をつなぐ４ - ウェーバー１【理解社会学】
第８回　社会と個人をつなぐ５ - ウェーバー２【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
第９回　社会と個人をつなぐ６ - フロム１【社会的性格とファシズム】
第10回　社会と個人をつなぐ７ - フロム２【デモクラシーと大衆社会】
第11回　現代社会の解読１ - 貧困と社会的排除１【生活困窮状況とそのメカニズム】
第12回　現代社会の解読２ - 貧困と社会的排除２【支援のあり方】
第13回　現代社会の解読３ - グローバル化の進展と排外主義１【排外主義の様相】
第14回　現代社会の解読４ - グローバル化の進展と排外主義２【排外主義のメカニズム】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題…１５％　　期末試験…８５％
（総合的に判断する）

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード　/Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

政治のなかの文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

政治のなかの文化	ANT001F

授業の概要　/Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになっても、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書　/Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献や講義中に紹介した資料は各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。また授業では配布資料を配るが、口頭での説明もしっかりメモすること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』ＮＴＴ出版
○織田竜也ほか（編）2009『経済からの脱出』春風社
○春日直樹（編）2008 『人類学で世界をみる』 ミネルヴァ書房
○ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
○本多俊和ほか編 2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入/グローバル化の時代と文化
第2回　理念の土着化は可能か？
第3回　伝統社会のなかの政治の始まり
第4回　互酬と社会
第5回　伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
第6回　価値観と文化
第7回　資本主義への対抗
第8回　中間テスト
第9回　政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
第10回　政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
第11回　開発の現場における文化と公共性
第12回　中間テストの解説
第13回　地域通貨の可能性とコミュニティの現在
第14回　「求められる市民参加」の時代
第15回　公共性と文化

政治のなかの文化 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト40%、期末テスト60%
※そのほか講義への貢献を平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。このほか適宜授業への積極的参加を加点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。

履修上の注意　/Remarks

・評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
・講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
・中間テストの無断欠席者（または代替提出課題の未提出者）、授業態度が目に余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・人々はどうやって意思決定をしてきた（いる）か、どうやって経済活動をしてきた（いる）かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
・ビジョン科目II「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生、およびビジョン科目I「異文化理解の基礎」（本年度非開講、昨年度開講）を受講済み学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード　/Keywords

政治、公共性、文化、互酬性、国家

人権論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標
１．人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
２．人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
３．現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
４．自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
※５～１４については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心をもち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのかーそのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ–女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　日本語とジェンダー–戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
２回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学–村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
３回　現代アートとジェンダー–映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
４回　男もつらいよ–アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
５回　ジェンダー家族を超えて–週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
６回　セクシュアリティを考える–あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
７回　学校教育の今昔–学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
８回　社会保障とジェンダー–津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
９回　ジェンダーの視点からみる農業–エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
１０回　アジア現代女性史の試み–ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
１１回　女性差別撤廃条約と人権–絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
１２回　ジェンダーと平和学–女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
１３回　グローバリゼーションと労働市場–国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
１４回　デートDV–TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言…25%、プレゼン…25%、レポート…25%、期末試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する３つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		

障がい学	SOW001F

授業の概要　/Course Description

「障害」というと否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。
また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
第5回：自閉症とは【自閉症】
第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
第7回：文化モデル的作品の評価【３つのモデルとの関連で】
第8回：３つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

履修上の注意　/Remarks

障がい学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生の作法 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	今泉 恵子 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科 朴 元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科 高橋 衛 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）があることを知ることが重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　法と道徳について
第３回　殺人する自由はあるか？ー人権保障の限界
第４回　行政活動と法治主義
第５回　国際社会と法–国際行政の観点から
第６回　犯罪とは何か
第７回　刑罰とは何か
第８回　性差別と暴力～セクシャル・ハラスメントとドメステッィク・バイオレンス
第９回　家族とは何か
第10回　担保とは何か
第11回　契約とは何か
第12回　商取引における不正競争と法
第13回　企業形態と法
第14回　民事訴訟とは何か
第15回　社会保障の必要性と社会保険について考えよう

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートによる（100%，ただし④に注意）。
①　受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから，テーマを１つ選び，レポートを１本作成して提出すること。
②　レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは３０００字以上とする。
③　レポートには，所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
④　出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は，レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意　/Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくと、各回の理解がいっそう深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード　/Keywords

【現代社会】　【共生】　【作法】　【ルール】

法律の読み方 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

法律の読み方	LAW002F

授業の概要　/Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書　/Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス–法律を読むために
２回　憲法の役割と基本原則を知る①【最高法規】【個人の尊厳】【基本的人権】【国民主権】
３回　憲法の役割と基本原則を知る②【平和主義】【権力分立】【違憲法令審査制】【個人と国家】
４回　民法の役割と基本原則を知る①【私的自治】【所有権の絶対】【過失責任】【家族法の特質】
５回　民法の役割と基本原則を知る②【公共の福祉】【信義誠実の原則】【権利濫用】【取引の安全】
６回　刑法の役割と基本原則を知る①【罪刑法定主義】【犯罪の要件】【刑罰】
７回　刑法の役割と基本原則を知る②【刑事手続】【裁判員制度】【刑事責任と民事責任】
８回　法の特性と構造、機能を知る①【社会規範】【法規範の特性】【社会統制】【活動促進】
９回　法の特性と構造、機能を知る②【紛争解決】【行為規範】【裁判規範】【法源】
１０回　法の適用と解釈の仕方を知る　【裁判所】【裁判の役割】【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
１１回　判例の読み方を知る　【判例集】【判例の調べ方】【事実の概要】【判旨】【参照条文】
１２回　判例を読む①　【判例部分の抽出】【判例研究の意義】【判例研究の仕方】
１３回　判例を読む②　【判例評価の方法】【判例と学説】【特別受益】【生命保険金】
１４回　法律の視点から社会を読む　【相続】【親子関係】【婚姻】【離婚】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…　２０　%　　定期試験…　８０　%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意　/Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法’17』信山社（１，０００円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会調査 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要　/Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書　/Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　何のための社会調査か
第２回　量的調査と質的調査
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング（１）【質問文の作成】
第６回　ワーディング（２）【選択肢の作成】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方
第９回　サンプリングの方法
第10回　実査の準備
第11回　データファイルの作成（実習）１【入力フォームの作成】
第12回　データファイルの作成（実習）２【ＳＰＳＳファイルの作成とデータクリーニング】
第13回　データファイルの作成（実習）３【度数分布表の作成】
第14回　分布と統計量、クロス集計、相関係数
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…３０％　日常の授業への取り組み…１０％　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

社会調査 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回「財・サービスの提供機関」としての企業①　【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
第3回「財・サービスの提供機関」としての企業②　【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
第4回「株式会社」としての企業①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第5回「株式会社」としての企業②　【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
第6回「大企業」としての企業①　【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
第7回「大企業」としての企業②　【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
第8回2-7回のまとめ
第9回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象（１）　【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第10回「家」としての日本企業②　人事における日本企業特有の現象（２）　【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
第11回「家」としての日本企業③　株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第12回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第13回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第14回「社会的器官」としての日本企業　【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 50%　　中間テスト・・・ 30%　　レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【昼】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代社会と倫理 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と倫理	PHR002F

授業の概要　/Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ピーター・シンガー『実践の倫理　新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
○ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
○加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
○江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
○安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか――要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
３回　現代における人命の価値（１）【生命の神聖説】
４回　現代における人命の価値（２）【積極的行為と消極的行為】
５回　現代における人命の価値（３）【最大幸福原理】
６回　現代における人命の価値（４）【不完全義務】
７回　現代における人命の価値（５）【自己意識】
８回　現代における人命の価値（６）【FLO】
９回　問題事例の検討（１）【優生学】
１０回　問題事例の検討（２）【殺人行為】
１１回　問題事例の検討（３）【まとめ】
１２回　現代における公平性の意義（１）【人口問題】
１３回　現代における公平性の意義（２）【公平主義】
１４回　現代における公平性の意義（３）【貧困問題】
１５回　現代における公平性の意義（４）【援助義務論】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

現代社会と倫理 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第１回もしくは第２回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード　/Keywords

生命　義務論　功利主義　貧困　公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

現代社会と新聞ジャーナリズム	SOC001F

授業の概要　/Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやＳＮＳが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状（編集企画委員長）
【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点（経済部長）
【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う（社会部記者）
【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材（社会部デスク）
【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる（編集センターデスク）
【第6回】デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦（メディアラボ部員）
【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは（文化部デスク）
【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から（国際部長）
【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの（運動部デスク）
【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは（デザイン部デスク）
【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは（写真部記者）
【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面（もの知りタイムズ編集長）
【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える（報道センター記者）
【第14回】働く現場とは / （生活特報部デスク）
【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか（北九州本社記者）

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート（３回）・・・100％
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわず、成績を不可（Ｄ）とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）ならびに現代社会を解読する力を身につけてほしい。

キーワード　/Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

都市と地域 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

都市と地域	RDE002F

授業の概要　/Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状の課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待します。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

【地域】適宜文献や資料を紹介する。
【都市】特になし。参考となる文献等については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　共通　：授業及び講師紹介
２回　地域１　：地域の概念：世界と日本の事例
３回　地域２　：地域をどのように学問するか：地域学と地域科学
４回　地域３　：地域間という考え方
５回　地域４　：グループ討論：あなたの地域は？その地域との関わりは？
６回　地域５　：地域事例紹介１（国内事例予定）
７回　地域６　：地域事例紹介２（海外事例予定）
８回　地域７　：課題レポート発表・討論
９回　都市１　：都市の概念
１０回　都市２　：都市へ人や産業が集まる理由
１１回　都市３　：都市問題、都市の衰退
１２回　都市４　：人口減少社会における都市（１）【コンパクト化】
１３回　都市５　：人口減少社会における都市（２）【地方創生】
１４回　都市６　：事例研究：「かんもん（関門）海峡都市」の活性化
１５回　都市７　：都市と「市民」「大学生」

成績評価の方法　/Assessment Method

【地域】全体の５０％：クイズ…１５％　授業内貢献…１０％　レポート…２５％
【都市】全体の５０％：レポート…３５％　日常の授業への取り組み…１５％

都市と地域 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【地域】日頃から「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察して授業に臨んで下さい。新聞やＴＶニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。
【都市】各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。また、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、地域の博物館等を見学したりして理解を深めること。授業資料を授業後にMoodleに掲載するので、事後学習に活用すること。

履修上の注意　/Remarks

【地域】前半の「地域」の部の間に数回、クイズ（小テスト）を行う（当日発表）。レポートは各自印刷の上、地域７の授業に持参し授業終了後の提出とする。授業内ディスカッションを活発に行うので、発言の無い学生は授業内貢献の評価が芳しくなくなる。
【都市】レポート提出方法等については授業中に説明する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【地域】「地域」という概念は多様であり、それらを理解することにより空間としての地域に対する自らの視点を形成することを期待する。
【都市】日常生活を送る中で、「この都市の良い / 悪いところ」と感じたことを記憶に留め、「なぜ現状のようになっているのか」「今後どのように改善すべきか」等を考えることの習慣化を期待する。

キーワード　/Keywords

地域科学、地域学、都市問題、都市政策

現代の国際情勢 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李　東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
大平　剛 / 国際関係学科, 北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石　麻保 / 中国学科, 松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　尹明憲　オリエンテーション
第2回　アダム・ヘイルズ　演劇とインターナショナリズム　【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】【協力】
第３回　アーノルド・ウェイン　The Role of Public Spaces in New York City　【urban space】【parks】【recreation】【enjoyment】【renovation】
第４回　大平　変容するアジア情勢と日本の国際協力（１）中国ファクター
第５回　大平　変容するアジア情勢と日本の国際協力（２）日本の安全保障戦略
第６回　北　現代アメリカ合衆国の社会（１）　【人種】
第７回　北　現代アメリカ合衆国の社会（２）　【移民】
第８回　白石　中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
第９回　松田　総合商社と海外プロジェクト　【プロジェクトファイナンス、世界銀行】
第１０回　山本　ヨーロッパの危機（１）　【地域主義】【民主主義】
第１１回　山本　ヨーロッパの危機（２）　【ユーロ】【難民】
第１２回　李　日韓関係の展開（１）【脱植民地化】【脱帝国化】【残された問題】
第１３回　李　日韓関係の展開（２）【安全保障】【（脱）冷戦】【朝鮮半島問題】
第１４回　尹　東アジアの経済事情（１）【地域的特徴】【経済関係】
第１５回　尹　東アジアの経済事情（２）【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（8回）100%

現代の国際情勢 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

開発と統治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発券・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「開発と統治」をはじめるにあたって 担当：三宅
第２回 民主化問題を考える視座（１） 【民主化問題】 担当：伊野
第３回 民主化問題を考える視座（２） 担当：伊野
第４回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって 【ミャンマー】 担当：伊野
第５回 世界と日本のフードバンク 【フードバンク】 担当：原田正樹・三宅
第６回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？ 【ライフアゲイン】 担当：原田・三宅
第７回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々 【こども食堂】 担当：原田・三宅
第８回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論 【学生】 担当：原田・三宅
第９回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて 【米国】 担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
第12回 グループワーク（アクティビティ作り）を通じたガバナンス概念の把握 【グループワーク】 担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える 担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ（グループ・ディスカッション）

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30％ 小課題の提出…20 ％ 試験…50 ％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治 【昼】

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　フードバンク　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

グローバル化する経済 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科, 前田　淳 / MAEDA JUN / 経済学科 柳井　雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科 魏　芳 / FANG WEI / 経済学科, 武田　寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科　専門職学位課程 任　章 / NIN Akira / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身についてる。
	コミュニケーション力		

グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要　/Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション–グローバル化とは何か
2回　自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【貿易保護政策】
3回　地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【TPP】
4回　企業の海外進出と立地（１）【直接投資】
5回　企業の海外進出と立地（２）【人件費】【為替レート】
6回　海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
7回　先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
8回　グローバル化とファイナンス（１）【アベノミクス】【金融市場】
9回　グローバル化とファイナンス（２）【資産運用】【行動ファイナンス】
10回　ビジネスと会計ルールのグローバル化（１）【大企業と財務報告】
11回　ビジネスと会計ルールのグローバル化（２）【国際会計基準IFRS】
12回　バブルと国際金融危機（１）【資産価格】【バブル】【不良債権】
13回　バブルと国際金融危機（２）【リーマンショック】【不況の伝播】
14回　国際金融危機の伝染（１）【欧州金融危機】【資産担保証券】
15回　国際金融危機の伝染（２）【銀行同盟】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは学習支援フォルダにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

テロリズム論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

テロリズム論	PLS001F

授業の概要　/Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見･分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
３回　テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
４回　テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴　①テロの目的　②テロの標的　③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
５回　テロの歴史(1)
テロの起源、１９世紀のテロとアナキズム
６回　テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
７回　現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か)
８回　現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG９、ダッカ事件とSAT）
９回　反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
10回　無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
11回　無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
12回　無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
13回　９１１米国同時多発テロ(1)
９１１の特異性
９１１の概要と計画性
14回　９１１米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験…100％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 中野　博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科 金　鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

国際社会と日本	IRL004F

授業の概要　/Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。（１）戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。（２）アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書　/Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

橋本寿朗　編『現代日本経済 第３版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真　編『戦後日本外交史 第3版補訂版』（有斐閣アルマ、2014）
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．ガイダンス
2．戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3．占領下日本の「外交」　【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4．サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立　【講和条約】【戦後秩序】
5．日本の戦後処理（賠償）【賠償】【請求権】【経済協力】
6．日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開　【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7．日韓国交への道程 / 日中国交への道程　【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8．冷戦後の日本外交　【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9．世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10．戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11．日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12．戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13．日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14．グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15．地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

国際社会と日本 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　50%　　テスト　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意　/Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード　/Keywords

東アジア　安全保障政策　冷戦　戦後復興　グローバリゼーション

韓国の社会と文化 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　金　貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

韓国の社会と文化	AREO10F

授業の概要　/Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書　/Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　韓国について概観
3　韓国についてもっと知ろう
4　韓国の歴史①【三国時代～朝鮮王朝】
5　韓国の歴史②【19世紀末～】
6　現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
7　歴代大統領から見る韓国社会と文化
8　韓国人の名字と名前
9　日韓の食文化について考える①【VTR視聴】
10　日韓の食文化について考える②
11　現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
12　韓国の若者たちの世界
13　日韓の住居文化について考える①【VTR視聴】
14　日韓の住居文化について考える②
15　まとめ

＊上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズ、出張などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度 (出席レポートや討論への参加) ４０％
期末レポート６０％

韓国の社会と文化 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意　/Remarks

●初回の授業には必ず出席すること

・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。（チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻３回をもって１回の欠席とカウントする）
・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは０点とする

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎　香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

エスニシティと多文化社会	IRL001F

授業の概要　/Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ヨーロッパにおけるとエスニシティと多文化主義【国民国家】
2回　連合王国イギリス 【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
3回　連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
4回　イギリスにおける文化摩擦 【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
5回　イギリスにおける多文化主義 【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
6回　英仏のエスニシティ問題 【同化主義】【スカーフ問題】
7回　英仏の国民統合 【共和国原理】【ライシテ】
8回　前半のまとめ
8回　東南アジアと「エスニシティ論」
9回　「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
10回　「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
11回　「独立か否か」(1)インドネシア・アチェの事例から
12回　「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
13回　「二セモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
14回　「二セモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
15回　後半のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史の読み方I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke　/ 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要　/Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。
１．この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
２．この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実は一つに限られてはいません。
３．この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：
この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『想像の共同体』（NTT出版）
○小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
○新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
○ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
○野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
○網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）
門脇禎二『吉備の古代史』（NHKブックス）
○鳥越信『桃太郎の運命』（ミネルヴァ書房）

歴史の読み方I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス①授業の進め方
２回　前近代東アジアの伝統世界
３回　日本の近代と国民国家の問題点
４回　『ラスト・サムライ』の誤解
５回　新渡戸稲造の『武士道』
６回　武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
７回　『平家物語』を読む①二つの平家物語
８回　『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
９回　県名を読む①国郡制と幕藩制
１０回　県名を読む②県名と県庁所在地
１１回　県名を読む③戊辰戦争を「見直す
１２回　「国語」とは何か
１３回　網野善彦と日本史の多様性
１４回　『もののけ姫』を読む–網野史学と【縄文文化】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート・・・ 50%、筆記試験・・・ 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード　/Keywords

歴史の読み方II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　赤司　友徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅱ	HIS005F

授業の概要　/Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、またボーイスカウト、ＮＨＫ設立にも貢献した、多彩な経歴を持つ人物である。後藤の卓抜した先見性と行動力、リーダーシップは戦前から現代に至るまで人気があり、高く評価されてきた。本講義では、後藤新平というその卓抜した人物の評伝を通して、日本の近代史についてより深く理解し、歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。また小説に描かれた後藤新平もあわせて読むことで、歴史小説と歴史研究との違いも考察するきっかけとしたい。

教科書　/Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965〜67年〔復刻版〕
○北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』学陽書房、2013年
この他は講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　修業時代
第3回　愛知県病院長兼医学校長時代
第4回　衛生局時代（１）
第5回　衛生局時代（２）
第6回　台湾民政長官時代
第7回　南満州鉄道総裁時代
第8回　第2次桂内閣時代
第9回　第3次桂内閣時代
第10回　寺内正毅内閣時代
第11回　第一次世界大戦後の欧米歴訪
第12回　東京市長時代
第13回　対ヨッフェ交渉
第14回　関東大震災と帝都復興
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80％）と平常点（授業への参加態度、コメント等で20％）で総合的に評価する。

歴史の読み方II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講義の前までに、参考文献に挙げた郷仙太郎『小説後藤新平—行革と都市政策の先駆者』（学陽書房、2013年）の指定された範囲を読んで来るのが望ましい。また授業の中で適宜参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用することが期待される。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

そのとき世界は 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

そのとき世界は	HIS002F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：ミャンマー概説１（風土、文化）。
第３回：ミャンマー概説２（社会）。
第４回：１９３０年代の世界。
第５回：１９３０年代のミャンマー。
第６回：1930年農民大反乱。
第７回：第２次世界大戦と世界。
第８回：第２次世界大戦とミャンマー。
第９回：1960年代の世界。
第１０回：1960年代のミャンマー。
第１１回：1980年代の世界。
第１２回：1980年代のミャンマー
第１３回：現代のミャンマー。
第１４回：民主化のゆくえ。
第１５回：まとめ。
第１５回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意 /Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

戦後の日本経済 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　土井　徹平 / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		

戦後の日本経済	ECN002F

授業の概要　/Course Description

皆さんは、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界Ｎｏ１の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、"Ｊａｐａｎ ａｓ Ｎｏ１"と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に１９５０年代から６０年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション - 歴史を学ぶ意義 -
第２回　Ⅰ．現代社会の理想と現実
　　１．現代の若者の就職と結婚
第３回　２．キャリア形成を巡る理想と現実
第４回　Ⅱ．戦後文化の担い手
　　１．「高度経済成長期」と文化形成
第５回　２．「団塊の世代」
第６回　Ⅲ．「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
　　１．戦後の人口問題
第７回　２．「高度経済成長」と「人口ボーナス」
第８回　３．「高度経済成長」と人口集中 - 農村から都市へ -
第９回　４．「高度経済成長」と北九州
第１０回　Ⅳ．「幸せ」のモデル化とキャリア形成
　　１．「豊かさ」の象徴
第１１回　２．モデルのモデル - テレビを通じた文化の伝播 -
第１２回　３．「理想的」家族像の形成
第１３回　４．「勤勉性」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
第１４回　Ⅴ．「ロストジェネレーション」
　　１．「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
第１５回　２．モデルの喪失と新たな文化形成

戦後の日本経済 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…８０％　日常での授業への取り組み…２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード　/Keywords

日本経済史　戦後史　高度経済成長　団塊の世代

ものと人間の歴史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ものと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ものと人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ものと人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ものと人間の歴史	HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点をしぼり、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　自動車がつくった社会【モータリゼーション】
第3回　力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
第4回　自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
第5回　自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
第6回　自動車発明の前提１【職人文化】
第7回　自動車発明の前提２【互換性の思想】
第8回　自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
第9回　フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
第10回　自動車と道路【道路】
第11回　現代社会 - 「光の巨大」
第12回　環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
第13回　原子力政策と地域社会
第14回　情報化と外部問題 - 方法としての情報化
第15回　どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験　50%　　レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

ものと人間の歴史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード　/Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001F

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

参考書(図書館蔵書には ◯) /References (Available in the library: ◯)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【３・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回 ２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回 イギリスとＥＵの関係について
第10回 キャメロン首相と国民投票
第11回 なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回 トランプ候補が勝利した理由
第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回 総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ヨーロッパ道徳思想史	PHR005F

授業の概要　/Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・文学・演劇・音楽・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は２年ごとに一部内容を入れ替える予定であり、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は昨年度と異なり、とくに近代以後の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　古代ギリシャ人の道徳【徳について】
３回　古代ギリシャ人の道徳【国について】
４回　ルネサンスの道徳観（１）【マキャヴェリ】
５回　ルネサンスの道徳観（２）【シェイクスピア】
６回　ルネサンスの道徳観（３）【まとめ】
７回　革命前夜の道徳観（１）【アンシャン・レジームの崩壊】
８回　革命前夜の道徳観（２）【『フィガロの結婚』解説前半】
９回　革命前夜の道徳観（３）【『フィガロの結婚』解説後半】
１０回　理性の道徳（１）【啓蒙思想】
１１回　理性の道徳（２）【近代道徳哲学の基本形】
１２回　事例検討（１）【功利性について】
１３回　事例検討（２）【厳格主義について】
１４回　道徳の黄昏（１）【道徳の破壊】
１５回　道徳の黄昏（２）【革命と権力】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生（授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々）には即刻退席を命じる。

キーワード　/Keywords

日本史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　古賀　康士 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本史	HIS110F

授業の概要　/Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？　それは単に過去の出来事を暗記するだけのことでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
　この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書　/Textbooks

各回て゛レシ゛ュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者か゛必要に応し゛て紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？
第２回：さまざまな「歴史」のとらえ方
第３回：「日本」とは何か？
第４回：古代国家と天皇
第５回：中世人の世界　–その法と社会–
第６回：越境するヒトとモノ
第７回：世界史のなかの「近世」
第８回：歴史人口学の世界
第９回：結婚と離縁　–江戸時代の夫婦のあり方–
第10回：貨幣からみる近世社会
第11回：日本の近代　–明治国家の建設–
第12回：帝国主義の時代
第13回：「日本人」と戦争
第14回：戦後日本とわたしたちの時代
第15回：まとめ　–「歴史」を学ぶということ–
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（40%、小レポートなどを含む）、期末試験（60%）によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書を積極的に読むようにして下さい。

日本史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東洋史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　植松　慎悟 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

東洋史	HIS120F

授業の概要　/Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義のガイダンス
2回　秦（１）–戦国時代から中国統一へ–
3回　秦（２）–始皇帝の統一政策–
4回　前漢前期（１）–項羽と劉邦–
5回　前漢前期（２）–高祖と冒頓単于–
6回　前漢前期（３）–呂后–
7回　前漢中期（１）–武帝–
8回　前漢中期（２）–昭帝–
9回　前漢中期（３）–宣帝–
10回　前漢後期（１）–元帝–
11回　前漢後期（２）–成帝–
12回　前漢後期（３）–哀帝–
13回　新の王莽 –王莽は「簒奪者」か–
14回　後漢の光武帝と「漢委奴国王」
15回　まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・・７０％　日常の授業への取り組み・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

東洋史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくと、理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国　歴史　政治　社会　文化　皇帝制度

西洋史 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　　疇谷　憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　　単位 /Credits　2単位　　学期 /Semester　1学期　　授業形態 /Class Format　講義　　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

西洋史	HIS130F

授業の概要　/Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
１回　「１３世紀世界システム」とヨーロッパ　【パックス・モンゴリカ】
２回　ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界　【港市国家】
３回　イベリア諸国の形成　【レコンキスタ】
４回　「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
５回　新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
６回　ポルトガル海洋帝国の形成①　【香辛料】
７回　ポルトガル海洋帝国の形成②　【点と線の支配】
８回　スペインによる植民地帝国の形成①　【ポトシ】
９回　スペインによる植民地帝国の形成②　【モナルキーア・イスパニカ】
１０回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
１１回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
１２回　環大西洋世界の展開①　【第二次英仏百年戦争】
１３回　環大西洋世界の展開②　【環大西洋革命】
１４回　ヨーロッパ勢力とアジアの海　【近代世界システム】
１５回　まとめ　【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内に課す小レポート（５回）・・・２５％、期末試験・・・７５％
（小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください（とくに世界史）。
高校世界史の教科書・資料集は有益です。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

特にありません。

西洋史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　外枦保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人文地理学	GE0110F

授業の概要　/Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　経済発展と人口移動(1)　近世・ 近代日本の都市発展
第3回　経済発展と人口移動(2)　現代日本の都市発展
第4回　農業立地と農村の変化(1)　農業立地論
第5回　農業立地と農村の変化(2)　日本農村の構造的変化
第6回　都市構造と都市システム(1)　中心地理論
第7回　都市構造と都市システム(2)　都市の内部構造
第8回　都市構造と都市システム(3)　都市と郊外
第9回　都市構造と都市システム(4)　都市システム
第10回　商業立地と流通システム(1)　チェーンストアの配送
第11回　商業立地と流通システム(2)　大型店と商店街
第12回　製造業の立地と集積(1)　工業立地論
第13回　製造業の立地と集積(2)　産業集積の実態
第14回　製造業の立地と集積(3)　産業集積の実態
第15回　製造業の立地と集積(4)　空間分業

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・ 事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人文地理学 【昼】

キーワード　/Keywords

土地地理学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　野井 英明 / Hideaki　Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

土地地理学	GE0111F

授業の概要　/Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学とされています。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書　/Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅　付・地図の読み方入門」(大沼一雄著　東洋選書)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　地理学では何を学ぶか
2回　地図の役割と地図の能力　【地理的情報を整理する働き】
3回　地図の歴史　【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
4回　地図にはどのような種類があるか　【地図には様々な種類がある】
5回　地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
6回　地図記号と景観　【地図を読む楽しみ】
7回　山の地形を地形図から描く１　(講義・実習)【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
8回　山の地形を地形図から描く２　(実習)
9回　地図を利用して地表を計測する
10回　地形図を利用して景観を読みとる１(実習)　【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
11回　地形図を利用して景観を読みとる２(実習)　【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
12回　リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
13回　空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
14回　衛星データを利用して地表の環境を調べる
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…30%　試験…70%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地誌学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

担当者名 /Instructor　外枦保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地誌学	GE0112F

授業の概要　/Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。
本年度は、様々な空間スケールにおける、欧米諸国の経済地誌をテーマとする。特に、世界都市や鉱工業地域など産業構造の変動が大きな地域を中心に取り上げる。欧米諸国の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。
必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書　/Textbooks

松原　宏編　『先進国経済の地域構造』　東京大学出版会　2003年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　ヨーロッパ総論(1)：ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
第3回　ヨーロッパ総論(2)：ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
第4回　イギリス地誌：連合王国としてのイギリス、戦後イギリスの展開など
第5回　ドイツ地誌：石炭産地と工業地域の形成、グローバル化とドイツの諸都市など
第6回　スペイン地誌：スペインにおける民族主義、ビルバオの産業発展と地域再生など
第7回　フランス地誌：首都パリと郊外、ライシテと移民問題など
第8回　イタリア地誌：イタリアの産業と南北問題、自動車工業都市トリノなど
第9回　北欧地誌：福祉国家と国民負担、鉄鉱山都市キルナなど
第10回　ベネルクス地誌：ベルギーの言語と産業、環境意識とオランダの都市政策
第11回　スイス・ポーランド地誌：スイスの時計産業とジュラ地域、ポーランドの空間構造と経済
第12回　アメリカ合衆国地誌(1)：アメリカ合衆国の産業発展、鉄鋼都市ピッツバーグ
第13回　アメリカ合衆国地誌(2)：自動車工業都市フリント
第14回　アメリカ合衆国地誌(3)：アメリカの西部開拓、シリコンバレーの発展と展開
第15回　カナダ地誌：カナダ発展の歩み、カナダ経済・社会の諸特徴

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

地誌学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

メンタル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスＩ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　メンタルヘルスに関する基礎知識（１）【日本における現状と課題】
第3回　メンタルヘルスに関する基礎知識（２）【問題の種類】
第4回　メンタルヘルスに関する基礎知識（３）【よくある誤解】
第5回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【子ども】
第6回　ライフサイクルとメンタルヘルス（２）【大人】
第7回　精神と行動の異変（１）【精神症状】
第8回　精神と行動の異変（２）【精神疾患①】
第9回　精神と行動の異変（３）【精神疾患②】
第10回　精神と行動の異変（４）【子どものころから現れやすい問題】
第11回　セルフケア①【ストレスの仕組み】
第12回　セルフケア②【ストレスマネジメント】
第13回　セルフケア③【相談の有用性】
第14回　セルフケア④【ソーシャルサポート】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

メンタル・ヘルスI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰しも精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード　/Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅡ	PSY002F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書　/Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　自己分析①【心理テスト】
第3回　自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
第4回　精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
第5回　精神病理の紹介②【人格障害】
第6回　自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
第7回　自己覚知②【ライフヒストリー】
第8回　自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
第9回　リフレッシュ【感動、感謝】
第10回　事例検討①【非行】
第11回　事例検討②【虐待】
第12回　事例検討③【ホームレス】
第13回　事例検討④【孤立、社会的排除】
第14回　事例検討⑤【障害】
第15回　受援力、援助力

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

メンタル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　髙西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor	徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　（実習）ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
４回　（講義）ストレッチの理論
５回　（実習）ストレッチの実際、ゲーム
６回　（講義）ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコペース】
７回　（実習）軽運動、エアロビクス･ダンス【笑顔】
８回　（講義）フェアプレイ、スポーツマンシップとは
９回　（実習）球技を楽しもう①（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１０回　（実習）球技を楽しもう②（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１１回　（講義）これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
１２回　（講義）これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
１３回　（講義）レッツ・スポーツ【計画・企画】
１４回　（実習）レッツ・スポーツ【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　レポート　…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書　/Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　レポート…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　（実習）ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
４回　（講義）ストレッチの理論
５回　（実習）ストレッチの実際、ゲーム
６回　（講義）ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコペース】
７回　（実習）軽運動、エアロビクス･ダンス【笑顔】
８回　（講義）フェアプレイ、スポーツマンシップとは
９回　（実習）球技を楽しもう①（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１０回　（実習）球技を楽しもう②（卓球、ショートテニス）【スポーツマンシップ】
１１回　（講義）これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
１２回　（講義）これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
１３回　（講義）レッツ・スポーツ【計画・企画】
１４回　（実習）レッツ・スポーツ【主体性】
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　レポート　…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

自己管理論	HSS003F

授業の概要　/Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活をすることは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか．被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
３．若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
４．体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
５．ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
６．地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
７．薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や，サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
８．歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
９．依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
１０．心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防，対処法について学ぶ
１１．喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒，薬物の正しい知識を学ぶ
１２．思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び，今後の人生設計を描いていく
１３．人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害，ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
１４．自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
１５．小試験（選択，記述）

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回のミニレポート・・70%　　小試験・・30%

自己管理論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意　/Remarks

①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
⑤4分の3以上の出席を必要とする。
授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外部講師の都合により，授業計画の順番が変更することがあります。また，「履修上の注意」にも記載していますが，外部講師による講義が主となるため，通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては，第一回のオリエンテーションでプリントを配布し，説明しますので，第一回目から必ず出席してください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（ソフトボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　キャッチボール（スローイング、キャッチング）
３回　ピッチング（ウインドミル）
４回　バッティング（トスバッティング）
５回　ゴロの捕球・フライの捕球
６回　守備練習
７回　フリーバッティング
８回　ベースランニング
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ゲーム（１）　内野の連係プレイ
１２回　ゲーム（２）　内外野の連係プレイ
１３回　ゲーム（３）　走者の進め方
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（ソフトボール）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（サッカー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　ストロークの基礎練習（球出しによるフォアハンド練習）
３回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのフォアハンド練習）
４回　ストロークの基礎練習（球出しによるバックハンド練習）
５回　ストロークの基礎練習（ラリーの中でのバックハンド練習）
６回　サービスの基礎練習
７回　ボレーの基礎練習
８回　スマッシュの基礎練習
９回　ルールの説明
１０回　戦術の説明・実践
１１回　シングルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１２回　シングルスゲーム（２）ゲームの実践
１３回　ダブルスゲーム（１）ゲーム法の解説
１４回　ダブルスゲーム（２）ゲームの実践
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（テニス）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（バレーボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜サーブに留意して＞
１２回　ゲーム（２）　＜サーブカットに意識して＞
１３回　ゲーム（３）　＜アタックに留意して＞
１４回　ゲーム（４）　＜フォーメーションに留意して＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI（バレーボール）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習（ヘアピンリターン）
８回　応用組み合わせ練習（ドロップリターン）
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム（リーグ戦）
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（受講上の注意）
２回　バレーボール（１）　サーブ、パスの基礎練習
３回　バレーボール（２）　ルール説明とゲーム
４回　バドミントン（１）　基本的な打ち方とフライト練習
５回　バドミントン（２）　ダブルスのルール説明とゲーム
６回　卓球（１）　フォアハンド、バックハンドの基礎練習
７回　卓球（２）　ダブルスのルール説明とゲーム
８回　ソフトバレーボール（１）　サーブ、パス、アタックの基本練習
９回　ソフトバレーボール（２）　ルール説明とゲーム
１０回　ショートテニス（１）　フォアハンド、バックハンドの基礎練習
１１回　ショートテニス（２）　ルール作りとゲーム
１２回　選択種目（１）　【バレーボール】　【卓球】
１３回　選択種目（２）　【バドミントン】　【ショートテニス】
１４回　選択種目（３）　【ソフトバレーボール】　【バドミントン】
１５回　スキル獲得の確認（選択種目）

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　スキル獲得テスト　…３０％

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、　ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　ストローク練習（１）＜スマッシュ＞
４回　ストローク練習（２）＜ドロップ、ハイクリアー＞
５回　ストローク練習（３）＜ドライブ、ヘアピン＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　集団行動〔走る（ラン）・跳ぶ（ジャンプ）・投げる（スロー）〕
３回　ボールに慣れる（ドリブル・パス・シュート）
４回　シュートの基礎練習（レイアップシュート・ジャンプシュート）
５回　応用練習（２対１）
６回　応用練習（３対２）
７回　ルール・戦術の説明
８回　簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
９回　スキルアップ（ドリブルシュート・リバウンド）
１０回　スキルアップ（速攻、スクリーンプレイ）
１１回　ゲーム（１）　ゾーンディフェンス（２－３）
１２回　ゲーム（２）　ゾーンディフェンス（２－１－２）
１３回　ゲーム（３）　マンツーマンディフェンス
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バレーボール）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜サーブに留意して＞
１２回　ゲーム（２）　＜サーブカットに意識して＞
１３回　ゲーム（３）　＜アタックに留意して＞
１４回　ゲーム（４）　＜フォーメーションに留意して＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バレーボール）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　美山　泰教 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用説明
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習（ヘアピンリターン）
８回　応用組み合わせ練習（ドロップリターン）
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

担当者名 /Instructor　鯨　吉夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　サッカーの基本技術（リフティング）の習得と試しのゲーム（１）
３回　サッカーの基本技術（パス）の習得と試しのゲーム（２）
４回　サッカーの基本技術（シュート）の習得と試しのゲーム（３）
５回　サッカーの戦術（ディフェンス）の説明
６回　サッカーの戦術（ディフェンス）の習得と応用ゲーム
７回　サッカーの戦術（オフェンス）の説明
８回　サッカーの戦術（オフェンス）の習得と応用ゲーム
９回　サッカーの戦術の応用習得
１０回　サッカーの戦術の応用ゲーム
１１回　審判法の習得と試しのゲーム
１２回　リーグ戦方式の試合（１）パスを意識して
１３回　リーグ戦方式の試合（２）戦術を意識して
１４回　リーグ戦方式の試合（３）まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII（サッカー）【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（３）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（４）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII（バドミントン）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード　/Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。
①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
③コミュニケーションをとることに慣れる
④社会人としての基本的な態度を身につける
⑤自分について知る
授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
2回　進路の現状【就職･公務員･教員等の進路準備スケジュール】
3回　学生生活とキャリア【社会人基礎力･学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
4回　自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
5回　インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
6回　仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
7回　企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
8回　働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
9回　就職試験を体験する【ＳＰＩ、一般常識】
10回　様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
11回　キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
12回　自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
13回　就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
14回　学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
15回　まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　授業内のレポート…20%　　まとめのレポート…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたことと の相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。
①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。
①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
③コミュニケーションをとることに慣れる
④社会人としての基本的な態度を身につける
⑤自分について知る
授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
2回　進路の現状【就職･公務員･教員等の進路準備スケジュール】
3回　学生生活とキャリア【社会人基礎力･学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
4回　自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
5回　インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
6回　仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
7回　企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
8回　働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
9回　就職試験を体験する【ＳＰＩ、一般常識】
10回　様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
11回　キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
12回　自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
13回　就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
14回　学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
15回　まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　　授業内のレポート…20%　　まとめのレポート…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたことと の相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。
①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第１位、「主体性」が７年連続で第２位となり、以下、第３位「協調性」、第４位「チャレンジ精神」であり、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？　それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

１．コミュニケーション能力
２．幅広い視野・柔軟性
３．失敗を恐れない志向性

＜進め方と目標＞
3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ◯) /References (Available in the library: ◯)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究–能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫『キャリアデザイン入門１基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール『ハイフライヤー　次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー　自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子『改訂版　アサーション・トレーニング –さわやかな〈自己表現〉のために』金子書房
○中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見舘好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方–マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究 』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力：【1】コミュニケーション能力、【2】幅広い視野・柔軟性、【3】失敗を恐れない志向性
１回　全体ガイダンス【1】【2】【3】
２回　社会で求められる力【1】【2】【3】
３回　インターンシップや地域活動（先輩登壇）【1】【2】【3】
４回　傾聴【1】
５回　アサーション・トレーニング【1】
６回　アイデンティティ【1】【2】【3】
７回　働くということ（社会人登壇）【1】【2】【3】
８回　クリエイティブシンキング【1】【2】【3】
９回　就職活動を知る（内定者登壇）【1】【2】【3】
１０回　企業団体研究１【1】【2】
１１回　企業団体研究２【1】【2】
１２回　計画された偶発性【1】【2】【3】
１３回　ロールモデルインタビュー（社会人を取材する）【1】【2】【3】
１４回　ロールモデルインタビュー（先輩を取材する）【1】【2】【3】
１５回　本授業の統括【1】【2】【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート（2回）：12%
最終レポート（相互評価）：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※眞鍋和博先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違って履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません（私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます（グループを固定する回もあり）。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要　/Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。
しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないでしょうか。
この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。
コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。
講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話を聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書　/Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　全体ガイダンス　　【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
2回　コミュニケーション上手になるために
　　【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
3回　聴くことの重要性
　　【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
4回　話す・伝えるテクニック
　　【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
5回　マナーおもてなしの心
　　【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
6回　美しい敬語をマスターする
　　【正しい日本語で話す、ニセ丁寧語、若者言葉とはなど】
7回　障害をお持ちの方へのコミュニケーション
　　【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
8回　プレゼンテーションを磨く
　　【プレゼンテーションとは　、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法（PREP法）など】
9回　質問応対力（面接）
　　【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
10回　グループディスカッション①
　　【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
11回　グループディスカッション②
　　【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
12回　ディベート
　　【ディベートとは、目的、流れなど】
13回　授業の振り返り
　　【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
14回　発表
　　【1人プレゼンテーション】
15回　まとめ
　　【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%、授業の成果物…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意　/Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事が社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅰ	CAR210F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状　②仕事の現実　③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1.企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2.仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3.大学時代にすべきこと・してほしいこと
4.学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

＜進め方＞講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

＜目標＞様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～15回　各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

＜2016年度＞株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウェザーニューズ / 旭酒造株式会社（獺祭）

＜2015年度＞株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会（NHK） / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構（JAXA） / 九州旅客鉄道株式会社（JR九州） / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社（JAL） / 株式会社ニトリ / 北九州市

＜2014年度＞株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行） / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート…91%　　最終レポート…9%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意　/Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード　/Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅱ	CAR211F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞社会で働くために必要とされる課題解決能力を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。

＜進め方＞以下のスキームで地元企業団体（5団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。

1.地元企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2.提示された課題についての解決プランを作成します。
3.地元企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
　ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4.フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5.地元企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
　社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

＜目標＞現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる課題解決能力を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書　/Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～4回　各企業団体による課題提示
第5回　課題解決の方法についての講義
第6～10回　中間発表
第11～15回　最終発表

※参考
＜2016年度の企業団体と課題＞
■NHK北九州放送局
NHKの「ニュースブリッジ北九州」になるためには？
■北九州市役所
「ウーマンワークカフェ北九州」のPR戦略を考える
■株式会社力の源ホールディングス（一風堂）
訪日外国人旅行者の福岡の店舗と、帰国後の母国の店舗への来店促進
■株式会社タカギ
若者が浄水器を使う文化を育むにはどうすればいいのか？
■株式会社大創産業（DAISO）
アルバイトの採用と定着の戦略を考える

＜2015年度の企業団体＞
株式会社インテリジェンス / 北九州市役所 / 株式会社力の源ホールディングス（一風堂） / 株式会社タカギ / 株式会社スターフライヤー

＜2015年度の企業団体＞
株式会社名門大洋フェリー / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社井筒屋 / 株式会社タカギ / 北九州市役所

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）･･･50%
最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）･･･45%
最終レポート･･･5%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームにて振り返りを行ってください。

履修上の注意　/Remarks

※第1回で挑戦する課題とグループを決めますので、必ず第1回は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員（mitate@kitakyu-u.ac.jp）までメールで連絡をしてください。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の半分を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

キーワード　/Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、職業統合的学習、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域の達人 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		

地域の達人	CAR212F

授業の概要　/Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 仕事以外で社会貢献・ 地域貢献活動を行っている方
・ 雇われないで個人として仕事をしている方
・ 会社やお店を経営している方
このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

①どんな活動をしているのか
②活動のねらい、社会的意義、成果
③活動するときに乗り越えた壁
④人、組織をどう動かすのか
⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～13回　地域の達人によるお話
第14回　達人を振り返る
第15回　まとめ

【2015年度登壇者】
海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、、まりづくりプロデューサー、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2016年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60%　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主

サービスラーニング入門I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	地域で活動する上で求められる自己管理力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力		

サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要　/Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
・ 地域活動の実践と学び

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回目　ガイダンス　講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
第２回目　サービスラーニング概論①（サービスラーニングという概念と考え方）
第３回目　サービスラーニング概論②（サービスラーニングの理論と実践）
第４回目　地域活動概論①（地域活動の紹介）
第５回目　地域活動概論②（コミュティワークの紹介と応用）
第６回目　地域活動参加学生とのワークショップ①
第７回目　地域活動参加学生とのワークショップ②
第８回目　サービスラーニング活動の紹介
第９回目　サービスラーニングに向けて①（マナー・ ルール・ 手続き等について）
第１０回目　サービスラーニングに向けて②（サービスラーニングを通じた学びへの姿勢）
第１１回目　実践報告①
第１２回目　実践報告②
第１３回目　実践報告③
第１４回目　実践報告④
第１５回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート＋講義中の課題」（６０点）＋「実践報告レポート」（４０点）＝合計１００点評価

サービスラーニング入門I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意　/Remarks

本科目は「サービス・ラーニング」への実際の参加を前提をしています。したがって、「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動をしてもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」（１５００字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は必須とします。受講にあたっては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って望むことを求めます。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。

サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加したサービスラーニングの活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気付きを得られることを期待します。

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　サービス・ラーニング概論①（サービスラーニングの理論枠組み）
3　サービス・ラーニング概論②（実践としてのサービスラーニングについて）
4　サービス・ラーニングの実践と学び①（受入先の探索）
5　サービス・ラーニングの実践と学び②（実践にむけての心構えと準備）
6　サービス・ラーニングの実践に向けて①（実習先での学習計画の作成・提出）
7　サービス・ラーニングの実践に向けて②（学習計画書の修正・提出）
8　計画発表会①
9　計画発表会②
10　実践報告①
11　実践報告②
12　実践報告③
13　実践報告④
14　受講生による振り返り
15　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加貢献（50点）＋活動報告書（50点）＝100点

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため、講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は１学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していなければ履修登録を認めないというわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門Iの内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、そのための課題を別途課すことになります。そして、その課題＋「サービス・ラーニング入門II」の課題の両方を提出して初めて単位を認めるかたちとします。当然、この授業で「サービス・ラーニング入門I」の課題を提出したからといって、「サービス・ラーニング入門I」の単位を得ることはできません。以上の点を十分に留意し登録して下さい。
また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅰ	CAR280F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。

プロジェクト演習Ⅱ	CAR281F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習III 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習Ⅲ	CAR380F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロジェクト演習Ⅳ	CAR381F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

＜演習の進め方＞最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

＜期待される効果＞将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2017年1月現在の対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　目標設定と実施計画策定
第2～14回　プロジェクトに取り組みます。
第15回　リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法　/Assessment Method

リーダーシップやプロジェクト参加への態度（80%）、最終レポート（20%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

プロジェクト演習Ⅳ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合って決めたスケジュール（ガントチャートなど）に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則3年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード　/Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor　読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月　正、永末　康介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講 I	SPL001 F

授業の概要　/Course Description

将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す (聞く) 力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を楽しく読みながら、仲間と力を合わせたグループワークを行います。授業を通じて、「前へ踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も身につけられるようアシストします。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊 (講義開催週の水、木、金発行分、全15回分で税込み計1800円) を授業資料として活用します。 1 回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第 1 回　　オリエンテーション
第 2 ～ 8 回　　文章の読み方、書き方、取材方法などを学ぶ
第 9 ～ 1 3 回　深く考える力を身につける
第 1 4 ～ 1 5 回　まとめ (発表や講評)

通常のグループワークのほか、「まわしよみ新聞」や、「新聞でハテナソン」という新たな手法 (論点や疑問点を整理して質問力を鍛える手法) を取り入れます。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加状況や課題などを通じて総合的に判断します (１００％)。[詳しくは1回目の授業で説明する予定です。]

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

新聞を毎回活用します。読んで興味があることを見つけることが事前・ 事後学習になります。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード　/Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II（グローバリゼーションと倫理的消費）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅱ	SPL002F

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（講義の目的、進め方、文献案内など）、「倫理的消費」について
第2回　フェアトレードの誕生と展開
第3回　フェアトレードの役割と課題
第4回　アジア太平洋資料センター（PARC）編『もっと！フェアトレード』（DVD）の上映とディスカッション
第5回　本田正之氏による講演：「フェアトレード試食会の取り組み」（仮）
第6回　ファスト・ファッションとエシカル・ファッション
第7回　『ザ・トゥルー・コスト』（DVD）の上映（一部のみ）とディスカッション
第8回　宮下緑氏による講演：「フェアトレード・ショップの経営からみえてくるもの」（仮）
第9回　紛争問題と私たちの暮らし
第10回　アジア太平洋資料センター（PARC）編『スマホの真実』（DVD）の上映とディスカッション
第11回　ペットボトルが生み出す環境破壊
第12回　「100円ショップ」の舞台裏
第13回　アジア太平洋資料センター（PARC）編『徹底解剖！100円ショップ』の上映とディスカッション
第14回　八田麻理子氏による講演：「環境保全、貧困撲滅、フェアトレードをリンクさせる実践」（仮）
第15回　全講義内容を踏まえてのまとめとディスカッション

教養特講II（グローバリゼーションと倫理的消費）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題の提出（5回×20％）・・・ 100％
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します（A4一枚程度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

講義の後はDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード　/Keywords

倫理的消費、フェアトレード、エシカル

教養特講Ⅳ（まなびと講座Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅳ	SPL004F

授業の概要　/Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要となる、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

特になし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1日目（第1回～第3回）
・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
2日目（第4回～第6回）
・ ESDとテーマ①
3日目（第7回～第9回）
・ ESDとテーマ②
4日目（第10回～第12回）
・ ESDとテーマ③
5日目（第13回～第15回）
・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2015年度実績】
1日目（第1回～第3回）
・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等　- 九州工業大学提供
2日目（第4回～第6回）
・ 国際理解　- 北九州市立大学提供
3日目（第7回～第9回）
・ 誰もが住みやすい社会のデザイン　- 西日本工業大学提供
4日目（第10回～第12回）
・ 生物多様性から生命を学ぶ　- 九州共立大学提供
5日目（第13回～第15回）
・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来　- 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ（まなびと講座Ｂ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業への貢献度：60％
・ 授業における成果物：40％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

履修上の注意　/Remarks

・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション（小倉北区の魚町商店街内）」等にて開講されます。
・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育（子供）・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード　/Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　法律１－１．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　棚次　奎介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　法律１－２．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　法律１－３．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　米谷　雄介 / YUSUKE KOMETANI / 情報総合センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　法律１－４．再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤　貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　棚次　奎介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間に与える影響について考える力を身に付けることである。現代の情報社会では、様々な情報メディアが存在する。それらの情報メディアを通じて、情報が正確に伝わり、有効に活用される場合はよいが、逆に、誤って伝わったり、有害になったりする場合もある。様々な情報メディアの特性を十分に理解した上で、それらを受け入れ、不要・過剰な情報を制限し、有効活用し、効果的な情報を新しくつくることが大切である。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

●様々な情報メディアの特性に関する知識
●情報メディアが人間の心理や認知、学習に与える影響（情報受信）
●効果的な情報発信の方法（情報発信）
●情報メディアの有効活用の方法（情報活用）
●様々な情報メディアの課題点と解決策

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書　/Textbooks

坂元昂 監修、高橋秀明、山本博樹 編著：メディア心理学入門、学文社、2002年、2,592円。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回目：情報メディアとは何か 【ガイダンス】【情報メディア】
２回目：情報メディアと人間の心理 【情報発信】【情報受信】
３回目：情報メディアとしての絵本・紙芝居と理解 【知的発達】【情緒的発達】
４回目：情報メディアとしてのマンガと理解【文字と絵】【記号】【コマ割り】
５回目：映像の理解と心理 【映像技法】
６回目：取扱い説明書の理解と学習【ヒューマン・インタフェース】【デザイン】【ユーザ・サポート】
７回目：メディアとしてのインターネット【CMC】【フレーミング現象】【データベース】【思い出のメディア】
８回目：電話・テレビ電話によるコミュニケーション 【情報伝達】【認知過程】
９回目：ゲームの心理的影響と学習【心的過程】【心理的影響】【実験ツール】【利用資源】
１０回目：テレビ・ビデオの心理的影響【コミュニケーション手段】【教育】
１１回目：文書・Webデザイン【内部設計】【外部設計】【レイアウト】【図と地】
１２回目：映像・ビジュアルデザイン【つくるリテラシー】【映像表現】
１３回目：製品・インタフェース・デザイン【ユーザビリティ】【認知工学】【感性工学】【人間工学】
１４回目：ワークプレイスのデザイン【エスノグラフィ】【エリアの生態系】【ディスパッチシステム】
１５回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業に対する積極的な取り組み・・・50%、レポート・・・40%、授業中に実施する課題・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
授業終了後には、授業内容を反復すること。
チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかり行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報メディアと人間、コミュニケーション、情報メディアの送受信、情報メディアの活用、メディアデザイン

情報メディア演習 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報メディア演習	INF330F

授業の概要　/Course Description

この授業では，プログラミング初心者でもコンピュータを能動的に使いこなし，プログラミングの基礎能力を獲得することを目指す。具体的には以下のような項目を身につける：

- 同じ処理を何度もくり返さなくても済むように，処理を自動化するテクニック
- 状況に応じて異なる処理をおこなう条件分岐テクニック
- グラフィックスを思い通りに制御するテクニック

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータのしくみの理解 【ガイダンス】
２回　プログラムを書いてみる 【エディタ】【エラーとバグ】
３回　プログラムで図形を描く 【キャンバス】【点と線】【円】
４回　プログラムで色を制御する【RGB】【HSB】【アルファチャンネル】
５回　計算と変数 【データ型】
６回　くり返し処理 【ループ】【乱数】
７回　座標の概念
８回　条件分岐
９回　作品制作１
１０回　作品中間発表
１１回　プログラミングにおける関数
１２回　変数についてより詳しく【ローカル変数】【グローバル変数】【配列】
１３回　インタラクティブな操作性【イベント処理】
１４回　作品制作２
１５回　作品発表とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に実施する課題提出… 90％ 、積極的な授業参加 … 10％

情報メディア演習 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考情報をはじめ，授業の資料等はe-Learningサイト「北方Moodle」に掲載する予定である。事前学習・事後学習に利用してもらいたい。また，プログラミング作品制作は授業外での作業が中心になる。

履修上の注意 /Remarks

プログラミングに関する知識は一切前提としないが，コンピュータ操作にある程度慣れておくと受講しやすいだろう。また，授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業の性格上，受講者数に制限を設けるため，受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業で，プログラミングに関する一通りの知識を習得すれば，さまざまなプログラミング言語への応用も可能になるだろう。

キーワード /Keywords

プログラミング，マルチメディア

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor　下條　かおり / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】
TOEICの新しい出題形式に対応した学習を通じて、限られた時間の中で最大限のスコアアップを目指します。自然な英語表現を用いたTOEIC LISTENING AND READING TESTに即した問題を解く中で、英語力を伸ばしてもらいたいと思います。
【授業の概要】
TOEIC LISTENING AND READING TESTのスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、教科書の問題に解答します。解答後、講師が解説を行います。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書　/Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3
北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert 編著 朝日出版社 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

進度は学習者のペースによって変更される可能性があります。
第1回　講義概要・ TOEIC テストについて
第2回　Unit 1　Eating Out　文法：動詞(1)
第3回　Unit 2　Travel　文法：動詞(2)
第4回　Unit 3　Amusement　文法：品詞
第5回　Unit 4　Meetings　文法：分詞
第6回　Unit 5　Personnel　文法：不定詞と動名詞(1)
第7回　Unit 6　Shopping　文法：不定詞と動名詞(2)
第8回　Unit 7　Advertisement　文法：仮定法
第9回　Unit 8　Daily Life　文法：受動態
第10回　Unit 9　Office Work　文法：代名詞
第11回　Unit 10　Business　文法：数量詞
第12回　Unit 11　Traffic　文法：接続詞
第13回　Unit 12　Finance and Banking　文法：前置詞
第14回　Unit 13　Media　文法：語彙
第15回　Unit 14　Health and Welfare

成績評価の方法　/Assessment Method

学習態度 10%、小テスト 40%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I（律政群1-A）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布資料を復習に利用してください。
教科書の音声は無料でストリーミング配信されていますので、予習・復習に利用してください。

履修上の注意　/Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書（病院の領収書など）を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。
初回講義時に必ずテキストを買って持ってきてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、ＴＯＥＩＣ形式の問題演習を通して、ＴＯＥＩＣ形式に慣れることも目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 5
７回　Chapter 6
８回　Chapter 7
９回　Chapter 8
１０回　Chapter 9
１１回　Chapter 10
１２回　Chapter 11
１３回　Chapter 12
１４回　Chapter 13
１５回　Chapter 14

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…５５％　小テスト・課題…３０％　日常の授業への取り組み…１５％
（上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。）
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

英語I（律政群1-B）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として１学期に１回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I（律政群１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅰ	ENG101F

授業の概要　/Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文を通して、文法能力・語彙力に加えて特に読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自分の好きな仕事(1)
3回　自分の好きな仕事(2)
4回　少子高齢化(1)
5回　少子高齢化(2)
6回　英語とのつきあい方(1)
7回　環境(1)
8回　環境(2)
9回　オリンピック(1)
10回　オリンピック(2)
11回　少子高齢化(3)
12回　これからの教育(1)
13回　これからの教育(2)
14回　英語とのつきあい方(2)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…30%、平常の学習状況（小テストを含む)…70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

英語I（律政群1-C）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I（律政群１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅰ	ENG101F

授業の概要　/Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書　/Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」CD付

SEIBIDO　　￥2200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　テキスト、授業の目的、学習法の説明
２回　Unit 1 Airport 空港　(WH疑問文・基礎）　【フライトの予約】　【旅客のマナー】
３回　Unit 1 Airport　（動詞の形）　【ビジネスEメール】　【フライトの案内表示】
４回　Unit 2 Train Station　鉄道の駅（WH疑問文・応用）【道を尋ねる】　【鉄道博物館案内】
５回　Unit 2 Train Station　（準動詞）　【乗客の安全対策】　【ツアーのスケジュール表】
６回　Unit 3 Department Store　デパート（一般動詞）【客と店員の会話】　【ネット通販】
７回　Unit 3 Department Store（５文型）　【セールのチラシ】　【デパートのセール案内】
８回　Unit 4 Restaurant　（選択疑問文）　【食生活に関する話】　【料理の歴史の話】
９回　Unit 4 Restaurant　（関係詞と接続詞）　【顧客へのお知らせ】　【レストランのメニュー】
１０回　Unit 5 Hotel　ホテル　(否定疑問文）　【フロントでの会話】　【ホテルの紹介】
１１回　Unit 5 Hotel　（助動詞と仮定法）　【改装のお知らせ】　【ホテルの予約依頼の携帯メール】
１２回　Unit 6 Hospital　病院（付加疑問文）　【予定の変更】　【医師のアドバイス】
１３回　Unit 6 Hospital　（前置詞と冠詞）　【外来受付時間変更】　【病院での昇進に関するチャット】
１４回　Unit 7 Bank　銀行　（間接疑問文）　【客と行員の会話】　【ネットバンキングI】
１５回　Unit 7 Bank　（否定と比較）　【ネットバンキングII】　【新商品の案内】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・５０点　　小テスト・・４０点　　日常の授業への取り組み・・１０％
最終評価にはTOEICが反映されます。反映方法は、初回の授業時に文書を配布して説明します。

英語I（律政群1-D）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード　/Keywords

英語I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test　「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」　安丸雅子・ 砂川典子 他著　金星堂　￥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit1　Daily Life　[基本5文型]
3回　Unit1　Daily Life　[基本5文型]
4回　Unit2　Eating Out & Leisure Activities　[品詞]
5回　Unit2　Eating Out & Leisure Activities　[品詞]
6回　Unit3　Cooking & Purchasing　[名詞・ 主語と動詞の一致]
7回　Unit3　Cooking & Purchasing　[名詞・ 主語と動詞の一致]
8回　Unit4　Traffic & Travel　[形容詞・ 副詞]
9回　Unit4　Traffic & Travel　[形容詞・ 副詞]
10回　Unit5　Advertising & ICT　[時制]
11回　Unit5　Advertising & ICT　[時制]
12回　Unit6　Production & Logistics　[接続詞・ 前置詞]
13回　Unit6　Production & Logistics　[接続詞・ 前置詞]
14回　Review Test 1 (Unit1～6)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語I（律政群1-E）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I（律政群１-Ｆ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｉ	ENG101F

授業の概要　/Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書　/Textbooks

"Stepping Stones for the TOEIC Test"『TOEICテスト 着実にスコアアップ』
（光富省吾共著）朝日出版社　￥2,000＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1　TOEIC出題形式および傾向と対策
3回　Unit 2　Travel & Airports、文法：名詞・代名詞・冠詞
4回　Unit 3　Sightseeing & Hotels、文法：形容詞・副詞
5回　Unit 4　Dining & Restaurants、文法：時制(1)
6回　Unit 5　Sports & Entertainment、文法：時制(2)
7回　Unit 6　Fashion & Shopping、文法：助動詞
8回　Unit 7　School & Culture、文法：他動詞・自動詞
9回　Unit 8　Review Test 1
10回　Unit 9　Transportation & Commuting、文法：不定詞・動名詞
11回　Unit 10　Family Life & Home、文法：現在分詞・過去分詞・受動態
12回　Unit 11　Computers & the Internet、文法：仮定法
13回　Unit 12　Offices & Office Supplies、文法：関係詞
14回　Unit 13　Jobs & Recruitment、文法：接続詞
15回　Unit 14　Business, Accounting & Banking、文法：前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
ただし最終評価にはTOEICを受験したかどうかが反映されますので、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語I（律政群1-F）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor　酒井　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

本授業では，TOEICテストの問題を使って，その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ，基本的な文法・語彙を学習するとともに，TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成をはかる。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち，基本的な内容について復習を行い定着を図り，実用的な英語力を身に着ける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく，英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書　/Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 1』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス・授業の進め方
2回　リスニング問題(part 1~ 4)の概要
3回　リーディング問題(part 5~ 7)の概要
4回　part 1(写真問題) , part 5 (短文穴埋め問題)の学習
5回　part 2(応答問題) , part 5 (短文穴埋め問題)の学習
6回　part 3(会話問題) , part 5 (短文穴埋め問題)の学習
7回　part 4 ()part 5 (説明文問題) , part 5 (短文穴埋め問題)の学習
8回　リスニングの復習
9回　part 5 (短文穴埋め問題)の総復習
10回　part 6 (長文穴埋め問題)の学習
11回　part 7 (読解問題)の学習：シングルパッセージ
12回　part 7 (読解問題)の学習：ダブルパッセージ
13回　part 7 (読解問題)の学習：トリプルパッセージ
14回　リーディングの復習
15回　総復習

英語I（律政群1-G）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験 40%，復習テスト 10%，単語テスト 10%，日常の授業への取り組み（小テスト，課題及び宿題を含む）40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます．反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習…ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので，テキストで学習して授業に臨んでください。単語テストを実施します。
事後学習…授業で指定されたテキストの範囲は，必ず学習しておいてください。復習テストを実施します。

履修上の注意　/Remarks

毎回，単語100語テストを行います。指定の範囲が
テキストの自学の範囲で，不明な点がありましたら，授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test (以下TOEIC]) 対策をします。テキストは公式の練習用テキストです。TOEICをはじめて受験する初心者向けに作成されたもので、多くの練習問題やトレーニング問題で構成されています。

この授業ではテストの形式を知り、それに対する効率的なアプローチを習得することを目指します。また音読などの学習事項定着のためのトレーニングを「繰り返し」積むことで、英語の語彙、音、文法などを定着させていきます。

TOEICでは問題形式に応じた効率的な解法がありますが、基礎的な英語力の土台がなければ対応できません。そのためTOEIC対策と同時に確かな英語力の土台を築きあげます。

教科書　/Textbooks

『TOEICテスト公式プラクティス リーディング編』Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会
『TOEICテスト公式プラクティス リスニング編』Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・ マクベイ著、東進ブックス

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス：TOEICテストとは？効果的な英語学習方法
2　基礎英語 1 ：品詞
3　基礎英語 2 ：日英語の語順の違い、スラッシュリーディング
4　模擬試験 1　Listening パート
5　パート 1 対策
6　パート 2 対策
7　パート 3 対策
8　パート 4 対策
9　Listeningパート復習
10　模擬試験 2　Reading パート
11　パート5対策
12　パート6対策
13　パート 7 対策
14　Reading パート復習
15　まとめ

英語I（律政1-H）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(発言回数、自主学習状況):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

受講生は学期中にTOEIC Test受験が必要です。最終成績にはそのTest結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストに備えて、学習した範囲の単語学習をする

履修上の注意　/Remarks

電子辞書を必ず持参すること。辞書なしでの英語学習など不可能です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。またTOEICは最近新形式に変更されました。本授業で扱うテキストは旧式のものですが、基本的な部分に変更があるわけではありませんので、枝葉のテクニックにこだわらず、英語の太い「幹」の習得を目指しましょう。

キーワード　/Keywords

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・ 読む」力を、TOEIC テスト用の練習問題を用いて向上させることにある。

TOEICテストは、コミュニケーションの手段として必要不可欠な「文法・ 語法・ 語彙・ 表現内容・ 発音」などの知識や理解がどのくらい身についているのかその習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、当授業では、TOEICテストの練習問題を通して、中・ 高で学習した基礎文法の復習からTOEICに用いられる必須単熟語の語彙力、英語長文の読解力及び聴解力の向上へと英語受信力がバランスよく着実に身についていくよう学習を進めていく。

授業の流れは、基本的に次の 2 部構成で行う。 1 . 基礎文法復習　2、リスニング or リーディング学習(使用テキストのTOEIC問題は、リスニングとリーディングを隔週で学習する。)

教科書　/Textbooks

タイラー・ バーデン 他著　『Preparation for the TOEIC Test』　南雲堂
※　上記のテキストに加え、基礎文法学習用のプリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　TOEIC目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
第2回　文型＆動詞　/ Lesson 1
第3回　文型＆動詞　/ Lesson 2
第4回　時制　/ Lesson 3
第5回　時制　/ Lesson 4
第6回　時制　/ Lesson 5
第7回　準動詞　/ Lesson 6
第8回　準動詞　/ Lesson 7
第9回　準動詞　/ Lesson 8
第10回　助動詞　/ Lesson 9
第11回　助動詞　/ Lesson 10
第12回　関係詞　/ Lesson 11
第13回　関係詞　/ Lesson 12
第14回　関係詞　/ Lesson 13
第15回　Lesson 14 / Lesson 15

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・50% 小テスト・・40% 授業への取り組み・・１０％
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってくること。リスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。リーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない個所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II（律政群１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speed
Week 4　Repeat
Week 5　Conversation Style
Week 6　Speaking on Topics
Week 7　Control Techniques 1
Week 8　Control Techniques 2
Week 9　Workarounds
Week 10　Charting 1
Week 11　Charting 2
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語II（律政群１-Ａ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（律政群１-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　永末　康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文を通して、文法能力・語彙力に加えて特に読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業時や北方Moodleにて紹介。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自分の好きな仕事(1)
3回　自分の好きな仕事(2)
4回　少子高齢化(1)
5回　少子高齢化(2)
6回　英語とのつきあい方(1)
7回　環境(1)
8回　環境(2)
9回　オリンピック(1)
10回　オリンピック(2)
11回　少子高齢化(3)
12回　これからの教育(1)
13回　これからの教育(2)
14回　英語とのつきあい方(2)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…30%、平常の学習状況（小テストを含む)…70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、その指示に従うこと。

英語II（律政群１-Ｂ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（律政群１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、ＴＯＥＩＣ形式の問題演習を通して、ＴＯＥＩＣ形式に慣れることも目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 5
７回　Chapter 6
８回　Chapter 7
９回　Chapter 8
１０回　Chapter 9
１１回　Chapter 10
１２回　Chapter 11
１３回　Chapter 12
１４回　Chapter 13
１５回　Chapter 14

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…５５％　小テスト・課題…３０％　日常の授業への取り組み…１５％
（上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。）
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

英語II（律政群１-Ｃ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として１学期に１回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。
なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（律政群１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書　/Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」 CD付

SEIBIDO　　￥2200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション：　テキスト、授業の目的、学習法の説明
２回　Unit 8 Workplace 職場　肯定文と否定文　【上司と部下の会話】【人事異動の連絡】
３回　Unit 8 Workplace　接頭辞共通　【コピー機の契約】【年次会議について】
４回　Unit 9 Fitness Club スポーツクラブ　提案への応答　【健康の話題】【健康プログラム】
５回　Unit 9 Fitness Club 接尾辞共通　【無料体験登録】【スポーツクラブへの問い合わせ】
６回　Unit 10 Sightseeing 観光　依頼への応答　【道を尋ねる】【観光案内】
７回　Unit 10 Sightseeing　派生語（複数の品詞）【観光地の案内】【観光名所について】
８回　Unit 11 International Conference　国際会議　勧誘への応答【出張中の出来事】【講演】
９回　Unit 11 International Conference　派生語（形容詞）【講演者の紹介】【国際会議のスケジュール】
１０回　Unit 12 Computer Society　コンピューター　感謝・謝罪への応答　【SNS広告】【スマホ　VS　ガラケ】
１１回　Unit 12 Computer Society 類似語　【スマホの虹彩認証】【スマホの機能について】
１２回　Unit 13 Employment 採用　意外な応答　1　【就活の話題】【就活アドバイス】
１３回　Unit 13 Employment 同音異義語　【履歴書添状】【求人案内と応募メール】
１４回　Unit 14 Job Training 研修　以外な応答　2　【新入社員の会話】【研修内容の説明】
１５回　Unit 14 Job Training 綴りが似ている単語　【e-worker 研修】【社内研修プログラムとメール】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・５０点　　小テスト・・４０点　　日常の授業への取り組み・・１０％
最終評価にはTOEICが反映されます。反映方法は初回の授業時に文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行う。

英語II（律政群１-Ｄ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード　/Keywords

英語II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test　「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」　安丸雅子・ 砂川典子 他著　金星堂　￥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit7　Business & Economics　[助動詞]
3回　Unit7　Business & Economics　[助動詞]
4回　Unit8　Employment & Personnel　[受動態]
5回　Unit8　Employment & Personnel　[受動態]
6回　Unit9　Office Work & Correspondence　[分詞・ 分詞構文]
7回　Unit9　Office Work & Correspondence　[分詞・ 分詞構文]
8回　Unit10　Health & the Environment　[不定詞・ 動名詞]
9回　Unit10　Health & the Environment　[不定詞・ 動名詞]
10回　Unit11　Finance & Banking　[代名詞・ 関係詞]
11回　Unit11　Finance & Banking　[代名詞・ 関係詞]
12回　Unit12　Law & Administration　[比較構文]
13回　Unit12　Law & Administration　[比較構文]
14回　Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語II（律政群１-Ｅ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor　下條　かおり / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

【授業の到達目標及びテーマ】
TOEICの新しい出題形式に対応した学習を通じて、限られた時間の中で最大限のスコアアップを目指します。自然な英語表現を用いたTOEIC LISTENING AND READING TESTに即した問題を解く中で、英語力を伸ばしてもらいたいと思います。
【授業の概要】
TOEIC LISTENING AND READING TESTのスコアアップのために知っておくべきことを講師が説明します。各回の授業内容に沿って、学習者は、教科書の問題に解答します。解答後、講師が解説を行います。受講に際しては、教科書と辞書を必ず持参してください。

教科書　/Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2
北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert 編著 朝日出版社 1,700円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

進度は学習者のペースによって変更される可能性があります。
第1回　講義概要・ TOEIC テストについて
第2回　Unit 1　Eating Out　文法：動詞(1)
第3回　Unit 2　Travel　文法：動詞(2)
第4回　Unit 3　Amusement　文法：品詞
第5回　Unit 4　Meetings　文法：分詞
第6回　Unit 5　Personnel　文法：不定詞と動名詞(1)
第7回　Unit 6　Shopping　文法：不定詞と動名詞(2)
第8回　Unit 7　Advertisement　文法：仮定法
第9回　Unit 8　Daily Life　文法：受動態
第10回　Unit 9　Office Work　文法：代名詞
第11回　Unit 10　Business　文法：数量詞・ 比較
第12回　Unit 11　Traffic　文法：接続詞
第13回　Unit 12　Finance and Banking　文法：前置詞
第14回　Unit 13　Media　文法：語彙
第15回　Unit 14　Health and Welfare

英語II（律政群１-Ｆ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

学習態度 10%、小テスト 40%、 期末試験 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布資料を復習に利用してください。
教科書の音声は無料でストリーミング配信されていますので、予習・復習に利用してください。

履修上の注意　/Remarks

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書（病院の領収書など）を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。
初回講義時に必ずテキストを買って持ってきてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（律政群１-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　酒井　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書　/Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集１』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト 新公式問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス・授業の進め方
2回　リスニングpart １、リーディングpart 5の学習
3回　リスニングpart 2、リーディングpart ６の学習
4回　リスニングpart 3、リーディングpart ７の学習
5回　リスニングpart 4、リーディングpart ７②の学習
6回　リスニングの復習
7回　リーディング p art 5，リスニングpart 2の学習
8回　リーディングpart 6，リスニングpart 3の学習
9回　リーディングpart 7、リスニングpart 4の学習
10回　リーディングpart 7、リスニングpart 2の学習
11回　リーディングpart 7、リスニングpart 3の学習
12回　リーディングpart 7、リスニングpart 4の学習
13回　リーディングpart 7，リスニングpart 2の学習
14回　リーディングの復習
15回　総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 40%　復習テスト 10%　単語テスト 10%　日常の授業への取り組み状況（小テスト、課題及び宿題を含む）40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II（律政群１-Ｇ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習…ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので，毎回必ずテキストで学習して授業に臨んで下さい。単語テストを行います。
事後学習…授業で指定されたテキストの範囲は，必ず学習しておいてください。復習テストを行います．

履修上の注意　/Remarks

毎回単語100語テストを行います。
テキストの自学の範囲で，不明な点がありましたら，授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II（律政１-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　十時　康 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政１ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test (以下TOEIC]) 対策をします。テキストは公式の練習用テキストです。TOEICをはじめて受験する初心者向けに作成されたもので、多くの練習問題やトレーニング問題で構成されています。

この授業ではテストの形式を知り、それに対する効率的なアプローチを習得することを目指します。また音読などの学習事項定着のためのトレーニングを「繰り返し」積むことで、英語の語彙、音、文法などを定着させていきます。

TOEICでは問題形式に応じた効率的な解法がありますが、基礎的な英語力の土台がなければ対応できません。そのためTOEIC対策と同時に確かな英語力の土台を築きあげます。

教科書　/Textbooks

『TOEICテスト公式プラクティス リーディング編』Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会
『TOEICテスト公式プラクティス リスニング編』Educational Testing Service, 国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・ マクベイ著、東進ブックス

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス : TOEICテストとは？効果的な英語学習方法
2　前期学習事項の復習　Listening パート
3　前期学習事項の復習　Reading パート
4　模擬試験１　Listening パート
5　パート１対策
6　パート２対策
7　パート３対策
8　パート４対策
9　Listeningパート復習
10　模擬試験２　Reading パート
11　パート5対策
12　パート6対策
13　パート７対策
14　Reading パート復習
15　まとめ

英語II（律政１-Ｈ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(発言回数、自主学習状況):20%
毎回の小テスト:30%
期末試験:50%

受講生は学期中にTOEIC Test受験が必要です。最終成績にはそのTest結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

単語テストに備えて、学習した範囲の単語学習をする

履修上の注意　/Remarks

電子辞書を必ず持参すること。辞書なしでの英語学習など不可能です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。またTOEICは最近新形式に変更されました。本授業で扱うテキストは旧式のものですが、基本的な部分に変更があるわけではありませんので、枝葉のテクニックにこだわらず、英語の太い「幹」の習得を目指しましょう。

キーワード　/Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

この授業では、１学期に引き続き、基本文法の習得およびTOEIC問題の取り組みを通して、「聴く」「読む」力のさらなる養成を行う。

教科書　/Textbooks

吉塚　弘　他著　『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST- Revised Edition-』　成美堂
￥2,200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ＴＯＥＩＣ公式問題集

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　TOEIC個人目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
第2回　人称代名詞　/ Unit 1 Restaurant
第3回　不定代名詞と再帰代名詞　/ Unit 2 Entertainment
第4回　現在・過去の時制 / Unit 3 Business
第5回　現在完了 / Unit 4 Office
第6回　時・期間を表す前置詞　/ Unit 5 Telephone
第7回　位置・場所を表す前置詞　/ Unit 6 Letter & E-mail
第8回　数量形容詞　/ Unit 7 Health
第9回　形容詞を作る接尾辞　/ Unit 8 Bank & Post Office
第10回 副詞を作る接尾辞 / Unit 9 Travel (1)
第11回 分詞構文　/ Unit 10 Travel (2)
第12回　比較 / Unit 11 Job Applications
第13回　受動態　/ Unit 12 Shopping
第14回　関係詞　/ Unit 13 Education
第15回　関係詞　/ Unit 14 Education

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・50%　小テスト・・40%　授業への取り組み・・１０％
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

英語II（律政群１-Ｉ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。１の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってくること。
２のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。３のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない個所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語III（律政群１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　デール・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills for the purpose of developing topic oriented speeches. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic speaking skills.

教科書　/Textbooks

Reading Pass 1
Andrew E. Bennett
NAN'UN-DO

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Additional class materials will be provided by the instructor.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 Course Introduction
2 Reading Pass 1, Unit 1: Explain reading passage and do questions.
3 Reading Pass 1, Unit 1: Questions and Answers Present topic for 1st speech.
4 Group work to develop speeches.
5 Presentation of speeches.
6 Reading Pass 1, Unit 2: Explain reading passage and do questions.
7 Reading Pass 1, Unit 2: Questions and Answers Present topic for 2nd speech.
8 Group work to develop speeches.
9 Presentation of speeches.
10 Reading Pass 1, Unit 3: Explain reading passage and do questions.
11 Reading Pass 1, Unit 3: Test. Present topic for 3rd speech.
12 Group work to develop speeches.
13 Presentation of speeches. Present topic for 4th speech.
14 Group work to develop speeches.
15 Presentation of speeches.

成績評価の方法　/Assessment Method

Assessment will be based primarily on classroom workand participation as well as quality of speeches.. A mid-term test will also figure into the assessment.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students must take individual responsibility for class and speech presentation preparation.

英語III（律政群１-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.
Excessive absences will not be tolerated.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and speaking.

キーワード　/Keywords

composition, public speaking, competent answers, complete sentences

英語III（律政群１-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor	デビッド・アダム・ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	律政群１ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書　/Textbooks

Hall & Blappert, First Class Service 1, Cengage, ISBN: 9814319430

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Orientation
２回 Asking for personal information.
３回 Talking about dislikes
４回 Talking about travel jobs
５回 Explaining facilities
６回 Describing locations
７回 Opening times
８回 Talking about schedules
９回 Reservation problems
１０回 Confirming reservations
１１回 Changing reservations
１２回 Asking about preferences
１３回 Checking in
１４回 Checking out
１５回 Student Presentations

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%　学期末試験…30% プレゼンテーション…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please review all content after the class.

履修上の注意　/Remarks

なし

英語III（律政群１-Ｂ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

トラベル英会話

英語III（律政群１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回 Introduction / Writing
第２回 Love-Introductions
第３回 Love-Building Skills
第４回 Love-Essay composition
第５回 Presentation
第６回 Justice-Introduction
第７回 Justice-Building Skills
第８回 Justice-Essay composition
第９回 Presentation
第10回 Humanity-Introduction
第11回 Humanity-Building Skills
第12回 Humanity-Essay Composition
第13回 Presentation
第14回 Composition
第15回 Discussion

成績評価の方法　/Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回)　試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに２〜３ページを終わらせておいてください。

英語III（律政群１-Ｃ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

英語III（律政群１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書　/Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 1-4 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 5 and Discussion 1
Week 10 Unit 6 and Discussion 2
Week 11 Unit 7 and Discussion 3
Week 12 Unit 8 and Discussion 4
Week 13 Units 5-8 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

英語III（律政群１-Ｄ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

All students should buy a simple A4 or B5 notebook. A weekly homework task will be to keep a weekly English diary. This will consist of writing about daily life in English. Each diary entry should be between 8 and 10 lines long. The teacher will collect and read the diaries at the end of semester. Students should be prepared to share details of their dairy for conversation in class. I ask you to be mindful of this and make sure you are happy sharing anything you write.

履修上の注意　/Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you. I am sure we will have fun practicing English together.

キーワード　/Keywords

英語III（律政群１-Ｅ）【昼】

担当者名 /Instructor	クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	律政群１－Ｅ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

In this course, the four language skills will be taught. Stress will be placed on speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously leart material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書　/Textbooks

World English Level 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：Course introduction, expectations, study skills, preparation advise, and grading procedure.
第２回：Unit 1: Lesson title: People. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第３回： Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第４回：Unit 2: Lesson title: Work, rest, play. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第５回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第６回：Unit 3: Lesson title: Going places. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第７回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第８回：Unit 4: Lesson title: Food. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第９回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第１０回：Unit 5: Lesson title: Sports. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第１１回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第１２回：Unit 6: Lesson title: Destinations. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第１３回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第１４回：All outstanding work to be completed.
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 70%, class participation 30%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

英語III（律政群１-Ｅ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なし

キーワード　/Keywords

英語III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor　マイケル・ バーグ / michael berg / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書　/Textbooks

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1:Orientation
2: Asking someone's name
3: Travel jobs
4: Floor plans
5: Opening hours
6: Making reservations
7: Confirming reservations
8: Checking in
9: Taking calls
10: On tour
11: Ordering/taking orders
12: Checking information
13: Taking messages
14: Directions
15: Changing money/final review

成績評価の方法　/Assessment Method

Attendance - 20%
Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

None

履修上の注意　/Remarks

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

英語III（律政群１-Ｆ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

Tourism

英語III（律政群１-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

English for International Communication

教科書　/Textbooks

First Class Service 1 (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

電池辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回: May I have your name, please?
第２回: It's on the third-floor
第３回: We're open from 7:00 a.m. to 11:00 a.m.
第４回: We're fully booked on Monday
第５回: I'll repeat your reservation
第６回: Are you checking in?
第７回: I'll transfer your call
第８回: We'll be stopping for lunch at 12:00
第９回: What can I get for you?
第１０回: I'll send someone to check it
第１１回: May I take a message?
第１２回: I'll show you on the map
第１３回: How much would you like to change?
第１４回: The service is included
第１５回: It's been a pleasure

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation and weekly assessments

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意　/Remarks

必要科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

英語III（律政群１-Ｇ）【昼】

キーワード　/Keywords
Communicate / make friends / have fun

英語III（律政１-Ｈ）【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor　葛西　宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政１ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

この授業では、聴解力及び読解力を伸ばすことによって、受講生のコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　Chapter 1
３回　Chapter 2
４回　Chapter 3
５回　Chapter 4
６回　Chapter 5
７回　Chapter 6
８回　Chapter 7
９回　Chapter 8
１０回　Chapter 9
１１回　Chapter 10
１２回　Chapter 11
１３回　Chapter 12
１４回　Chapter 13
１５回　Chapter 14

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…５５％　小テスト・課題…３０％　日常の授業への取り組み…１５％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語III（律政１-Ｈ）【昼】

キーワード　/Keywords

英語III（律政群１-Ｉ）【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｉ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

英語の４つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書　/Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Intro (2nd Edition)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Daily Life
２回 Places
３回 People
４回 Travel
５回 Business
６回 Office
７回 Technology
８回 Personnel
９回 Management
１０回 Purchasing
１１回 Finances
１２回 Media
１３回 Entertainment
１４回 Health
１５回 Restaurants

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…90%　　日常の授業への取り組み…10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Reading Sectionの意味を確認しておくこと。
音声教材を繰り返し聞くこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

英語III（律政群1-Ｉ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語IV（律政群１-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　デール・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

This course will offer students the opportunity to improve basic writing and speaking skills. Emphasis will be placed on composition writing skills. Emphasis will also be placed on competent written answers to questions focusing on the use of complete sentences. Additionally, students will be given the opportunity to develop basic speaking skills.

教科書　/Textbooks

Reading Pass 1
Andrew E. Bennett
NAN'UN-DO

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Additional class materials will be provided by the instructor.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 Course Introduction
2 Explain reading passage and do questions
3 Complete reading assignment
4 Explain reading passage and do questions
5 Complete reading assignment
6 Explain reading passage and do questions
7 Complete reading assignment
8 Explain reading passage and do questions
9 Complete reading assignment
10 Explain reading passage and do questions
11 Complete reading assignment
12 Explain reading passage and do questions
13 Complete reading assignment
14 Explain reading passage and do questions
15 Complete reading assignment

成績評価の方法　/Assessment Method

Assessment will be based primarily on classroom work. A mid-term and final test will also figure into the assessment.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students must take individual responsibility for class and speech presentation preparation.

英語IV（律政群１-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Because of the intense and consecutive nature of the class students will be expected to be present.
Excessive absences will not be tolerated.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

This can be a pleasurable class. Students should not fear the emphasis placed on writing and speaking.

キーワード　/Keywords

composition, competent answers, complete sentences

英語IV（律政群１-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

Students will research, summarize and present objective facts and subjective opinions on topics related to international relations and contemporary social and political issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introduction and course objectives
２回　Social issues in the world
３回　Research of social issues
４回　Expansion of social issues
５回　Consolidation of social issues
６回　First group: Presentation and discussion
７回　Second Group: Presentation and discussion
８回　Analysis and Advice
９回　Political issues in the world
１０回Research of political issues
１１回Expansion of political issues
１２回Consolidation of political issues
１３回Third Group: Presentation and discussion
１４回Fourth Group: Presentation and discussion
１５回Summary and exam preparation

成績評価の方法　/Assessment Method

class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

None

履修上の注意　/Remarks

None

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語IV（律政群１-Ｂ）【昼】

キーワード　/Keywords

英語Ⅳ（律政群１-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要　/Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて５段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書　/Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回 Introduction / Writing
第２回 Happiness-Introductions
第３回 Happiness-Building Skills
第４回 Happiness-Essay composition
第５回 Presentation
第６回 Religion-Introduction
第７回 Religion-Building Skills
第８回 Religion-Essay composition
第９回 Presentation
第10回 War-Introduction
第11回 War-Building Skills
第12回 War-Essay Composition
第13回 Presentation
第14回 Composition
第15回 Discussion

成績評価の方法　/Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回)　試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに２ー３ページを終わらせておいてください。

履修上の注意　/Remarks

英語IV（律政群１-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

英語IV（律政群１-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　ダンカン・ウォトリィ / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書　/Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 9
Week 3 Unit 10
Week 4 Unit 11
Week 5 Unit 12
Week 6 Unit 9-12 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 13 and Discussion 1
Week 10 Unit 14 and Discussion 2
Week 11 Unit 15 and Discussion 3
Week 12 Unit 16 and Discussion 4
Week 13 Units 13-16 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

英語IV（律政群1-D）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

All students should buy a simple A4 or B5 notebook. A weekly homework task will be to keep a weekly English diary. This will consist of writing about daily life in English. Each diary entry should be between 8 and 10 lines long. The teacher will collect and read the diaries at the end of semester. Students should be prepared to share details of their dairy for conversation in class. I ask you to be mindful of this and make sure you are happy sharing anything you write.

履修上の注意　/Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you. I am sure we will have fun practicing English together.

キーワード　/Keywords

英語IV（律政群１-Ｅ）【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｅ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

In this course, the four language skills will be taught. Stress will be placed on speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously leart material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書　/Textbooks

World English Series 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：Unit 7: Lesson title: Communication. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第２回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第３回：Unit 8: Lesson title: Moving forward. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第４回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第５回：Unit 9: Lesson title: Types of clothing. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第６回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第７回：Unit 10: Lesson title: Lifestyles. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第８回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第９回：Unit 11: Lesson title: Achievements. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第１０回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第１１回：Christmas quiz.
第１２回：Unit 12: Lesson title: Consequences. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
第１３回：Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
第１４回：All outstanding work to be completed.
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam 50%, class participation 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

英語IV（律政群 1-E ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Read the textbook ahead of the lesson.
Get a good night's sleep.
Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード　/Keywords

英語IV (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor　シェーン・ドイル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書　/Textbooks

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

First Class Service 1 (ISBN 9789814319430)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1:Orientation
2: Asking someone's name
3: Travel jobs
4: Floor plans
5: Opening hours
6: Making reservations
7: Confirming reservations
8: Checking in
9: Taking calls
10: On tour
11: Ordering/taking orders
12: Checking information
13: Taking messages
14: Directions
15: Changing money/final review

成績評価の方法　/Assessment Method

Attendance - 20%
Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

None

履修上の注意　/Remarks

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

英語IV（律政群 1 - F ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード　/Keywords

英語IV（律政群１-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

English for International Communication

教科書　/Textbooks

First Class Service 2 (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

電池辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

sure

第１回: This is Janice speaking
第２回: Where are you from?
第３回: "Sorry" seems to be the hardest word
第４回: Would you like to try that instead?
第５回: They're both very nice rooms
第６回: You'll see a bank on the right
第７回: I highly recommend it
第８回: It comes with a choice of soup or salad
第９回: Sorry, all the window seats are taken
第１０回: First, enter your weight into the machine
第１１回: Could you say that again, please
第１２回: Sorry for the inconvenience
第１３回: Hold the line, please
第１４回: This is a non-smoking area
第１５回: Are you enjoying your meal

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation and weekly assessments

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意　/Remarks

必要科目

英語IV（律政群１-Ｇ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let’s have fun learning English together

キーワード　/Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語IV（律政１-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　ケネス・ギブソン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政１ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

In this course the focus will be on improving discussion and writing skills. The students will discuss simple topics taken from various sources and later write a summary of their group's discussion from the notes they take in class. Discussion and writing formats will be provided and practiced as well as grammar points for each writing topic.

Working well in a group will be very important in this class and will have a very large effect on the grade each student receives. Students must discuss the topics actively in mostly English!

教科書　/Textbooks

Handouts will be provided.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Course Orientation
2. Discussion Exercise #1, Writing Exercise #1
3. Rewriting #1
4. Discussion Exercise #2, Writing Exercise #2
5. Rewriting #2
6. Discussion Exercise #3, Writing Exercise #3
7. Rewriting #3
8. Mid-Term Activity
9. Discussion Exercise #4, Writing Exercise #4
10. Rewriting #4
11. Discussion Exercise #5, Writing Exercise #5
12. Rewriting #5
13. Discussion Exercise #6, Writing Exercise #6
14. Rewriting #6
15. Review

成績評価の方法　/Assessment Method

33.33% Active Class Participation in English
33.33% Written Assignments
33.33% Final Evaluation

英語IV（律政１-Ｈ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please review the lessons each week as homework.

履修上の注意　/Remarks

None
None

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Please be prepared to work in English in class discussing your ideas with other students and them putting them into writing. Using Japanese too much in your discussions will result in a poor grade or even failure of the class on your part.

キーワード　/Keywords

writing, discussion

英語IV（律政群１-Ｉ）【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｉ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書　/Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 Daily Life
２回 Places
３回 People
４回 Travel
５回 Business
６回 Office
７回 Technology
８回 Personnel
９回 Management
１０回 Purchasing
１１回 Finances
１２回 Media
１３回 Entertainment
１４回 Health
１５回 Restaurants

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…90%　　日常の授業への取り組み…10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Reading Sectionの意味を確認しておくこと。
音声教材を繰り返し聞くこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

英語IV（律政群1-Ｉ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing（アルマ出版）￥2520

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Introduction to the course
2回　Golden rules
3回　Exchanging basic information
4回　Majors, school years, and clubs
5回　Part-time jobs
6回　Daily routines
7回　Hardest/easiest days of the week
8回　Spending time
9回　Hometown attractions
10回　Hometown likes and dislikes
11回　Where to live in the future
12回　Travel experiences
13回　Future travel ideas and plans
14回　Planning a trip
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

なし

英語V（律政群２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　村田　希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞くの3技能を総合的に鍛える必要がある。この授業では、Toeicにおける、高得点の獲得を目標に実践的な訓練を行う。後半は、有名なスピーチを読んで、内容を深く味わう。

教科書　/Textbooks

The Toeic Test Trainer Target 650 by Masahiko Ymaguchi, George W Pifer Cengage Learning
Memorable Speeches by Takumi Kashima, Jeffrey Mac Pherson

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

授業内容
１．単語のテスト　２．Listeningの問題のディクテーヨンの答え合わせ。
３．読解文も訳の答え合わせ。　４．読みを流暢になるまで練習する。
5. 後半はエッセイ作品を深く味わう。

1回　オリエンテーション
2回　The Toeic Test Trainer Unit 1 提案–時制　1
3回　Unit 2　確認ー時制　2
4回　Unit 3　会話を始めるー助動詞
5回　Unit 4　ニュース報道ーフレーズリーディング
6回　Unit 5 義務–代名詞
7回　Unit 6　理由–前置詞
8回　復習 Introduction of Memorable Speeches
9 回　Unit 1 We are the United States of America
10回　Unit 2 Burden and Promise
11回　Unit 3 Yes, We Can
12回　Unit 4 Why to Jerusalem
13回　Unit 5 Wall and Eggs
14回　Unit 6 Burma's Plight
15回　復習

英語V（律政群２-Ｂ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

単語のテスト　２５％　宿題１０％　試験６５％
４回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価にTOEICスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習を必ずチェックする。次週の最初に復習テストを口頭で行う。

履修上の注意　/Remarks

単語のテストの準備。ＣＤを聞いてディクテーションをしてくる。長文は単語をしっかり調べておく。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　酒井　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書　/Textbooks

『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編 」国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 6」　国際コミュニケーション協会
「TOEICテスト新公式問題集 vol. 5」　国際コミュニケーション協会
「TOEICテスト新公式問題集 vol. 4」　国際コミュニケーション協会
「TOEICテスト新公式問題集 vo. 3」　国際コミュニケーション協会
「TOEICテスト新公式問題集 vol. 2」　国際コミュニケーション協会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス・授業の進め方
2回　リスニング問題の概要
3回　リーディング問題の概要
4回　リスニングpart２、リーディングpart ５の学習
5回　リスニングpart３、リーディングpart ６の学習
6回　リスニングpart４、リーディングpart ６の学習
7回　リスニングの復習
8回　リーディングpart５，リスニングpart 2の復習
9回　リーディングpart６，リスニングpart 3の復習
10回　リーディングpart７：シングルパッセージの学習，リスニングpart ４の復習
11回　リーディングpart７：ダブルパッセージの学習，リスニングpart 2の復習
12回　リーディングpart７：トリプルパッセージの学習，リスニングpart 3の復習
13回　part 7の復習
14回　リーディングの復習
15回　総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 40%、復習テスト 10%　単語テスト 10%　日常の授業への取り組み（小テスト、課題及び宿題を含む）40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

英語V（律政群２-Ｃ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習…ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので，テキストで学習して授業に臨んで下さい。単語テストを行います。
事後学習…授業で指定されたテキストの範囲は，必ず学習しておいてください。復習テストを行います．

履修上の注意　/Remarks

毎回単語100語テストを行います。
テキストで自学と指示された範囲で不明な点がありましたら，授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書　/Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」 CD付

SEIBIDO　　￥2200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　テキスト、授業の目的、学習法の説明
２回　Unit 1 Airport 空港　(WH疑問文・基礎）　【フライトの予約】　【旅客のマナー】
３回　Unit 1 Airport　（動詞の形）　【ビジネスEメール】　【フライトの案内表示】
４回　Unit 2 Train Station　鉄道の駅（WH疑問文・応用）【道を尋ねる】　【鉄道博物館案内】
５回　Unit 2 Train Station　（準動詞）　【乗客の安全対策】　【ツアーのスケジュール表】
６回　Unit 3 Department Store　デパート（一般動詞）【客と店員の会話】　【ネット通販】
７回　Unit 3 Department Store（５文型）　【セールのチラシ】　【デパートのセール案内】
８回　Unit 4 Restaurant　（選択疑問文）　【食生活に関する話】　【料理の歴史の話】
９回　Unit 4 Restaurant　（関係詞と接続詞）　【顧客へのお知らせ】　【レストランのメニュー】
１０回　Unit 5 Hotel　ホテル　(否定疑問文）　【フロントでの会話】　【ホテルの紹介】
１１回　Unit 5 Hotel　（助動詞と仮定法）　【改装のお知らせ】　【ホテルの予約依頼の携帯メール】
１２回　Unit 6 Hospital　病院（付加疑問文）　【予定の変更】　【医師のアドバイス】
１３回　Unit 6 Hospital　（前置詞と冠詞）　【外来受付時間変更】　【病院での昇進に関するチャット】
１４回　Unit 7 Bank　銀行　（間接疑問文）　【客と行員の会話】　【ネットバンキング　I】
１５回　Unit 7 Bank　（否定と比較）　【ネットバンキングII】　【新商品の案内】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・５０点　　小テスト・・４０点　　日常の授業への取り組み・・１０％
最終評価はTOEICが反映されます。反映方法は初回の授業時に文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせますので、次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行うこと。

英語V（律政群２-Ｄ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｅ）【昼】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｅ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

Aim 1: Improve students' English proficiency.
Aim 2: Enhance students' legal mind.

The aim of this course is twofold. First, by using a drill book based on TOEIC, students' listening and reading comprehension as well as vocabulary and grammar will be improved.
Second, by studying an integrated textbook on lawsuits, students will familiarize themselves with legal systems and cultivate the legal mind.

教科書　/Textbooks

Kitao, Y. et al. 2017. STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 2 –Intermediate– (一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 2 –Intermediate–). Tokyo: Asahi Press.

Torikai, S. et al. Legal Minds-15 Journeys in Law (大学生のための法律英語　15の裁判物語). Tokyo: Kinseido.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Will be introduced during the class.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Introduction・TOEIC Unit 1
2. TOEIC Unit 1　Legal Minds Case 1
3. TOEIC Unit 2　Legal Minds Case 1
4. TOEIC Unit 3　Legal Minds Case 2
5. TOEIC Unit 4　Legal Minds Case 2
6. TOEIC Unit 5　Legal Minds Case 3
7. TOEIC Unit 6　Legal Minds Case 3
8. TOEIC Unit 7　Legal Minds Case 4
9. TOEIC Unit 8　Legal Minds Case 4
10. TOEIC Unit 9　Legal Minds Case 5
11. TOEIC Unit 10　Legal Minds Case 5
12. TOEIC Unit 11　Legal Minds Case 6
13. TOEIC Unit 12　Legal Minds Case 6
14. TOEIC Unit 13　Legal Minds Case 7
15. TOEIC Unit 14　Legal Minds Case 7

成績評価の方法　/Assessment Method

Participation in class…20%　Final exam…80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V（律政群２-Ｅ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Preparation
1. Look up any words or expressions that you do not know or have forgotten.
   Not having done so may result in deduction from the assessment in participation.
2. Work on the exercises in the TOEIC textbook.
3. Grasp the content of the reading material.

Review
1. Review the exercieses in the TOEIC textbook, forcussing on the questions that you did not get right.
2. Review the reading material and make sure that you understand its content., vocabulary and grammar.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｆ）【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅴ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test　「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」　安丸雅子・ 砂川典子 他著　金星堂　￥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit1　Daily Life　[基本5文型]
3回　Unit1　Daily Life　[基本5文型]
4回　Unit2　Eating Out & Leisure Activities　[品詞]
5回　Unit2　Eating Out & Leisure Activities　[品詞]
6回　Unit3　Cooking & Purchasing　[名詞・主語と動詞の一致]
7回　Unit3　Cooking & Purchasing　[名詞・主語と動詞の一致]
8回　Unit4　Traffic & Travel　[形容詞・副詞]
9回　Unit4　Traffic & Travel　[形容詞・副詞]
10回　Unit5　Advertising & ICT　[時制]
11回　Unit5　Advertising & ICT　[時制]
12回　Unit6　Production & Logistics　[接続詞・前置詞]
13回　Unit6　Production & Logistics　[接続詞・前置詞]
14回　Review Test 1 (Unit1～6)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語V（律政群２-Ｆ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅴ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・ 読む」力を、TOEIC テスト用の練習問題を用いて向上させることにある。

TOEICテストは、コミュニケーションの手段として必要不可欠な「文法・ 語法・ 語彙・ 表現内容・ 発音」などの知識や理解がどのくらい身についているのかその習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、当授業では、TOEICテストの練習問題を通して、中・ 高で学習した基礎文法の復習からTOEICに用いられる必須単熟語の語彙力、英語長文の読解力及び聴解力の向上へと英語受信力がバランスよく着実に身についていくよう学習を進めていく。

授業の流れは、基本的に次の3部構成で行う。１．基礎文法復習　２、リスニング学習　３．リーディング学習
使用テキストのTOEIC問題は、学期の前半は解答・ 解説を中心に一通り学習し、後半はそのテキストの英語表現に慣れるために再度復習テストの対象として扱っていく。学習熟達度がリアルに分かるように、復習テストの結果を公表する。

毎年、当クラスのTOEIC取得スコアは、前学期の時点で300点前後が中心である。当学期は、それを踏まえ、400点取得を目標に学習に取り組んでもらいたい。

教科書　/Textbooks

タイラー・ バーデン 他著　『Preparation for the TOEIC Test』　南雲堂
※　上記のテキストに加え、基礎文法学習用のプリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ＴＯＥＩＣ公式問題集

英語V（律政群２-Ｇ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　TOEIC目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
第2回　文型＆動詞　/ Lesson 1, 2
第3回　文型＆動詞　/ Lesson 3, 4
第4回　時制　/ Lesson 5, 6
第5回　時制　/ Lesson 7,8
第6回　時制　/ Lesson 9,10
第7回　準動詞　/ Lesson 11,12
第8回　準動詞　/ Lesson 13,14
第9回　準動詞　/ Lesson 15
第10回　助動詞　/　復習テスト(1)
第11回　助動詞　/　復習テスト(2)
第12回　関係詞　/　復習テスト(3)
第13回　関係詞　/　復習テスト(4)
第14回　関係詞　/　復習テスト(5)
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・50%　小テスト・・40%　授業への取り組み・・１０％
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。１の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってくること。２のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。３のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない個所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政２-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　三宅　啓子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政２ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

TOEICに頻出される文法、語彙について、基本事項の復習を行う。テキストはTOEICの問題だけでなく、身近なトピックを使ったコミュニケーション、プレゼンテーション、英作文の練習ができるように構成されているので、総合的な英語力を高めることができる。

教科書　/Textbooks

TOEIC Test: Motivation (NAN'UN-DO)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1A 写真描写問題（基本事項の学習）
第3回　Unit 1B 写真描写問題（問題演習）
第4回　Unit 2A　応答問題（基本事項の学習）
第5回　Unit 2B　応答問題（問題演習）
第6回　Unit 3A　会話問題（基本事項の学習）
第7回　Unit 3B　会話問題（問題演習）
第8回　Unit 4A　説明文問題（基本事項の学習）
第9回　Unit 4B　説明文問題（問題演習）
第10回　Unit 5A　単文穴埋め問題（基本事項の学習）
第11回　Unit 5B　単文穴埋め問題（問題演習）
第12回　Unit 6A　長文穴埋め問題（基本事項の学習）
第13回　Unit 6B　長文穴埋め問題（問題演習）
第14回　Unit 7A・7B　読解問題（基本事項の学習/問題演習）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト 30%, 提出物 20%, 期末テスト 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前にあらかじめ学習範囲の問題を解いておく。重要単語や同意語を一覧表にまとめる。

履修上の注意　/Remarks

英語V（律政２-Ｈ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群２-Ｉ）【昼】

担当者名 /Instructor　大塚　由美子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｉ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ｖ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

新形式TOEIC®問題対策のテキストを使用して、頻出テーマである旅行、オフィス、季節・天気、健康、会議などに関する場面の英語に取り組みTOEICに対応した英語力の養成を図ります。
Part 1からPart 7まで解答のポイント、頻出語句を確認しながら学習を進めていき、基本的な語彙と構文、文法事項を身に付けることを目指します。特に頻出語彙の演習は繰り返し音声を聞くことで、リスニングパートへの対応力アップにもつながります。
リスニングに関しては、アメリカ英語のみならず、イギリス、カナダ、オーストラリアで話されている英語を発音するスピーカーの英語を聞き、多様な英語の発音に慣れるようにします。
各章のPart 1 からPart 7 までの問題は、毎回の宿題になりますので、必ず取り組むようにしましょう。

教科書　/Textbooks

The TOEIC® Listening & Reading Test CIRCUIT ＜Updated Edition＞ /
『語彙から始めるTOEIC®L & R 総合演習〈新形式問題対応版〉』
（著者）鶴岡公幸 / Matthew Wilson
ISBN978-4-88198-729-2
松柏社　2017

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○）

『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 』

英語V（律政群２-Ｉ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回　Orientation（授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明）
　Unit 1　旅行①
2 回　Unit 2　オフィス①
3 回　Unit 3　レストラン
4 回　Unit 4　季節・天気
5 回　Unit 5　健康
（いろいろな英語の発音に慣れよう(1)）
6 回　Unit 6　旅行②
7 回　Unit 7　休暇
8 回　Unit 8　オフィス②
9 回　Unit 9　ショッピング
10 回　Unit 10 就職活動
（いろいろな英語の発音に慣れよう(2)）
11 回　Unit 11　娯楽
12 回　Unit 12　旅行③
13 回　Unit 13　オフィス③
14 回　Unit 14　会議
15 回　Unit 15　スポーツ、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・ 35　　期末試験・・・ 65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各ユニットの演習問題に必ず取り組みましょう。
また間違った箇所は復習をしましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　薬師寺　元子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

[授業の概要]
① 授業開始時に小テスト（１０分）を実施。教科書及び新公式問題集より出題
② 教科書のポイントを押さえながら、 Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]
① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書　/Textbooks

『Best Practice for the TOEIC Listening and ReadingTest』（新形式対応）
著者：吉塚　弘、Micheal Schauerte　￥2,200（税別）
出版社：成美堂　2017年 1月 発行

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○）

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introduction
２回　Unit 1　Restaurant [grammar人称代名詞]
３回　Unit 2　Entertainment [grammar不定代名詞と再帰代名詞]
４回　Unit 3　Business [grammar現在・過去時制]
５回　Unit 4　Office[grammar現在完了]
６回　Unit 5　Telephone [grammar時・期間を表す前置詞]
７回　Unit 6　Letter & E-mail [grammar位置・場所を表す前置詞]
８回　Unit 7　Health [grammar数量形容詞]
９回　Unit 8　Bank & Post Office [grammar自動詞と他動詞]
１０回　Unit 9　New Products [grammar形容詞を作る接尾辞]
１１回　Unit 10 Travel ①[grammar副詞を作る接尾辞]
１３回　Unit 11 Travel ② [grammar分詞構文]
１２回　Unit 12 Job Applications [grammar比較]
１４回　Unit 13 Shopping [grammar受動態]
１５回　Review

英語VI（律政群２-Ａ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

①　小テスト、レポート(20%)
②　授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
③　期末考査 (60%) + TOEIC受験結果
　最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意　/Remarks

①　授業の準備を毎回十分にやること。
②　英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。（電子辞書も可）
③　授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
④　発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

①　日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
②　能動的な勉学に徹すること。
②　少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　村田　希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、３技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際的な訓練を行う。後半は有名なスピーチを読んで深く味わう。

教科書　/Textbooks

"Toeic Test Trainer Target 650" byYamaguchi Masahiko Hiroko Matsuura, published Cengage Learning
"Memorable Speeches" by Takumi Kashima, Jeffrey Mac Pherson　Cengage Learnig

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容
１．単語のテスト　２. Listening のディクテーションの答え合わせ。
３．長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。
４．後半は有名なスピーチを深く味わう

１回 オリエンテーション
２回　The Toeic Test Trainer　Unit 7 苦情–接続詞
３回　Unit ８ 交通情報–スキャニング
４回　Unit ９ Yes/Noで答える質問–関係詞
５回　Unit １０意見–分詞構文
６回　Unit １１ 意見の一致・不一致一仮定法
７回　Unit １２ 会議一スキミング
８回　Post -test
９回　Memorable Speeches Unit 7　Aung San Suu Kyi's philosophy
１０回　Unit ８ Clear present Danger
１１回　Unit ９ American way to Go
１２回　Unit １０ our democracy and Freedom
１３回　Unit １１ Unicef and Audrey Hepburn
１４回　Unit １２ Society and Children
１５回　Unit １３ Unicef and Its Roles

英語VI（律政群２-Ｂ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

単語テスト２５％　宿題　１０％　試験６５％
４回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価には、ＴＯＥＩＣスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎週予習を調べる。次週の最初に口頭で復習テストを行う。

履修上の注意　/Remarks

単語のテストの準備、リスニングのところをディクテーションしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

休むと、単語のテストのポイントと予習ポイントを失います。休まないで来てください。

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　酒井　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書　/Textbooks

『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編」　国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』　国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』　国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』　国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』　国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』　国際コミュニケーション協会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス・授業の進め方
2回　リスニングpart 1、リーディングpart 5の学習
3回　リスニングpart 2、リーディングpart 6の学習
4回　リスニングpart 3、リーディングpart 7の学習
5回　リスニング part 4、リーディングpart 7の学習
6回　リスニングの復習
7回　リーディングpart 5，リスニングpart 2の学習
8回　リーディングpart 6、リスニングpart 3学習
9回　リーディングpart 7：シングルパッセージ、リスニングpart 4の学習
10回　リーディング part 7：ダブルパッセージ、リスニングpart 2の学習
11回　リーディングpart 7：ダブルパッセージ②、リスニングpart 3の学習
12回　リーディングpart 7：トリプルパッセージ，リスニング part 4の学習
13回　リーディングpart 7：トリプルパッセージ②，リスニングpart 2の学習
14回　リーディングの復習
15回　総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 40%、復習テスト 10%　単語テスト 10%　日常の授業への取り組み（小テスト，課題及び宿題を含む）40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

英語VI（律政群２-Ｃ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習…ガイダンス時に渡す単語100語プリントを，テキストで学習して授業に臨んでください。単語テストを行います。
事後学習…授業で指定されたテキストの範囲は必ず学習しておいてください。復習テストを実施します。

履修上の注意　/Remarks

毎回，単語100語テストを実施します。
テキストで自学と指示された範囲，それ以外でも，不明な点がありましたら，授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　吉田　禎子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEIC(Test of English for International Communication)は、「世界共通語としての英語によるコミュニケーション能力を測定するテスト」です。2016年5月から試験形式と内容が改訂されましたので、本授業では新形式のTOEICに対応した内容を学習します。そのために英語コミュニケーション能力の基盤となる、英単語・英文法・リスニング・リーディング等の英語力の基礎を身につけることを目標とします。

教科書　/Textbooks

All-powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test
「TOEIC Listening and Reading Test オールパワフル演習」 CD付

SEIBIDO　　￥2200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、プリントを配布する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション：　テキスト、授業の目的、学習法の説明
２回　Unit 8 Workplace 職場　肯定文と否定文　【上司と部下の会話】【人事異動の連絡】
３回　Unit 8 Workplace　接頭辞共通　【コピー機の契約】【年次会議について】
４回　Unit 9 Fitness Club スポーツクラブ　提案への応答　【健康の話題】【健康プログラム】
５回　Unit 9 Fitness Club 接尾辞共通　【無料体験登録】【スポーツクラブへの問い合わせ】
６回　Unit 10 Sightseeing 観光　依頼への応答　【道を尋ねる】【観光案内】
７回　Unit 10 Sightseeing　派生語（複数の品詞）【観光地の案内】【観光名所について】
８回　Unit 11 International Conference　国際会議　勧誘への応答【出張中の出来事】【講演】
９回　Unit 11 International Conference　派生語（形容詞）【講演者の紹介】【国際会議のスケジュール】
１０回　Unit 12 Computer Society　コンピューター　感謝・謝罪への応答　【SNS広告】【スマホ　VS　ガラケ】
１１回　Unit 12 Computer Society 類似語　【スマホの虹彩認証】【スマホの機能について】
１２回　Unit 13 Employment 採用　意外な応答　1　【就活の話題】【就活アドバイス】
１３回　Unit 13 Employment 同音異義語　【履歴書添状】【求人案内と応募メール】
１４回　Unit 14 Job Training 研修　以外な応答　2　【新入社員の会話】【研修内容の説明】
１５回　Unit 14 Job Training 綴りが似ている単語　【e-worker 研修】【社内研修プログラムとメール】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・５０点　　小テスト・・４０点　　日常の授業への取り組み・・１０％
最終評価にはTOEICが反映されます。反映方法は初回の授業時に文書を配布して説明します。

英語VI（律政群２-Ｄ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の終了前に必ず次回の授業内容を知らせます。次回の授業にはそれに沿って予習してきましょう。
授業内容の復習を行う。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を携帯

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

語学学習は予習科目であることを認識して欲しい。辞書を駆使して予習し、授業中に予習の段階で分からなかったことを解決すると各自の習熟度が高くなります。

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｅ）【昼】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｅ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

Aim 1: Improve students' English proficiency.
Aim 2: Enhance students' legal mind.

The aim of this course is twofold. First, by using a drill book based on TOEIC, students' listening and reading comprehension as well as vocabulary and grammar will be improved.
Second, by studying an integrated textbook on lawsuits, students will familiarize themselves with legal systems and cultivate the legal mind.

教科書　/Textbooks

Yoshizuka, Hiroshi et al. 2017. Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test - Revised Edition(TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ –改訂新版–). Tokyo: Seibido.

Torikai, S. et al. Legal Minds-15 Journeys in Law（大学生のための法律英語　15の裁判物語）. Tokyo: Kinseido.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

Will be introduced during the class.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Introduction・TOEIC Unit 1　Legal Minds Case 8
2. TOEIC Unit 1　Legal Minds Case 8
3. TOEIC Unit 2　Legal Minds Case 9
4. TOEIC Unit 3　Legal Minds Case 9
5. TOEIC Unit 4　Legal Minds Case 10
6. TOEIC Unit 5　Legal Minds Case 10
7. TOEIC Unit 6　Legal Minds Case 11
8. TOEIC Unit 7　Legal Minds Case 11
9. TOEIC Unit 8　Legal Minds Case 12
10. TOEIC Unit 9　Legal Minds Case 12
11. TOEIC Unit 10　Legal Minds Case 13
12. TOEIC Unit 11　Legal Minds Case 13
13. TOEIC Unit 12　Legal Minds Case 14
14. TOEIC Unit 13　Legal Minds Case 14
15. TOEIC Unit 14　Legal Minds Case 15

成績評価の方法　/Assessment Method

Participation in class…20%　Final exam…80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI（律政群２-Ｅ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Preparation
1. Look up any words or expressions that you do not know or have forgotten.
   Not having done so may result in deduction from the assessment in participation.
2. Work on the exercises in the TOEIC textbook.
3. Grasp the content of the reading material.

Review
1. Review the exercieses in the TOEIC textbook, forcussing on the questions that you did not get right.
2. Review the reading material and make sure that you understand its content., vocabulary and grammar.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｆ）【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書　/Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test　「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」　安丸雅子・ 砂川典子 他著　金星堂　￥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit7　Business & Economics　[助動詞]
3回　Unit7　Business & Economics　[助動詞]
4回　Unit8　Employment & Personnel　[受動態]
5回　Unit8　Employment & Personnel　[受動態]
6回　Unit9　Office Work & Correspondence　[分詞・分詞構文]
7回　Unit9　Office Work & Correspondence　[分詞・分詞構文]
8回　Unit10　Health & the Environment　[不定詞・動名詞]
9回　Unit10　Health & the Environment　[不定詞・動名詞]
10回　Unit11　Finance & Banking　[代名詞・関係詞]
11回　Unit11　Finance & Banking　[代名詞・関係詞]
12回　Unit12　Law & Administration　[比較構文]
13回　Unit12　Law & Administration　[比較構文]
14回　Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

英語VI（律政群２-Ｆ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

この授業では、１学期に引き続き、基本文法の習得およびTOEIC問題の取り組みを通して、「聴く」「読む」力のさらなる養成を行う。1学期同様、2学期も明確な目標スコアを設定し、1学期に習慣づいた英語学習を継続することで今学期、さらなるスコアアップを目指してもらいたい。
（2学期TOEIC取得目標　450点）

教科書　/Textbooks

吉塚　弘　他著　『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST- Revised Edition-』　成美堂
￥2,200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ＴＯＥＩＣ公式問題集

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　TOEIC個人目標スコアの設定と日常の英語学習方略について
第2回　人称代名詞　/ Unit 1 Restaurant
第3回　不定代名詞と再帰代名詞　/ Unit 2 Entertainment
第4回　現在・過去の時制 / Unit 3 Business
第5回　現在完了 / Unit 4 Office
第6回　時・期間を表す前置詞　/ Unit 5 Telephone
第7回　位置・場所を表す前置詞　/ Unit 6 Letter & E-mail
第8回　数量形容詞　/ Unit 7 Health
第9回　形容詞を作る接尾辞　/ Unit 8 Bank & Post Office
第10回 副詞を作る接尾辞 / Unit 9 Travel (1)
第11回 分詞構文 / Unit 10 Travel (2)
第12回　比較 / Unit 11 Job Applications
第13回　受動態 / Unit 12 Shopping
第14回　関係詞 / Unit 13 Education
第15回　関係詞 / Unit 14 Education

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・50%　小テスト・・40%　授業への取り組み・・１０％
欠席は原則2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

英語VI（律政群２-Ｇ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、上記の授業概要で述べている三つの学習構成を考慮に入れた予習・復習を心がけてもらいたい。１の基礎文法学習は、毎回事前にプリントを配布する。その文法項目の内容をよく読み、理解度チェックの問題をやってくること。
２のリスニング学習は、テキスト付属のCDをよく聴いて問題にあたり、授業の際に配布するスクリプトの英文と意味を確認した上で復習として何度も繰り返し聴くこと。３のリーディング問題は問題の対象となっている文章全体をよく読み、正確に速く読める文章を増やしていくこと。

前回の授業で学習した範囲を理解した上で、次の授業のテキスト問題を、本番のテストを受ける気持ちで毎回解くようにし、わからない個所はチェックして授業に臨むこと。こうした日常の「積み重ね」がTOEICのスコアにしっかり反映されてくることを念頭に置いて毎日の学習に取り組んでもらいたい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（律政２-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　三宅　啓子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政２ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

TOEICに頻出される文法、語彙について、基本事項の復習を行う。テキストはTOEICの問題だけでなく、身近なトピックを使ったコミュニケーション、プレゼンテーション、英作文の練習ができるように構成されているので、総合的な英語力を高めることができる。

教科書　/Textbooks

TOEIC Test: Motivation (NAN'UN-DO)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　Unit 8A　写真描写問題（基本事項の学習）
第2回　Unit 8B　写真描写問題（問題演習）
第3回　Unit 9A　応答問題（基本事項の学習）
第4回　Unit 9B　応答問題（問題演習）
第5回　Unit 10A　会話問題（基本事項の学習）
第6回　Unit 10B　会話問題（問題演習）
第7回　Unit 11A　説明文問題（基本事項の学習）
第8回　Unit 11B　説明文問題（問題演習）
第9回　Unit 12A　単文穴埋め問題（基本事項の学習）
第10回　Unit 12B　単文穴埋め問題（問題演習）
第11回　Unit 13A　長文穴埋め問題（基本事項の学習）
第12回　Unit 13B　長文穴埋め問題（問題演習）
第13回　Unit 14A　読解問題（基本事項の学習）
第14回　Unit 14B　読解問題（問題演習）
15.　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト 30%, 提出物 20%, 期末テスト 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前にあらかじめ学習範囲の問題を解いておく。重要単語や同意語を一覧表にまとめる。

履修上の注意　/Remarks

英語VI（律政２-Ｈ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-Ｉ）【昼】

担当者名 /Instructor　大塚　由美子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｉ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

毎日新聞のニュースサイト 英語版The Mainichi から、「日本の2科学者、ノーベル賞を受賞」、「集団的自衛権の一部行使を可能とする安保法案可決」、「こんまりさん、新作の『ときめき』」など、様々な内容の英文記事を読み、英語の運用能力を高めると同時に、現代社会を捉える知見を得ることを目的とします。

各チャプターにおけるVocabulary Check, Contents Check, True or False, Comprehension Question, Question-Answer, Listening Task, Writing Task等の演習問題はTOEIC対策問題として活用します。

教科書　/Textbooks

News Gallery 2017
Yoshisada Kinoshita/ Masako Eguchi/ Adam Hailes編著
開文社　2017年　ISBN978-4-87571-700-3

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Orientation（授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明
Chapter 1No tricks: Halloween all the rage in Japan as costume play
2回　Chapter 2Historic pact to slow global warming is celebrated in Paris
3回　Chapter 3Einstein's right again: Scientists detect ripples in gravity
4回　Chapter 4U.S. Navy sailing near Spratly Islands jacks up tensions with China
5回　Chapter 5Japan enacts legislation for major shift in postwar security policy
6回　Chapter 6Two Japanese scientists receive Nobel Prize
7回　Chapter 7　Broad TPP agreement raises hopes of lower food　prices, more options for consumers
8回　Chapter 8Letters by Toyotomi Hideyoshi show detailed　instructions to chief retainer
9回　Chapter 9Paris terror attacks a barbaric assault on civil society
10回　Chapter 10Kondo is back with more tidying advice in Spark Joy
11回　Chapter 11Obama urged to keep showing diplomatic achievements
12回　Chapter 12U.N. health chief: Zika virus is 'spreading explosively'
13回　Chapter 13Suu Kyi party projects landslide in historic Myanmar vote
14回　Chapter 14Japanese market observers wary of slowdown of Chinese economy
15回　まとめ

英語VI（律政群２-Ｉ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト･･･ 35　　期末試験･･･ 65％

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

巻末付録の略語および時事用語一覧を予習･復習に活用しましょう。
授業以外でも英字新聞や英語ニュースを通して時事英語にふれるようにしましょう

履修上の注意　/Remarks

各チャプターの演習問題はTOEIC対策問題として活用しますので、必ず取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
②辞書を必ず持参すること。

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　シェーン・ドイル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書　/Textbooks

Inspire 2 by Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Food
Week 3: Food
Week 4: Festivals
Week 5: Festivals
Week 6: Cities
Week 7: Cities
Week 8: Jobs
Week 9: Jobs
Week 10: Music
Week 11: Music
Week 12: Journeys
Week 13: Journeys
Week 14: Presentation Preparation
Week 15: Presentation

成績評価の方法　/Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students should complete all homework assignments and listen to any pre-assigned listening tasks.

履修上の注意　/Remarks

英語VII（律政群２-Ａ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speaking for Speed
Week 4　Repeating for Communication
Week 5　Conversation Style
Week 6　Expand and Recycle
Week 7　Speaking on Topics
Week 8　Workarounds
Week 9　Speaking on Topics
Week 10　Disagreement
Week 11　Reason Articulation
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語VII（律政群２-Ｂ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書　/Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：　Introduction: Explanation of the course aims, grading, expectations, and general advice about how to study effectively.
第２回：Unit 1 - Title: All about me. Lesson A
第３回：Unit 1, Lesson B
第４回：Unit 2 - Title: Let's eat! Lesson A
第５回：Unit 2, Lesson B
第６回：Unit 3 - Title: Unsolved Mysteries. Lesson A
第７回：Unit 3, Lesson B
第８回：Unit 4 - Title: Today's Trends. Lesson A
第９回：Unit 4, Lesson B
第１０回：Unit 5 - Title: Out and About. Lesson A
第１１回：Unit 5, Lesson B
第１２回：Unit 6 - Title: Student Life. Lesson A
第１３回：Unit 6, Lesson B
第１４回：All outstanding work to be completed, exam explanation.
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意　/Remarks

英語VII（律政群２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Sleep well and keep regular hours.
Don't use phones in the class.

キーワード　/Keywords

Education is the key to a better future.

英語VII（律政群２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

English Conversations Volume 1 by Mark P Mylson. Lulu Press. ISBN 978-0-565-98820-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10.Topic: The king and his wives
11.Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please bring notebook and dictionary

履修上の注意　/Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

英語VII（律政群２-Ｄ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ｅ）【昼】

担当者名 /Instructor　ケネス・ギブソン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｅ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書　/Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Introductions and Orientation
2 回 Text Unit 1 "Weekends"
3 回 Text Unit 2 "Excuses"
4 回 Text Unit 3 "Life Events"
5 回 Text Unit 4 "Travel"
6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
7 回 Text Unit 6 "Party Time"
8 回 Text Unit 7 "Describing People"
9 回 Game Day!
１０回 Text Unit 8 "Movies"
１１回 Text Unit 10 "Big Issues"
１２回 Text Unit 13 "Keepsakes"
１３回Test Preparation
１４回 Speaking Quiz
１５回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Active participation in class…33.33%　Homework…33.33%　Final Test…33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

英語VII（律政群２-Ｅ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Homework must be completed every week before class.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ｆ）【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

Points of this class are English speaking, reading, writing and legal vocabulary skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding and communication in English.

教科書　/Textbooks

Akito Igarashi, The General History of Japan, NAN'UN-DO, and John P. Racine and Takayuki Nakanishi, Vocabulary for Law, NAN'UN-DO (Textbooks must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary and a USB flash drive.

英語VII（律政群２-Ｆ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1Class Opening: Course Introduction

2Academic Writing – Writing an opening sentence, topic sentence, supporting sentences, concluding sentence, in-text citation, reference.

3The Jomon and The Yayoi Periods – Reading, Vocabulary, Exercises, Legal Vocabulary

4Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Jomon and Yayoi Periods and the laws that were used during these periods.

5The Tumulus Period – Reading, Vocabulary, Exercises

6The Asuka Period (Parts1and 2) – Reading, Vocabulary, Exercises

7Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Tumulus and Asuka periods and the laws that were used during these periods.

8The Nara and Heian Period

9The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi (Samurai)

10Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Heian period and the laws that were used during that period.

11The Kamakura Period (Parts 1 and 2)

12Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Kamakura period and the laws that were used during that period.

13The Muromachi Period (Part 1)

14The Muromachi Period (Part 2) – Reading, Vocabulary, Exercises

15Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Muromachi period and the laws that were used during that period.

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and assignments 60% Quizzes and Final Examination 40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent. The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　マーニー・セイディ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書　/Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES /CLEARIFYING INFORMATION
4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
7 回 DESCRIBING WORKPLACES
8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
9 回 DESCRIBING PERSONAL CHARACTERISTICS
1 0 回 TALKING ABOUT STRENGTHS AND WEAKNESSES
1 1 回 PREPARING FOR A JOB INTERVIEW
1 2 回 CONDUCTING A JOB INTERVIEW
1 3 回 LESSON 9~ 12 EXPANSION ACTIVITY
1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION I
1 5 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION II

成績評価の方法　/Assessment Method

Class Participation 40%　Presentations & Quizzes 30%　Homework & Assignments 10 %　Final Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

None

履修上の注意　/Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語VII（律政群２-Ｇ）【昼】

キーワード　/Keywords

英語VII（律政２-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政２ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書　/Textbooks

"Stepping Stones for the TOEIC Test" 『TOEICテスト 着実にスコアアップ』
（光富省吾共著）朝日出版社　￥2,000＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1　TOEIC出題形式および傾向と対策
3回　Unit 2　Travel & Airports、文法：名詞・代名詞・冠詞
4回　Unit 3　Sightseeing & Hotels、文法：形容詞・副詞
5回　Unit 4　Dining & Restaurants、文法：時制(1)
6回　Unit 5　Sports & Entertainment、文法：時制(2)
7回　Unit 6　Fashion & Shopping、文法：助動詞
8回　Unit 7　School & Culture、文法：他動詞・自動詞
9回　Unit 8　Review Test 1
10回　Unit 9　Transportation & Commuting、文法：不定詞・動名詞
11回　Unit 10　Family Life & Home、文法：現在分詞・過去分詞・受動態
12回　Unit 11　Computers & the Internet、文法：仮定法
13回　Unit 12　Offices & Office Supplies、文法：関係詞
14回　Unit 13　Jobs & Recruitment、文法：接続詞
15回　Unit 14　Business, Accounting & Banking、文法：前置詞・倒置、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：60%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：40%

英語VII（律政２-Ｈ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VII（律政群２-Ｉ）【昼】

担当者名 /Instructor　薬師寺　元子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政群２ - Ｉ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要　/Course Description

[授業の概要]
①まずKey Word Studyを行う。
②次に基本的な語学力を向上させるためListening Practice 1,2をやる。
③さらに語彙力の充実を図るためにComprehension CheckとSummaryを試みる。
④最後にReadingのコーナーによって、ニュース英語の世界や語学的特質の理解を深める。

[授業のねらい]
①WAAの映像ニュースで取り上げられた環境、健康、科学技術に関連し、様々な最新の話題に触れながら、映像を通して、多方面の英語ニュースを理解し、時事英語の「理解力向上」を目指す。
②多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
③英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書　/Textbooks

『AFP World Focus－Environment, Health, and Technology』
編注者：宍戸真、高橋真理子、Kevin Murphy
発行：成美堂、2017年1月

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション、講義の課題と方法の説明、勉強方法の解説（シラバス使用）
第2回　Lesson 1　地球温暖化と気候変動
第3回　Lesson 2　食習慣：長生きの為のスーパーフードを探す
第4回　Lesson 3　自動車運転の未来：座るだけで安全に目的地に到着
第5回　Lesson 4　生物多様性の都市開発
第6回　Lesson 5　３Dプリンターの医療利用
第7回　Lesson 6　ITと教育：発展途上国のタブレット利用
第8回　Lesson 7　免震構造：自然災害への備え
第9回　Lesson 8　ドローンの実用性
第10回 Lesson 9　ごみ問題を考える
第11回 Lesson 10　摂食障害：プラスサイズモデルの人気
第12回 Lesson 11　バーチャルリアリティ：期待される医療への応用
第13回 Lesson 12　観光開発と自然保護
第14回 Lesson 13　ウエアラブルの進化
第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VII（律政群２-Ｉ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

①授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
②レポート、小テスト (20%)
③期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意　/Remarks

①英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。（電子辞書可）
②発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。
③授業中の携帯電話の使用を禁ずる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

①日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
②少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ａ）【昼】

担当者名 /Instructor　シェーン・ドイル / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ａ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VIII	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This course focuses on developing discussion and listening skills. Students will listen to short listenings on different topics each week. Students will discuss these topics in relation to their own experiences. Students will become familiar with the vocabulary and expressions associated with the individual topics.

教科書　/Textbooks

The instructor will provide the material.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Cinem Etiquette
Week 3: Cinema Etiquette
Week 4: Discussion test #1
Week 5: Young, British, Sober
Week 6: Young, British, Sober
Week 7: Discussion test #2
Week 8: Going where the work is
Week 9: Going where the work is
Week 10: Discussion test#3
Week 11: Showrooming
Week 12: Showrooming
Week 13: Project preparation#1
Week 14: Project preparation#2
Week 15: Project Presentation

成績評価の方法　/Assessment Method

Listening tests 20%
discussion tests 20%
Homework 20%
Final Presentation 20%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students must listen to teh required listetning material before coming to class.

英語VIII（律政群２-Ａ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ｂ）【昼】

担当者名 /Instructor　ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｂ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VIII	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書　/Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Any parts the following class schedule is subject to changes.

Week 1　Orientation
Week 2　Shadow Talking
Week 3　Speed
Week 4　Repeat
Week 5　Conversation Style
Week 6　Speaking on Topics
Week 7　Control Techniques 1
Week 8　Control Techniques 2
Week 9　Workarounds
Week 10　Charting 1
Week 11　Charting 2
Week 12　Group Conversation 1
Week 13　Group Conversation 2
Week 14　Test Practice
Week 15　Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Assignments=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

英語VIII（律政群２-Ｂ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis.

履修上の注意　/Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ｃ）【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｃ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This course will improve fluency. Students will use the four language skills (writing, reading, listening, speaking) to improve their confidence and take the next step in their English education. The tasks aim to review previously learnt material as well as challenging students to improve their communicative skills freely with their friends.

教科書　/Textbooks

World Link 2, by S. Stempleski, N. Douglas, J. Morgan.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：Welcome back! Let's talk about the summer vacation.
第２回：Unit 7 - Title: Let's Celebrate! Lesson A.
第３回：Unit 7, Lesson B.
第４回：Unit 8 - Title: Storytelling. Lesson A.
第５回：Unit 8, Lesson B.
第６回：Unit 9 - Title: The Wrold of Work. Lesson A.
第７回：Unit 9, Lesson B.
第８回：Unit 10 - Title: Telecommunications. Lesson A.
第９回：Unit 10, Lesson B.
第１０回：Unit 11 - Title: Technology Today. Lesson A.
第１１回：Unit 11, Lesson B.
第１２回：Unit 12 - Title: Let's Go Somewhere! Lesson A.
第１３回：Unit 12, Lesson B.
第１４回：Christmas quiz.
第１５回：All outstanding work to be completed, exam explanation.

成績評価の方法　/Assessment Method

Exam: 70%, Class participation: 30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the textbook ahead of time, and we will look at some practice questions for the exam in week 15.

履修上の注意　/Remarks

英語VIII（律政群２-Ｃ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Please check the textbook ahead of time.
Don't use phones in the class.

キーワード　/Keywords

Education is the key to a better future.

英語VIII（律政群２-Ｄ）【昼】

担当者名 /Instructor　ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｄ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

English Conversations Volume 2 by Mark Mylson. Rising Sun Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
10.Topic: The Great Kings
11.Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法　/Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

NA

履修上の注意　/Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

英語VIII（律政群２-Ｄ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ｅ）【昼】

担当者名 /Instructor　ケネス・ギブソン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｅ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VIII	ENG212F

授業の概要　/Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書　/Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 Orientation　"My Summer"
2 回 Text Unit 15 "Sports"
3 回 Text Unit 18 "Mysteries"
4 回 Text Unit 19 "Shopping"
5 回 Text Unit 21 "Long Life"
6 回 Text Unit 22 "Job Share"
7 回 Game Day!
8 回 Text Unit 24 "Take a Risk"
9 回 Text Unit 26 "On the Go"
1 0 回 Christmas Lesson
1 1 回 Text Unit 27 "Behave Yourself"
1 2 回 Text Unit 28 "Jobs"
1 3 回 Test Preparation
1 4 回 Speaking Quiz
1 5 回 Summary

成績評価の方法　/Assessment Method

Attendance & Classroom Work…33.33%　Homework…33.33%　Final Test…33.33%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Please review the text as homework each week.

履修上の注意　/Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

英語VIII（律政群２-Ｅ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ｆ）【昼】

担当者名 /Instructor　アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VIII	ENG212F

授業の概要　/Course Description

Points of this class are English speaking, reading, writing and legal vocabulary skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding and communication in English.

教科書　/Textbooks

Akito Igarashi, The General History of Japan, NAN'UN-DO, and John P. Racine and Takayuki Nakanishi, Vocabulary for Law, NAN'UN-DO (Textbooks must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary and a USB flash drive.

英語VIII（律政群２-Ｆ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1Class Opening: Course Introduction

2Academic Writing – Writing an opening sentence, topic sentence, supporting sentences, concluding sentence, in-text citation, reference.

3The Azuchi-Momoyama Period (Part 1) – Reading, Vocabulary, Exercises, Legal Vocabulary

4Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Azuchi-Momoyama Period and the laws that were used during that period.

5The Azuchi-Momoyama Period (Part 2) – Reading, Vocabulary, Exercises

6The Edo Period (Parts1and 2) – Reading, Vocabulary, Exercises

7Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the Edo Period and the laws that were used during that period.

8The Edo Period (Part 3) – Reading, Vocabulary, Exercises

9The Edo Period (Part 4) – Reading, Vocabulary, Exercises

10Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the last of the Edo Period and the laws that were used during that period.

11The Meiji Period (Part 1) – Reading, Vocabulary, Exercises

12Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the first of the Meiji Period and the laws that were used during that period.

13The Meiji Period (Part 2) – Reading, Vocabulary, Exercises

14The Meiji Period (Part 3) – Reading, Vocabulary, Exercises

15Legal Vocabulary Quiz, write a summary paragraph about the end of the Meiji Period and the laws that were used during that period.

成績評価の方法　/Assessment Method

Class work and assignments 60% Quizzes and Final Examination 40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意　/Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If the student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, you must provide a document to the instructor as to why you will be or were late or absent. The student must bring a hospital receipt to the next class attended if she/he is absent because of sickness.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　マーニー・セイディ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書　/Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
１０回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
１１回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
１２回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE　2
１３回 REVIEW
１４回 FINAL TEST PREPARATION I
１５回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法　/Assessment Method

Class Participation 40%　Presentations & Quizzes 30%　Homework & Assignments 10 %　Final Exam 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

none

履修上の注意　/Remarks

Japanese / English Dictionary required

英語VIII（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政２-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　ポール・ガラフ・スティール / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　律政２ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

This course uses high interest themes to integrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication.

教科書　/Textbooks

Language to go- pre-intermediate. Pearson Cunningham and Mohamed

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students should be prepared to read extensively around the topics that are being discussed during class

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Introducing yourself and orientation
2回　Using question tags in everyday conversation
3回　Indirect requests and polite questions
4回　Expresses wishes about the future
5回　Describing positives and negatives
6回　Writing and e-mail describing your apartment
7回　Talking about food, expressing likes and dislikes
8回　Writing a recipe
9回　Describing a vacation and refusing requests
10回　Writing travel suggestions
11回　Making requests, accepting and refusing requests
12回　Writing a set of guidelines
13回　Describing technology
14回　Talking about general topics
15回　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

20% peer journal and 80% exam

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students are expected to write a peer journal about what they have done over the last week. In the class they exchange their peer journal with a partner and respond to the partner's journal.

履修上の注意　/Remarks

英語VIII（律政２-Ｈ）【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語VIII（律政群２-Ｉ）【昼】

担当者名 /Instructor　薬師寺　元子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｉ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

[授業の概要]
まず最初にWords and Phrasesで記事に記載されている単語と熟語を確認し、Summary で記事の内容を予想する。次に記事を読解し、 Multiple Choiceと True or Falseで理解度をチェックする。最後にVocabularyで記事に関連した語法を学ぶ。

[授業のねらい]
(1)The New York Times, International Herald Tribune, The Associated press 等の英字新聞から社会、文化、政治経済、言語、教育等のあらゆる分野を網羅した、身近な世界のニュースに触れ、楽しみながら、多角的且つ複眼的に英語力を培う。
(2)多種多様な情報を収集・ 発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(3)特に英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書　/Textbooks

The Half-Edition of English through the News Media　『15章版 ニュースメディアの英語』　￥１,２００
編注者：高橋優身、伊藤典子、Richard Powell
出版社：Asahi Press
発行：2017年1月

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1　Leaks show how wealthy hide riches (Panama rejects money-launderer label after leak)
第3回　Unit 2　Comedian Matayoshi's literaly win offers hope for sagging publishing industry
第4回　Unit 3　Rassia's culture of sports cheating
第5回　Unit 4　Out of Africa I・ II
第6回　Unit 5　Why Are Migrants in the Arctic, on Bikes?　Path Leads to Europe
第7回　Unit 6　Drop dead, Japan! ' Mom fights on (Day care, birthrate problems stuck in vicious cycle)
第8回　Unit 7　iPS eye parts are created
第9回　Unit 8　Recognizing the Artifice in Artificial Intelligence
第10回 Unit 9　Icho leaks Japan's wrestling sweepwith historic fourth straight gold
第11回 Unit 10　Nobels in medicine and physics
第12回 Unit 11　Brexit and 'the special relationship' (Japanese firms in UK face uncertainly after Brexit vote)
第13回 Unit 12　Boko Haram turns female captives into weapons
第14回 Unit 13　Animals spy new enemy in sky: Drones
第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VIII（律政群２-Ｉ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

①授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
②レポート、小テスト (20%)
③期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意　/Remarks

①英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。（電子辞書可）
②発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。
③授業中のスマホ、及び携帯電話の使用を禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

①日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
②少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

英語IX（済営律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　済営律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IX	ENG301F

授業の概要　/Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書　/Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Daily Life
2回 Places
3回 People
4回 Travel
5回 Business
6回 Office
7回 Technology
8回 Personnel
9回 Management
10回 Purchasing
11回 Finances
12回 Media
13回 Entertainment
14回 Health
15回 Restaurants

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 … 90%　　日常の授業への取組み … 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語IX（済営律政３年）【昼】

キーワード　/Keywords

英語X（済営律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor　杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語X	ENG311F

授業の概要　/Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書　/Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　リスニング　プレテスト
2回　リスニング　ユニット1、リーディング　ユニット1
3回　リスニング　ユニット2、リーディング　ユニット2
4回　リスニング　ユニット3、リーディング　ユニット3
5回　リスニング　ユニット4、リーディング　ユニット4
6回　リスニング　ユニット5、リーディング　ユニット5
7回　リスニング　ユニット6、リーディング　ユニット6
8回　リスニング　ユニット７、リーディング　ユニット7
9回　リスニング　ユニット8、リーディング　ユニット8
10回　リスニング　ユニット9、リーディング　ユニット9
11回　リスニング　ユニット10、リーディング　ユニット10
12回　リスニング　ユニット11、リーディング　ユニット11
13回　リスニング　ユニット12、リーディング　ユニット12
14回　リスニング　ポストテスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語X（済営律政３年）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語XI（済営律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor　ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　済営律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸＩ	ENG302F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing（アルマ出版）￥2520

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Introduction to the course
2回　Golden rules
3回　Exchanging basic information
4回　Majors, school years, and clubs
5回　Part-time jobs
6回　Daily routines
7回　Hardest/easiest days of the week
8回　Spending time
9回　Hometown attractions
10回　Hometown likes and dislikes
11回　Where to live in the future
12回　Travel experiences
13回　Future travel ideas and plans
14回　Planning a trip
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

なし

英語XI（済営律政３年）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語XII（済営律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor　ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸⅡ	ENG312F

授業の概要　/Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書　/Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing（アルマ出版）￥2520

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Introduction to the course and online resources
2回　Registering in the online course
3回　Talking about breaks and vacations
4回　Talking about free time activities
5回　Talking about hobbies
6回　Talking about music
7回　Talking about movies
8回　Talking about TV, reading, and games
9回　Talking about eating
10回　Likes and dislikes
11回　Exotic foods and eating out
12回　Imagining life in five years
13回　Discussing life issues
14回　Dream jobs
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

なし

英語XII（済営律政３年）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ｉ	CHN101Ｆ

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です（本文）　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文）　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文）　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文）　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文）　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文）　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文）　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文）　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文）　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文）　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文）　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文）　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

中国語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語III 【昼】

担当者名 /Instructor　ホウ　ラメイ（彭腊梅）/ ラメイ ホウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　ホウ　ラメイ（彭腊梅）/ ラメイ ホウ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　買い物、練習問題
３回　第十課　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語V 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語V	CHN201F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　ポイント説明　日本紹介（本文）
２回　第二課　ポイント説明
３回　第二課　東京（本文）
４回　第三課　ポイント説明
５回　第三課　横浜（本文）
６回　第四課　ポイント説明
７回　第四課　富士山と東照宮（本文）
８回　第五課　ポイント説明
９回　第五課　静岡と名古屋（本文）
１０回　第六課　ポイント説明
１１回　第六課　京都（本文）
１２回　第七課　ポイント説明
１３回　第七課　奈良（本文）
１４回　第八課　ポイント説明
１５回　第八課　大阪（本文）

中国語V 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VI	CHN211F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　ポイント説明
２回　第九課　宮島と下関（本文）
３回　第十課　ポイント説明
４回　第十課　九州（本文）
５回　第十一課　ポイント説明
６回　第十一課　福岡（本文）
７回　第十二課　ポイント説明
８回　第十二課　佐賀（本文）
９回　第十三課　ポイント説明
１０回　第十三課　長崎（本文）
１１回　第十四課　ポイント説明
１２回　第十四課　四国（本文）
１３回　第十五課　ポイント説明
１４回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１５回　総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　張　瑾 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VII	CHN202F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

中国語VII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（会話）　練習
２回　第二課　東京（会話）
３回　第二課　練習
４回　第三課　横浜（会話）
５回　第三課　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（会話）
７回　第四課　練習
８回　第五課　静岡と名古屋（会話）
９回　第五課　練習
１０回　第六課　京都（会話）
１１回　第六課　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（会話）
１３回　第七課　練習
１４回　第八課　大阪（会話）
１５回　第八課　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　張　瑾 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語　東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（会話）
２回　第九課　　練習
３回　第十課　　九州（会話）
４回　第十課　　練習
５回　第十一課　福岡（会話）
６回　第十一課　練習
７回　第十二課　佐賀（会話）
８回　第十二課　練習
９回　第十三課　長崎（会話）
１０回　第十三課　練習
１１回　第十四課　四国（会話）
１２回　第十四課　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（会話）
１４回　第十五課　練習
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅰ	KRN101F

授業の概要　/Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書　/Textbooks

厳基珠　他　『韓国語の初歩　改訂版』、　白水社(2010年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典　『朝鮮語辞典』　小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション　【韓国語入門の予備知識】
2回　基本母音字とその発音　【基本母音】
3回　基本子音字（平音）とその発音　【基本子音】
4回　基本子音字（平音）とその発音　【基本子音】
5回　子音（激音)字とその発音　【派生子音１】
6回　子音（濃音）字とその発音　【派生子音２】
7回　合成母音字とその発音　【派生母音】
8回　終声子音字とその発音　【パッチム】
9回　終声子音字とその発音　【パッチム】
10回　連音化、激音化、濃音化　【音の変化】
11回　連音化、激音化、濃音化　【音の変化】
12回　辞書を引いてみよう　【辞典の引き方】
13回　自己紹介　【指定詞の丁寧形】
14回　自己紹介　【指定詞の丁寧形】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50％ / 平常点50％（小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

朝鮮語I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor　金　貞淑 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書　/Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩　改訂版』、白水社（2010年３月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前期の復習
2回　会社員ではありません【体言否定】
3回　どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
4回　どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
5回　暑くありません【用言の否定形】
6回　誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
7回　誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
8回　どこで住んでいますか【動詞の連用形】
9回　どこで住んでいますか【動詞の連用形】
10回　先生、いらっしゃいますか【敬語】
11回　何をしましたか【過去形】
12回　何をしましたか【過去形】
13回　何を召し上がりますか【意志・推量形】
14回　何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50％ / 平常点50％（小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を読みながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意　/Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

朝鮮語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード　/Keywords

朝鮮語III 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要　/Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書　/Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
2回　文字の発音及び書き順１【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
3回　文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
4回　文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
5回　単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
6回　発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
7回　発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
8回　発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
9回　自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
10回　簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
11回　疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
12回　韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
13回　存在詞、場所名、ゼスチュアー位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
14回　指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題…50%　　期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていきますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要　/Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書　/Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語IIIの学習内容確認、丁寧形１【自己紹介】【授業で必要な言葉】
2回　助詞１【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字１【【おいくらですか】【買い物】
3回　助詞２、漢数字２【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
4回　時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
5回　丁寧形２【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
6回　丁寧形２【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
7回　「해요体」の不規則、固有数字１【一つ、二つ．．．】
8回　「해요体」のドリル、固有数字２【おいくつですか】
9回　時刻【（固有数字）時（漢数字）分】【何時ですか】
10回　数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
11回　希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
12回　否定及び不可能表現【ペアの質問と応答練習】【못～,～지 못해요】
13回　過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
　　過去形の否定及び不可能表現【～지 않았어요.】【～지 못했어요.】
14回　会話テスト（韓国語でグループ発表）、民族遊び
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題…40%　会話テスト…20%　期末試験…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語V 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語V	KRN201F

授業の概要　/Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語I・II』の復習
第 3回目　第１課　フランスから来ました【文法、単語】
第 4回目　第１課　フランスから来ました【練習問題、スキット】
第 5回目　第２課　家族は何名様ですか【文法、単語】
第 6回目　第２課　家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
第 7回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
第 8回目　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
第11回目　第４課　野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
第12回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
第13回目　第５課　夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　50%　定期試験　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

朝鮮語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要　/Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書　/Textbooks

おはよう韓国語２（崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回目　オリエンテーション
第 2回目　『朝鮮語V』の復習
第 3回目　第６課　どのように行けばいいですか【文法、単語】
第 4回目　第６課　どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
第 5回目　第７課　写真を添付しますよ【文法、単語】
第 6回目　第７課　写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
第 7回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
第 8回目　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
第 9回目　【復　習】
第10回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
第11回目　第９課　どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
第12回目　第10課　何にも聞いていませんが【文法、単語】
第13回目　第10課　何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
第14回目　【復　習】
第15回目　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　50%　定期試験　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

朝鮮語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VII	KRN202 F

授業の概要　/Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書　/Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外２

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション、シラバス紹介
２．インタビューする
３．インタビューする
４．自己紹介する
５．自己紹介する
６．自己紹介する
７．決まりを言う
８．決まりを言う
９．約束をする
１０．約束をする
１１．約束をする
１２．道案内をする
１３．道案内をする
１４．道案内をする
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　50%　定期試験　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　チャン　ユンヒャン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 ２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅷ	KRN212F

授業の概要　/Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書　/Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外２

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　前期の復習
２回　感想を言う
３回　感想を言う
４回　買い物をする
５回　買い物をする
６回　買い物をする
７回　プレゼントをする
８回　プレゼントをする
９回体の具合を言う
１０回体の具合を言う
１１回体の具合を言う
１２回勉強の仕方を話す
１３回勉強の仕方を話す
１４回勉強の仕方を話す
１５回まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

発表・課題・小テスト　40%　定期試験　40%　会話試験　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード　/Keywords

ロシア語I 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語 I	RUS101F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲　ナウカ出版　2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語概論、アルファベット
２回　文字と発音1：母音（１）（２）、子音(１)(２)、アクセント、母音の発音規則（１）
３回　文字と発音2：子音（３）（４）、硬子音と軟子音、母音の発音規則（２）、硬音記号と軟音記号
４回　文字と発音3：有声子音と無声子音、子音の発音規則、正書法の規則
５回　文字と発音4：数詞・月名などの発音練習、筆記体の書き方、かな音の転写法
６回　一課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
７回　一課後半　存在表現、場所の尋ね方、ロシア人の人名について、名前の尋ね方、練習問題
８回　二課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
９回　二課後半　人称代名詞、動詞の現在変化（１）、否定文、疑問文、名と愛称、練習問題
１０回　三課前半　テキストの読み、内容解説、 単語・語句の発音と解説
１１回　三課後半　名詞の性、所有代名詞、形容詞の変化（１）、指示代名詞、練習問題
１２回　四課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１３回　四課後半　名詞の複数形、形容詞の変化（２）、名詞類の格変化、前置格、場所表現、練習問題
１４回　五課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１５回　五課後半　動詞の現在変化（２）、対格、形容詞の変化（３）、不規則変化動詞、語順、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・ 課題… 20%　　授業参加の積極性 … 20%
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後、授業前に、これまで学習した重要な文法事項、語彙などの復習をすること。
小テスト、課題も課すので準備を怠らぬこと。

ロシア語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、このスタート時期の欠席は好ましくない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅱ	RUS111F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲　ナウカ出版　2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　一学期に習ったことの復習
２回　六課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
３回　六課後半　生格、所有表現、疑問文、定代名詞、形容詞の名詞化、練習問題
４回　七課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
５回　七課後半　再帰動詞、動詞過去形、形容詞短語尾形、特殊変化動詞、練習問題
６回　八課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
７回　八課後半　与格、不定代名詞、可能性・必要性表現、第二前置格、不規則変化動詞、練習問題
８回　九課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
９回　九課後半　動詞の未来形、無人称文、不定法構文、複文、数量生格、不規則変化動詞、練習問題
１０回　十課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１１回　十課後半　命令形、「・・が痛む」表現、否定生格、「何も・・ない」表現、練習問題
１２回　十一課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１３回　十一課後半　造格、無変化名詞、行く先・起点を表す前置詞句、定動詞・不定動詞、練習問題
１４回　十二課前半　テキストの読み、内容解説、単語・語句の発音と解説
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 60%　　小テスト・和文露訳課題 … 20%　　授業への参加度 … 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後、および授業前に、数回前まで遡って習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
小テスト、課題も課すのでその準備も怠らぬこと。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語III 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅲ	RUS102F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜著、アンナ・パーニナ校閲　ナウカ出版　2016年改訂版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
２回　ロシア語のアルファベット【交際】
３回　短文のイントネーション　【これは誰ですか】、【これは何ですか】
４回　簡単な問いと答え　【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
５回　数詞・月名などの発音練習、【自分の名前をロシア語で書く】
６回　第１課①　【ロシア人の名前】、【私の名前は。。。です】
７回　第１課②　会話の練習
８回　第２課①　【私は手紙を読んでいます】、【動詞現在変化】
９回　第２課②　【私はロシア語を勉強しています】
１０回　第２課③　会話の練習
１１回　第３課①　【家族の紹介】、【名詞の性】
１２回　第３課②　【これは私たちの両親です】、【形容詞の性数変化①】
１３回　第４課①　【私の鉛筆はどこにありますか？】、【名詞の前置格】
１４回　第４課②　【名詞の複数形】、【形容詞の性数変化②】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…８０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書　/Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第5課①　【私は英語で話す】、【名詞の対格】
２回　第5課②　【私はスペイン語を勉強したいと思います】、【形容詞の性数変化③】
３回　第5課③　会話の練習
４回　第6課①　【私は質問があります】、【名詞の生格①】
５回　第6課②　【名詞の生格②】
６回　第6課③　会話の練習
７回　第7課①　【日常生活】、【-СЯ 動詞】
８回　第7課②　【動詞の過去形】
９回　第7課③　会話の練習
１０回　第8課①　【父が私のところに電話してきました】、【与格】
１１回　第8課②　【。。。できる】、【。。。しなければならない、。。。する必要がある】
１２回　第8課③　会話の練習
１３回　第9課①　【動詞の未来形】、【無人称文】
１４回　第9課②　【 夏休みの計画】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…８０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題 …１０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語V 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語V	RUS201F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書　/Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 ＜СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ＞名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
２回 ＜МАМА И ФУТБОЛ＞多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
３回 ＜МАТЬ＞　関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
４回 ＜САЛЮТ＞　複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
５回 ＜ГИПНО'З＞　不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
６回 ＜ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР＞　願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
７回 ＜ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН＞　動詞の格支配、複文、否定生格
８回 ＜ДОМ ОТДЫХА＞　時の表現、動詞の体
９回 ＜БАБУШКА И ВОВКА＞　動詞の格支配、不規則変化動詞
１０回 ＜ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ＞　複文、動詞の体
１１回 ＜О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ＞　年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
１２回 ＜КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД＞　不定法構文、無人称文
１３回 ＜ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК＞　個数詞＋形容詞＋名詞の語結合、所有形容詞
１４回 ＜ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ＞「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
１５回 まとめと復習：構文

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験 … 50%　　授業参加の積極性 … 50 %
（欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課すので授業前準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

ロシア語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VI	RUS211F

授業の概要　/Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ГОСТИНИЦА　その1　読み、訳、練習問題　ロシアのことわざ「自己抑制について」
２回　ГОСТИНИЦА　その2　読み、訳、練習問題　ロシアの白樺
３回　СТОЛОВАЯ　その1　読み、訳、練習問題　ロシア人メンタリティ特徴（１）
４回　СТОЛОВАЯ　その2　読み、訳、練習問題　ロシア人メンタリティ特徴（２）
５回　ГАСТРОНОМ　読み、訳、練習問題　フィンランドへの旅
６回　УНИВЕРМАГ　読み、訳、練習問題　異民族間婚姻（１）
７回　ТРАНСПОРТ　読み、訳、練習問題　異民族間婚姻（２）
８回　ПОЧТА　読み、訳、練習問題　パブロフ「若者への書簡」
９回　ТЕЛЕФОН　読み、訳、練習問題　若いジャーナリストとの出会い
１０回　ВОКЗАЛ　読み、訳、練習問題　「花束」
１１回　ПОЛИКЛИНИКА　読み、訳、練習問題　「イワン・ペトロ-ビッチとの対話」
１２回　ПАРИКМАХЕРСКАЯ　読み、訳、練習問題　チェーホフ短編「別荘で」
１３回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その1　読み、訳、練習問題
１４回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その2　読み、訳、練習問題
１５回　ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ　その3　読み、訳、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験５０％、授業での発表　５０％
（全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ロシア語VI 【昼】

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要　/Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り･会話」と「作文」に重点を置く。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第５課の復習
2回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
3回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
4回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
5回　第７課①　【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
6回　第７課②　【気温】、【雨が降る】
7回　第７課③　【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
8回　ビデオ学習①【В ГОСТИНИЦЕ】
9回　ビデオ学習②　会話練習
10回　第８課①　【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
11回　第８課②　【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
12回　第８課③　【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
13回　ビデオ学習③【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
14回　ビデオ学習④　会話練習、　作文【Я И СПОРТ】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語 彙、表現などの復習をすること。

ロシア語VII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VIII	RUS212F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第９課①　【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】　2回　第９課②　【買い物】、【値段】
3回　第９課③　会話練習
4回　ビデオ学習①　【В ГОСТЯХ】
5回　ビデオ学習②　会話練習【В ГОСТЯХ】
6回　ビデオ学習③　作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ 】
7回　第１０課①【モスクワの町】
8回　第１０課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
9回　第１０課③【モスクワの町】、【単文と複文】
10回　第１０課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
11回　読み物①　12回　読み物②
13回　読み物③
14回　練習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語 彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修してくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　古賀　正之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ｉ	GRM101Ｆ

授業の概要　/Course Description

現代のドイツは拡大したＥＵ（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書　/Textbooks

『アプファールト＜ノイ＞　スキットで学ぶドイツ語』　飯田道子・江口直光　三修社　２,４００円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　テーマ：あいさつ(１)　文法：人称代名詞
第2回　テーマ：人と知り合う　文法：動詞の現在人称変化（規則動詞，sein）
第3回　テーマ：紹介(名前･出身地･居住地･職業･趣味)　文法：疑問文の種類と答え方
第4回　テーマ：時刻 / あいさつ(２) / 時を表す表現　文法：動詞の現在人称変化（haben）
第5回　テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号　文法：動詞の現在人称変化（不規則動詞）
第6回　テーマ：食べ物と飲み物 / メール　文法：定動詞第２位の原則，疑問文の語順
第7回　テーマ：道の尋ね方・答え方　文法：duとSie / 命令形
第8回　テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など　文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
第9回　テーマ：～してください　文法：冠詞と名詞の格変化（１・４格）
第10回　テーマ：持ってる？　持ってない？　文法：否定冠詞と所有冠詞（１．４格）
第11回　テーマ：買い物 / 値段　文法：名詞と冠詞の３格 / 複数形
第12回　テーマ：プレゼント　文法：人称代名詞の格変化
第13回　テーマ：気に入った？　文法：前置詞（１）
第14回　テーマ：家族・親戚　文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%
日常の授業への取り組み　50%

ドイツ語I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV　「テレビでドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意　/Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード　/Keywords

パートナー練習　役割練習　正確な発音と初級文法の習得　楽しく学習

ドイツ語II 【昼】

担当者名 /Instructor　古賀　正之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要　/Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書　/Textbooks

『アプファールト＜ノイ＞　スキットで学ぶドイツ語』　飯田道子・江口直光　三修社　２,４００円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　テーマ：週末や休暇の予定　文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
第2回　テーマ：天候　文法：話法の助動詞 / 非人称のes
第3回　テーマ：一日の行動・日常生活　文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
第4回　テーマ：過去のできごと（１）　文法：過去分詞
第5回　テーマ：時を表す表現（２）　文法：現在完了
第6回　テーマ：過去のできごと（２）　文法：過去基本形 / 過去時制
第7回　テーマ：位置の表現　文法：前置詞（２）
第8回　テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン　文法：es gibt…
第9回　テーマ：修理 / 家事　文法：受動文
第10回　テーマ：開店時間・閉店時間　文法：再帰代名詞と再帰動詞
第11回　テーマ：料理 / 比較の表現　文法：比較級・最上級
第12回　テーマ：病気 / 色彩　文法：zu不定詞句
第13回　テーマ：ふたつの文をひとつにする　文法：従属の接続詞と副文
第14回　テーマ：非現実の仮定　文法：接続法２式（非現実話法）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み５０％　　期末試験 ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV　「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提にして行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード　/Keywords

パートナー練習　役割練習　正確な発音と初級文法の習得　楽しく学習

ドイツ語III 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅲ	GRM102F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、１・２人称、】
２回　名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
３回　紹介、数字、電話番号【３人称、数詞】
４回　各国の国名、車のナンバープート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
５回　履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
６回　ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
７回　趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
８回　ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
９回　好物、外国料理【接続詞】
１０回　ドイツの食事【頻度を表す副詞】
１１回　家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、１（主）格】
１２回　ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
２回　傘はドイツ語でなんと言うか【４（直接目的）格】
３回　住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の３格、】
４回　家賃はいくらですか、部屋の広さは
５回　時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
６回　日付、曜日、誕生日、今週の予定
７回　大学の建物、道案内、【副詞】
８回　交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
９回　休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
１０回　ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
１１回　過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
１２回　クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun（発音：ツァウン、「垣根」）とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語IV 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語V	GRM201F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
２回　駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
３回　私達は注文したいのですが。【レストランで】
４回　部屋は空いていますか？【ホテルで】
５回　郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
６回　円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
７回　フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
８回　ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
９回　どこが悪いのですか？【病気】
１０回　頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
１１回　君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
１２回　ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
１３回　ドイツ語でクロスワード遊び。
１４回　一日の活動を日記に書く。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　パーティーに何を着ますか？【服装】
２回　このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
３回　家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
４回　ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
５回　ここで犬を放してはいけません。【禁止】
６回　何歳になったら何ができますか？【選挙権】
７回　ドイツの学校制度。【教育】
８回　パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
９回　あなたは何に興味がありますか？【職業】
１０回　イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
１１回　イースターのウサギが語ります【祭り】
１２回　君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
１３回　君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
１４回　クリスマスクッキーの作り方。
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語Ⅶ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅶ	GRM202F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
２回　人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
３回　軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
６回　相手の言うことが聞き取れないとき
７回　理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くとき
８回　綴りを聞くとき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　場所を聞くとき、道順・方向を聞くとき、距離を聞くとき
１１回　時刻を聞くとき、時間を聞くとき、曜日を聞くとき、日付を聞くとき
１２回　値段を聞くとき、数量を聞くとき、方法を聞くとき、理由を聞くとき
１３回　目的を聞くとき、住所を聞くとき、出身地を聞くとき、生年月日を聞くとき
１４回　ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VIII	GRM212F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
２回　両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
３回　服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
６回　自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
７回　相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
８回　予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
１１回　会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
１２回　自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
１３回　贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
１４回　ドイツビデオ、１０回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅰ	FRN101F

授業の概要　/Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。１学期は「実用フランス語検定５級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書　/Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！１』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２４００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１２課、配列に従って原則二回で１課進み、1学期は第６課まで終了。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　フランス語の発音とつづり字
２回　国籍・職業をいう
３回　主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
４回　名前・持ち物をいう
５回　動詞 avoir と冠詞の使い方
６回　友人・家族を紹介する
７回　第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
８回　疑問文の作り方
９回　人・物を説明する
１０回　形容詞の使い方
１１回　電話をかける、近い未来・過去についていう
１２回　指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
１３回　人、物、場所、時についてたずねる
１４回　疑問詞の使い方
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属ＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも２回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻･ 途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書　/Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！１』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２４００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１２課、配列に従って２学期は第７課から第１２課まで。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　食べ物・飲み物についていう
２回　部分冠詞、数量の表現について
３回　時刻・天候についていう
４回　疑問形容詞と命令形
５回　非人称構文と第二群規則動詞について
６回　人・物を比較する
７回　比較級と最上級の表現
８回　人を紹介する
９回　補語人称代名詞の使い方
１０回　代名動詞について
１１回　過去のことを話す
１２回　複合過去の作り方
１３回　未来のことを話す
１４回　単純未来の作り方
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
１学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻･ 途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語III 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　中川　裕二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅲ	FRN102F

授業の概要　/Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてなによりもフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはＣＤを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書　/Textbooks

ボンジュール・フランス　ー言語と文化で学ぶフランス語基礎文法ー　森　繁　著、朝日出版社　刊

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　フランス語の子音と母音
２回　あいさつ
３回　自己紹介
４回　年齢、趣味
５回　質問する（１）
６回　質問する（２）
７回　ものや人物の説明（１）
８回　ものや人物の説明（２）
９回　復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
10回　予定
11回　過去のことを言う（１）
12回　過去のことを言う（２）
13回　時間と天候
14回　依頼する
15回　復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法　/Assessment Method

講義中の課題（50％）、学期末試験の結果（50％)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験５級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Ｃを保証します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

フランス語III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　中川　裕二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要　/Course Description

１学期と同じく基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書　/Textbooks

ボンジュール・フランス　ー言語と文化で学ぶ新フランス語基礎文法ー、粟国　孝　著、朝日出版社　刊

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　贈り物をする（１）
２回　贈り物をする（２）
３回　日常の行動（１）
４回　日常の行動（２）
５回　旅行する
６回　過去のことを言う（３）
７回　過去のことを言う（４）
８回　復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想）
９回　未来の計画（１）
10回　未来の計画（２）
11回　未来の計画（３）
12回　街を歩く
13回　夢を語る
14回　感情を表現する
15回　復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想）

成績評価の方法　/Assessment Method

講義中の課題（50%)と学期末試験の結果（50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験４級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Ｃを保証します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

フランス語IV 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード　/Keywords

フランス語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語V	FRN201F

授業の概要　/Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ　フランスの世界遺産と食文化を巡る旅２』藤田裕二著（朝日出版　２０１７年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　受動態
２回目　なぜ？ーなぜなら、の表現　（１課終了）
３回目　形容詞の最上級
４回目　関係代名詞１　（２課終了）
５回目　関係代名詞２
６回目　勧誘と応答の表現　（３課終了）
７回目　疑問代名詞
８回目　不定代名詞 on（４課終了）
９回目　条件法現在
１０回目　条件法過去　（５課終了）
１１回目　代名動詞の複合過去
１２回目　複合過去復習　過去分詞の性数一致　（６課終了）
１３回目　半過去
１４回目　指示代名詞　ce　（７課終了）
１５回目　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：２０％　小テスト：２０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にはテキスト準拠ホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

辞書（紙でも電子でもよい）を必携すること

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語V 【昼】

キーワード　/Keywords

フランス語VI 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor	坂田　由紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	英中国済営比人律政２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語VI	FRN211F

授業の概要　/Course Description

１学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書　/Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ　フランスの世界遺産と食を巡る旅２』藤田裕二著　（朝日出版社　２０１７年　２５００円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目　接続法現在
２回目　「～のように見える」の表現　（８課終了）
３回目　位置を表す前置詞
４回目　勧誘・提案の表現３　（９課終了）
５回目　現在分詞
６回目　ジェロンディフ　（１０課終了）
７回目　副詞について
８回目　時と場所の副詞　（１１課終了）
９回目　所有代名詞
１０回目　お礼の表現　（１２課終了）
１１回目　間接話法
１２回目　時制の一致　（１３課終了）
１３回目　強調構文
１４回目　時を表す前置詞句　（１４課終了）
１５回目　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点：２０％　小テスト：２０％　定期試験：６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を必携すること。

フランス語VI 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅶ	FRN202F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１) unité 1 : 自己紹介 (前半)
２) unité 1 : 自己紹介 (後半)
３) unité 1 : 自己紹介 (復習)、読解
４) unité 2 : 質問する (前半)
５) unité 2 : 質問する (後半)
６) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
７) unité 3 : 買い物をする (前半)
８) unité 3 : 買い物をする (後半)
９) unité 3 : 買い物をする (復習)、聞き取り
１０) unité 4 : いつ (前半)
１１) unité 4 : いつ (後半)
１２) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
１３) unité 5 : どこ (前半)
１４) unité 5 : どこ (後半)
１５) 前期の復習、小テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・ ２０％
小テスト・・・ ６０％
期末テスト・・・ ２０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

フランス語VII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要　/Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書　/Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
２) unité 6 : 誰 (後半)
３) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
４) unité 7 : 何 (前半)
５) unité 7 : 何 (後半)
６) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
７) unité 8 : どのように (前半)
８) unité 8 : どのように (後半)
９) unité 8 : どのように (復習)、読解
１０) unité 9 : 過去について (前半)
１１) unité 9 : 過去について (後半)
１２) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
１３) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
１４) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
１５) 後期の復習、プレゼンテーション

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・ ２０％
小テスト・・・ ４０％
プレゼンテーション、レポート・・・ ４０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

フランス語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スペイン語I 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　岡住　正秀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語 I	SPN101F

授業の概要　/Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは５つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。
またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書　/Textbooks

『初級スペイン語文法』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
2回　５つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
3回　名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
4回　人称代名詞、一般動詞の活用（３つのタイプ）：直説法現在
５回　一般動詞の活用（１）と基本文例、肯定文、否定文
6回　一般動詞の活用（２）と基本文例、　否定文、疑問文
7回　一般動詞の活用（３）と基本文例、目的語と前置詞a
8回　一般動詞の復習、形容詞
9回　ser動詞とestar動詞（１）
10回　ser動詞とestar動詞（２）およびhayについて
11回　不規則動詞活用（１）、指示詞
12回　不規則動詞活用（２）、所有詞と接続詞
13回　短文を読む（１）
14回　短文を読む（２）
15回　復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

外国語の学習には辞典が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習･ 復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード　/Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor　岡住　正秀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要　/Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　スペイン語Ⅰの復習
2回　直説法現在ー不規則動詞活用、人称代名詞目的格
3回　直接目的格と間接目的格
4回　前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞（１）
5回　gustar型の動詞（２）
6回　再帰動詞（１）とその文例
7回　再帰動詞（２）とその文例
8回　無人称表現、曜日・日付の表現
9回　命令法、不定詞
10回　過去分詞・現在分詞を使った表現
11回　直説法点過去（規則活用）
12回　受動文、現在完了
13回　直説法点過去（不規則型）
14回　特殊な動詞（知覚・使役・放任など）
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

辞典は必須です。必ず授業の前に、単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

履修上の注意　/Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

スペイン語II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペインもイスパノアメリカも「情熱の国です！」。熱意でスペイン語に挑戦！

キーワード　/Keywords

スペイン語III 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅲ	SPN102F

授業の概要　/Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・ 会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは３ - ４人のグループでの会話練習を行います。
スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・ 発音・ アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書　/Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・ 和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
２回　スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
３回　１課　主語とser動詞、肯定文・ 否定文。名前・ 国籍・ 職業を言う「私はソニアです。」
４回　estar動詞、疑問文「元気ですか？」
５回　２課　名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはフアンです。」
６回　数字1 - 100「消防の電話番号は？」
７回　３課　規則活用動詞1　「わたしは文学を学んでいます。」
８回　規則活用動詞2　「スペイン語を話しますか？」
９回　４課　ser,estar,hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
１０回　ir動詞　「どこに行きますか？」
１１回　５課　gustar動詞　「好きな食べ物は？」
１２回　料理の注文　「メキシコ料理は好きですか？」
１３回　６課　家族について　「私の祖父はホルヘです。」
１４回　家族について　tener動詞　「兄弟はいますか？」
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　小テスト　30%、　日常の授業への取り組み　20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

スペイン語I（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。
また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がるＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心。）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要　/Course Description

スペイン語IIIの続きから、更に表現を学んでいきます。IIIと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは３ - ４人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書　/Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはIIIの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
２回　7課　店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
３回　8課　「カルロスの家は3部屋で、トイレは２つあります。」
４回　　「住まいはどんなですか？」
５回　9課　時間表現「何時ですか？」
６回　　再帰動詞「何時におきますか？」
７回　　1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
８回　10課　大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
９回　　肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
１０回　　大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
１１回　11課　現在完了「週末はどうでしたか？」
１２回　　「美術館はどうでしたか？」
１３回　12課　休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
１４回　　「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
１５回　2学期まとめ

＊テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　小テスト　30%、　日常の授業への取り組み　20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

スペイン語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

スペイン語II（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。 また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト： http://www.rtve.es/
http://los40.com/
http://www.cadena100.es/

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor	青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語V	SPN201F

授業の概要　/Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語V 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 １年の復習（代名詞を中心に）
2 １年の復習（代名詞を中心に）
3 再帰動詞、無人称文など
4 再帰動詞、無人称文など
5 動詞の派生形とその用法（進行形、完了形、命令形など）
6 同上
7 ここまでの復習
8 点過去、現在完了の用法
9 同上
10 同上
11 線過去の用法
12 同上
13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
14 視聴覚教材を使って
15 同上
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材（プリント配布）を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語VI	SPN211F

授業の概要　/Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Ｖに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書　/Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。旧版なので生協では販売していません。もし所有していない場合は担当教員に相談して、直接購入して下さい。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 未来形とその関連時制の用法
2 同上
3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
4 同上
5 過去完了と時制の一致
6 受け身文、無人称文
7 同上
8 接続法の活用全般について
9 接続法の用法
10 接続法の用法
11 スペイン語版トトロを理解する
12 スペイン語版トトロを理解する
13 スペイン語版トトロを理解する
14 スペイン語版トトロを理解する
15 まとめ
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅶ	SPN202F

授業の概要　/Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布　（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前年度スペイン語の復習、自己紹介
2回　他人の紹介、人についての表現
3回　一日のスケジュール
4回　日常の紹介（１）
5回　日常の紹介（２）
6回　買い物（１）
7回　買い物（２）
8回　好きなこと
9回　食事について（１）パエージャの作り方
10回　食事について（２）
11回　旅行
12回　休暇の過ごし方　どこへ？
13回　スペイン語圏について
14回　町の紹介
15回　まとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み　50%

スペイン語VII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（I・II・III･IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと思っています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://los40.com/　（スペイン語圏に広がる音楽ＦＭ放送）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭ放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語　スペイン語圏　中南米　ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要　/Course Description

前期のスペイン語VIIをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や 音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。 会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書　/Textbooks

プリント配布
（テキスト購入不要）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・ 和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回　前期表現の復習、休暇中のこと
2回　さあ食べよう！ 今日の定食
3回　趣味の事（１）
4回　趣味のこと（２）
5回　仕事の紹介
6回　企業について
7回　旅行（１）
8回　旅行（２）
9回　過去の出来事（１）
10回　小さかった時
11回　過去の出来事（２）
12回　現在の推測
13回　スペイン語のDVDを理解する（１）
14回　スペイン語のDVDを理解する（２）
15回　まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

＊上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくること。また、指定されたＷｅｂ上のビデオを見て、字幕を読み予習をしてくること。
事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。
スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見ていきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか 推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることがで きるはずです。 また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/ など

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。並行して「読み」では、輪読形式で一冊の本を読み進め、日本語の本を最後まで読み通したという自信を持ってもらう。さらに、学期最後の一カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための２５のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan　Times)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　大学生生(1)【自己紹介から始めよう】
3回　大学生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】　読み(1)輪読
4回　大学生活(3)【キャンパスツアー】　読み(2)輪読
5回　大学生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】　読み(3)輪読
6回　大学生活(5)【図書館ツアー】　読み(4)輪読
7回　大学生活(6)【大学生活のデザイン】　読み(5)輪読
8回　大学生活(7)【講義の上手な受け方】　読み(6)輪読
9回　大学生活(8)【演習に参加するコツ】　読み(7)輪読
10回　大学生活(9)【大学の定期試験】　読み(8)輪読
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　30　%
ポートフォリオ評価　…　70%(学習者評価　30%　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活日本語　大学生活日本語　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　精読　チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション（書く）の能力を伸ばす。「対人性」と「場面生」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書　/Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』（由井紀久子他、凡人社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』（簗晶子他、The Japan Times）
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』（笠井淳子他、アスク）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
2回　アポイントをとる【PCメール】
3回　問い合わせる【PCメール】
4回　授業についてのコメントを書く【コメントシート】
5回　伝言する【メモ】
6回　誘う・誘われる【携帯メール】
7回　依頼する・依頼される【携帯メール】
8回　謝る【PCメール】
9回　お礼を言う【PCメール】
10回　報告する【PCメール】
11回　なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
12回　経験についての感想を書く【原稿用紙】
13回　募集する【チラシ】【掲示】
14回　アドバイスを求める【PCメール】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生（文学部比較文化学科日本語教師養成課程）が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

プロフィシエンシー　書く　対人性　場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor　徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体の感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書　/Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション
　　ＴＡＥ「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
2回　「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
3回　「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
4回　「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
5回　「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
6回　「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
7回　「初級編」【励ます言葉のワーク】
8回　「初級編」【マイセンテンス】
9回　「中級編」【パターンを見つける】
10回　「中級編」【パターンを交差させる】
11回　「中級編」【自己PR文を作ろう】
12回　「中級編」【資料を使って論じよう】
13回　「中級編」【経験から論じよう】
14回　「中級編」【感想文を書こう】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み・・・30%　発表・課題・・・30%　自己評価…20%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っていてください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

TAE　身体の感じ　日本語の私　母語の私

日本語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IVでは、特に「プレゼンテーション」に焦点を当てる。自己表現の手段としてのプレゼンテーション能力について「説明」と「説得」の二つの側面を考えながら育成する。さらに、日本語I同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『プラクティカル・プレゼンテーション(改訂版)』(上村和美他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『アカデミックプレゼンテーション入門』(三浦香苗他、ひつじ書房)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　セルフチェックしよう【発表・評価】
3回　国際空港の中を説明しよう【サンドイッチ構成】
4回　レシートのコンテンツを発表しよう【マトリックス思考】
5回　国際会議場の使用プランを立てよう【問題点と解決策】
6回　レジュメを作ろう【要点】
7回　パワーポイントを作成しよう【デジタル・プレゼンテーション】
8回　発表しよう・コメント/質問しよう【質疑応答】
9回　発表についてセルフチェックしよう【自己評価】
10回　同窓会の幹事をしよう【企画・進行】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…30%
ポートフォリオ評価　…70%(自己評価　30%　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVと日本語V、日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

デジタル・プレゼンテーション　Contents(内容)　Techniques(技術)　Tools(道具)

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書　/Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探す	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン①	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン②	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン③	
15回	総括	

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　　授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論理的思考　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・リーディング　スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　徐　暁輝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　自己PR(1)【自分を伝える】
３回　自己PR(2)【情報を整理する】
４回　自己PR(3)【スピーチの準備をする】
５回　自己PR(4)【スピーチをする】
６回　自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
７回　ブック・トーク(1)【情報を探す】
８回　ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
９回　ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
10回　ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回　ブック・トーク(5)【発表する】
12回　ブック・レポート(1)【書く】
13回　ブック・レポート(2)【内容を検討する】
14回　ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
15回　総括【全体を振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…40%
ポートフォリオ評価　…60%(自己評価　30%　ピア評価　30%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・ラーニング　相互リソース化　批判的思考の獲得　社会的関係の構築

日本語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『協働で学ぶクリティカル・リーディング』（舘岡洋子他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○『ひとりで読むことからピア･リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（舘岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
2回　私と外国語学習(1)【日本語が上手になるには】
3回　私と外国語学習(2)【外国語上達法】
4回　私と外国語学習(3)【外国語学】
5回　私と国(1)【さまよえる老婆】
6回　私と国(2)【越えてきた者の記録】
7回　私と異文化(1)【文化と理解I】
8回　私と異文化(2)【文化と理解II】
9回　私と異文化(3)【世界中がハンバーガー】
10回　私と学校【なぜ子どもは学校に行かねばならないのか】
11回　私と他者(1)【情けは人のためならず】
12回　私と他者(2)-1【自分だけのつぶやきを人に話してもいいの】
13回　私と他者(2)-2【「他人に嫌われること」をきにしてはいけないの】
14回　私と他者(3)【あなたなしでは生きてゆけない】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　課題…40%　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各ユニットの予習シートを事前学習として行います。また、同様に各ユニットのまとめ提出シートを事後学習として行います。

履修上の注意　/Remarks

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。
日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

クリティカル・リーディングは、あらゆる分野において、大学における勉学の基本になります。

キーワード　/Keywords

クリティカル・リーディング　ピア・ラーニング　対話による思考のサイクル

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』（大島弥生他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○『レポートの組み立て方』（木下是雄、筑摩書房）
○『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 回　授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
2回　レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
3回　レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
4回　情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
5回　目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
6回　アウトラインを作る【序論・本論・結論】
7回　パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
8回　パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
9回　文章を点検する【校正/表現の点検】
10回　文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
11回　レポートの完成【体裁】
12回　発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
13回　発表する【話し手/聴き手/司会】
14回　発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
15回　学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　　レポート・発表…40%　　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

論証型レポート　ピア・ラーニング　論理的思考

日本事情（人文）A 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。
具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。
授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書　/Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
○『「お茶」の学びと人間教育』(梶田叡一、淡交社)
○『表千家茶道十二か月』(千宗左、日本放送出版協会)
○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
○『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
2回　茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
3回　茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
4回　茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
5回　茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
6回　歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
7回　歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
8回　歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
9回　歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
10回　歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
11回　歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
12回　歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
13回　伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
14回　伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート　…　60%　　自己評価　…　20%　　ピア評価　…　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

学期の途中、6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業開始前まえに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には授業内容を復習すること。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。受講者数にもよるが、着付けも授業で練習する。

キーワード　/Keywords

茶道　歌舞伎　日本文化　自文化　異文化　伝統文化　現代生活　サブカルチャー　文化の伝承

日本事情（人文）B 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情ー異文化を超えるー』明石書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　「境目」を読む
３回　「境目」について話し合う
４回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
５回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
６回　「ことばと文化を結ぶために」を読む
７回　「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
８回　文化観を比較する
９回　レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
10回　ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
11回　レポートの作成(2)修正する
12回　ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
13回　レポートの作成(3)修正する
14回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　テスト…30%　授業への取り組み（発表や課題を含む）…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意　/Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文化　比較　交換

日本事情（社会）A 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

ビジネスケースメソッドを用いて、実在する企業のビジネスケースを題材とするグローバリゼーションやローカライゼーションを考えて生きます。具体的には、ディスカッションを通して分析能力や批判力を養うと同時にコミュニケーションスキルも伸ばして生きます。つまり、内容と言語を統合した学習を行うことにより、より高度な日本語能力の育成も図っているのです。
実在する企業を題材とすることで学習内容がテキストに限定されずに、具体的かつリアリティのあるものになり、また最新の情報を授業の中に取り入れることも可能になります。そして、多国に展開するグローバル企業の日本における戦略を考察することで、日本の社会や文化に対する理解を新たにすることが期待されます。

教科書　/Textbooks

『ビジネスケースで学ぶ日本語』(筒井通雄監修・高見智子著、TheJapanTimes)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ケース･スタディ　日本企業事例集』(ハーバード･ビジネス･スクール著、ダイヤモンド社)
○『日本型企業文化論-水平的集団主義の理論と実証』(佐藤和著、慶應義塾大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業オリエンテーション
２回　「1.日本コカ・コーラ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
３回　「1.日本コカ・コーラ」②読み物：内容理解
４回　「1.日本コカ・コーラ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
５回　「2．任天堂」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
６回　「2．任天堂」②読み物：内容理解
７回　「2．任天堂」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
８回　「3.コーチ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
９回　「3.コーチ」②読み物：内容理解
１０回　「3.コーチ」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
１１回　「4.ウォルマート」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
１２回　「4.ウォルマート」②読み物：内容理解
１３回　「4.ウォルマート」③タスク：ジグソー、ディスカッション、意思決定・問題解決
１４回　「5.トヨタ」①前作業：スキーマビルディング、資料の読み取り
１５回　「5.トヨタ」②読み物：内容理解

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　ポートフォリオ評価…70%(自己評価30%　ピア評価20%　教員評価20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業では、予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
各企業に対する理解を深めた後で、学びの統合を行います。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
この授業ではポートフォリオを作成します。必ず、この授業専用のファイルを１つ用意してください。
（ポートフォリオの内容については１回目の授業オリエンテーションで詳しく説明します。）
日本語の文法・語彙などは、チューター学生とともに予習・復習をしてください。

日本事情（社会）A 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ビジネスについて専門的に学ぶ授業ではありませんが、誰もが知っている実際の企業について、情報を収集し、日本語で読み、日本語で考え、日本語で話す合うことによって、知識(内容)と言語の両方を伸ばすことのできる授業です。皆さんの、主体的かつ協同的な学習姿勢を期待しています。

キーワード　/Keywords

内容言語統合学習　ケースメソッド　日本語運用能力　インプットからアウトプットへ　グローバル企業

日本事情（社会）B 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋げられるように、クリティカル･リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岡益巳･ 深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
○坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
○葛文綺『中国人留学生･ 研修生の異文化適応』溪水社
　吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
○榎本博明（2002）『＜ほんとうの自分＞のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
○高松里（2015）『ライフストーリー･レビュー入門』創元社

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業オリエンテーション
第２回　「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル･リーディングの復習
第３回　クリティカル･リーディングの実践：研究論文を読む
第４回　留学生や元留学生にまつわる言説（１）日本社会の中の外国人という視点から
第５回　言説の考察（１）
第６回　留学生や元留学生にまつわる言説（２）留学の意義と留学に対する評価の視点から
第７回　言説の考察（２）
第８回　自己物語とアイデンティティ
第９回　自己物語を書こう（１）自己物語の実際
第１０回　自己物語を書こう（２）自己物語の書き方
第１１回　自己物語を読もう（１）論理実証モードと物語モード
第１２回　自己物語を読もう（２）共感から共鳴へ
第１３回　自己物語を語り直そう
第１４回　留学生のキャリア発達
第１５回　「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　課題…30%　　レポート40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日本事情（社会）B 【昼】

キーワード /Keywords
言説　留学生のキャリア発達　自己物語

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論	LAW100M

授業の概要　/Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
１．社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
２．こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書　/Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成28年版』(有斐閣・2015年)
※ 基本的に配布するレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書：○)
笹倉秀夫『法学講義』(東京大学出版会・2014年)(図書館蔵書：○)
※ このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

・第1回　ガイダンス
・第2回　法とは何か（１）【法の存在形式】
・第3回　法とは何か（２）【法と道徳】【法と正義】
・第4回　法とは何か（３）【法と強制】【法の機能】
・第5回　裁判と法（１）【裁判制度と裁判手続】
・第6回　裁判と法（２）【法の解釈】
・第7回　裁判と法（３）【国民の司法参加】
・第8回　国家と法（１）【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
・第9回　国家と法（２）【日本国憲法の基本構造】
・第10回　刑事法【刑法の基本原理】【犯罪と法】
・第11回　民事法（１）【財産と法】【契約の主体と客体】
・第12回　民事法（２）【家族関係と法】
・第13回　資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
・第14回　国際社会と法【国際法の諸原則】
・第15回　講義のまとめ
※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
１．平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30％）
２．講義全体の内容についての期末テスト（全体の70％）

法学総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

【諸注意】
・受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
・質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

現代法曹論I 【昼】

担当者名 /Instructor　川上　修 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論Ⅰ	LAW200M

授業の概要　/Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて，法曹三者（裁判官，検察官，弁護士）及び法律に携わる様々な職業（司法書士など）の役割と現代的意義を理解することを目的とします。
講義の他に，法律実務家による講演を予定しています。法律実務家の生の声を聞くことで，各職業の内容だけでなく，やりがいや苦労についても知ることができます。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　法曹三者についての基礎知識
２回　「裁判官の業務と現代的意義(1)」「司法権」
３回　「裁判官の業務と現代的意義(2)」「非訟、訴訟」
４回　裁判官講師による講演
５回　「検察官の業務と現代的意義(1)」「公益の代表者」「起訴独占主義」「起訴便宜主義」
６回　「検察官の業務と現代的意義(2)」「捜査」「公判」
７回　検察官講師による講演
８回　「弁護士の業務と現代的意義(1)」「弁護士自治」
９回　「弁護士の業務と現代的意義(2)」「代理人」「民事裁判」「刑事弁護」
１０回　弁護士講師による講演
１１回　刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割
１２回　民事裁判手続きにおける法曹の役割
１３回　ビジネス法務と法曹の役割
１４回　周辺他種業講師による講演（司法書士を予定）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講演後のレポート・・７０％
定期試験・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テーマとなっている職業の特徴を事前に調べておくこと。
それぞれの職業の立場の違いを意識して、各種法律を学ぶこと。

履修上の注意　/Remarks

現代法曹論I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

外部講師の都合によって，スケジュールが変更になることがあるので，注意してください。
講演のときの遅刻，早退，私語は，講師に失礼となるので厳禁です。
第一線で活躍する法律実務家の生の声を聞くことができる貴重な機会になると思います。講演終了後に質疑応答の時間を設けますので，積極的に質問や意見をぶつけてみてください。

キーワード　/Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor　天久　泰 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論Ⅱ	LAW201M

授業の概要　/Course Description

「法曹」とは裁判官、検察官、弁護士の総称です。裁判員制度が８年前に始まり、市民と法曹との距離が一段と近くなりました。本講義では、刑事事件、少年事件、家事事件、労働事件、その他社会的な意義のある事件について、具体的なケースを通じて法曹に求められる技術、思考手順や実務の様子について学んでいただくことを目的とします。

教科書　/Textbooks

特に指定なし。適宜レジュメ、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（全15回）
第1回　法曹制度概説（歴史、養成過程、活躍の場面など）
第2回　刑事法（１）- 刑事裁判の仕組み
第3回　刑事法（２）- 弁護人の活動
第4回　刑事法（３）- 検察官の役割
第5回　刑事法（４）- 裁判員裁判、少年事件
第6回　民事法（１）- 民事事件の基礎（法律要件論等）
第7回　民事法（２）- 弁護士による事件処理
第8回　民事法（３）- 民事裁判の構造
第9回　民事法（４）- 離婚・相続
第10回　民事法（５）- 借金・負債の整理
第11回　労働事件
第12回　その他の事件（社会問題関連）
第13回　その他の事件（弁護士会の活動）
第14回　法曹界の現状、法曹に期待される役割
第15回　法曹の役割についてのまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験の成績で評価。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。また、新聞、テレビなどで報道される裁判・事件・社会問題について授業内容と関連づけて考えてみてください。

履修上の注意　/Remarks

不定期に授業の感想・疑問点・要望について簡単なリアクションペーパーを書いていただきます（成績評価とは無関係）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現代法曹論II 【昼】

キーワード　/Keywords

法律実務論I 【昼】

担当者名 /Instructor　本多　寿之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論Ⅰ	LAW390M

授業の概要　/Course Description

「街の身近な法律家」と呼ばれる司法書士の、主に不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きの実務について解説します。
不動産登記手続きでは、不動産取引の実際と、司法書士が安全な不動産取引の実現のため法律家として担っている役割、日本の不動産登記制度の持つ機能や効果と、登記簿、登記申請などについて解説をします。
民事・家事裁判手続きでは、これらの裁判手続きの特徴、、実際の民事裁判手続きがどのように進められるか、司法書士が市民の権利実現と紛争解決のために裁判手続きにおいて担っている役割などを解説します。
いずれも、民法などの実体法が社会生活でどのように適用され、そこで生じる権利が不動産登記法、民事訴訟法などの手続法によってどのように反映・実現されていくのか、司法書士の実務を通してより具体的なものとして理解することを大きな目的としています。
その他、司法書士制度の歴史、背景や役割、隣接法律専門職との関係などについても解説をします。
司法書士試験合格を目指す学生においては、関係法令の概要について学習ができ、実務内容を通して法令が適用される具体的な場面を知ることで、法令の理解に役立ちます。
また、司法書士試験の受験を考えていない学生においても、法律専門職の実務内容を通して、社会生活における法令の果たす機能のいくつかの例を理論的、具体的に学ぶことができます。
２学期に開講予定の、商業登記・成年後見を中心とした「法律実務論II」を受講すると、司法書士の実務の全体を学ぶことができます。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。
講義の進捗に応じ、講義レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　日本の法律専門職と司法書士
２回　司法書士の実務と民法との関係
３回　司法書士の実務の全体像
４回　不動産取引の実際
５回　不動産取引における司法書士の役割と不動産登記
６回　不動産登記法I (総論・登記簿等)
７回　不動産登記法II (登記申請・所有権の登記)
８回　不動産登記法III (登記申請・抵当権その他の登記)
９回　不動産取引と不動産登記 (まとめ)
１０回　民事・家事裁判手続きの種類と概要
１１回　民事訴訟I (民事訴訟の仕組み)
１２回　民事訴訟II (民事訴訟の実際・訴状の構成)
１３回　不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きと成年後見制度
１４回　司法書士制度の歴史、背景と隣接法律専門職との関係
１５回　まとめ

法律実務論I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

提出課題･･･ ２０％
学期末試験･･･ ７０％
日常の授業への取り組み･･･ １０％

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

本講義において、人々の生活において民法等が果たしている役割について解説したことを踏まえて、自分の普段の生活において、特に契約と債務の履行の場面で、日常の行為の一部と法令が関係していることを意識してください。また、契約書の例を挙げて、民法等の法令を確認している部分、または修正している部分等を解説するので、各種契約書を目にすることがあれば、民法等の法令との関係を考えてみてください。これらのことにより、社会生活における法令の果たす機能を実際に体験･ 実感でき本講義の理解が深まります。

履修上の注意　/Remarks

講義で配布したレジュメは、その後の講義で使用することがあるので、各自ファイリングして講義の際に必ず持参してください。
コンパクトなもので構いませんので民法が収録された六法を持参してください。
授業中に指示された予習･ 復習その他の授業外学習に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

民法を既に受講していた場合、本講義の理解がより深いものになります。
また、実務におけて民法が適用される場面を解説するので、これから民法の講義を受講する際に講義の理解に役立ちます。

キーワード　/Keywords

司法書士　不動産　登記　民事裁判　家事裁判　国家試験　成年後見

法律実務論II 【昼】

担当者名 /Instructor　細川　眞二 / ＨＯＳＯＫＡＷＡ　ＳＨＩＮＪＩ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論Ⅱ	LAW391M

授業の概要　/Course Description

司法書士試験を目指す学生に対して、司法書士の業務を紹介しながら、試験科目の一つである商業登記法に対応した講義を行います。また、将来会社設立を考えている学生にも、会社法と会社の登記がどのように連動しているのかを理解していただきます。さらに、司法書士の新しい業務である成年後見人やＡＤＲ（裁判外紛争解決手続）についても紹介します。

教科書　/Textbooks

商業登記法入門（有斐閣）神崎満治郎著
また、適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

成年後見教室（実務実践編・課題検討編）（成年後見センター・リーガルサポート編）日本加除出版　各￥２，５００
ＡＤＲ理論と実践（和田仁孝編）有斐閣　￥２，２００
調停への誘い（レビン小林久子）日本加除出版　￥２，０００

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　商業登記法概論
２回　会社設立①（取締役会設置会社）
３回　会社設立②（一人会社）
４回　会社の機関
５回　役員変更
６回　新株発行
７回　組織再編
８回　会社合併
９回　会社分割
１０回　その他の登記
１１回　成年後見制度と司法書士
１２回　任意後見・法定後見
１３回　成年後見制度の課題
１４回　ＡＤＲ制度と司法書士
１５回　メディエーション

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・５０％　日常の授業への取り組み・・３０％　小テスト・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に関連する会社法の条文を事前に目を通し、授業内容の復習を行うこと。

法律実務論II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「会社法」を既に授講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
民法の行為能力、後見、保佐、補助を理解していると本講義の理解が深まります。
法律実務論Iの不動産登記法を中心として司法書士講座を履修すると司法書士業務の全体が理解できます。
予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください（特に、下記のメッセージ欄も参照のこと）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実務で使う申請書、議事録、契約書などを多く配布するので、その整理や復習することが授業の理解をより高めますので注意してください。

キーワード　/Keywords

会社設立　役員変更　新株発行　合併　会社分割　成年後見制度　後見人　保佐人　補助人　ＡＤＲ　裁判外紛争解決手続　メディエーション　調停人

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

法学基礎演習Iの目標は、これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状とその問題点を理解しようとする際に必要かつ有益な能力を身につけることです。
具体的には、
(1)日常・非日常を問わず、家庭内あるいは全世界において生じている実際の事件や紛争、
そして、それらを解決するための法システムに含まれている法的な問題を発見する方法
(2)問題を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法
（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）
(3)集めた資料を分析する方法
(4)ゼミ内で口頭発表する方法
(5)論点について討論する方法

などを学びます。

教科書　/Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』 第3版（有斐閣・2009年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。
池田 眞朗 ほか著『判例学習のＡtoＺ』（有斐閣・2010年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ゼミの運営方針を確認する。授業の受け方・講義ノートの取り方・レポート作成上の注意を学ぶ。
第２回　パソコンを利用して情報を検索したり、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ。
第３回　各自、興味のある法律問題・事件について調べる。
そのうえで候補テーマに関して、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する。
第４回　各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
第５回　文献の要約の仕方を学ぶ。
第６回　報告書（レジュメ）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方について学習する。
報告者の順番を決める。
第７回　レポートの作成方法を学ぶ。
第８回～第15回　報告順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告５０％・ディスカッションへの参加度５０％
無断欠席、ならびに、正当な理由なくゼミを3分の1以上欠席した場合には、ゼミ放棄とみなします。

法学基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。特に、
１，報告者にはレジュメの作成と参加者への配布が求められます。
２，原則として報告一週間前までにレジュメを配布できるように事前の準備作業を行いましょう。
３，報告者以外の受講者には、事前に報告予定者のレジュメを読み込みんでおき、質問事項を準備することが求め　られます。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１，積極的なゼミへの参加を希望します。
２，報告者は、翌週の講義回においては報告担当者のために「司会者」の役割を果たすことになります。
３，2名以上のグループ学習・討論の機会が設けられることがあります。

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な基礎知識とスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。
①報告者を決めて、全員で基礎的な法学文献を読む、
②リーガルリサーチの仕方や文献引用の方法などを学ぶ、
③その実践として、履修者は一定のテーマについて＜情報収集→分析→レジュメの作成→報告→討論＞を行う、
④それを受けてレポートを作成する。

教科書　/Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法〔第2版〕』（東京法令出版、2014年）
井田良ほか著『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　法学の基礎知識
第3～6回　基礎的な法学文献の講読と検討
第7回　リーガルリサーチ①　–法令･判例･文献の探し方
第8回　リーガルリサーチ②　–文献の種類と文献引用の仕方
第9～14回　履修者の報告と討論
第15回　まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法　/Assessment Method

レジュメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジュメ作成、報告、討論への参加、レポート提出が求められる。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習II」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

法学基礎演習I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

テーマ「法学の基礎技術（１）」
現代社会においては、さまざまな問題が絶え間なく発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのでしょうか。
法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、ノート・テイキングや文献読解の方法、レポート・レジュメの作成、ディスカッションの方法、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学を学ぶ基本的な技術を学んでいきます。また、現代社会の重要なテーマを通じて、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。
この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

教科書　/Textbooks

①六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）。
②田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ＆リポート』（有斐閣・2015.02）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。
○道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）。
○法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣・2012.03）。
弥永真生『法律学習マニュアル』4版（有斐閣・2016.04）。
井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣・2016.12）。
早川吉尚『法学入門（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣・2016.03）。
田中成明『法学入門』新版（有斐閣・2016.03）。

法学基礎演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※事情により内容を変更することもあります。
１回　ガイダンス（演習の運営方針の説明、自己紹介など）
２回　文献の読み方を学ぶ（１）【パラグラフ・リーディングの方法】
３回　文献の読み方を学ぶ（２）【文献要約の方法】
４回　ノート・テイキングを学ぶ（１）【グループで検討】
５回　ノート・テイキングを学ぶ（２）【ゼミ全体で検討】
６回　情報を収集する（１）【図書館講習会】
７回　情報を収集する（２）【新聞記事と法令の検索】
８回　情報を収集する（３）【判例・裁判例と文献の検索】
９回　情報を収集する（４）【引用の方法】
１０回　判例を学ぶ（１）【判例とは何か？判例と傍論】
１１回　判例を学ぶ（２）【判例と裁判例、下級審裁判例】
１２回　判例を学ぶ（３）【判例理論と学説、事実関係と判例の射程】
１３回　判例を学ぶ（４）【判例評釈の方法】
１４回　レポートとレジュメの作成（１）【レポート・レジュメ比較検討】
１５回　レポートとレジュメの作成（２）【レポート・レジュメの要素と構成】

成績評価の方法　/Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
提出されたレポート等（３０％）、演習における報告内容（２０％）、およびディスカッションにおける発言状況・内容（５０％）を総合的に評価します（カッコ内は評価の全体に占める割合です。）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

①概ね3名を単位（グループ）として、学習を進めていきます。
②担当した課題（テーマ）について、関連する資料を収集・検討して、レポート・レジュメを作成して提出してください。担当者の報告に基づいて、ディスカッションを行って理解を深めていきます。担当者以外の者は、摘要（summary）を作成して演習に臨んでください。
③演習後は、学んだ事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえでノートを作成してください。

履修上の注意　/Remarks

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定しています。基礎演習IIも併せて履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード　/Keywords

法学　法学入門　法学の基礎

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

法学の基本文献を輪読しながら、法律学の基本概念、基本的な考え方を知るとともに、主要な法律の基本的な仕組みや、制度、判例について理解を深めることを目的としています。

教科書　/Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著　法律学入門第3版補訂版　有斐閣　２００８年　２，０００円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ゼミ運営方針の説明
２回　報告内容・担当者の決定
３回　財産と家族（１）【私的自治】
４回　財産と家族（２）【人】
５回　財産と家族（３）【所有権】
６回　財産と家族（４）【私的自治】
７回　財産と家族（５）【過失責任】
８回　財産と家族（６）【夫婦・親子】
９回　財産と家族（７）【相続】
１０回　犯罪と刑罰（１）【犯罪と刑罰】
１１回　犯罪と刑罰（２）【刑事手続】
１２回　個人・社会・権力（１）【個人・国家・主権】
１３回　個人・社会・権力（２）【個人・集団・共生】
１４回　法の仕組みと運用（１）【法の特質・機能・構造・法源】
１５回　法の仕組みと運用（２）【裁判・法の適用・法の解釈】・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み・・・・・２０％　　最終レポート（４、０００字程度）・・・・・８０％で成績を評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、教科書や参考文献を参照しながら、内容を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、主要項目ごとにノートを作成して理解を深めてください。

法学基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「民法総則」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。
法学基礎演習IIもあわせて履修するようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得します。
次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方を学習します。

本授業は、レポートの書き方に重点を置いたものです。

受講生との話し合いにより、テーマを選定します。
そのテーマに関し報告者がレポートを作成します。
このレポートを基にグループで議論しながら、受講生が授業中にこのレポートを添削します。
他の受講生の添削を参考に、改めてレポートを作成し、担当者に、後日、提出します。

自己でレポートを作成すること、他の受講生の作成したレポートを添削すること、添削に併せてグループで議論することにより、レポート作成方法、法律的思考方法を習得します。

テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他受講生の希望により決定します。

グループ学習を基本とします。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

はじめの授業で紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
２回　判例、文献、法令の調べ方について
３回　以下，順次、個別テーマについてレポート提出
４回～１４回　順次、個別テーマについてレポート提出
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容　…５０　％　　レポート　…　５０　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告テーマについて、報告者が図書館の資料、データーベースによる判例の検索、インターネットの活用等により、資料を収集する。
この資料を基に自分の見解をまとめ、レポートを作成する。

法学基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な発言、参加を希望します。

キーワード　/Keywords

レポートの書き方

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習は、情報収集・分析・プレゼンテーション能力といった、これから法学を学ぶ者にとって必要な技能の習得を目的とします。講義前半では、リーガルリサーチの方法について学習し、講義後半では、主に憲法の重要判例を素材に、グループ報告またはディベートを行ってもらいます。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2回　リーガルリサーチ(1)【法令の調べ方】
第3回　リーガルリサーチ(2)【判例の調べ方】
第4回　リーガルリサーチ(3)【文献の調べ方】
第5～14回　グループ報告またはディベート
第15回　まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本演習の目的とする。
これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき、古典的名著である。また、それと同時に、J・ロールズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。
これまでおそらくは教科書的知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ、直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を喚起するような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがあるであろう。

教科書 /Textbooks

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫、1320円）
ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』（光文社古典新訳文庫、933円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロック『全訳　統治論』（柏書房）
○浜林正夫『ロック』（研究社出版）○森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
○西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
○川合清隆『ルソーとジュネーヴ共和国』（名古屋大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　ロック『統治二論』第1回（自然状態についてなど）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながらテキストを順に読み進める。以下同様）
第3回　ロック『統治二論』第2回（所有権についてなど）
第4回　ロック『統治二論』第3回(政治社会と統治の目的についてなど）
第5回　ロック『統治二論』第4回（父親の権力、政治権力、専制権力についてなど）
第6回　ロック『統治二論』第5回(統治の解体についてなど）
第7回　ロック『統治二論』第6回（『統治二論』前編についてなど）
第8回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第1回（社会契約についてなど）
第9回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第2回（一般意志についてなど）
第10回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第3回（政府一般についてなど）
第11回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第4回(政府の設立についてなど）
第12回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第5回（投票や公民宗教についてなど）
第13回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第6回（主権についてなど）
第14回　ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第7回（法の制定についてなど）
第15回　まとめ

法学基礎演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…40%　　質問等の状況…30%　　日常の演習への取り組み…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジュメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫）は、2010年11月に文庫版として出版されました。それまでの岩波文庫版は、『市民政府論』の名で、『統治二論』の後編だけが訳出・刊行されていました。本演習では、後編を中心に扱いますが、前編についても第7回目に概観をする予定です。

キーワード　/Keywords

社会契約　自然状態　統治　主権　一般意志

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

この授業では，我が国の法体系，基本的な法律用語，判例や法律文献の探し方，文献の引用方法，討論の練習など，これから法学を学習するために必要な基本的な知識・ 技能を習得することに加え，民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して，法律文献を読む力を養成することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

潮見佳男・ 道垣内弘人編『民法判例百選I　総則･物権〔第7版〕』（有斐閣，平成27年）　本体2100円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　我が国の法体系
第3回　基本的な法律用語の確認
第4回　判例・ 法律文献の探し方（図書館ツアー）
第5回　文献の引用方法
第6回　討論の練習(1)【議題の設定】
第7回　討論の練習(2)【準備】
第8回　討論の練習(3)【討論とまとめ】
第9回　宇奈月温泉事件–大審院昭和10年10月5日判決(1)【事実の概要】
第10回　宇奈月温泉事件–大審院昭和10年10月5日判決(2)【判決理由（前半）】
第11回　宇奈月温泉事件–大審院昭和10年10月5日判決(3)【判決理由（後半）】
第12回　信玄公旗掛松事件–大審院大正8年3月3日判決(1)【事実の概要】
第13回　信玄公旗掛松事件–大審院大正8年3月3日判決(2)【判決理由（前半）】
第14回　信玄公旗掛松事件–大審院大正8年3月3日判決(3)【判決理由（後半）】
第15回　まとめ

＊授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…100%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

法学基礎演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

民法総則・法学総論・日本国憲法原論の講義科目を並行して受講することが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

法学を学習する上で必要な基本的な知識・技能を確実に身につけられるように，積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード　/Keywords

法学　民法

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。報告やディベート等を通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることや、法学に必要となる情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力を身につけることを目的とします。

教科書　/Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～３回　法を学ぶ意義や法の役割を学ぶ。
４回～９回　ディベートをやってみよう
１０回～１４回　各担当者による報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習は、主として１年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。
といっても、この科目は「演習」科目であるから、教員からの指示に従うという「受け身」的姿勢ではなく、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につけることが必要とされる。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを求める。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じて適切なものを指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

本演習では、前半で、法律学特有の言葉や言い回し、法の構造などについてレクチャーすると共に、大学での勉強に欠かせない図書館の使い方や文献検索の仕方などについて身につける。後半では、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的な適用・解釈の方法を学ぶ。

第1回　オリエンテーション
第2回　法律基礎講座①～法律の構造
第3回　法律基礎講座②～法律用語～
第4回　法律基礎講座③～法律のヒエラルキー～
第5回　判例・文献の調べ方①～「判例」とは何か～図書館に足繁く通おう！～
第6回　判例・文献の調べ方②～図書館を活用しよう～
第7回　判例・文献の調べ方③～法令・文献等の引用表記～
第8回　判決文を読み込む①～判決書の構造～
第9回　判決文を読み込む②～事案・当事者の主張の把握～
第10回　判決文を読み込む③～グループ報告～
第11回　判決文を読み込む④～裁判所の判断～
第12回　判決文を読み込む⑤～グループ報告～
第13回・第14回　各グループによる事案報告会
第15回　まとめ

＊具体的な実施スケジュール・方法などは、ゼミ生の人数・関心などを考慮し、開講後に決定する。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の演習への貢献度に応じて総合的に判断する。以下の記述は、あくまでおおよその目安として考えてほしい。
ゼミへの参加・受講態度・・・ 50%　　課題等提出状況及び内容・・・ 50%

法学基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　次回取り上げる題材について、あらかじめ目を通し、疑問点をまとめる。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、課題に取り組むことで知識の定着を図る。

履修上の注意　/Remarks

単に出席しているだけでは何の能力も身に付きません。積極的に発言・参加してください。
何度か課題を出します。それまでの演習で学んだことをフルに活用してチャレンジしましょう。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合は、単位認定しません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習のテーマは、「社会科学方法論の基礎」です。社会科学方法論に関するミルズ、ウェーバー、マルクスなどの古典的な著作を通して社会科学的な物の見方、方法論について学ぶことを目的とする。

教科書　/Textbooks

加藤周一『学ぶこと思うこと』（岩波ブックレット、2003年）
C. W. ミルズ著（鈴木　広訳）『社会学的想像力』（紀ノ国屋、1967年）
マックス・ウェーバー著（富永祐治他訳）『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）
マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』（岩波文庫、1980年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

O碧海純一『合理主義の復権【増補版】』233-303頁
O世良晃志郎『歴史学方法論の諸問題』3-20頁
O細谷昂『社会科学の視角』7-117頁

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回～３回　知の技法について【コミュニケーション（読む・書く・話す）能力】【文献調査法】
４回～８回　社会学的想像力について【知識社会学】【イデオロギー】【知的職人論】
９回～１１回　社会科学方法論について【社会科学的認識の客観性】【M.Weber】【没価値性（価値自由性）】
１２回～１５回 社会科学における理論と実践　【K.　Marx】【マルクス主義】【弁証法的唯物論】【K. Popper】【批判的合理主義】【間主観性】【反証可能性】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常的な授業への取り組み…30%　口頭報告…30%　レポート　…　40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

上記のテーマ・キーワードに即して、テキスト・参考書として指定した社会科学方法論上の古典的名著を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

履修上の注意　/Remarks

高校時代の社会科の授業科目（世界史、日本史、政治経済・公民、倫理など）の知識・理解を前提に授業を進めます。

法学基礎演習I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

1年次の前期ではとくに大学生としての「教養」を深めることを目的に、これから法律学を学ぶ学生たちにとって
必要不可欠な社会科学的な物の見方やレポートの作法を習得し、そして論理的な思考力を高める機会になれば
と思っています。社会科学方法論に関する専門書を数多く読んでもらいますので、皆さんのチャレンジング精神に期待しています。

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

この演習（ゼミ）では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識、思考、およびスキルなどを身につけることを目的とします。具体的には、大学における学問（法学）に対する臨み方から始まり、法律文献の調べ方、法学的な議論の仕方、パソコン（インターネットやデータベース）を利用した（裁）判例などの検索、判例の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学びます。なお、本演習は、3・4年次ゼミ（専門演習I～IV）などで、各自関心を持った法分野の研究をする際に、必須となるスキルを低学年次の段階で修得することを想定しています。

本演習では、上記の営みを通じて、「話す（ディスカッション）」、「（議論の相手方の話しをしっかりと理解しながら）聴く」、「自身の法的判断を（レポートや判例評釈等のかたちで）書く・表現する」、および「法学文献や判決理由を精確に読む」力を涵養します。しっかりと法律学科での「学び」の基礎を本演習で固めてください。

教科書　/Textbooks

①松本恒雄ほか（編）『日本法への招待 第3版』（有斐閣、2014年）；定価（2,900円＋税）
②いしかわまりこ ほか（指宿信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第4版』（日本評論社、2012年）；定価（1,700円＋税）
③最新版（年度）の小型六法
※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

※参考書については、演習の中で適宜、紹介します。

法学基礎演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容等は、あくまで「めやす」です。受講人数等により若干変更する場合があります。
第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、期末定期試験およびレポートについての説明。
第2回 議論の仕方を学び、実践する①：グループ討論（議論の素材は教員が用意します。）
第3回 議論の仕方を学び、実践する②：グループ討論（紛争解決の種々のあり方を理解する。）
第4回 議論の仕方を学び、実践する③：グループ討論（身近な「もめごと＝紛争」の法的解決・まとめ）
第5回 リーガル・リサーチ①：図書館ツアー（5月連休明け頃予定）
第6回 リーガル・リサーチ②：法学文献の調べ方、判例の検索方法（インターネット・データベースの活用）などを学ぶ。
第7回 レジュメの作成方法、レポート（文献書評）の書き方を学ぶ。
第8回「判例」とは何か？ 最高裁判決の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学ぶ。
第9回 グループ報告（※さしあたり、3グループを想定）教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）。
第10回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）および教員による補論。
第11回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）。
第12回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）および教員による補論。
第13回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）。
第14回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）および教員による補論。
第15回 まとめ：ゲスト（当職の高校時代からの友人である弁護士）を招いての「特別ゼミ」を予定。

※8月初旬（予定）に各自、レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する【文献書評】です。対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説などジャンルを問いません（ただし、マンガおよび資格試験等問題集は不可。）。読書感想文でなく、あくまで【書評】を執筆してください。

成績評価の方法　/Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など……50％
※レポート（文献書評）の内容……30％
※期末定期試験の成績……20％（※福本担当の法学基礎演習Iでは期末定期試験を実施するので必ず受験すること！）
【注意】（正当な理由なき）レポート未提出者や期末定期試験未受験者には、原則として単位を付与しません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】本演習では、研究報告の準備以外に、事前準備（予習）が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判決について、様々な視点から質問することができるように、種々の文献等を読んでくることが要求されます。
【事後学習】グループで報告した判決につき、ゼミ生個人でも復習を兼ねて、疑問点などを整理したミニ・レポートを作成していただく予定です。

履修上の注意　/Remarks

シラバスをご覧いただいてお解かりの通り、決して「楽勝ゼミ」ではありませんので、ご注意ください。なお、事前連絡（無理な場合は事後の遅滞なき連絡）のない「無断欠席」や「遅刻等」に対しては、退ゼミ処分も含めて厳しい態度で臨みます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講ゼミ生には、受け身ではなく、能動的な学習姿勢を強く望みます。黙って座っているだけでは、平常点は0点だと思っておいてください。よって、「緊張感」をもってゼミには臨んでくださいね。ですが、「緊張」はしなくて構いません。ゼミの雰囲気自体は至極アットホームです（これまでの経験上……。）。

キーワード　/Keywords

法的思考、法的三段論法、リーガルリサーチ

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

１年生の最初の科目であるので、法学の学習をするための情報収集・分析などの基本的な能力を身につけることが、最大の目標である。内容としては、法学の中の最も基本的な分野である民法を学習することにしたい。裁判所の判決などを見ながら、法学部での学習に慣れていってもらうことを心がける。また、実際に報告をするという作業を通じて、報告のやり方などに慣れてもらいたい。
１年生の前期に「民法総則」という科目があるが、これを理解するのは意外と難しい。そこで、できるだけ、その科目の単位がとれるようにすることを目標とする。その他の科目についても、試験対策など学生同士の情報交換の場になると良いと思っている。
報告する具体的テーマについては、極力、各参加者の希望に配慮したい。
この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　ガイダンス
２　六法のひき方、法文の読み方の説明
３　判決の説明
４　未成年者に関する問題
５　高齢者に関する問題
６　法律行為に関する問題
７　意思表示に関する問題
８　虚偽表示に関する問題
９　錯誤に関する問題
１０　詐欺・強迫に関する問題
１１　代理に関する問題
１２　無権代理に関する問題
１３　表見代理に関する問題
１４　時効に関する問題
１５　まとめ
（参加者が報告するテーマを選ぶことになるので、参加者の希望により、上記の順番は変わることがあり得る。）

成績評価の方法　/Assessment Method

一定の回数、報告をやってもらい、毎回、何らかの質問を出してもらうことになる。普段の報告や授業態度で評価する。従って、平常点１００％ということになる。

法学基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

民法関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意　/Remarks

なし

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人と話をすることが嫌いな人を救済するゼミにしたい。例えば、教室外での各種「ゼミ活動」なるものは、絶対に行わない。よくありがちな初回の「自己紹介」なるものも、絶対に行わない。

キーワード　/Keywords

法学、民法

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
図書館見学、資料収集の方法を学ぶ機会ももうける予定。また、刑務所見学等、施設見学を行う予定もある。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　授業形態等の決定、テーマの選択
第2回〜15回　選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意　/Remarks

報告テーマについて、予習、復習が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

キーワード　/Keywords

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

１．本演習は法学とは何を学ぶ学問であるかについて、テキストを輪読しながら裁判例や日本社会のあり方を素材として勉強していきます。
２．報告に当たってテキストを精読しどのようにポイントを掴むか、関連する資料にアクセスするにはどうすればよいか。それらをどのようにレジュメ等で文書化するとともに、自己の見解を含めて説得的に参加者に伝えることができるか。また、報告に対して事実や用語の確認にとどまらず「何々はなぜそうなっているのか」・「そうなった理由(あるいは背景)は何々と思うがどうか」という「なぜ」や「こう考える」ということを含めた疑問や意見をどれだけ提起することができるか。本演習においては、こうした報告・質疑を行う上での方法・形式の学習及び実践のトレーニングを通じて、高年次の講義・演習の受講のみならず、自学を行う上での基礎体力を養うことを目指します。

教科書　/Textbooks

木村草太『キヨミズ先生の法学入門』(星海社・2012年)
※このほか、演習中に随時紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

青木人志『「大岡裁き」の法意識：西洋法と日本人』(光文社・2005年)(図書館蔵書：○)
池田真朗・犬伏由子・野川忍『法の世界へ（第6版）』（有斐閣・2014年）(図書館蔵書：○)
※このほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　担当教員及び参加者の自己紹介ののち、ゼミの進行についての説明、テーマ選択、プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います
第２回　担当教員による報告の形式をとり、ゼミの進行・報告と議論の仕方等について確認を行います
第３回　図書館見学・図書検索システムの利用体験を行います
第４回　各参加者による報告・議論
第５回　各参加者による報告・議論
第６回　各参加者による報告・議論
第７回　各参加者による報告・議論
第８回　各参加者による報告・議論
第９回　中間総括（プレ討論）
第１０回　各参加者による報告・議論
第１１回　各参加者による報告・議論
第１２回　各参加者による報告・議論
第１３回　各参加者による報告・議論
第１４回　各参加者による報告・議論
第１５回　演習全体の総括討論

法学基礎演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
１．演習における議論への参加状況(30%)
２．演習における報告・司会進行(30%)
３．期末レポート(40%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえで演習に臨んでください。
なお、レジュメの作り方や史料の調べ方については演習前半でレクチャーを行います。
【事後学習】演習での解説や参加者による報告内容及び議論をメモやノートの記述を基にまとめるとともに、演習で紹介した参考文献を読解してください。

履修上の注意　/Remarks

【その他】
質問・相談は随時受け付けます。
演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学 / 法学入門 / 情報収集 / ディスカッション

法学基礎演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習では、法学の学習に必要な調査、分析、報告を行うための基本的能力を養うことを目指します。まず日本の法制度の特徴について基本的な情報提供を行い、続けて法学におけるレポートの書き方と資料収集の方法を説明します。それを基に、主として日本の刑事司法に関する比較的身近なテーマ（裁判員制度、安楽死）を取り上げ、関連する判例を読んで要点を報告してもらいます。ここでは、判決文を「構造的に」読み解く訓練を行います。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○南野森編『ブリッジブック法学入門〔第2版〕』（信山社、2013年）
○田高寛喜 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ＆リポート』（有斐閣、2015年）
○弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
○池田眞朗ほか『判例学習AtoZ』（有斐閣、2010年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の進め方に関する説明など）、自己紹介
第2回　法令の基礎知識（法の種類と優劣関係、条文の構造と法律用語）
第3回　日本の法制度の概観（司法制度の全体像、裁判の種類、判決の種類）
第4回　レジュメ・レポートの書き方（文章の構成・章立て、文献の引用方法）
第5回　図書館の使い方
第6回　法律文献調査の方法と実践（法律学を勉強するための基本ツール、データベースの活用法）
第7回　判決文の読み方（判決文の基本的な構造）
第8回　「裁判員制度」についてのビデオ学習
第9回　「裁判員制度」に関する解説
第10回　「裁判員制度」の合憲性に関する判例の読解①【問題の所在と規範の定立：合憲性判断の基準】
第11回　「裁判員制度」の合憲性に関する判例の読解②【事案へのあてはめ】
第12回　「安楽死」に関する判例の読解①【判決文を構造的に読むための課題実施】
第13回　「安楽死」に関する判例の読解②【事実の概要】
第14回　「安楽死」に関する判例の読解③【判決理由】
第15回　総括

※受講者の人数と希望により、内容および進度を変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習への参加態度ないし積極的貢献（50%）

法学基礎演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、Moodleを通じて資料を配布します。重要用語等を、参考書などで予め確認しておいて下さい。判決の読解に際しては、データベース等で判決文を予め印刷して、一読してみることを推奨します。
授業後は、レジュメと授業中にとったメモを読み返すようにして下さい。重要用語については、次回以降の授業で問われた際に口頭で説明できるようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

法学基礎演習IとIIは継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。見慣れない長文の判決を読むことに最初は戸惑うこともあるかと思いますが、「まず読んでみる」ことに大きな意義があります。「習うより、慣れろ」です。

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。

すなわち、受講生自身が一番興味のある法律問題を素材にして、裁判所の判例・下級審の裁判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学ぶこと）が、目的となります。

そのための教科書の輪読も予定しています。

教科書　/Textbooks

池田 眞朗 ほか著『判例学習のＡtoＺ』（有斐閣・2010年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例（裁判例）につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。
第1回　ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定
第2回～第7回　教科書の輪読を通して、判例の意義・役割・読み方を学習する。
※以後、課外学習が非常に重要になっていくことに十分留意すること。

第2回　（判例を読む）判決文の形と判決の分析について
第3回　判例の機能と学び方（民事判例：基礎編）
第4回　判例の機能と学び方（民事判例：上級編）
第5回　判例の機能と学び方（刑事判例：基礎編）
第6回　判例の機能と学び方（刑事判例：上級編）
第7回　判例の機能と学び方（憲法判例の特殊性）
第8回　判例の機能と学び方（憲法判例：上級編）

第9回～第15回　受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法　/Assessment Method

報告５０％・ディスカッションへの参加度４０％、レポート作成１０％
無断欠席、正当な理由のない3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書の担当部分の報告準備とは別に、
①自ら興味を抱く裁判例を選択しておくこと。
②第9回以降に各自が順次行う（あるいは期末に提出する）判例報告を準備しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。
報告者には、以下の点が求められます。
１，報告概要（レジュメ）を作成すること。
２，事前に、参加者全員にコピーを配布すること。
３，報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。
他方、それ以外の参加者には、最低限、レジュメを事前に読了しておくことが求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学基礎演習Iに引き続き、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な知識と発展的なスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。
①報告者を決めて、全員で法学文献を読む、
②報告者を決めて、全員で判例を読む、
③小論文執筆のための中間報告を行う、
④それを受けて小（規模な）論文を執筆する。

教科書　/Textbooks

池田眞朗ほか著『判例学習のＡtoＺ』（有斐閣、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法〔第2版〕』（東京法令出版、2014年）
上田健介ほか著『憲法判例50！（START UP）』（有斐閣、2016年）
井田良ほか著『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2～4回　基礎的な法学文献の講読と検討
第5～8回　基本的な憲法判例の講読と検討
第9～14回　履修者の中間報告と検討
第15回　まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法　/Assessment Method

小論文（40%）、中間報告（30%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジュメ作成、報告、討論への参加、小論文提出が求められる。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習I」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

テーマ「法学の基礎技術（２）」
現代社会においては、さまざまな問題が絶え間なく発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのでしょうか。
法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、ノート・テイキングや文献読解の方法、レポート・レジュメの作成、ディスカッションの方法、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学を学ぶ基本的な技術を学んでいきます。また、現代社会の重要なテーマを通じて、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。
この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

教科書　/Textbooks

①六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）。
②田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ＆リポート』（有斐閣・2015.02）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。
○道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）。
○法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣・2012.03）。
弥永真生『法律学習マニュアル』4版（有斐閣・2016.04）。
井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣・2016.12）。
早川吉尚『法学入門（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣・2016.03）。
田中成明『法学入門』新版（有斐閣・2016.03）。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※事情により内容を変更することもあります。
１回　ガイダンス（演習の運営方針の説明など）
２回　プレゼンテーションを学ぶ（１）……新聞の社説をもとにプレゼンテーションを行い、全体でディスカッションをする。
３回　プレゼンテーションを学ぶ（２）
４回　プレゼンテーションを学ぶ（３）
５回　プレゼンテーションを学ぶ（４）
６回　プレゼンテーションを学ぶ（５）
７回　「私の母は誰？」　映像資料『……』
８回　事例研究（１）報告に基づく全体ディスカッション
９回　事例研究（２）報告に基づく全体ディスカッション
１０回　事例研究（３）報告に基づく全体ディスカッション
１１回　事例研究（４）報告に基づく全体ディスカッション
１２回　事例研究（５）報告に基づく全体ディスカッション
１３回　事例研究（６）報告に基づく全体ディスカッション
１４回　事例研究（７）報告に基づく全体ディスカッション
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
提出されたレポート等（３０％）、演習における報告内容（２０％）、およびディスカッションにおける発言状況・内容（５０％）を総合的に評価します（カッコ内は評価の全体に占める割合です。）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

①概ね3名を単位（グループ）として、学習を進めていきます。
②担当した課題（テーマ）について、関連する資料を収集・検討して、レポート・レジュメを作成して提出してください。担当者の報告に基づいて、ディスカッションを行って理解を深めていきます。担当者以外の者は、摘要（summary）を作成して演習に臨んでください。
③演習後は、学んだ事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえでノートを作成してください。

履修上の注意　/Remarks

基礎演習IIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定しています。基礎演習Iも併せて履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード　/Keywords

法学　法学入門　法学の基礎

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

民法の判例を検討しながら、民法の仕組みや基本概念、基本的な考え方を知るとともに、判例の読み方、判例研究の仕方をあわせて身につけることを目的としていますが、この「法学基礎演習II」では、「法学基礎演習I」で身につけた知識や技法を主体的に実践、応用、展開し、さらに一層深く掘り下げて問題点を分析検討できるようになっていただこうと思っています。

教科書　/Textbooks

潮見佳男＝道垣内弘人編　別冊ジュリスト民法判例百選I総則・物権　[第7版]　有斐閣　２０１５年　２，２６８円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年　２，６２５円
その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ゼミ運営方針の説明
２回　報告内容・担当者の決定（その１）
３回　判例検索･文献検索の方法
４回　判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
５回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
６回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
７回　担当者報告及び討論（３））【大審院及び最高裁判例】
８回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
９回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】
１０回　報告内容・担当者の決定（その２）
１１回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
１２回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
１３回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
１４回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
１５回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】　・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み･････２０％　　最終レポート（６、０００字程度）････８０％で成績を評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事案、判旨、論点を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、判例、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「民法総則」、「法学基礎演習I」を履修し、「法律の読み方」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

受講生との話し合いによりテーマを決定します。
原則として、グループで作業してもらいます。
そのテーマについて、文献、判例等を調査し、担当者、他の受講生と議論をします。

この授業は、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成、コミュニケーション力の養成を目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　テーマ、報告グループの決定、
２回　以下，順次グループによる個別報告
３回～１４回　順次グループによる個別報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容　…　５０　%　　レポート　…　５０　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各グループで、報告テーマについて、参考文献、関連判例を調査する。
調査資料に基づいて、事前にグループで議論し、判例の評価、学説の分析、私見についてまとめる。
レジュメを作成して、授業に臨む。

履修上の注意　/Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な準備、発言を期待します。

キーワード　/Keywords

文献調査能力　コミュニケーション力

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

本演習では、法学基礎演習Iで学習した技能のさらなる向上を目的に、講義前半では、主に憲法の重要判例を素材にしたグループ報告またはディベートを行い、講義後半では、受講者が関心のあるテーマについてレポートを執筆してもらいます。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2～9回　グループ報告またはディベート
第10～14回　レポートの執筆指導
第15回　まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告40%、日常の授業への取組み40%、レポート20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。

法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、カントの「永遠平和のために」他をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホッブズ、ロック、ルソー、カントの社会契約説の考え方の基本を学ぶことができる。その上で、さらに現代正義論に対する理論的示唆についても、検討したいと考えている。

教科書 /Textbooks

ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫、743円）
カント『永遠平和のために / 啓蒙とは何か　他３編』（光文社古典新訳文庫、700円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
カント『啓蒙とは何か　他四篇』(岩波文庫、713円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　ルソー『人間不平等起源論』第1回（献辞と序について）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、テキストを読み進める。以下同様。）
第3回　ルソー『人間不平等起源論』第2回(自然状態についてなど)
第4回　ルソー『人間不平等起源論』第3回（憐れみの情についてなど）
第5回　ルソー『人間不平等起源論』第4回（文明についてなど）
第6回　ルソー『人間不平等起源論』第5回（不平等についてなど）
第7回　ルソー『人間不平等起源論』第6回（原注についてなど）
第8回　ルソー『人間不平等起源論』第7回（ルソーについてのまとめ）
第9回　カント「啓蒙とは何か」
第10回　カント「世界市民という視点からみた普遍史の理念」
第11回　カント「人類の歴史の憶測的な起源」
第12回　カント「万物の終焉」
第13回　カント「永遠平和のために」前半部
第14回　カント「永遠平和のために」後半部
第15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…40%　質問等の状況…30%　日常の演習への取り組み…30%

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジュメやテキストをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自然状態　自然法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

この授業では，1学期に引き続き，民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して，法律文献を読む力を養成することを目標とする。2学期は，民法の規定の合憲性が争われた判例を中心に読んでいく予定である。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I　総則・物権〔第7版〕』（有斐閣，平成27年）　本体2100円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　1学期の基本事項の確認
第3回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成7年7月5日大法廷決定(1)【事実の概要】
第4回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成7年7月5日大法廷決定(2)【多数意見】
第5回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成7年7月5日大法廷決定(3)【補足意見】
第6回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成7年7月5日大法廷決定(4)【反対意見】
第7回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成25年9月4日大法廷決定(1)【事実の概要】
第8回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成25年9月4日大法廷決定(2)【多数意見（前半）】
第9回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成25年9月4日大法廷決定(3)【多数意見（後半）】
第10回　非嫡出子の相続分規定の合憲性–最高裁平成25年9月4日大法廷決定(4)【補足意見】
第11回　女性の再婚禁止期間の合憲性–最高裁平成27年12月16日大法廷判決(1)【事実の概要】
第12回　女性の再婚禁止期間の合憲性–最高裁平成27年12月16日大法廷判決(2)【多数意見（前半）】
第13回　女性の再婚禁止期間の合憲性–最高裁平成27年12月16日大法廷判決(3)【多数意見（後半）】
第14回　女性の再婚禁止期間の合憲性–最高裁平成27年12月16日大法廷判決(4)【補足意見等】
第15回　まとめ

＊授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意　/Remarks

民法総則・法学総論・日本国憲法原論の講義科目を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

1学期に引き続き，積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード　/Keywords

法学　民法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要 /Course Description

１学期の法学基礎演習Iに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～８回　判例の分析
９回～１４回　各自が選択したテーマについて個別報告
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。原則として、津田が担当する法学基礎演習Iの受講者を対象とする。引き続き、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につける。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。必要に応じ、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じ適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

本演習では、図書館の使い方や文献の探し方などを一応身につけていることを前提に、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的適用・解釈の方法を学ぶ。取り上げる判例は、参加者の問題関心をも考慮したうえで決定する。

第1回　オリエンテーション
第2回　判例研究のための文献収集
第3回　データベース利用法
第4回　各グループによる判例研究
第5回　判例の選択及び後半報告グループ分け
第6回・第7回　報告グループ①による報告と受講者全員による討論・意見交換
第8回・第9回　報告グループ②による報告と受講者全員による討論・意見交換
第10回　中間反省会
第11回・第12回　報告グループ③による報告と受講者全員による討論・意見交換
第13回・第14回　報告グループ④による報告と受講者全員による討論・意見交換
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習への参加状況（出席、報告内容、議論に対する姿勢など）、学期末レポートの内容などをもとに総合的に評価する。下記の記載はあくまでおおよその目安である。

ゼミへの参加・受講態度・・・ 50%　　課題等提出状況及び内容・・・ 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「演習」の成立は、皆さんの積極的な参加如何で決まると言っても過言ではありません。報告グループ以外の人も、毎回、何らかの発言を求めます。予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

本演習テーマは「社会科学的思考とは何か」です。前期「法学基礎演習 I」で習得した社会科学方法論の理解を踏まえて、本演習では、アメリカの社会科学系の代表的な大学テキストであるKenneth R. Hoover and Todd Donovan , The Elements of Social Scientific Thinking, 10th ed. (2011) を輪読します。その目的は、英語文献を読むことで語学力の向上を図るとともに、社会調査研究方法論に関する基礎的知識を英語で再確認することにあります。

教科書　/Textbooks

Kenneth R. Hoover and Todd Donovan, The Elements of Social Scientific Thinking, 10th ed. Boston,MA: Wadsworth,2011 (コピー配布)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○E・ バビー著『社会調査法(1)』培風館(2003年)
○E・ バビー著『社会調査法(2)』培風館(2005年)
中道實著『社会調査方法論』恒星社厚生閣 (1997年)

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回～３回　Hoover, Ch.1【科学】【客観性】【知識】【直感】
４回～６回　Hoover, Ch.2 【概念】【変数】【測定】【仮説】【科学的方法】
７回～９回　Hoover, Ch.3 【事実】【真理】【記述分析】【相関分析】【変数の操作化】
１０回～１２回 Hoover, Ch.4 【帰納】【演繹】【独立変数】【従属変数】【測定の尺度】【回帰分析】
１３回～１５回 Hoover, Ch.5 【現実】【観察研究】【説明】【科学的急進主義】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　口頭報告…30%　レポート　…　40%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ指定された箇所を読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

履修上の注意　/Remarks

毎回、報告者を決めて分担報告をしてもらいます。翻訳が目的ではなく、分担箇所に何が書いてあったのかを概略説明してもらうことを期待しています。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

指定したテキストの英語はとても平易な文章です。高校時代までに培った英語力をブラッシュ・アップするとともに、これを機会にさらに英語スキルを高めてください。

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

法学基礎演習Iの内容を承（う）けて、より高度な法的思考（特に、最高裁の判決理由を読む際の【法的三段論法】の駆使）、法学文献の批判的な読み方、判例の精確な読み方・扱い方（判例〔判決理由中において定立された規範〕の抽出方法・その射程の測定・分析手法、および判例評釈執筆の手法）などを修得することが本演習の目的です。

基礎演習Iとは異なり、本演習では、報告の内容面（質の高さ）やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民法分野の）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修することとなる「専門演習I～IV」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が参加されることを切望します。

教科書　/Textbooks

①陶久利彦『法的思考のすすめ〔第2版〕』（法律文化社、2011年）；定価（1,800円＋税）
②中田裕康＝潮見佳男（編）『民法判例百選II 債権 [第7版]（別冊ジュリスト224号）』（有斐閣、2015年）；定価（2,200円＋税）
③最新版（年度）の小型六法
※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

※演習のなかで適宜紹介します。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容等はあくまで「めやす」です。受講人数等により若干変更する場合があります。
第1回 ガイダンス：報告グループ＆報告順の決定。期末レポート（判例評釈）についての説明。
第2回 最高裁判決の読み方の復習①（法的三段論法の錬磨）−最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として−
第3回 最高裁判決の読み方の復習②（最高裁がその判決理由の中で示した規範〔判例〕の「射程」の分析）−最大判 昭和41年4月27日 民集20巻4号870頁を素材として−
第4回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①1～17頁）〔グループA〕。
第5回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①17～47頁）〔グループB〕。
第6回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①48～90頁）〔グループC〕。
第7回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①91～140頁）〔グループD〕。
第8回 キャリアセンター・ツアー（予定。受講生諸君にはに自身のキャリア・プランについてもしっかりと考えてもらいたい。）
第9回 民事判例研究報告（グループAの1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。
※採り上げる判決は、教科書②掲載の「最高裁判決」とします。民法学の基本書・体系書、判例評釈、および調査官解説等を熟読し、質の高い民事判例研究報告を行ってください。また、報告担当でないグループも、報告グループの採り上げた判決について質問や意見を発表することができるように、準備を入念にしておいてください。
第10回 民事判例研究報告（グループAの2回目；規範の抽出・射程についての議論）。
第11回 民事判例研究報告（グループBの1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。
第12回 民事判例研究報告（グループBの2回目；規範の抽出・射程についての議論）。
第13回 民事判例研究報告（グループCの1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。
第14回 民事判例研究報告（グループCの2回目；規範の抽出・射程についての議論）。
第15回 まとめ（実務家〔当職の高校時代からの友人である弁護士〕を招いての「最終回特別ゼミ」を予定。内容は要件事実論入門などを予定。）

※2018年2月初旬に、レポートを提出していただきます。内容は、グループで報告した最高裁判決についての【判例評釈】です。

成績評価の方法　/Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い……40％
※民事判例研究報告の内容（レジュメの構成・報告の質・議論の内容など）……30％
※レポート（判例評釈）の内容……30％（レポート未提出者には、原則として単位を付与しません。）
【注意】正当な理由なき無断遅刻・無断欠席は、ゼミを放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】本演習では、報告準備以外の事前学習（予習）が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、より負担は大きくなります。）。たとえば、報告担当でないグループも、報告グループが採り上げた判決について、種々の観点から質問・指摘などができるように、判例評釈や調査官解説、民法学の体系書等を熟読の上、ゼミに臨むことが求められます。その他、毎回適宜、事前に熟読しておくべき資料等を指示しますので、きちんとそれらを熟読してくることが求められます。
【事後学習】各ゼミ生は、個人レヴェルにおいて、民事判例研究報告で扱われた最高裁判決（自身が所属する報告グループ以外のグループが報告した判決）の判決理由の読み方（判例の射程など）に関する独自の見解をまとめて、ミニ・レポートとして提出しなければなりません。

履修上の注意　/Remarks

「法学基礎演習I」の負担でしんどいと思う受講生にとっては、過酷な演習になるものと思われます。覚悟を持って臨んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学は「学問」をするところです。遊びに来るところではありません。真剣に学問に取り組んでくださいね……と少しプレッシャーをかけてみました。

キーワード　/Keywords

最高裁判決の読み方、法的三段論法、規範の射程、判決研究、キャリアプランを考える

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

基礎演習Iの続きとして、法学の中の基本分野である民法を、判決を検討しながら学習する。２年生になると専門科目が増えるわけであるが、それらの学習に耐えられるような基本的能力を身につけることが目標となる。
民法科目の中に「物権法」という科目と「債権各論」という科目が１年生配当科目として存在するが、これらを理解するのは意外と難しい。この科目の単位をできるだけ取れるようにすることを目標としたい。『判例百選』シリーズを使う予定であるが、現物を購入する必要はない。報告の具体的テーマの選択に際しては、極力、各参加者の希望に配慮する。
この授業に参加すると、民法の考え方が養われる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　ガイダンス、順番の決定等
２　所有権移転に関する問題
３　不動産物権変動に関する問題
４　登記に関する問題
５　動産に関する問題
６　占有に関する問題
７　同時履行の抗弁権に関する問題
８　危険負担に関する問題
９　解除に関する問題
１０　売買に関する問題
１１　賃貸借に関する問題
１２　請負に関する問題
１３　不当利得に関する問題
１４　不法行為に関する問題
１５　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

一定の回数、報告をやってもらい、また、毎回、質問を出してもらうことになる。普段の報告や授業態度で評価する。従って、平常点１００％ということになる。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

民法関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

なし

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人と話をすることが嫌いな人を救済するゼミとしたい。例えば、教室外での各種「ゼミ活動」なるものは、絶対に行わない。

キーワード　/Keywords

法学、民法、物権、債権

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回　選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意　/Remarks

報告テーマについての予習、復習が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

キーワード　/Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

本演習では、法学にとどまらず広く大学における学習の方法・作法について学ぶことを目的とします。
具体的には、まず演習前半に図書館や電子データベースの使い方の実践学習を行います。これを踏まえて、演習後半においては参加者をグループ分けし、幾つかのテーマのもとにディベートを行います。ディベートを行うにあたっては、議論の枠組みや論拠の提示の方法についての事前学習を行います。また参加者を３つのグループに分け、肯定側・否定側・判定のパートをそれぞれ回ごとに担当していただきます。それぞれのグループごとに立論の作成や質疑、反駁のための事前準備を行ってもらいます。
以上を通じて、①情報の検索や収集、②情報の分析・評価、③議論の方法、④プレゼンテーションの作法などについて学んでいきます。

教科書　/Textbooks

田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩『リーガル・リサーチ＆リポート』(有斐閣・2015年)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

※演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　情報検索の基礎知識(１)【図書館利用の基礎知識】
第３回　情報検索の基礎知識(２)【各種データベース利用の基礎知識】
第４回　情報検索の基礎知識(３)【法学関係情報利用の基礎知識】
第５回　レジュメ作成・レポート作成の基礎知識
第６回　情報の評価・自分の考え方の提示に関する基礎知識
第７回　ディベートについての基礎学習(１)【議論の枠組み】
第８回　ディベートについての基礎学習(２)【論題提示】
第９回　ディベート第一回【第一論題】
第１０回　ディベート第二回【第一論題】
第１１回　第一論題のおさらい・第二論題の提示
第１２回　ディベート第三回【第二論題】
第１３回　ディベート第四回【第二論題】
第１４回　第二論題のおさらい
第１５回　演習の総括【高年次学習にむけて】

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
１．演習における議論・ディベートへの参加状況(40%)
２．期末レポート(60%)

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】参考図書を読み解くとともに、平素より新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に様々な情報に触れ、それらについて自分なりの考えを提示する訓練を行ってください。
【事後学習】ディベートの実践によって得た意見や考え方を踏まえ、立論や自らの考え方を整理して次回以降の実践に対応できるよう復習を行ってください

履修上の注意　/Remarks

質問・相談は随時受け付けます。
演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ディベートに際しては、グループごとに課外時間を含め事前の準備・学習をしていただきます。同輩とのコミュニケーションを積極的に行うことが望まれます。

キーワード　/Keywords

情報収集 / ディベート / 情報分析・評価

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ	SEM112M

授業の概要　/Course Description

本演習では、自由や尊厳、公平などの基本的価値に関係する法政策的なテーマについてディベートを行い、その過程を通じて、①法情報検索技術を習得し、②プレゼンテーション能力および③討論能力を向上させることを目指します。すなわち、本演習の中心的課題は、「調べる」→「話す」→「書く」ことです。

教科書　/Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）
○田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ＆リポート』（有斐閣、2015年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　ディベートの意義と方法、グループ分け
第3回　テーマ①：予備的調査と立論シートの作成
第4回　テーマ①：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
第5回　テーマ①：ディベート
第6回　テーマ①：解説とディベートの講評
第7回　テーマ②：予備的調査と立論シートの作成
第8回　テーマ②：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
第9回　テーマ②：ディベート
第10回　テーマ②：解説とディベートの講評
第11回　テーマ③：予備的調査と立論シートの作成
第12回　テーマ③：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
第13回　テーマ③：ディベート
第14回　テーマ③：解説とディベートの講評
第15回　まとめ

※受講者の人数により内容および進度は変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（40%）、レポート（20%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（40%）を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に臨む前に、インターネットの検索エンジン等を利用して、各テーマに関連するニュース記事などを探してみて下さい。立論シートの作成後は、当日グループ内での議論が可能なように、自分の疑問や意見等を予めまとめるようにして下さい。
授業後は、演習中に共有された参照文献を各自で読んで、次回の議論に備えて下さい。ディベート終了後には、レポートの作成を開始して、解説および講評の内容も反映させるようにして下さい。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

法学基礎演習IとIIは継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡するようにして下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。ここでは、自由な議論の空間が大前提です。講義科目で学び始めたことを、積極的に言葉にしてみましょう。

キーワード　/Keywords

外国文献研究I 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ⅰ	LAW290M

授業の概要　/Course Description

フランス民法又はドイツ民法の基本的な文献を輪読しながら、我が国の民法上の制度、民法解釈上の問題点の比較法的な検討を行うことを目的としています。制度の仕組みの異同を知るとともに、我が国の民法上の問題点が、外国の判例や学説ではどのように解決されているのか、一緒に検討してみようと思っています。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業ガイダンス
２回　報告内容・担当者の決定（その１）
３回　邦語関連資料の確認
４回　外国語関連資料の確認
５回　担当者報告及び検討（１）【和訳】【邦語基本文献】
６回　担当者報告及び検討（２）【和訳】【邦語関連文献】
７回　担当者報告及び検討（３）【和訳】【外国語関連文献】
８回　担当者報告及び検討（４）【和訳】【大審院及び最高裁判例】
９回　担当者報告及び検討（５）【和訳】【外国関連判例】
１０回　報告内容・担当者の決定（その２）
１１回　担当者報告及び検討（１）【和訳】【邦語基本文献】
１２回　担当者報告及び検討（２）【和訳】【邦語関連文献】
１３回　担当者報告及び検討（３）【和訳】【外国語関連文献】
１４回　担当者報告及び検討（４）【和訳】【大審院及び最高裁判例】
１５回　担当者報告及び検討（５）【和訳】【外国関連判例】　・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・２０％　　レポート（２００字詰め３０枚程度）・・・８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

分担箇所の直訳だけでなく、日本語で紹介されている関係文献を事前に読んで、その文章と内容の正確な理解につとめてください。事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、日本との制度の仕組みの異同、問題解決の仕方の共通点、相違点を整理して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

外国文献研究I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

外国文献研究I 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ⅰ	LAW290M

授業の概要　/Course Description

本演習では、John Owen Haley『The Spirit of Japanese Law』を輪読することによって、日本の法制度の特徴について新たな視点を獲得することを目指します。
日本の法制度と法学は、明治時代に西洋の法制度を移植して以来、フランス、ドイツ、アメリカなどの諸外国の法理論と法的実践から多くを学んできました。その反面で、日本の法学研究者は「日本法が、諸外国からどのように見られているのか」については、それほど注意を払ってきませんでした。今日では、日本法の研究は独立した研究領域として、国際的な研究者コミュニティを形成するに至っています。そこで、日本法研究の代表的著作であるHaleyの著書を輪読し、日本法の特徴を外から眺めてみたいと思います。

教科書　/Textbooks

John Owen Haley, The Spirit of Japanese Law (Athens, Gerogia 1998).

授業で用いる箇所については、コピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１．英米法の法律用語について
○田中英夫『BASIC英米法辞典』（東大出版会、1993年）
２．日本法の特徴に関する日本語の文献
○三ヶ月章『法学入門』（弘文堂、1982年）
　宮澤節生 / 武藤勝宏 / 上石圭一 / 大塚浩『ブリッジブック法システム入門〔第3版〕』（信山社、2015年）
○川島武宜『日本人の法意識』（岩波書店、1967年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（本演習の進め方・ねらい、参考書の使い方、担当箇所の割り当て）
第2回　Introduction
第3回　1. Law's Values: Judicial Decisions as Sources of Law
第4回　1. Law's Values: Law and Morals
第5回　1. Law's Values: Learning, Authority of Legal Rules
第6回　1. Law's Values: Community
第7回　1. Law's Values: Autonomy
第8回　2. Law's Domain: Borders, Registries
第9回　2. Law's Domain: Regulatory Controls
第10回　2. Law's Domain: Continuing Influence of European Law, Litigation
第11回　2. Law's Domain: Consensus and Community Norms, Community Controls
第12回　3. Law's Actors I: Education and Training
第13回　3. Law's Actors I: Scholars
第14回　Conclusion
第15回　総括

※受講生の人数および理解度に応じて、授業の進度と内容を変更することがあります。

外国文献研究I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告の内容（50%）、演習への積極的な取り組み（50%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は、英文の構造にも注意を払って、一文ずつ丁寧な日本語訳を用意して下さい。また、法律用語については、図書館等で英米法の辞典や教科書を確認するようにして下さい。報告者以外の受講生も、該当箇所を一度訳してから、授業に臨む必要があります。
授業後には、全員で検討した訳文を再読して、著者の分析内容を理解するように努めて下さい。

履修上の注意　/Remarks

報告者は、ワープロソフトで訳文を作成し、受講生全員に当日配布できるよう準備して下さい。
また、高校生のときに使用したもので構いませんので、（紙の）英和辞典を必ず持参して下さい。用例が多く載っているものが望ましいです。
本演習では、受講生各位が出席して実際に外国文献を翻訳し、内容の理解に努めることが、中心的な課題となります。したがって、無断欠席については厳しく対処します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習では、英文テキストの趣旨を正確に読み解くこと（インプット）を第一の目標としますが、ここでの考察対象が、他ならない「わたしたちの」法である以上、その先には批判的な分析と意見の表明（アウトプット）が期待されています。

キーワード　/Keywords

日本法　法文化　法の担い手

外国文献研究II 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ⅱ	LAW291M

授業の概要　/Course Description

この授業では、法（イギリス法）の本質について説かれた法学入門の書としても古典的名著・傑作といわれる、サー・ポール・ヴィノグラドフの『法における常識（COMMON SENSE IN LAW）』の原著講読を行う。邦訳作業自体はもちろんこと、教員および他の受講生との議論や質疑・応答などを通じて、英米法の基礎知識（コモン・ローとエクイティなど）についても涵養を図ることがこの授業のねらい・テーマでもある。

邦訳作業を受講生全員で着実に行いつつ、適宜、イギリス法（広く英米法）の基礎知識についても対話形式の講義を行い、受講生諸君の理解度向上に努めたい。また、イギリスのような判例法主義の法体系とわが国のような成文法主義の法体系との比較を通じて、わが国の法制度の理解をいっそう深めてもらえれば幸いである。

教科書　/Textbooks

①VINOGRADOFF（Sir Paul.）, COMMON SENSE IN LAW, Third Edition Rrvised by HANBURY（H.G.）, OXFORD UNIVERSITY PRESS, LONDON, 1959.
※OXFORD IN ASIA COLLEGE TEXTS版が入手できるとよいのだが、絶版のようである。よって、授業の際に本書のコピーを配布する。どうしても入手したい受講生は、古書店等で探し求めていただきたい。
②中型の英和辞書（※受講生が普段使用しているものでよい。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

さしあたり、○田中英夫（編集代表）『BASIC 英米法辞典』（東京大学出版会、1993年）を挙げておく。図書館等で他の英米法律辞書にも当たりながら、テクストの邦訳をしてもらいたい。また、英米法の基礎的知見については、○早川武夫ほか『外国法の常識』（日本評論社、第2版、1978年）〔※やや古い文献だが、第2版の英米法に関する叙述は秀逸と言える。〕などを各自参照のこと。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※受講生諸君の英文邦訳能力により、ペースを落として講読を進める場合もある。以下は、最もスピーディーに進めた場合の計画である。
第1回 ： ガイダンス、授業の進め方についての協議、および邦訳報告担当箇所・報告順の決定。
第2回 ：テクストのコピー配布およびわが国における英米法の名著・論文等の紹介。
第3回 ：イギリス法（英米法）の基礎知識についての講義。
第4回 ：講読・議論①【教科書①7～21頁；第1章 SOCIAL RULES：社会規範】
第5回 ：講読・議論②【教科書①22～44頁；第2章 LEGAL RULES：法規範】
第6回 ：講読・議論③【教科書①45～63頁；第3章 LEGAL RIGHTS AND DUTIES：法的権利および法的義務】
第7回 ：講読・議論④【教科書①63～84頁；第4章 FACTS- AND ACTS-IN-LAW：法律事実および法律行為】
第8回 ：講読・議論⑤【教科書①84～106頁；第5章 LEGISLATION：立法】
第9回 ：講読・議論⑥【教科書①107～121頁；第6章 CUSTOM：慣習】
第10回 ：講読・議論⑦【教科書①122～150頁；第7章 JUDICIAL PRECEDENTS：判決例（判例）】
第11回 ：講読・議論⑧【教科書①150～168頁；第8章 EQUITY：衡平】
第12回 ：講読・議論⑨【教科書①168～179頁；第9章 THE LAW OF NATURE：自然法】
第13回 ：講義および質疑・応答（議論）；コモン・ローとエクイティについて
第14回 ：応用編（民法）；カナダ契約法（ケベック州法を除く）入門（イギリス法系の契約法を学ぶ。）
第15回 ：まとめ（受講生に余力があれば、イギリスの裁判所の判決文を講読する予定。）

外国文献研究II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、邦訳能力向上度など……80%
※イギリス法に関するミニ・レポート（原著資料〔教科書以外のもの〕を読み、日本語でレポートを作成してもらう。）……20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】テクストを事前に邦訳し、専門用語などで分からない点があれば、（報告担当でなくても）レジュメやメモなどを作成して、受講生間で疑問点を共有しておくこと。また、各自で【参考書】欄に掲げた文献・資料を読み込んでおくこと。
【事後学習】授業の終わりに、講義担当者の方で【事後学習原著（上記教科書以外のイギリス法のテクストのコピー。叙述自体はごく短いもの）】資料を配布するので、その叙述についても邦訳しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

※理由の如何を問わず、4回以上欠席した場合は単位を付与しない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語を読みたいという者よりも、「イギリス法（英米法）を研究したい」というやる気のある学生の方が力がつく授業といえよう。邦訳自体も大切だが、イギリス法の中身を理解できなければ、何の意味もないからである。

キーワード　/Keywords

英米法、コモン・ロー、エクイティ（衡平法）

外国文献研究II 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ⅱ	LAW291M

授業の概要　/Course Description

ドイツの刑事司法制度について、ドイツ語のテキストを読みます。それぞれ担当を決めテキストを翻訳、報告をしてもらい、それをもとに議論することを予定しています。ドイツ語自体を学ぶのではなく（文法や構文などを学びたい方は向きません。外国語の授業ではありません。）、外国語を用いて外国の法制度を学ぶ授業です。

教科書　/Textbooks

テキストをコピーしたプリントを配布します。使用テキストは、初回授業時に参加者のレベルに合わせて決定します。また、各自使いやすい独和辞典を用意してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回 : ガイダンス&授業の進め方について
第2回 :輪読文献の選定結果発表
第3回 :警察の活動
第4回 :捜索・ 差押え
第5回 :逮捕
第6回 :保釈
第7回 :被疑者と被告人
第8回 :弁護人
第9回 :裁判所
第10回 :罪状認否
第11回 :刑事手続に関する専門用語
第12回 :被告人の権利
第13回 :公判手続
第14回 :刑務所
第15回 :まとめ
※以上のようにすすめていきます。内容は参加者の関心に応じて変更する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み（報告内容、議論参加への積極性など）(30%)、筆記試験（ドイツ語文章の和訳）(70%)。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、担当者は2頁程度のドイツ語文章を和訳してください。他の受講者についても、議論に参加するために内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

外国文献研究II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理由の如何を問わず、3回以上欠席した場合は単位を付与しません。無断欠席については一回でアウトとします。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。講義内容の復習も必須。単語、文章の解釈については繰り返し復習しないと身につきません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ある程度のドイツ語力は必要。刑事法の知識も求められます。専門の学術書の読解ですので、受講生のやる気を求めます。

キーワード　/Keywords

刑事手続、刑事司法

法哲学専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅰ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥウォーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥウォーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥウォーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義　再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第２版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー / アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（法政大学出版局）、Ｇ．Ａ．コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・Ｂ・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『物象化　承認論からのアプローチ』（法政大学出版局）などである。

本年は、その延長上で、ロナルド・ドゥウォーキン『裁判の正義』（木鐸社）をテキストとして取り上げる。英米における最も代表的な法哲学者とも言いうるドゥオーキン(1931-2013)が、法的プラグマティズムや価値多元論に、またハートやラズ、ロールズらの理論にいかに対峙しているのかを正確に理解すると同時に、ドゥオーキンの法哲学的考察の現代的意義についても検証する。

教科書　/Textbooks

ロナルド・ドゥウォーキン『裁判の正義』（木鐸社、2009年）、4500円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

宇佐美誠・濱真一郎編著『ドゥオーキン　法哲学と政治哲学』（勁草書房、2011年）

法哲学専門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　現代正義論の展開
第3回　法と道徳
第4回　法的プラグマティズム
第5回　プラグマティズムと法
第6回　ポズナー
第7回　新プラグマティズム
第8回　道徳的多元論
第9回　原意主義
第10回　ハート
第11回　法実証主義
第12回　ラズ
第13回　ロールズ
第14回　法哲学
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…40%　　質問等の状況…30%　　日常の演習への取り組み…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジュメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

裁判、正義、法的プラグマティズム、ハート、ロールズ

法哲学専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

１学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、２学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書　/Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　自由研究構想発表
第3回　自由研究報告①【法】（【】内は例示。以下同様）
（ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様）
第4回　自由研究報告②【国家】
第5回　自由研究報告③【正義】
第6回　自由研究報告④【自由】
第7回　自由研究報告⑤【権利】
第8回　自由研究報告⑥【生命】
第9回　自由研究報告⑦【環境】
第10回　自由研究報告⑧【法と国家】
第11回　自由研究報告⑨【自由と正義】
第12回　自由研究報告⑩【生命と環境】
第13回　自由研究報告⑪【法哲学】
第14回　『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…40%　質問等の状況…30%　日常の演習への取り組み…30%

法哲学専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジュメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

２学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード　/Keywords

自由研究報告　ゼミ論集　法　国家　正義　自由　権利　生命　環境

法哲学専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor	重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまでの３年生向けのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥウォーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥウォーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥウォーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義　再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上）』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第２版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー / アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（法政大学出版局）、Ｇ．Ａ．コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・Ｂ・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『見えないこと　相互主体性理論の諸段階について』（法政大学出版局）などである。

今年で２年目となる４年生ゼミでも、その延長上で、M.J.サンデル『リベラリズムと正義の限界（原著第二版）』（勁草書房）をテキストとして取り上げる。共同体主義論争（リベラル・コミュニタリアン論争）の出発点とも言いうるサンデルのロールズ批判を正確に読解すると同時に、サンデルの理論の現代正義論のその後の展開に対する影響等についても検証する。

教科書 /Textbooks

M.J.サンデル『リベラリズムと正義の限界（原著第二版）』（勁草書房、2009年）、4000円+税

参考書(図書館蔵書には ○） /References（Available in the library: ○ ）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業（上）(下）』(早川書房、2010年）
マイケル・サンデル『公共哲学』(ちくま学芸文庫、2011年）
菊池理夫、小林正弥編著『コミュニタリアニズムの世界』(勁草書房、2013年）

法哲学専門演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　現代正義論の展開
第3回 コミュニタリアニズム
第4回　リベラリズム
第5回　正義の優位
第6回　自我
第7回　リバタリアニズム
第8回　所有
第9回　契約
第10回　正義と善
第11回　アファーマティヴ・アクション
第12回　リベラリズムと正義の限界
第13回　ロールズの政治的リベラリズム
第14回　道徳性とリベラルの理想
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…40%　　質問等の状況…30%　　日常の演習への取り組み…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジュメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

リベラリズム、正義、コミュニタリアニズム、正義と善

法哲学専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要 /Course Description

１学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、２学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　自由研究構想発表
第3回　自由研究報告①【法哲学】（【】内は例示。以下同様）
（ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様）
第4回　自由研究報告②【法と国家】
第5回　自由研究報告③【正義と自由】
第6回　自由研究報告④【環境と生命】
第7回　自由研究報告⑤【法】
第8回　自由研究報告⑥【国家】
第9回　自由研究報告⑦【正義】
第10回　自由研究報告⑧【自由】
第11回　自由研究報告⑨【権利】
第12回　自由研究報告⑩【生命倫理と法哲学】
第13回　自由研究報告⑪【環境倫理と法哲学】
第14回　『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…40%　質問等の状況…30%　日常の演習への取り組み…30%

法哲学専門演習IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジュメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

２学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード　/Keywords

自由研究報告　ゼミ論集　法　国家　正義　自由　権利　生命　環境

法制史専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

【演習の目的】
ある時代や地域において法やそれをめぐる諸制度がどのように成り立ち、またそれらの存立の背景にどのような考え方が存在したのか。東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると言えます。本演習は、日本の近代法形成期の諸法制の形成と展開の過程をテーマとして、現代のわれわれを取り巻く法制を多角的な視点から考察するきっかけを得ることを目的とします。
【演習の内容】
近世から近代（江戸時代から、西欧法の継受を行い近代法への大転換をむかえる明治時代）の移行期について、①近代法的な「権利」概念の形成、②「裁判所で裁判を行う」というシステムの形成に関する諸問題、③外国法の移入のあり方、その理解のあり方、のいずれか或いは幾つかをテーマとしてテキスト及び関連参考文献をもとに報告を行っていただき、参加者全員で当時の法や制度を社会や思想のあり方とも関連付けつつ、さらに現代の法制との対比を行いながら議論を行っていきます。。
（扱うテーマ(一例)）
条約改正、司法制度、大日本帝国憲法の制定、民法典の編纂、刑法・治安法制、訴訟法制、財産法制、土地法制、地方自治法制、教育法制、軍事・警察法制

教科書　/Textbooks

参加者に個別に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001年)
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)
川口由彦『日本近代法制史（第2版）』(新世社・2014年)
これらのほか、演習中に適宜紹介を行います。

法制史専門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　担当教員及び参加者の自己紹介ののち、ゼミの進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
第２回　担当教員による報告の形式をとり、ゼミの進行・報告と議論の仕方等について確認を行います。
第３回　各参加者による報告・議論
第４回　各参加者による報告・議論
第５回　各参加者による報告・議論
第６回　各参加者による報告・議論
第７回　中間総括（プレ討論）
第８回　各参加者による報告・議論
第９回　各参加者による報告・議論
第１０回　各参加者による報告・議論
第１１回　各参加者による報告・議論
第１２回　各参加者による報告・議論
第１３回　各参加者による報告・議論
第１４回　各参加者による報告・議論
第１５回　演習全体の総括討論

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
１．演習における議論への参加状況(30%)
２．演習における報告・司会進行(30%)
３．期末レポート(40%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】
報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。
【事後学習】
演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

履修上の注意　/Remarks

質問・相談は随時受け付けます。
演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor	山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class	3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習では「法制史専門演習I」に引き続き、近代法の形成と展開について学んでいきます（このため、「法制史専門演習I」のシラバスをあわせてご参照ください）。
参加者は担当するテーマについてにつきテキストや関連する参考文献をもとに報告を行っていただき、報告後参加者全員で当時の法や制度を社会や思想のあり方との関連、また現代の法制との対比などの諸論点について議論を行っていきます。

教科書　/Textbooks

参加者に個別に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川口由彦『日本近代法制史』(新世社・1998年)（図書館蔵書：○）
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001年)　（図書館蔵書：○）
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)（図書館蔵書：○）
これらのほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　担当教員・各参加者の自己紹介ののち、ゼミの進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を実施
第２回　担当教員による報告の形式をとり、ゼミの進行・報告と議論の仕方等について確認
第３回　各参加者による報告・議論
第４回　各参加者による報告・議論
第５回　各参加者による報告・議論
第６回　各参加者による報告・議論
第７回　中間総括（プレ討論）
第８回　各参加者による報告・議論
第９回　各参加者による報告・議論
第１０回　各参加者による報告・議論
第１１回　各参加者による報告・議論
第１２回　各参加者による報告・議論
第１３回　各参加者による報告・議論
第１４回　各参加者による報告・議論
第１５回　演習全体の総括討論

法制史専門演習II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
１．演習における議論への参加状況(30%)
２．演習における報告・司会進行(30%)
３．期末レポート(40%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】
報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。
【事後学習】
演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

履修上の注意　/Remarks

質問・相談は随時受け付けます。
演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると考えられます。本科目は広く日本法の歴史的な形成と展開に関する分野につき、「法制史専門演習IおよびII」の学習を踏まえ、日本のみならず日本に影響を与えた西欧の法概念形成に即して、各参加者が関心をもつテーマを選択して論文の執筆に向けた指導を行うとともに各参加者を交えた議論を行っていきます。また論文の執筆だけでなく、情報検索やプレゼンテーションの方法についても学んでいきます。

教科書　/Textbooks

事前の演習参加選抜に合格した参加予定者に掲示板等を通じて個別に指示を行っています。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。
なおテーマ撰択の一助として、以下を参照してください。
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年) (図書館蔵書：○)
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001) (図書館蔵書：○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　担当教員及び参加者の自己紹介ののち、進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
第２回　各参加者の研究テーマ発表
第３回　各参加者による報告・議論
第４回　各参加者による報告・議論
第５回　各参加者による報告・議論
第６回　各参加者による報告・議論
第７回　各参加者による報告・議論
第８回　中間状況報告会
第９回　各参加者による報告・議論
第１０回　各参加者による報告・議論
第１１回　各参加者による報告・議論
第１２回　各参加者による報告・議論
第１３回　各参加者による報告・議論
第１４回　各参加者による報告・議論
第１５回　演習全体の総括討論

法制史専門演習III 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
１．演習における議論への参加状況(30%※)
２．演習における報告(30%※)
３．中間報告書(40%※)
※中間報告書は単位の認定にあたり必ず提出が必要です。論文の提出を確認の上、１・２の項目を総合的に勘案して成績判定を行います。中間報告書については演習中に指示します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】
報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。
【事後学習】
演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

履修上の注意　/Remarks

質問・相談は随時受け付けます。
演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習IV	SEM412M

授業の概要　/Course Description

本科目は「法制史専門演習III」に引き続き、法制史分野のテーマに関する論文の完成と情報検索・プレゼンテーション能力のさらなる向上を目指して指導を行っていきます。

教科書　/Textbooks

なし。各参加者の論文テーマに即し、必要なテキストを自ら選びとることも本演習の大きなテーマの一つです。もちろん、適宜教員の側からアドバイスを行っていきます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参加者の興味関心に応じ、適宜紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　各参加者の研究テーマ確認、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についてのおさらい
第２回　各参加者による報告・議論
第３回　各参加者による報告・議論
第４回　各参加者による報告・議論
第５回　各参加者による報告・議論
第６回　各参加者による報告・議論
第７回　各参加者による報告・議論
第８回　中間状況報告会
第９回　各参加者による報告・議論
第１０回　各参加者による報告・議論
第１１回　各参加者による報告・議論
第１２回　各参加者による報告・議論
第１３回　各参加者による報告・議論
第１４回　各参加者による報告・議論
第１５回　演習全体の総括討論

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
１．演習における議論への参加状況(20%※)
２．演習における報告(20%※)
３．最終提出論文(60%※)
※最終提出論文は単位の認定にあたり必ず提出が必要です。論文の提出を確認の上、１・２の項目を総合的に勘案して成績判定を行います。

法制史専門演習IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】
報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。
【事後学習】
演習中でなされた議論を整理して最終論文に備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

履修上の注意　/Remarks

質問・相談は随時受け付けます。
演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

憲法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

憲法の領分は非常に広範だが、この演習では、ひとまず日本国憲法の論点に絞って、掘り下げていくことにする。

本演習の内容は以下の通りである。
①メインレポーターが、一定の憲法の争点について、報告する。
②サブレポーターが、関連する憲法判例について、報告する。
③全員で討議する。

※全員がメインレポートとサブレポートを最低1回ずつ担当する。

教科書　/Textbooks

大石眞ほか編『憲法の争点』（有斐閣、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○長谷部恭男ほか編『憲法判例百選I・II〔第6版〕』（有斐閣、2013年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2～14回　履修者の報告と討論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レジュメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

メインレポート40分、サブレポート20分、質疑30分に堪えうる準備を行うこと。自らが担当した論点か、判例について事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習II」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習は、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
進行の形式は次のとおり。まず指定テキスト（下記「教科書」参照）を全員で分担講読する。各回の報告担当者がレジュメを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討・議論を行う形で進めていく。

教科書　/Textbooks

新井誠編著『ディベート憲法』（信山社、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告テーマ・順序決定など）
第2回　（"肩慣らし"として）グループ・ディスカッション
第3～14回　テキストの分担講読（報告及び議論）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な準備が求められる。指定テキストは、憲法学上の具体的問題について合憲側と意見側の主張を軸に、解説を付したものである。平易な叙述であるが、その内容を理解するためには、十分な読み込みが必要となる。また、必要に応じてテキスト以外の文献も参照すること。
報告者以外の参加者も、議論に参加する準備として、毎回少なくとも指定テキストを十分に読み込んでおくことが求められる。

履修上の注意　/Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

憲法「学」の領分は、比較法、法思想、法制史、政治哲学、社会学など広範囲にわたる。この演習では、「憲法専門演習III・IV」での論文執筆に向けて、各自の興味関心に沿って報告をしてもらう。テーマは、必ずしも、日本国憲法に直接関わるものである必要はない。例えば、アメリカ連邦最高裁判所や欧州人権裁判所の判例、ホッブズやロック、ハーバマス等の翻訳書、海外の一定の法制度の検討でもよい。もちろん、日本国憲法の論点でもよい。ほかにも、個人情報保護やヘイトスピーチなどの、憲法に関わる時事的論点でもよい。

本演習の内容は以下の通りである。
①メインレポーターが、自らの選択したテーマについて報告する。
②全員で討議する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回～14回　履修者の中間報告と討論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レジュメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

メインレポート30～60分、質疑30分に堪えうる準備を行うこと。自らが担当したテーマついて、事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習I」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習は、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
「演習I」を受けて、「演習II」では、「演習III」「演習IV」で論文を執筆するための準備を行う。
具体的には、参加者がそれぞれ「①論文のテーマ（問い）、②そのテーマ（問い）をめぐる社会状況や憲法学における議論状況、関連する判例、③自分の見解」をまとめたレジュメを作成して報告し、それに基づいて全員で検討・議論を行うという形で進めていく。
最終的に、論文の全体構成を練り上げることを目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告順決定など）
第2～14回　各自が決定したテーマに関する報告及び議論
第15回　論文執筆に向けたまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
ゼミレポートの内容：20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な準備が求められる。自分の立てた問いに答えるために必要な内容を、十分に・丁寧に調べてまとめることが必要となる。
報告回の前回までにレジュメを完成させて、事前に全員に配布すること。
報告者以外の参加者は、あらかじめ配布レジュメを十分に読み込んでおき、報告者にとって有益な質問・意見を述べることが求められる。

履修上の注意　/Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

憲法専門演習II 【昼】

キーワード　/Keywords

憲法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

これまで深めてきた憲法および憲法学に関する知見に基づき、「憲法専門演習IV」と合わせて、論文（1万5千～2万字程度）を執筆することを目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。
①各自の研究テーマの決定、
②授業外でテーマに関する文献を読み込んで全体像を把握、
③隔週の研究進捗状況の報告と、それについての検討、
④最終的に、目次（全体の構成）と要旨を完成させる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指導する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2～5回　研究テーマの決定
第6～15回　研究報告および検討

成績評価の方法　/Assessment Method

目次と要旨の完成度（40%）、隔週の報告内容（40%）、日常の授業への取り組み（20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

研究テーマの選択や決定の際に、その後の研究の方向性も含めて考えながら、文献にあたること。隔週の報告の間にしっかりと文献を読み込んで、報告に備えること。検討を踏まえて、次の文献にあたりつつ、全体の構成を常に考えること。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習IV」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

テーマはかなり自由に決定してよい（それについては、憲法専門演習IIのシラバスを参照）。ただしその分、憲法または関連分野に強い興味関心をもって取り組むことができる者が望ましい。

キーワード　/Keywords

憲法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「個別研究指導II」と併せて論文（20,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。
「I」においては、研究テーマの決定及び論文の概要（全体構成）を完成させるところまでを目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）
第2～5回　研究テーマの決定
第6～15回　研究報告・検討

成績評価の方法　/Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
論文概要（全体構成）の内容：20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意　/Remarks

本演習は「個別研究指導II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード　/Keywords

憲法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習IV	SEM412M

授業の概要　/Course Description

これまで深めてきた憲法および憲法学に関する知見に基づき、「憲法専門演習III」と合わせて、論文（1万5千～2万字程度）を執筆することを目的とする。「憲法専門演習III」で作成した、目次と要旨に基づき、さらにそれを深めて肉づけし、論文を完成させる。

本演習は、次の手順で行われる。
①授業外でテーマに関する文献をさらに読み込んで各章を肉づけ、
②研究の中間報告と、それについての検討、
③研究の最終報告と、それについての検討、
④論文の完成。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指導する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2～11回　論文の中間報告
第12～15回　論文の最終報告

成績評価の方法　/Assessment Method

論文（70%）、レジュメおよび報告（30%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外での文献講読・執筆活動が前提となる。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習III」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習IV	SEM412M

授業の概要　/Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「個別研究指導I」と併せて論文（20,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。
「II」においては、「I」で完成させた論文概要（全体構成）に基づいて、さらに研究を専門化、精緻化させながらゼミ論文を完成させることを目指す。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2～15回　研究報告・検討～論文作成

成績評価の方法　/Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：30%
各回の議論への主体的参加状況：30%
論文の内容：40%

※論文を完成させられなかった場合、原則として単位は認定しない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意　/Remarks

本演習は「個別研究指導I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい（「II」のみで論文を完成させることはかなりの困難を伴う）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード　/Keywords

行政法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習では、行政法の重要判例を素材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2～14回　グループ報告またはディベート
第15回　まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習では、行政法の重要判例を素材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2～14回　グループ報告またはディベート
第15回　まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み40%、レポート10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、研究指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2回　論文テーマの決定
第3～14回　研究指導
第15回　まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート50%、日常の授業への取組み50%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　福重 さと子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

授業の概要
行政法に関する研究テーマを見つけ、研究を行うため、文献を読み、まとめる。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

①法的な問題を正しく把握し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
②情報の分析の結果をまとめることができる。
③結果をわかりやすく他者に伝えることができる。
④他者と対話することによって、自らの意見を再構成することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。個人の研究状況に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　文献を読み、まとめる
第3回　文献を読み、まとめる
第4回　文献を読み、まとめる
第5回　文献を読み、まとめる
第6回　文献を読み、まとめる
第7回　文献を読み、まとめる
第8回　文献を読み、まとめる
第9回　文献を読み、まとめる
第10回　文献を読み、まとめる
第11回　文献を読み、まとめる
第12回　文献を読み、まとめる
第13回　文献を読み、まとめる
第14回　文献を読み、まとめる
第15回　文献を読み、まとめる

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の取り組み：50%　課題：50%

行政法専門演習III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、課題に取り組むことを求められます。
授業後は、質問などにより、わからない点の理解につとめること。

履修上の注意　/Remarks

なし

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法

行政法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、研究指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2～9回　研究指導
第10～14回　中間報告
第15回　まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

論文50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　福重 さと子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

授業の概要
行政法に関する研究テーマを見つけ、研究を行う。
研究の成果を口頭報告する。
研究の成果を卒業論文として仕上げる。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

①法的な問題を正しく把握し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
②研究に値するテーマを自ら発見し、分析・総合を行い、また、それを卒業論文として発表することができる。
③積極的に社会に関わる１つの手段として、論文の作成・発表ができるようになる。
④他者と対話することによって、自らの意見を再構成することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。個別に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　研究報告
第3回　研究報告
第4回　研究報告
第5回　研究報告
第6回　研究報告
第7回　研究報告
第8回　研究報告
第9回　研究報告
第10回　研究報告
第11回　研究報告
第12回　研究報告
第13回　研究報告
第14回　研究報告
第15回　研究報告

行政法専門演習IV 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の取り組み：30%、口頭報告30%、卒業論文：40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日常的に、調査・研究を行います。
授業後も、質問などによって、口頭報告の際に受けた意見を理解するよう、務めてください。

履修上の注意　/Remarks

なし

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法

刑法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習では、刑法各論の基本的な判例の分析を通じて、法的問題解決能力を訓練します。
判例は、現実社会で生起する問題に法的に対応する際、第一に基準とされるものです。さらに、判例に表れた事例は、「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論」で学んだ理論がどのようにして適用されるのかを具体的に考えるための格好の素材を提供してくれます。ここでは、生ける法である判例を読み解く方法を学ぶことによって、法的思考の実践力を養うことを目指します。
専門演習Iでは、判例研究の方法に慣れるとともに、犯罪の成否に関する判断の仕方を体得することに特に力を入れて取り組みます。

教科書　/Textbooks

山口厚 / 佐伯仁志編『刑法判例百選II各論〔第7版〕』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○大塚裕史 / 十河太朗 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法II各論』（日本評論社、2014年）
○井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣、2016年）
○山口厚『刑法各論〔第2版〕』（有斐閣、2010年）
○川端博『集中講義刑法各論』（成文堂、1999年）
○井田良他編『刑法事例演習教材〔第2版〕』（有斐閣、2014年）

刑法専門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習の進め方
①報告者は二人一組になって、上記『刑法判例百選II各論』から判例を一つ選択し、事案・争点・判例の理由付けについて要点を報告します。
②それに付随して、各組それぞれ異なる２つの学説から、当該判例の立場を分析し説明を行います。
③以上の説明を受けて、他の受講生は、事案や判旨について疑問のある点を質問し、さらには自身がいずれの報告者の説明・学説がより説得的であったと考えるのかを明らかにした上で、自説の実質的な根拠と反対説の問題点について相互に議論を深めていきます。
④報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。報告後には、要旨をまとめたレポートを提出して下さい。

第1回　演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択
第2回　判例の読み方と事例の解き方およびレポートの書き方の概説
第3回　判例①（生命・身体に対する罪）の報告・検討
第4回　判例②（人格的法益に対する罪）の報告・検討
第5回　判例③（財産犯総論）の報告・検討
第6回　判例④（窃盗罪）の報告・検討
第7回　判例⑤（強盗罪）の報告・検討
第8回　判例⑥（詐欺罪）の報告・検討
第9回　判例⑦（横領罪）の報告・検討
第10回　判例⑧（毀棄隠匿罪）の報告・検討
第11回　判例⑨（公共危険罪）の報告・検討
第12回　判例⑩（偽造罪）の報告・検討
第13回　判例⑪（風俗に対する罪）の報告・検討
第14回　判例⑫（国家的法益に対する罪）の報告・検討
第15回　総括・質疑応答

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（40％）、報告後のレポート（20％）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（40％）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は、当該判例の意義を正確に理解するために、下級審の判決および過去の関連判例も調べて下さい。
報告者以外の受講生は、判例百選における該当事件の解説（原則、見開き2頁のみです）を必ず事前に読んで下さい。その際に、判決および解説の内容で疑問に思った点をメモしておくことを推奨します。
授業後は、ゼミの中で出された質問に関する教科書の記述（とりわけ、各犯罪類型の基本的な成立要件）を再度確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

「刑法の基本問題の探求（１）」
刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ？」、「どうして？」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思います。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

目的　①法学の基本的な知識の確認
②法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
③法を支える基本的思考の理解
④刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

教科書　/Textbooks

①只木誠〔編著〕『刑法演習ノート–刑法を楽しむ21問』（弘文堂・2013.05）。
②六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）。
③刑法総論・刑法各論の基本書
著者を指定しません。各自の選択に委ねます。講義の予習・復習、および自習のため、いずれかのテキスト（基本書）を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。
○佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣・2013.04）。
○西田典之 / 山口厚ほか〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ - ズ）』（有斐閣・2007.10）。
○阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座1巻～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選I総論（別冊ジュリスト220号）』7版（有斐閣・2014.07）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。

刑法専門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

①担当したテーマについてレポートを作成して、事前に提出してください。
②提出したレポートに基づいて、事例分析、争点整理、判例の概要、学説の概要を報告してください。
③担当者以外の者は、摘要（summary）を作成して提出してください。
④担当者がディスカッションをリードして、妥当と考えられる結論を探求していきます。

１回　ガイダンス（方針の説明・報告の配分など）
２回　判例と裁判例、判例理論について
３回　判例研究の実践
４回　事例１–事例分析と争点整理、積極説の論証
５回　事例１–消極説の論証、まとめ
６回　事例２–事例分析と争点整理、積極説の論証
７回　事例２–消極説の論証、まとめ
８回　研究テーマの設定
９回　事例３–事例分析と争点整理、積極説の論証
１０回　事例３–消極説の論証、まとめ
１１回　事例４–事例分析と争点整理、積極説の論証
１２回　事例４–消極説の論証、まとめ
１３回　研究テーマの概略についての報告と検討（１）
１４回　研究テーマの概略についての報告と検討（２）
１５回　研究テーマの検証・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験を行いません。提出されたレポート・レジュメ等（３０％）、演習における報告内容（２０％）、およびディスカッションにおける発言状況・内容（５０％）により総合的に評価します（カッコ内は評価の全体に占める割合です。）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

担当者は担当した課題についてレポートを作成して、事前に配布してください。また、担当者以外の者は摘要（summary）を作成して演習に臨んでください。演習後は、指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成してください。

履修上の注意　/Remarks

受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること（または履修中であること）（上掲「授業の概要」を参照してください。）。また、専門演習Iは、専門演習II、専門演習IIIおよび専門演習IVと連続して展開することを予定しています。これらの科目も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習では、刑法総論の基本的な判例の分析を通じて、法的問題解決能力を訓練します。
判例は、現実社会で生起する問題に法的に対応する際、第一に基準とされるものです。さらに、判例に表れた事例は、「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論」で学んだ理論がどのようにして適用されるのかを具体的に考えるための格好の素材を提供してくれます。ここでは、生ける法である判例を読み解く方法を学ぶことによって、法的思考の実践力を養うことを目指します。
専門演習IIでは、特に各学説の中心的論拠と批判、反批判の検討に重点をおき、その上で、4年次に行う卒業論文執筆を意識したレポートの作成に取り組みます。

教科書　/Textbooks

山口厚 / 佐伯仁志編『刑法判例百選I総論〔第7版〕』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○大塚裕史 / 十河太朗 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法I総論〔第2版〕』（日本評論社、2016年）
○井田良『講義刑法学・総論』（有斐閣、2008年）
○佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣、2013年）
○川端博『集中講義刑法総論〔第2版〕』（成文堂、1997年）
○井田良他編『刑法事例演習教材〔第2版〕』（有斐閣、2014年）

刑法専門演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習の進め方
①報告者は二人一組になって、上記『刑法判例百選I総論』から判例を一つ選択し、事案・争点・判例の理由付けについて要点を報告します。
②それに付随して、各組それぞれ異なる２つの学説から、当該判例の立場を分析し説明を行います。
③以上の説明を受けて、他の受講生は、事案や判旨について疑問のある点を質問し、さらには自身がいずれの報告者の説明・学説がより説得的であったと考えるのかを明らかにした上で、自説の実質的な根拠と反対説の問題点について相互に議論を深めていきます。
④報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。報告後には、要旨をまとめたレポートを提出して下さい。

第1回　演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択
第2回　犯罪論の体系およびディベートの方法に関する概説
第3回　判例①（不作為犯）および関連する学説の報告・質疑
第4回　判例①（不作為犯）と学説に関する質疑への回答
第5回　判例②（因果関係）および関連する学説の報告・質疑
第6回　判例②（因果関係）と学説に関する質疑への回答
第7回　判例③（実質的違法性）および関連する学説の報告・質疑
第8回　判例③（実質的違法性）と学説に関する質疑への回答
第9回　判例④（正当防衛）および関連する学説の報告・質疑
第10回　判例④（正当防衛）と学説に関する質疑への回答
第11回　判例⑤（責任能力）および関連する学説の報告・質疑
第12回　判例⑤（責任能力）と学説に関する質疑への回答
第13回　判例⑥（共犯）および関連する学説の報告・質疑
第14回　判例⑥（共犯）と学説に関する質疑への回答
第15回　総括・質疑応答

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（30％）、報告後のレポート（30％）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（40％）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は、当該判例の意義を正確に理解するために、下級審の判決および過去の関連判例も調べて下さい。
報告者以外の受講生は、判例百選における該当事件の解説（原則、見開き2頁のみです）を必ず事前に読んで下さい。その際に、判決および解説の内容で疑問に思った点をメモしておくことを推奨します。
授業後は、ゼミの中で出された質問に関する教科書の記述（とりわけ、各項目の基本的な成立要件）を再度確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

「刑法の基本問題の探求（２）」
刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ？」、「どうして？」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思います。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

目的　①法学の基本的な知識の確認
②法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
③法を支える基本的思考の理解
④刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

教科書　/Textbooks

①只木誠〔編著〕『刑法演習ノート–刑法を楽しむ21問』（弘文堂・2013.05）。
②六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）。
③刑法総論・刑法各論の基本書
著者を指定しません。各自の選択に委ねます。講義の予習・復習、および自習のため、いずれかのテキスト（基本書）を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。
○佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣・2013.04）。
○西田典之 / 山口厚ほか〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ - ズ）』（有斐閣・2007.10）。
○阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座1巻～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選I総論（別冊ジュリスト220号）』7版（有斐閣・2014.07）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。

刑法専門演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

①担当したテーマについてレポートを作成して、事前に提出してください。
②提出したレポートに基づいて、事例分析、争点整理、判例の概要、学説の概要を報告してください。
③担当者以外の者は、摘要（summary）を作成して提出してください。
④担当者がディスカッションをリードして、妥当と考えられる結論を探求していきます。

１回　ガイダンス、予備研究レポートの提出
２回　予備研究の検討（１）
３回　予備研究の検討（２）
４回　事例５–事例分析と争点整理、積極説の論証
５回　事例５–消極説の論証、まとめ
６回　事例６–事例分析と争点整理、積極説の論証
７回　事例６–消極説の論証、まとめ
８回　事例７–事例分析と争点整理、積極説の論証
９回　事例７–消極説の論証、まとめ
１０回　事例８–事例分析と争点整理、積極説の論証
１１回　事例８–消極説の論証、まとめ
１２回　事例９–事例分析と争点整理、積極説の論証
１３回　事例９–消極説の論証、まとめ
１４回　研究テーマの検討と再設定
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験を行いません。提出されたレポート・レジュメ等（３０％）、演習における報告内容（２０％）、およびディスカッションにおける発言状況・内容（５０％）により総合的に評価します（カッコ内は評価の全体に占める割合です。）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

担当者は担当した課題についてレポートを作成して、事前に配布してください。また、担当者以外の者は摘要（summary）を作成して演習に臨んでください。演習後は、指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成してください。

履修上の注意　/Remarks

受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。
受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること（または履修中であること）（上掲「授業の概要」を参照してください。）。また、専門演習Iは、専門演習II、専門演習IIIおよび専門演習IVと連続して展開することを予定しています。これらの科目も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

本演習では、刑法総論および刑法各論の主要な論点について調査報告をしてもらい、受講生全員で議論を行います。その際には、継続科目である専門演習IVにおいて受講者各自が卒業論文を完成させるために、選択したテーマについて問題の所在を明らかにすることを主眼とし、加えて関連する文献の選択について手がかりを与えるようにします。

教科書　/Textbooks

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点』（有斐閣、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○川端博 / 浅田和茂 / 山口厚 / 井田良編『理論刑法学の探求①〜⑨』（成文堂、2008〜2016年）
○伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2016年）
○高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門刑法理論の味わい方』（日本評論社、2014年）
○山口厚 / 井田良 / 佐伯仁志『理論刑法学の最前線』（岩波書店、2001年）
○川端博 / 前田雅英 / 伊東研祐 / 山口厚『徹底討論刑法理論の展望』（成文堂、2000年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習の進め方
①報告者は、上記『刑法の争点』からテーマを選択し、報告を行います。
②報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。

第1回　演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択
第2回　論文作成の目的と手順の説明、刑法学説の対立の源流概説
第3回　報告者①によるテーマと問題の所在に関する報告
第4回　報告者②によるテーマと問題の所在に関する報告
第5回　報告者③によるテーマと問題の所在に関する報告
第6回　報告者④によるテーマと問題の所在に関する報告
第7回　報告者⑤によるテーマと問題の所在に関する報告
第8回　報告者⑥によるテーマと問題の所在に関する報告
第9回　報告者⑦によるテーマと問題の所在に関する報告
第10回　報告者⑧によるテーマと問題の所在に関する報告
第11回　報告者⑨によるテーマと問題の所在に関する報告
第12回　報告者⑩によるテーマと問題の所在に関する報告
第13回　報告者⑪によるテーマと問題の所在に関する報告
第14回　報告者⑫によるテーマと問題の所在に関する報告
第15回　総括・質疑応答

刑法専門演習III 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（50%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は、『刑法の争点』に挙げられた重要文献を読んで、自身の問題関心・設定を明らかにするようにして下さい。授業後、報告と質疑応答に基いて、仮の目次を作成するようにして下さい。
報告者以外の受講生は、『刑法の争点』の該当箇所（原則、見開き2頁のみです）を予め読んでから出席して下さい。その際、解説の不明な点、あるいは自分のテーマと関連しそうな点についてメモしておくことを推奨します。授業後は、議論の対象となった事柄について、各種基本書の該当箇所を確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

テーマ「刑法理論の探求（１）」
刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法に関する研究テーマを選定し、判例・学説の分析に基づいて具体的かつ緻密に考察する。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。
この演習では、研究論文（ゼミ論文）を執筆する。

教科書　/Textbooks

テキストを指定しない。各自が現在使用している基本書でよい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（方針の説明・報告の配分など）
２回　争点と問題の所在の検討（１）
３回　争点と問題の所在の検討（２）
４回　参考文献の整理と検討
５回　学説の分析（１）
６回　学説の分析（２）
７回　学説の分析（３）
８回　最高裁判例の検討（１）
９回　最高裁判例の検討（２）
１０回　最高裁判例の検討（３）
１１回　下級審裁判例の検討
１２回　判例理論の総括
１３回　論証の検討（１）
１４回　論証の検討（２）
１５回　論証の検討（３）

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）…６０％　　討論及び発言内容…４０％
試験を行わない。提出されたレポートおよび演習への参加状況（報告内容、討論および発言内容）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

選定した研究テーマについて各回の課題レポートを作成する。提出されたレポートをもとにディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、研究論文にフィードバックすることが求められる。

履修上の注意　/Remarks

専門演習IIIは、専門演習IVと連続して展開することを予定している。これらの科目も併せて履修すること。

刑法専門演習III 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

研究論文（ゼミ論文）の執筆を目的としている。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習IV	SEM412M

授業の概要　/Course Description

本演習では、刑法総論および刑法各論の主要な論点について調査報告をしてもらい、受講生全員で議論を行います。その際には、受講者各自が卒業論文を完成させるために、選択したテーマに関連する諸学説の要点を明らかにすることを主眼とします。

教科書　/Textbooks

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点』（有斐閣、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○川端博 / 浅田和茂 / 山口厚 / 井田良編『理論刑法学の探求①～⑨』（成文堂、2008～2016年）
○伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2016年）
○高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門』（日本評論社、2014年）
○山口厚 / 井田良 / 佐伯仁志『理論刑法学の最前線』（岩波書店、2001年）
○川端博 / 前田雅英 / 伊東研祐 / 山口厚『徹底討論刑法理論の展望』（成文堂、2000年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習の進め方
①報告者は、専門演習IIIで行った報告テーマに関連する主要な学説について報告します。
②報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。

第1回　演習の進め方の説明、報告者の決定、卒業論文執筆スケジュールの確認
第2回　報告者①による主要学説の比較検討・質疑応答
第3回　報告者②による主要学説の比較検討・質疑応答
第4回　報告者③による主要学説の比較検討・質疑応答
第5回　報告者④による主要学説の比較検討・質疑応答
第6回　報告者⑤による主要学説の比較検討・質疑応答
第7回　報告者⑥による主要学説の比較検討・質疑応答
第8回　報告者⑦による主要学説の比較検討・質疑応答
第9回　報告者⑧による主要学説の比較検討・質疑応答
第10回　報告者⑨による主要学説の比較検討・質疑応答
第11回　報告者⑩による主要学説の比較検討・質疑応答
第12回　報告者⑪による主要学説の比較検討・質疑応答
第13回　報告者⑫による主要学説の比較検討・質疑応答
第14回　受講生各位による論文要旨説明
第15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（20%）、論文（60%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（20%）を総合的に評価します。

刑法専門演習IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は、テーマに関連する多様な学説の相互関係を適切に整理し、他の受講生が概要を把握できるよう簡便な見取り図を示せるように準備して下さい。授業中に挙げられた質問は、報告終了後、直ちに論文に反映させるようにして下さい。
報告者以外の受講生は、事前に共有されるレジュメを必ず一読してからゼミに臨むようにして下さい。授業後、論文の形式面も含めて、報告者が指摘された点について、自分の論文にも直ちに反映させてるようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

論文の執筆は、大学における4年間の学修の集大成です。慣れない作業に大変な思いをすることも多いと思いますが、目標を達成した先には、一皮むけた自分が待っています。奇をてらわず、地道にやり遂げることを目指しましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法総論　刑法各論

刑法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

テーマ「刑法理論の探求（２）」
刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法に関する研究テーマを選定し、判例・学説の分析に基づいて具体的かつ緻密に考察する。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。
この演習では、研究論文（ゼミ論文）を執筆する。

教科書　/Textbooks

テキストを指定しない。各自が現在使用している基本書でよい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス、草稿の提出
２回　草稿の検討（１）
３回　草稿の検討（２）
４回　草稿の検討（３）
５回　草稿の検討（４）
６回　論文構成の検討
７回　問題の所在と論証の再検討（１）
８回　問題の所在と論証の再検討（２）
９回　問題の所在と論証の再検討（３）
１０回　問題の所在と論証の再検討（４）
１１回　研究報告（１）
１２回　研究報告（２）
１３回　研究報告（３）
１４回　研究報告（４）
１５回　まとめ・研究論文の提出

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）…３０％　討論及び発言内容…３０％　研究論文（ゼミ論文）…４０％
試験を行わない。提出されたレポートおよび演習への参加状況（報告内容、討論および発言内容）、研究論文（ゼミ論文）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

選定した研究テーマについて各回の課題レポートを作成する。提出されたレポートをもとにディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、研究論文にフィードバックすることが求められる。

刑法専門演習IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

専門演習IVは、専門演習IIIと連続して展開することを予定している。これらの科目も併せて履修すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

研究論文（ゼミ論文）の執筆を目的としている。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑事訴訟法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回〜15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うことになります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード　/Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書　/Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回〜15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うことになります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード　/Keywords

刑事訴訟法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書　/Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回~15回　関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うことになります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード　/Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合が゛ある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書　/Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示ずる。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回~15回　関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うことになります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード　/Keywords

刑事学専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

すでに刑事法系科目（刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事司法政策）のすべてを履修済みかあるいは現在当該科目を履修中である学生を対象として、本演習では「経済格差（貧困）と犯罪・刑罰」との関係について考察します。ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）他、格差問題に関する専門書数冊を輪読します。刑事施設の参観も実施します。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書　/Textbooks

ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）
ジョセフ・E・スティグリッツ『世界の99%を貧困にする経済』（徳間書店、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）
○ 朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
○ヴォルド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）
○リリー、カレン、＆ボール『犯罪学　理論的背景と帰結　第5版』（金剛出版、2013年）
○トマ・ピケティ『21世紀の資本論』（みすず書房、2014年）
A・B・アトキンソン『不平等の経済学』（時潮社、1981年）
ロバート・ライシュ『格差と民主主義』（東洋経済新報社、2014年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション～なぜ格差問題なのか。
2回　スティグリッツ　Chs. 1-2
3回　スティグリッツ　Chs. 3-4
4回　スティグリッツ　Chs. 5-6
5回 スティグリッツ　Chs. 7-8
6回 スティグリッツ　Chs. 9-10
7回　ライマン＝レイトン　Ch.1
8回　Ch.1　演習問題
9回 ライマン＝レイトン　Ch. 2
10回　Ch.2　演習問題
11回 ライマン＝レイトン　Ch. 3
12回　Ch. 3 演習問題
13回　ライマン＝レイトン　Ch. 4
14回　Ch. 4 演習問題
15回 ライマン＝レイトン　結論

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　宿題…30%　レポート…40%

刑事学専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ゼミ開始前までに上記参考文献掲載の入門書の類は読み込んでおくこと。テキストとして指定した文献の指定された箇所を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

履修上の注意　/Remarks

「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。
専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。
本ゼミでは例年ゼミ活動の一環として九州矯正管区内の矯正施設への参観を実施しています。本年度もゼミ学生と相談の上、実施する予定です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事学専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本専門演習IIのテーマは、「現代社会における犯罪と刑罰を考える」です。専門演習Iの共通テーマである「格差（貧困）と犯罪」について、なんらかの実証的な調査研究を共同プロジェクトとして実施する。または、刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究分野の中から、各ゼミ生が興味・関心をもっているテーマを自由に選択してもらい、それについて必要な文献調査、研究報告、論文作成をすることが目的です。加えて、適宜「映画で学ぶ犯罪学」をサブ・テーマとして映画鑑賞を実施する。

教科書　/Textbooks

守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）
○守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』成文堂（2008年）
○浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
○瀬川晃著『犯罪学』成文堂{1998年}
○藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
○ヴォルド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）
○リリー、カレン、＆ポール『犯罪学　理論的背景と帰結　第5版』（金剛出版、2013年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 フィールド調査（矯正施設参観）
２回　テーマ選択
３回　文献調査（１）【図書館】
４回　文献調査（２）【インターネット情報】
５回　映画鑑賞４
６回　調査設計（プロスペクタス提出）
７回　先行研究の検討（１）【邦語文献】
８回　先行研究の検討（２）【英語文献】
９回　映画鑑賞５
10回　先行研究の検討（３）【過去の研究と現在の研究との比較】
11回　中間報告（１）【研究テーマの正当化根拠】
12回　中間報告（２）【データ源】【データ分析】
13回　映画鑑賞６
14回　中間報告（３）【分析結果】
15回　レポート提出

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　宿題…30%　レポート…40%

刑事学専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自ら選択したテーマについて、課題読書として指定された参考文献などを毎回事前に読み込んでおくこと。
授業終了後には指導教員からのコメントを踏まえ、必要であれば研究計画の修正を図るなど、次回までの授業につながるよう各自の研究内容の整理検討を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事学専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

本演習では、アメリカの代表的な犯罪学テキストであるLarry J. Siegel, Criminology 11th ed., 2012 を輪読します。原書テキストを講読することで、専門的知識や英語によるコミュニケーション力を身につけることを目指します。本年度、分析・検討する予定のテーマは、「アメリカの刑事司法制度」(Siegel, Part Four The Crimininal Justice System,pp.553-657)です。専門演習IIIでは、とくに警察の問題について検討します。刑事施設の参観も実施します。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書　/Textbooks

○Larry J. Siegel, Criminology 11th ed., Wadsworth: Belmont, CA. 2012

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン著『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）
○サミュエル・ウォ - カー著『民衆司法ーーアメリカ刑事司法の歴史ーー』（中央大学出版部、1999）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2回 アメリカの刑事司法制度の概観
3回 Siegel, Ch.16 Criminal Justice: Process and Perspective
4回 Siegel, Ch.16 Origins of the American CJS
5回 Siegel, Ch.16 Criminal Justice and the Rule of Law
6回 Siegel, Ch.16 Concepts of Justice
7回 Siegel, Ch.16 Visions of Justice Today
8回 施設参観予定
9回 Siegel, Ch. 17 Police and Society
10回 Siegel, Ch. 17 Law Enforcement Agencies Today
11回 Siegel, Ch. 17 Preventing and Deterring Crime
12回 Siegel, Ch. 17 Targeting Crimes
13回 Siegel, Ch. 17 Investigating Crime
14回 Siegel, Ch. 17 Changing the Police Role
15回 ビデオ鑑賞 （「殺人者への道」）

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　課題…30%　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

課題読書として指定されたテキストの該当箇所を毎回事前に読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事学専門演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

犯罪学および刑事司法政策I及びIIの講義科目、3年次「刑事学専門演習I及びII」を履修済みであることが望ましい。
「刑事学専門演習III」は、「刑事学専門演習IV」と一体的・連携的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事学専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

本演習では、アメリカの代表的な犯罪学テキストであるLarry J. Siegel, Criminology 11th ed., 2012 、Chs 17 and 18を引き続き輪読します。専門演習Ⅳでは、とくにアメリカの裁判制度と刑罰（矯正）制度について検討します。
刑事施設の参観も実施します。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書　/Textbooks

Larry J. Siegel, Criminology 11th ed., Belmont, CA: Wadsworth, 2012

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン著『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）
○サミュエル・ウォ - カー著『民衆司法――アメリカ刑事司法の歴史――』（中央大学出版部、1999）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Siegel, Ch.17(continued)　The Adjudication Process
2回　Ch. 17 Court Structure
3回　Ch. 17 Actors in the Judicatory Process
4回　Ch. 17 Pretrial Procedures
5回　Ch. 17 Criminal Trial
6回　施設参観予定
7回 Ch. 18 A Brief History of Punishment
8回 Ch. 18 The Goals of Punishment
9回 Ch. 18 How People Are Sentenced
10回 Ch. 18 The Death Penalty
11回 Ch. 18 Correcting Criminal Offenders
12回 Ch. 18 Probation
13回 Ch. 18 Jails
14回 Ch. 18 Prisons
15回 Ch.18 Parole

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…30%　課題…30%　レポート…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、テキストの指定された箇所を事前に読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事学専門演習IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

犯罪学および刑事司法政策I&IIを履修済みまたは履修中であることが望ましい。参考書として指定したアメリカ刑事司法制度に関する文献を事前に可能な限り、読むことを強く推奨します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会保障法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。
実際の判決文を一つ一つ丁寧に読み進めることを通じて、講義では触れられない詳細な法理論を身につける訓練をする。
また、判例研究以外にも、受講者の希望によって、一定のテーマに特化した報告という形態も考えられる。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。
基本的に2回の演習で1つの判例・テーマを取り上げ、グループによる報告・検討を基礎に、全員で討論を行う。これを通じて、当該問題・課題に対する自らの見解をまとめあげる。

第1回　オリエンテーション
第2回・第3回　第1報告・討論・意見交換
第4回・第5回　第2報告・討論・意見交換
第6回・第7回　第3報告・討論・意見交換
第8回　中間相互評価会
第9回・第10回　第4報告・討論・意見交換
第11回・第12回　第5報告・討論・意見交換
第13回・第14回　第6報告・討論・意見交換
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、報告内容、討論への参加等、総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

社会保障法専門演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

2学期に開講する「社会保障法専門演習II」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになる。
各回のテーマ理解に必要な基本的事項は、予習・復習により理解の定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会保障法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

1学期に社会保障法専門演習Iを受講した者を対象とし、引き続き社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。

第1回　オリエンテーション
第2回・第3回　第1報告・討論・意見交換
第4回・第5回　第2報告・討論・意見交換
第6回・第7回　第3報告・討論・意見交換
第8回　中間相互評価会
第9回・第10回　第4報告・討論・意見交換
第11回・第12回　第5報告・討論・意見交換
第13回・第14回　第6報告・討論・意見交換
第15回　今年度全体の総まとめと来年度の課題設定

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

履修上の注意　/Remarks

1学期に開講する「社会保障法専門演習I」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになります。
各回のテーマ理解に必要な基礎的事項については、予習・復習により定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会保障法専門演習II 【昼】

キーワード　/Keywords

社会保障法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

主として「社会保障法専門演習I・II」を昨年度以前に受講済みの者を対象とし、社会保障法分野において、自らの関心のある特定のテーマを設定し、それについての判例及び学術論文を輪読・討論する。最終的には、2学期終了時に一定のゼミ論文を作成・提出してもらう。そのための指導の一環として位置付けているので、その点を考慮した上、受講すること。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講者と相談の上決定する。
第1回　各自の問題関心の具体化
第2回～第3回　それぞれの問題関心に沿った学術文献を探す
第4回～第14回　各自持ち寄った文献を参加者全員で輪読し討論する。
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(事前学習)　次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
(事後学習)　学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、自身の論文に活かす。

履修上の注意　/Remarks

時間帯等については、受講者と相談の上決定する。
各自が問題関心をしっかり持ち、論文執筆に向け努力を怠らないことが重要。
そのため、講義等を通じて指摘された事項について、各自予習・復習を行うとともに、自発的な授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会保障法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

津田の担当する「個別研究指導I」を受講済みの者を対象とし、1学期に引き続き、自らの関心のある特定のテーマについて、ゼミ論文を作成・提出するための指導を行う。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。
第1回　1学期および夏季休業期間中の総括
第2回～第14回　各受講者の論文指導
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(事前学習)　自身の論文に向き合い、疑問点・課題を抽出する。
(事後学習)　学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、論文に反映させる。

履修上の注意　/Remarks

時間帯等については、受講者と相談の上決定する。
ゼミ論執筆のため、各自予習・復習を怠らず、講義等を通じて指摘された事項についての授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

労働法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅰ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習は、下記教科書に掲載されている労働法に関する具体的な事例を素材として、現在の労働法がどのようなルールを採用しているかを把握し、そのルールが本当に正しいかを受講者全員で議論するものです。労働をめぐる現代的な諸課題について議論し、一定の結論に至ることのできる能力を涵養するところに本演習の目的があります。

教科書　/Textbooks

大内伸哉編著『労働法演習ノート』（弘文堂、2011年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○土田道夫『労働契約法　第2版』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業で扱うテーマは、各自の興味、関心に応じて設定します。あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

第１回　男女雇用機会均等法
第２回　障害者雇用差別禁止法
第３回　正社員と非正社員の均衡処遇
第４回　解雇
第５回　有期労働契約
第６回　労働者派遣
第７回　労働時間
第８回　休日、休暇
第９回　過労死
第１０回　配転
第１１回　出向、転籍
第１２回　成果主義賃金
第１３回　就業規則による労働条件の変更
第１４回　高年齢者の雇用問題
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…30%　発言の度合い・授業態度…40%　レポート…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます（事前学習）。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

労働法専門演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

2学期の「労働法専門演習II」も同時に履修して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

正当な理由のない欠席、遅刻には厳しく対応します。

キーワード　/Keywords

労働法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習は、下記教科書に掲載されている労働法に関する具体的な事例を素材として、現在の労働法がどのようなルールを採用しているかを把握し、そのルールが本当に正しいかを受講者全員で議論するものです。労働をめぐる現代的な諸課題について議論し、一定の結論に至ることのできる能力を涵養するところに本演習の目的があります。

教科書　/Textbooks

大内伸哉編著『労働法演習ノート』（弘文堂、2011年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○土田道夫『労働契約法　第2版』有斐閣、2016年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業の進行は、各自の興味や関心に応じて選択されたテーマによりますが、あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

第１回　オリエンテーション
第２回　労働組合の歴史
第３回　ストライキ
第４回　組合活動
第５回　団体交渉
第６回　支配介入と不利益取扱い
第７回　労働組合法上の労働者
第８回　労働協約による労働条件変更
第９回　労働組合による労働者の統制
第１０回　コーポレートガバナンスと労働組合
第１１回　公共部門の労使関係法
第１２回　従業員代表制度
第１３回　労働組合の存在意義
第１４回　労使関係法の将来
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…30%　発言の度合い・授業態度…40%　レポート…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます（事前学習）。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

労働法専門演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

1学期の「労働法専門演習I」も同時に履修して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

正当な理由のない欠席、遅刻には厳しく対応します。

キーワード　/Keywords

労働法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

各自が労働問題の中から任意に選択したテーマについて、一定の成果物（レポートあるいは論文）を完成させること、これが、この演習の目的です。正社員と非正社員の処遇格差、過労死、雇用差別、賃下げや解雇といった現代的な労働問題について、各自が文献を調査、分析し、報告するという形で演習を進めます。

教科書　/Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業で扱うテーマは、各自の興味、関心に応じて設定します。あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

第１回　男女雇用機会均等法
第２回　障害者雇用差別禁止法
第３回　正社員と非正社員の均衡処遇
第４回　解雇
第５回　有期労働契約
第６回　労働者派遣
第７回　労働時間
第８回　休日、休暇
第９回　過労死
第１０回　配転
第１１回　出向、転籍
第１２回　成果主義賃金
第１３回　就業規則による労働条件の変更
第１４回　高年齢者の雇用問題
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末に提出されるレポート（60%）と発言を通じた授業への参加度合い（40%）によって評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます（事前学習）。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

労働法専門演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

労働法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

各自が労働問題の中から任意に選択したテーマについて、一定の成果物（レポートあるいは論文）を完成させること、これが、この演習の目的です。労働組合の存在意義、ストライキ、組合活動、労働協約などをめぐる現代的な労働問題について、各自が文献を調査、分析し、報告するという形で演習を進めます。

教科書　/Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

授業の進行は、各自の興味や関心に応じて選択されたテーマによりますが、あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

第１回　オリエンテーション
第２回　労働組合の歴史
第３回　ストライキ
第４回　組合活動
第５回　団体交渉
第６回　支配介入と不利益取扱い
第７回　労働組合法上の労働者
第８回　労働協約による労働条件変更
第９回　労働組合による労働者の統制
第１０回　コーポレートガバナンスと労働組合
第１１回　公共部門の労使関係法
第１２回　従業員代表制度
第１３回　労働組合の存在意義
第１４回　労使関係法の将来
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末に提出されるレポート（60%）と発言を通じた授業への参加度合い（40%）によって評価します。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます（事前学習）。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

労働法専門演習IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 I	SEM311M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などとどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。
また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

教科書 /Textbooks

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年） 1500円+税
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス，係決め
第２回　リサーチの仕方
第３回　特定課題テーマの提示と調査
第４回　フリー・ディスカッション
第５回　学生が選定するグループ課題①
第６回　グループ準備（テーマ調査）
第７回　グループ準備（主張等の整理）
第８回　グループ準備（プレゼン資料の作成）
第９回　発表等
第10回　学生が選定するグループ課題②
第11回　グループ準備（テーマ調査）
第12回　グループ準備（主張等の整理）
第13回　グループ準備（プレゼン資料の作成）
第14回　発表等
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加…100%
課題①への取組み...40%
課題②への取組み...40%
授業への貢献...20%

国際法専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習IIとセットで受講してください。
４年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード　/Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】【社会人基礎力の涵養】

国際法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに，国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事･進路を選ぼうとしているのですかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからですと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張って一緒に作って行きましょう。

教科書　/Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス，役職決め
第２回　国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
　　Group A: 自治体と国際法
　　Group B: 企業と国際法
　　Group C: 国際機関と国際法　など
第３回　ｸﾞﾙｰﾌﾟによる予備調査①
第４回　ｸﾞﾙｰﾌﾟによる予備調査②
第５回　精読文献等の選定･ 提出（各ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第６回　文献精読①「自治体と国際法G」（全員）
第７回　同②「企業と国際法G」（全員）
第８回　同③「国際機関と国際法G」（全員）
第９回　グループ作業（ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備）
第10回　グループ作業（ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備）
第11回　グループ作業（ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備）
第12回　Group Aの発表
第13回　Group Bの発表
第14回　Group Cの発表
第15回　まとめ

国際法専門演習II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加…100%
課題①への取組み...40%
課題②への取組み...40%
授業への貢献...20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習Iとセットで受講してください。４年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード　/Keywords

【キャリアと国際法】

国際法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。
受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階
①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成
第II段階
①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
②先行研究の整理→文献報告
③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積
第III段階　ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

予定
第1回　イントロダクション【ゼミ論文作成の流れの理解】
第2回　問題意識の確認①【ゼミ論文のテーマに関する個別相談・指導】
第3回　問題意識の確認②【ゼミ論文のテーマの設定・報告会】
第4回　論文作成の可能性の探求【関連文献リストの作成・読込みスケジュールの策定・報告会】
第5回　関連文献等の読込みによる事実関係等の整理と問題の所在の明確化【個別相談・指導】
第6回　問題の所在の明確化【論文の意義の明確化・報告会】
第7回　先行研究の精読とレジュメ作成，報告①【文献A】
第8回　先行研究の精読とレジュメ作成，報告②【文献B】
第9回　先行研究の精読とレジュメ作成，報告③【文献C】
第10回　先行研究の精読とレジュメ作成，報告④【文献D】
第11回　先行研究の精読とレジュメ作成，報告⑤【文献E】
第12回　関連文献の整理①【進捗状況の相談・指導：第1次】
第13回　関連文献の整理②【進捗状況の相談・指導：第2次】
第14回　ゼミ論文のアウトラインの構想【個別相談・指導】
第15回　ゼミ論文のアウトラインの報告会【章・節・項レベルの目次設定，「はじめに」の文章化】

成績評価の方法　/Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。
受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。
国際法専門演習IVとセットで受講してください。
なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】

国際法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書　/Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習IV 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。
実際のスケジュールは、受講者の人数やニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。
開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第IV段階
　①ゼミ論文アウトラインの確定
　②ゼミ論文の中間報告
第V段階
　①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
　②ゼミ論文第２稿の提出→添削指導→再修正
第VI段階
　ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

予定
第1回　イントロダクション【ゼミ論文完成までの流れ】
第2回　アウトラインの確定【報告会】
第3回　中間報告に向けた進捗状況のチェック①【第1章，個別相談･指導】
第4回　中間報告に向けた進捗状況のチェック②【第2章，個別相談･指導】
第5回　中間報告に向けた進捗状況のチェック③【第3章，個別相談･指導】
第6回　中間報告と質疑応答①【担当A】
第7回　中間報告と質疑応答②【担当B】
第8回　中間報告と質疑応答③【担当C】
第9回　中間報告と質疑応答④【担当D】
第10回　中間報告と質疑応答⑤【担当E】
第11回　中間報告と質疑応答⑥【担当F】
第12回　初校の提出と相互チェック【添削指導】
第13回　二校の提出【添削指導】
第14回　最終校の提出
第15回　まとめ【論文集の作成】

成績評価の方法　/Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。
　　アサインメントの実施状況…50%　ゼミ論文…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。
受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。
国際法専門演習IIIとセットで受講してください。
なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので､自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

あともう一踏ん張りです。卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】【ゼミ論文集】

民法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思っています。
この「民法専門演習I」では、親族法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。相続法上の問題は「民法演習II」で扱います。
到達目標は以下の通りです。
・ 親族法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
・ 問題解決に向けた説得力のある立論ができるようになっていただきます。

教科書　/Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選III親族・相続』有斐閣　２０１６年　２，１００円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○有地　亨『新版家族法概論　補訂版』法律文化社　２００５年
○泉　久雄『親族法』有斐閣　１９９７年
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年
○内田　貴『民法IV [補訂版] 親族･相続』有斐閣　２００４年
○大村敦志『家族法 [第２版補訂版] 』有斐閣　２００４年
○中川善之助＝泉　久雄『相続法〔第４版〕』有斐閣　２０００年
○窪田充見『家族法』有斐閣　２０１１年
○二宮周平『家族法　第３版』新世社　２００９年
○我妻　栄『親族法』有斐閣　１９５１年

民法専門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ゼミ運営方針の説明
２回　報告内容・担当者の決定（その１）
３回　判例検索･文献検索の方法
４回　判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
５回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
６回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
７回　担当者報告及び討論（３））【大審院及び最高裁判例】
８回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
９回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】
１０回　報告内容・担当者の決定（その２）
１１回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
１２回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
１３回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
１４回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
１５回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】　・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み･････２０％　　最終レポート（６、０００字程度）････８０％で成績を評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「親族法」、「相続法」だけでなく、「法律の読み方」、民法財産法の講義科目をすべて履修しておくと、一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード　/Keywords

民法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

テーマ：「債権法判決研究（民事判例研究報告および判例評釈執筆）」。本演習では、民法（財産法分野）、なかでも、債権法分野に関わる重要判決の分析を通じて、最高裁判所（または大審院）がその判決理由の中で示した（定立した）と考えられる「規範」の抽出および当該規範の「射程」等の検討を行う。ゼミ生諸君は、まず、この「専門演習I」において、判例研究報告、質疑・応答、および教員による解説等を通じて、判決の読み方（判例〔規範〕の分析手法）の基礎・基本を徹底的に叩き込まれることになろう。このような「法的思考（特に、「法的三段論法」に拠る判決の論理構造の分析）の練磨」を通じて、判例評釈を執筆する基礎体力をまずは涵養してもらう。

さらに、ゼミ生同士の白熱した？議論や教員との議論（「規範」の抽出をめぐって、また、債権法上の種々の諸制度に関する知識・理解に関して）を通じて、自身の見解（法的思考のプロセスおよび判断）を、他者に対して分かりやすく、説得力あるかたちで正確に発信する力（議論は当然のこと、判例評釈を執筆するという形においても。）も養われるであろう。ちなみに、今年度演習では、「民法の一部を改正する法律案」の概要についてもしっかりとフォローできればと考えている。また、民法研究の視野を広げるため、（受講生との協議のうえではあるが。）外国法（本演習では、フランス民法）の研究についても取り組んでみようと考えている。

最後に、これらの【力】を向上させるためにも、報告・議論等への積極的参加が本演習における絶対的義務であることを申し述べておく。

教科書　/Textbooks

①中田裕康＝窪田充見（編）『民法判例百選II 債権 [第7版]（別冊ジュリスト224号）』（有斐閣、2015年）；定価（2,200円＋税）
②最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましい。）
③民法（契約法）の基本書・体系書（受講生が普段使用しているものでよい。）
④仏和辞書（受講生が普段使用しているものでよい。）
※柳川勝二『佛和法律辞書』（判例タイムズ社、1975年）。本書は絶版なので、4月募集で入ゼミする者は、至急、古書店等で各自入手されたい。昨冬募集で入ゼミした者は、同書を入手済みであるので、毎週持参すること。
※フランス民法（債務法）のテキスト（原典）については、当方でコピーを用意するので、購入する必要はない。
※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により左右されるので、あくまで「めやす」である。

第1回：ガイダンス（自己紹介、ゼミ役職等の決定）
第2回：「法的思考」の再確認①（【法的三段論法】の正確な理解の再確認 ―最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として―）
第3回：「法的思考」の再確認② ―最大判 昭和40年11月24日 民集19巻8号2019頁を素材として― および報告順・報告する最高裁（大審院）判決の決定（※教科書①掲載の判決から選択すること。）。
第4回：「民法の一部を改正する法律案」の検討①（契約総則規定を中心に）
第5回：「民法の一部を改正する法律案」の検討②（典型契約規定を中心に）
第6回：教員による「民事判例研究報告」および質疑・応答
第7回：ゼミ生（2017年度はさしあたり2名想定）Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
第8回：ゼミ生Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（最高裁が判決理由において示した規範の射程等の分析および教員による補足）
第9回：ゼミ生Bによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
第10回：ゼミ生Bによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（最高裁が判決理由において示した規範の射程等の分析および教員による補足）
第11回：フランス民法（債務法）研究①（債務法の教科書を邦訳する作業を行う。）
第12回：フランス民法（債務法）研究②（フランス民法典改正前1101条～【契約総論関連の規定】の邦訳作業を行う。）
第13回：フランス民法（債務法）研究③（改正フランス民法典の契約総論関連規定の邦訳作業を行う。）
第14回：期末レポート（判例評釈）の添削指導
第15回：まとめ（実務家〔当職の高校時代からの友人である弁護士〕をお招きし、要件事実〔論〕入門講義等を拝聴する予定。）

※8月初旬（予定）に、民事判例研究報告で扱った判決についての「判例評釈」を期末レポートとして提出してもらう。

成績評価の方法　/Assessment Method

※演習における発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容（民事判例研究報告）、およびフランス民法（債務法）のテクスト等の邦訳能力向上度など……50％
※レポート（判例評釈）の内容……50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】① 毎週予習として、「民法の一部を改正する法律案」のうち、5カ条ずつ前後（さしあたり、契約総則の規定〔法案規定〕から始める予定。）について、現行規定との比較・検討をしてきてもらう。なお、民事判例研究報告の準備等を入念に行うのは当然のことである。
② 配布されるフランス民法（債務法）のテクストについて、自分のできる範囲で邦訳をしてくること（最初は数行邦訳するのも大変であろう。慣れてきたら、1頁以上は邦訳してもらいたい。）。
【事後学習】復習として、民事判例研究報告で扱った判決についての判例評釈（任意の1本）を熟読し、疑問点などをまとめ、ミニ・レポートとして披瀝してもらう。

履修上の注意　/Remarks

民法（財産法）科目は当然のこと、「民事訴訟法総論・各論」も受講しておくとゼミにおける研究にも資することになるし、議論の内容にも深みが増すものと想われる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

2017年度福本ゼミも、これまでの伝統を引き継ぎ、アットホームな雰囲気を守りつつも厳しいゼミでありたいと想っています。ゼミは、あくまでゼミ生が主役です。ゼミの議論の盛り上がりを大いに期待しています。

キーワード　/Keywords

債権法判決研究、法的三段論法、判例評釈、民法の一部を改正する法律案、フランス債務法研究

民法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめぐっては、「法務省案」（２０１５年３月３１日）まで出されているところではあるが、学習という観点からは、『別冊ＮＢＬ１２６号　債権法改正の基本方針』（商事法務、２００９年）も重要である。この授業では、その中の前の方の４分の１について考えることとしたい。常に、現行民法、基本方針、法務省案の三者を比較検討することが望まれる。
この授業は、法律学科所定のいわゆるゼミ募集で選抜された者のみが受講資格を有する。
この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。
演習科目であるから、復習よりも、各自の担当箇所の予習が重要である。

教科書　/Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　民法典の対象と編別について、法律行為
３回　意思表示（錯誤まで）
４回　意思表示（詐欺以降）
５回　代理、授権
６回　表見代理、無権代理
７回　無効、取消、条件、期限
８回　期間、時効等
９回　債権・通則、契約の成立
１０回　契約の無効及び取消、契約の内容
１１回　債権の基本的効力
１２回　強制履行、損害賠償
１３回　解除
１４回　受領遅滞、期間制限、事情変更
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート …… １００％

民法専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

主として民法総則及び債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意　/Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の科目と同様、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なし

キーワード　/Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

担保物権法の判例研究を行う。
取り扱う判例は，『民法判例百選I　総則･物権〔第7版〕』に収録されているものの中から，受講者の希望等を踏まえて決定する（下記の「授業計画･ 内容」は一例である）。
授業の進め方については，原則として，2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。
1週目は，指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を，担保物権法の講義で使用した教科書を用いて全員で確認する。
そして2週目は，指定された判例について，受講者が判例百選の解説を各自で事前に読んできていることを前提に，その判例の意義･ 学説の状況･ 結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して，判例評釈を読んでその内容を理解する力，判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書　/Textbooks

淡路剛久ほか『民法II――物権〔第3版補訂〕』（有斐閣Sシリーズ，平成22年）　本体1900円＋税
潮見佳男･ 道垣内弘人編『民法判例百選I　総則･物権〔第7版〕』（有斐閣，平成27年）　本体2100円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

必要に応じて紹介する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　留置権の対抗力(1)【基礎知識の確認】
第3回　留置権の対抗力(2)【判例研究】
第4回　民法295条2項の類推適用(1)【基礎知識の確認】
第5回　民法295条2項の類推適用(2)【判例研究】
第6回　抵当権の効力の及ぶ範囲(1)【基礎知識の確認】
第7回　抵当権の効力の及ぶ範囲(2)【判例研究】
第8回　抵当権の物上代位(1)【基礎知識の確認――賃料債権】
第9回　抵当権の物上代位(2)【判例研究――賃料債権】
第10回　抵当権の物上代位(3)【基礎知識の確認――債権譲渡との優劣】
第11回　抵当権の物上代位(4)【判例研究――債権譲渡との優劣】
第12回　先取特権の物上代位(1)【基礎知識の確認】
第13回　先取特権の物上代位(2)【判例研究――請負代金債権】
第14回　先取特権の物上代位(3)【判例研究――一般債権者の差押え】
第15回　まとめ

＊授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…100%

民法専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように，教科書や判例百選の解説を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で，授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード　/Keywords

民法　担保物権法　判例研究

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思っています。
この「民法専門演習II」は、相続法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。
到達目標は以下の通りです。
・ 相続法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
・ 問題解決に向けた説得力のある立論が出来るようになっていただきます。

教科書　/Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選III親族・相続』有斐閣　２０１５年　２，１００円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○有地　亨『新版家族法概論　補訂版』法律文化社　２００５年
○内田　貴『民法IV [補訂版] 親族･相続』有斐閣　２００４年
○中川善之助＝泉　久雄『相続法〔第４版〕』有斐閣　２０００年
○泉　久雄『親族法』有斐閣　１９９７年
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年
○大村敦志『家族法 [第２版補訂版] 』有斐閣　２００４年
○二宮周平『家族法　第３版』新世社　２００９年
○我妻　栄『親族法』有斐閣　１９５１年

民法専門演習II 【昼】

専門教育科目
総合科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ゼミ運営方針の説明
２回　報告内容・担当者の決定（その１）
３回　判例検索･文献検索の方法
４回　判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
５回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
６回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
７回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
８回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
９回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】
１０回　報告内容・担当者の決定（その２）
１１回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
１２回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
１３回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
１４回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
１５回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】　・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み･････２０％　　最終レポート（６、０００字程度）･････８０％で成績を評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、事案、判旨、論連をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
相続法は「民法専門演習I」で扱う親族法と密接に関連していますから、「家族法」だけでなく、「民法専門演習I」も履修しておくことをすすめます。また、相続は包括的な財産の承継制度ですから、相続法について理解を深めるためには、民法財産法の知識が不可欠です。民法財産法の講義科目をすべて履修しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード　/Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor	福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	演習	3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

テーマ：「契約法文献研究およびゼミ論文執筆」。本演習の目的・目標は、次の二つである。一つは、輪読形式による文献研究報告を通じて、ゼミ生全員で、「民法学（本演習では、契約法〔契約総論〕分野）の古典的・本格的体系書を一冊読破すること」である。この研究を通じて、ゼミ生諸君には、文献渉猟や問題点・課題の発見等といった専門分野のより高度なスキルを身につけてもらう。

もう一つの目的・目標は、「民法専門演習I」で培った債権法に関する重要判決（判例）・学説についての知見等を駆使し、ゼミ生諸君の本演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。さらに、他者（他のゼミ生、4年次ゼミ生および教員等）との議論を重ねることで、自身の見解（法的思考のプロセスおよび法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえよう。この「専門演習II」では、「書く力による発信＝ゼミ論文の執筆・添削指導」に重点を置く。また、「専門演習I」に引き続き、フランス民法（債務法）研究についても、少しずつその歩を進めていきたい。

これら一連の営みを通じて、ゼミ生諸君には、4年次に履修することとなる必修科目「民法専門演習III・IV（福本担当クラス）」で執筆予定の「卒業論文」への「基礎固め」をしっかりと行ってもらいたい。

教科書　/Textbooks

① 我妻 榮『債権各論 上巻（民法講義V1）』（岩波書店、1954年）；定価（2,800円＋税）
② 最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましい。）
③ 教科書①以外の民法（契約法）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているものでよい。）
④ 仏和辞書（受講生が普段使用しているものでよい。）
⑤ 柳川勝二『佛和法律辞書』（判例タイムズ社、1975年）※絶版。4月募集入ゼミ者は、各自古書店等で入手しておくこと。昨冬募集入ゼミ者は、同書入手済みなので、毎週持参すること。
※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により若干左右されるので、あくまで「めやす」である。
第1回：ガイダンス（ゼミ論文の研究テーマの設定および確認）
第2回：教科書①の輪読箇所の確認および報告順等の決定。
第3回：文献輪読①（以下、レジュメを作成の上、報告・議論；教科書①1～4頁【債権法各論序説】報告＆質疑・応答）およびゼミ論文指導（論文テーマの確定）
第4回：文献輪読②（教科書①5～54頁【契約総論・序論】報告）およびゼミ論文指導（仮目次作成）
第5回：文献輪読③（教科書①5～54頁【契約総論・序論】質疑・応答）およびゼミ論文指導（目次と導入部分執筆）
第6回：文献輪読④（教科書①54～79頁【契約の成立】報告）およびゼミ論文指導（導入部分の添削指導）
第7回：文献輪読⑤（教科書①54～79頁【契約の成立】質疑・応答）およびゼミ論文指導（本体部分の執筆と添削）
第8回：文献輪読⑥（教科書①79～129頁【契約の効力】報告）およびゼミ論文指導（全体部分の添削指導）
第9回：文献輪読⑦（教科書①79～129頁【契約の効力】質疑・応答）およびゼミ論文指導（中間報告会用レジュメの添削）
第10回：「ゼミ論文中間報告会」（時間があれば原稿添削指導のつづき）
第11回：文献輪読⑧（教科書①129～188頁【契約の解除（※法定解除の効果の手前まで）】報告）＆フランス民法研究①（債務法のテクストの邦訳）
第12回：文献輪読⑨（教科書①129～188頁【契約の解除（※法定解除の効果の手前まで）】質疑・応答）＆フランス民法研究②（①で邦訳したテクストの内容についての質疑・応答）
第13回：文献輪読⑩（教科書①188～217頁【契約の解除（※法定解除の効果から最後まで）】報告）＆フランス民法研究③（フランス契約解除法制研究・条文の邦訳）
第14回：文献輪読⑪・完（教科書①188～217頁【契約の解除（※法定解除の効果から最後まで）】質疑・応答）＆フランス民法研究④・完（フランス契約解除法制研究・福本論文の検討）
第15回：まとめ（各ゼミ生の提出前原稿の確認）※実務家（当職の高校時代からの友人である弁護士）をお迎えしての「特別ゼミ」を予定。

※2018年2月初旬に、「ゼミ論文（8,000字程度）」を提出してもらう。なお、ゼミ論文の指導はゼミの時間内だけでは到底充分とはいえない。よって、自主ゼミ、オフィス・アワー、およびメールでの添削指導なども積極的に活用すること。

成績評価の方法　/Assessment Method

※ゼミ中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容（文献輪読）、フランス民法（債務法）テクストの邦訳能力向上度など……50％
※「ゼミ論文」の内容（論文執筆過程の添削・指導に対する積極性なども含む。）……50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】文献輪読で扱う教科書①を毎週読み進めておくことが肝要である。また、文献輪読報告の準備を入念に行うことも当然である。また、開講前にフランス民法（債務法）のテクスト（のコピー）を配布しておくので、指定した頁まで邦訳をしてくること。最後に、「ゼミ論文」について、添付ファイルで原稿（途中経過）をゼミの前々日までに教員に毎週送信することが求められる。
【事後学習】文献輪読報告で出された疑問・質問などについて、文献等を調べ直し、ミニ・レポートとしてまとめて提出することが求められる。

履修上の注意　/Remarks

「専門演習」もIIになると、もはや受け身の学修姿勢ではゼミにいる意味は全くなくなってしまう。この点、留意されたい。最後に、各自、「民法の一部を改正する法律案」の内容については分析を進めておくように！

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「2017年度福本民法ゼミ」も、常にアットホームな雰囲気にしたいと考えています。「厳しくも温かみのあるゼミ」でありたいと想っています。ゼミの主役はゼミ生。キラリと光る内容の「ゼミ論文」を大いに期待しています。

キーワード　/Keywords

契約法文献研究、我妻榮、フランス民法（債務法）研究、ゼミ論文

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめぐっては、「法務省案」（２０１５年３月３１日）まで出されているが、学習上は、『別冊ＮＢＬ１２６号　債権法改正の基本方針』（商事法務、２００９年）も重要である。この授業では、全体を４分割したと仮定して、第二の４分の１の部分について考えることとしたい。現行民法、基本方針、法務省案の三者を常に比較検討することが望まれる。
この授業は、法律学科所定のいわゆる「ゼミ募集」で選抜された者のみが受講資格を有する。
この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。
演習科目であるから、復習よりも、担当箇所等についての予習が重要である。

教科書　/Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　ガイダンス
２　債権者代位権
３　詐害行為取消権
４　弁済・総則
５　弁済による代位、供託
６　相殺
７　更改、一人計算
８　免除、混同、債権時効の対象及び時効期間
９　債権時効障害
１０　債権時効期間満了の効果
１１　債権譲渡
１２　債務引受、契約上の地位の移転
１３　有価証券
１４　多数の債権者
１５　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート …… １００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

主として債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

民法専門演習II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の法律科目と同様に、六法は、持参することが望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なし

キーワード　/Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き，担保物権法の判例研究を行う。
取り扱う判例は，『民法判例百選I　総則･物権〔第7版〕』に収録されているものの中から，受講者の希望等を踏まえて決定する（下記の「授業計画･ 内容」は一例である）。
授業の進め方については，原則として，2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。
1週目は，指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を，担保物権法の講義で使用した教科書を用いて全員で確認する。
そして2週目は，指定された判例について，受講者が判例百選の解説を各自で事前に読んできていることを前提に，その判例の意義･ 学説の状況･ 結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して，判例評釈を読んでその内容を理解する力，判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書　/Textbooks

淡路剛久ほか『民法II---物権〔第3版補訂〕』（有斐閣Sシリーズ，平成22年）　本体1900円＋税
潮見佳男･ 道垣内弘人編『民法判例百選I　総則･物権〔第7版〕』（有斐閣，平成27年）　本体2100円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

必要に応じて紹介する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　抵当権に基づく妨害排除請求(1)【基礎知識の確認】
第3回　抵当権に基づく妨害排除請求(2)【判例研究】
第4回　法定地上権(1)【基礎知識の確認】
第5回　法定地上権(2)【判例研究】
第6回　不動産の取得時効の完成と抵当権(1)【基礎知識の確認】
第7回　不動産の取得時効の完成と抵当権(2)【判例研究】
第8回　譲渡担保権者の清算義務(1)【基礎知識の確認】
第9回　譲渡担保権者の清算義務(2)【判例研究】
第10回　譲渡担保権の対外的効力(1)【基礎知識の確認】
第11回　譲渡担保権の対外的効力(2)【判例研究---譲渡担保と動産先取特権の競合】
第12回　譲渡担保権の対外的効力(3)【判例研究---複数の譲渡担保の競合】
第13回　所有権留保(1)【基礎知識の確認】
第14回　所有権留保(2)【判例研究】
第15回　まとめ

＊授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…100%

民法専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように，教科書や判例百選の解説を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で，授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード　/Keywords

民法　担保物権法　判例研究

民法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思っています。
この「民法専門演習III」では、親族法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。相続法上の問題は「民法演習IV」で扱います。
到達目標は以下の通りです。
・ 親族法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
・ 問題解決に向けた説得力のある立論ができるようになっていただきます。

教科書　/Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選III親族・相続』有斐閣　２０１５年　２，２８６円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○有地　亨『新版家族法概論　補訂版』法律文化社　２００５年
○泉　久雄『親族法』有斐閣　１９９７年
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年
○内田　貴『民法IV [補訂版] 親族･相続』有斐閣　２００４年
○大村敦志『家族法 [第２版補訂版] 』有斐閣　２００４年
○中川善之助＝泉　久雄『相続法〔第４版〕』有斐閣　２０００年
○窪田充見『家族法』有斐閣　２０１１年
○二宮周平『家族法　第３版』新世社　２００９年
○我妻　栄『親族法』有斐閣　１９５１年

民法専門演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ゼミ運営方針の説明
２回　報告内容・担当者の決定（その１）
３回　判例検索･文献検索の方法
４回　判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
５回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
６回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
７回　担当者報告及び討論（３））【大審院及び最高裁判例】
８回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
９回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】
１０回　報告内容・担当者の決定（その２）
１１回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
１２回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
１３回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
１４回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
１５回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】　・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み･････２０％　　最終レポート（６、０００字程度）････８０％で成績を評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「親族法」、「相続法」だけでなく、「法律の読み方」、民法財産法の講義科目をすべて履修しておくと、一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード　/Keywords

民法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

テーマ：「卒業論文執筆に向けて –文献輪読および中間論文執筆–」

本演習の目的は二つである。一つは、民法、なかでも債権法（契約法）分野を主たる考察対象とした研究論文（「専門演習III」は中間論文）の執筆である。もう一つは、わが国戦後民法学の通説の到達点もいえる我妻 榮 博士の著作を読破（輪読形式）することで、契約法学の通説の意義を再考することである。この作業は、「卒業論文」を執筆する上で半ば必須ともいえよう。

なお、本演習では、「民法専門演習IV（必修）」で扱われる「卒業論文」執筆のための最低限の基礎的作業を行うに過ぎない。よって、当然のことだが、ゼミ生各自、足りないと考える部分については、積極的に資料収集、判例研究、および文献研究等を行ってもらう。3年次の「民法専門演習I・II」以上に、「思考しつづける力、忍耐・根気、および自主性」が要求される。したがって、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。また、本演習では、上記「中間論文」の報告会などを通じたプレゼンテーション能力の一層の向上も目指す。

教科書　/Textbooks

我妻 榮『債権各論 上巻（民法講義V1）』（岩波書店、1954年）；定価（2,800円＋税）
※六法および契約法の体系書（ゼミ生が普段使用しているものでよい。）は必携。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

※中間論文執筆に当たって参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、渉猟する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※以下の授業計画・スケジュールは、受講人数等の諸事情により若干変更する場合がある。よって、一応のめやすである。

第1回：ガイダンス（卒業論文〔中間論文〕の構想発表）※3年次の研究テーマから変更する者は、事前に教員まで相談しておくこと。
第2回：文献輪読の検討箇所・報告順等の決定、および中間論文執筆指導開始（個別指導なので、各自計画を立てて、ゼミの時間以外にもこまめに研究室に出向き、論文指導を受けること。）
第3回：文献輪読①（教科書1～4頁【債権法各論序説】報告＆質疑・応答）および論文指導（中間論文テーマの確定）
第4回：文献輪読②（教科書①5～54頁【契約総論・序論】報告）および論文指導（仮目次作成）
第5回：文献輪読③（教科書①5～54頁【契約総論・序論】質疑・応答）および論文指導（目次および導入部分執筆）
第6回：文献輪読④（教科書①54～79頁【契約の成立】報告）および論文指導（導入部分の添削指導）
第7回：文献輪読⑤（教科書①54～79頁【契約の成立】質疑・応答）および論文指導（本体部分の執筆と添削）
第8回：文献輪読⑥（教科書①79～129頁【契約の効力】報告）および論文指導（全体部分の添削指導）
第9回：文献輪読⑦（教科書①79～129頁【契約の効力】質疑・応答）および論文指導（中間論文報告会用レジュメの添削）
第10回：「中間論文プレ報告会」（※各自報告15分程度、質疑応答15分程度予定）（時間が余れば原稿添削指導のつづき）
第11回：文献輪読⑧（教科書①129～188頁【契約の解除（※法定解除の効果の手前まで）】報告）および論文指導（全体部分の添削のつづき）
第12回：文献輪読⑨（教科書①129～188頁【契約の解除（※法定解除の効果の手前まで）】質疑・応答）および論文指導（最終報告会レジュメの添削）
第13回：文献輪読⑩（教科書①188～217頁【契約の解除（※法定解除の効果から最後まで）】報告）および論文指導（仮原稿の添削）
第14回：文献輪読⑪・完（教科書①188～217頁【契約の解除（※法定解除の効果から最後まで）】質疑・応答）および論文指導（ゼミ生相互で原稿を読み合い、意見交換を行う。）
第15回：まとめ（中間論文報告会；報告時間30分とする。）

民法専門演習III 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

※ゼミ中の発言・報告内容（文献輪読の報告内容の質）および議論への参加の度合い……50%
※2回行う予定の「中間論文報告会」での報告内容……20%
※中間論文の内容（8月初旬提出・10,000字程度）……30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】文献輪読報告レジュメの作成および中間論文執筆にあたり、教員が事前に指示した文献・資料等を必ず調べてくること。
【事後学習】添削された中間論文の原稿を書き直してくること。この作業をコツコツとこなしていくことが重要である。よって、この作業を怠る者に単位は付与しない。

履修上の注意　/Remarks

論文を1本書き上げる作業は実に大変なことである。根気の要る作業なので、各自、計画を立ててしっかりとゼミに臨んでほしい。「就活で忙しいので……。」といった類の言い訳ばかりで論文添削を積極的に受けない者には単位は付与しない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

じっくり腰を据えて、「卒業論文」の骨組み（＝中間論文）を創り上げていきましょう！
眼前に迫っている民法（債権関係）改正の動向を注視しよう！

キーワード　/Keywords

卒業中間論文、我妻民法学、契約法

民法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめぐっては、「法務省案」（２０１５年３月３１日）まで出ているところではあるが、学習という観点からは『別冊ＮＢＬ１２６号　債権法改正の基本方針』（商事法務、２００９年）も重要である。この授業では、全体を４分割したと仮定して、第三の４分の１の部分について考えることとしたい。適宜、現行民法、基本方針、法務省案の三者を比較検討することが望まれる。
この科目の履修は、所定の法律学科ゼミ募集において、担当者から出席可と言われた者に限る。
この講義に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書　/Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　ガイダンス
２　多数の債務者
３　一般の保証
４　連帯保証、根保証
５　売買の意義と成立
６　売主の義務
７　売買の場合の各種担保責任
８　買主の義務
９　特殊の売買、交換、贈与の意義と成立
１０　贈与の効力
１１　特殊の贈与
１２　賃貸借の意義と成立、第三者との関係
１３　賃貸人の義務、賃借人の義務
１４　賃貸借の終了、使用貸借
１５　まとめ、レポートの提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもあり得る。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業のときに一定の報告をしていることを前提に、レポート …… １００％

民法専門演習III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

主として債権総論及び各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意　/Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。
但し、他の科目と同様に、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なし

キーワード　/Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

受講者が各自関心を持っている物権法・担保物権法の判例について，判例研究をしてもらう。
毎回の授業は，担当者による判例研究の報告と，それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して，判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　判例研究の方法，報告の割り当て
第3回～第14回　判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容，質疑応答への参加状況などを総合的に評価）…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告担当者は，割り当てられた授業日に確実に報告ができるように，責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は，次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

物権法・担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード　/Keywords

民法　物権法　担保物権法　判例研究　報告

民法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習IV	SEM412M

授業の概要　/Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思っています。
この「民法専門演習IV」は、相続法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。
到達目標は以下の通りです。
・ 相続法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
・ 問題解決に向けた説得力のある立論が出来るようになっていただきます。

教科書　/Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選III親族・相続』有斐閣　２０１５年　２，２８６円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○有地　亨『新版家族法概論　補訂版』法律文化社　２００５年
○内田　貴『民法IV [補訂版] 親族･相続』有斐閣　２００４年
○中川善之助＝泉　久雄『相続法〔第４版〕』有斐閣　２０００年
○泉　久雄『親族法』有斐閣　１９９７年
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年
○大村敦志『家族法 [第２版補訂版] 』有斐閣　２００４年
○二宮周平『家族法　第３版』新世社　２００９年
○我妻　栄『親族法』有斐閣　１９５１年

民法専門演習IV 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ゼミ運営方針の説明
２回　報告内容・担当者の決定（その１）
３回　判例検索･文献検索の方法
４回　判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
５回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
６回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
７回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
８回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
９回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】
１０回　報告内容・担当者の決定（その２）
１１回　担当者報告及び討論（１）【基本文献】
１２回　担当者報告及び討論（２）【関連文献】
１３回　担当者報告及び討論（３）【大審院及び最高裁判例】
１４回　担当者報告及び討論（４）【下級審裁判例】
１５回　担当者報告及び討論（５）【判例研究】　・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み･････２０％　　最終レポート（６、０００字程度）････８０％で成績を評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考書を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
相続法は「民法専門演習III」で扱う親族法と密接に関連していますから、「家族法」だけでなく、「民法専門演習III」も履修しておくことをすすめます。また、相続は包括的な財産の承継制度ですから、相続法について理解を深めるためには、民法財産法の知識が不可欠です。民法財産法の講義科目をすべて履修しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード　/Keywords

民法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習IV	SEM412M

授業の概要　/Course Description

テーマ：「『卒業論文』執筆」。本演習では、民法、なかでも債権法（契約法）分野を主たる考察対象とした研究論文の執筆を、受講生の研究進捗状況等に応じて指導する。言うまでもないが、研究論文執筆には、「受け身」でなく、「能動的」な姿勢が強く求められる。この点、特に留意されたい。

指導内容としては、参照すべき文献・裁判（判決）例などの指示・検討および論文添削である。中途半端な気持ちでの履修は一切認めないので注意すること。

なお、本演習では、法的問題点の抽出、文献収集・渉猟の力を高め、また、論文課題・分析基軸の設定を通じた課題発見・分析力等の向上、そして、2回の論文報告会を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上をも目指すものとする。

教科書　/Textbooks

※使用しない。卒業論文執筆に必要な文献・資料等については、各自購入するなり、図書館から借りる等すること。また、教員も必要な文献等のコピーを指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

※参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、収集・渉猟する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、受講人数等の諸事情により変更する場合がある。したがって、一応のめやすに過ぎない。なお、受講生が1～2名の場合、3年ゼミ「民法専門演習I・II」にも適宜参加してもらう予定である。
第1回：ガイダンス：論文題目・目次（概要）確認。 ※大幅な変更を考えている者は必ず開講前に相談すること。
第2回：論文指導①（仮目次の作成・指導）
第3回：論文指導②（目次の確定・分析基軸のブラッシュ・アップ）
第4回：論文指導③（導入部分の執筆・添削指導）
第5回：論文指導④（導入部分の手直しに対する再指導）
第6回：論文指導⑤（導入部分の完成および本体部分の執筆に当たっての文献渉猟アドヴァイス）
第7回：論文指導⑥（本体部分の添削・指導）
第8回：論文指導⑦（本体部分の添削・指導および第1回卒論報告会に向けたレジュメ作成の指導）
第9回：（予定）「第1回卒業論文報告会」（報告30分程度、質疑・応答60分程度を予定）
第10回：論文指導⑧（本体部分の手直し等）
第11回：論文指導⑨（本体部分の添削・指導および第2回報告会に向けたレジュメ作成の指導）
第12回：（予定）「第2回卒業論文報告会」（報告45分程度、指導45分程度を予定）
第13回：論文指導⑩（結論部分の添削・指導）
※なお、実務家（当職の高校時代からの友人である弁護士）をお招きしての「特別論文指導」も予定している。
第14回：論文指導⑪・完（結論部分の最終確認。脚注等、細部の添削）。
第15回：まとめ（各論考講評および製本作業についての説明をもってまとめとする。）

※2018年2月上旬：卒業論文提出。＊論文の体裁等については、初回ガイダンスの際に説明する。

民法専門演習Ⅳ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

※卒業論文完成までの研究姿勢（指導内容を反映させたうえで執筆を進めたかどうか。）……50%
※計2回実施予定の「卒業論文報告会」における報告内容……20%
※「卒業論文（20,000字程度）」の内容……30%

【注意】 論文未提出者には、原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】論文指導の際、教員が次回指導時までに調べておくことを指示した文献・資料等を必ず渉猟・咀嚼し、論文の内容に活かすこと。
【事後学習】添削指導を受けた後、書き直した論文（原稿）の内容を逐次メール等（添付ファイルで原稿を送信すること。）で教員に報告すること。この作業を着実にこなしていくことが論文完成につながる。よって、この作業を疎かにする者には一切指導は行わない。よって、単位も付与しない。

履修上の注意　/Remarks

就活が忙しいことなどを理由に卒論指導を積極的に受けない者には単位は付与しない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

昨年度より4年ゼミが必修となったことで、本演習における「卒業論文」の位置づけは、従前以上に重要なものとなった。卒業論文を真摯に執筆しようとする受講生には、教員も最大限のサポートをさせていただく。是非、一生の宝物になる論文を書き上げよう。ゼミ生諸君の奮励努力に期待する。

キーワード　/Keywords

卒業論文、契約法

民法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめぐっては、「法務省案」（２０１５年３月３１日）まで出ているところではあるが、学習上は、『別冊ＮＢＬ１２６号　債権法改正の基本方針』（商事法務、２００９年）も重要である。この授業では、全体を４分割したと仮定して、最後の４分の１の部分について考えることとしたい。適宜、現行民法、基本方針、法務省案の三者を比較検討することが望まれる。
そして、受講生が関心を持ったテーマについての小論文執筆も予定している。いわゆる卒論については、小論文を卒論にまで高めたいという希望者がいれば、一定の指導を行う。無理に卒論を書く必要はない。
この科目の履修は、所定の法律学科ゼミ募集で担当者から出席可と言われた者に限る。
この講義に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　ガイダンス
２　消費貸借
３　ファイナンス・リース
４　役務提供
５　請負
６　委任
７　寄託
８　雇用
９　組合
１０　終身定期金、和解
１１　第三者のためにする契約
１２　継続的契約等、法律に基づく債権
１３　受講生の興味を持ったテーマの小論文発表の準備（資料収集など）
１４　受講生の興味を持ったテーマの小論文発表と検討
１５　まとめ、レポート（小論文）の提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもあり得る。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に所定の報告をやっていることを前提に、レポート（小論文）…… １００％

民法専門演習IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

主として債権各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意　/Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なし

キーワード　/Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き，受講者が各自関心を持っている物権法・担保物権法の判例について，判例研究をしてもらう。
毎回の授業は，担当者による判例研究の成果の報告と，それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して，判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス，報告の割り当て
第2回～第14回　判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容，質疑応答への参加状況などを総合的に評価）…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告担当者は，割り当てられた授業日に確実に報告ができるように，責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は，次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

物権法・担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード　/Keywords

民法　物権法　担保物権法　判例研究　報告

民事訴訟法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。
原則として、グループで報告してもらいます。
毎回、一つの判例について、報告グループから報告を受け、全員で討議します。

教科書　/Textbooks

初回の授業時に使用テキストを受講生と話し合いの上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　演習の進行方法についての説明、報告グループの決定
２回　以下，順次、個別報告
３回～１４回　順次、個別報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容　…　５０　%　レポート　…　５０　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各グループで報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
グループで議論して、私見をまとめる。
レジュメを作成する。

履修上の注意　/Remarks

各授業時間開始までに、報告課題について、教科書やその他の文献で事前学習をしておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的に発言してください。また、報告前には、各グループで報告内容について、調査、分析の上、十分な準備をしてください。

キーワード　/Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法に関する重要な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。

原則として、グループで報告してもらいます。
毎回、一つの判例について、報告グループから報告を受け、全員で討議する。

教科書　/Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Iで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　報告者の決定
２回　以下、順次、グループ報告
３回～１４回　順次、グループ報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容　…　５０　%　　レポート　…　５０　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各グループで報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
グループで議論して、私見をまとめる。
レジュメを作成する。

履修上の注意　/Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民事訴訟法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　4年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　演習
クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書　/Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Iで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　報告者の決定
２回　以下、順次、グループ報告
３回～１４回　順次、グループ報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容　…　５０　％　　レポート　…　５０　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講生が報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
私見をまとめる。
レジュメを作成する。

履修上の注意　/Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書　/Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Ⅰで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　報告者の決定
２回　以下、順次、報告
３回～１４回　順次、報告
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容　…　５０　％　　レポート　…　５０　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講生が報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
私見をまとめる。
レジュメを作成する。

履修上の注意　/Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I	SEM311M

授業の概要　/Course Description

企業と企業との間の取引、ならびに、企業と一般消費者との取引に関する法的問題を取り扱った文献や重要判例の分析・検討を通して商取引法・金融取引法の理解を深めます。

ゼミ参加者がみずから選択した文献あるいは判例について、ゼミ内で報告討論することによって、企業法上の問点や課題を発見したり、それらに取り組む楽しさを味わうこと、そして、企業法上のテーマに関する情報を収集・分析・整理するスキルを磨き、プレゼンテーションやディスカッションの能力を高めることが目標となります。

教科書　/Textbooks

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、随時、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、随時、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
第2回　各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。
担当判例の決定、報告要旨（レジュメ）作成の方法についての説明、報告順番の決定。
第3回　受講者各自で、選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを図書館・資料室で調べる。この作業を通して、研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
第4回～第15回　各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
(1)判例研究の場合：
担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
その後、担当者は、当該判例の位置づけ（射程距離）などについて、問題提起を行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
(2)文献紹介の場合：
担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告５０％・ディスカッションへの参加度５０％
無断欠席、ならびに、正当な理由なき3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

企業法専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・報告担当者は、報告発表の要旨＝レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、２号館４　階2-414研究室前のテーブルの上に提出しておくことが望ましい。
・報告者以外のゼミ参加者についても、上記コピーを事前に受領して目を通すことにより、問題点・争点等を把握　した上でゼミに参加することが求められます。
・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

履修上の注意　/Remarks

・原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I	SEM311M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～１５回　個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

企業と企業との間の取引、ならびに、企業と一般消費者との取引に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討を行います。
本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択した文献・判例について、報告・討論する能力を高めると共に、期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書　/Textbooks

テキストは，特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション判例研究・事例研究の意義を再確認する。
第2回　各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。
第3回　選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨（レジュメ）作成の方法についての説明、報告順番の決定。
第4回～第14回　各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
(1)判例研究の場合：
担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
その後、担当者は、当該判例の位置づけ（射程距離）などについて、問題提起を行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
(2)文献紹介の場合：
担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
第15回　今年度の総括と来年度の課題（研究テーマ）設定ないしは絞り込み

成績評価の方法　/Assessment Method

報告５０％、ディスカッションへの参加度４０％、レポート作成１０％
無断欠席はゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に指示された範囲の予習・復習をはじめ、授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

企業法専門演習II 【昼】

専門教育科目
総合科目

履修上の注意　/Remarks

１，原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
２，報告担当者は、報告発表の要旨＝レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、２号館４階2-414　研究室前のテーブルの上に提出しておくことが望ましい。
３，２のレジュメの事前準備がなされた場合、報告者以外のゼミ参加者についても、上記コピーを事前に受領して目を通すことにより、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加することが求められます

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅱ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書　/Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～１５回　個別報告とディスカッション

成績評価の方法　/Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例などの分析検討を通じて、企業取引法・金融取引法に関する理解をさらに深めることを目的とします。

また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的とします。

なお、この授業は受講者それぞれに対して個別的に実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものとから成り立っています。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際のスケジュールの詳細については、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

第1回　(1)運営方針についてのガイダンス
(2)各自が関心を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
第2回～第3回　自分の問題関心に沿った卒業レポート作成の難易度を査定する作業を各自が行う
図書・データベース等の情報検索を通して関連文献リストを、各自作成する。
第4回～第14回　個別報告とディスカッション
第15回　卒業レポート提出へ向けたアウトライン中間報告会
(目次設定・これまでの参考文献一覧、夏休みに読む参考文献目録の提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%
無断欠席は、ゼミ放棄と見做します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の授業外学習に積極的・主体的に取り組むことが重要であり、それを通して、レポートの作成に努めること。

企業法専門演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
・ 企業法専門演習I・IIをすでに受講済であることが望ましい。
・ 企業法専門演習III・IVは、原則としてセットで受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業法専門演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ	SEM411M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～１５回　個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習IV	SEM412M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例の分析を通じて、企業取引法・金融取引法の理解をさらに深めることがねらいです。
また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は，受講者それぞれに対して個別指導の形で実施されるものと，受講者全員に対して集団的に実施されるものにより成り立っています。スケジュールの詳細は、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

第1回　1学期および夏休み期間中の研究活動の総括と今後の流れの確認
各自が関心を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
第2回～第14回　各受講者による中間報告会と各受講者に対する個別論文指導
第15回　総まとめ（卒業レポート提出へ向けた最終校正作業の確認）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%
無断欠席は、ゼミを放棄したものとみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者には事前にレジュメを作成して受講者に配布することが求められるほか、受講期間を通して、卒業レポート作成へ向けた課外学習に積極的に取り組むことが重要です。

履修上の注意 /Remarks

・時間帯等については，受講者と相談の上で決定します。
・企業法専門演習I・IIをすでに受講済であることが望ましいです。
・企業法専門演習III・IVは、原則としてセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業法専門演習IV 【昼】

キーワード　/Keywords

企業法専門演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ	SEM412M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する最近の論点の検討を通じて、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回～１５回　個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史	LAW210M

授業の概要　/Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探求する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることにする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたうえでそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書　/Textbooks

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）、2800円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史［第２版］』（有斐閣、1997年）
○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
○三島淑臣『法思想史［新版］』（青林書院、1993年）
○Ｆ・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　法思想史とは
第２回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想①　～　Ｊ・ロックの自然権論
第３回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想②　～　近代的自然法論
第４回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想③　～　古典的自然法論（トマス・アクィナスなど）
第５回　法思想史とは（中間考察）　～　「法典論争」など
第６回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想④　～　ケルゼンの純粋法学
第７回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想⑤　～　ハートの法の概念
第８回　法と正義①　Ｊ・ロールズの功利主義批判
第９回　法と正義②　Ｊ・ロールズの正義論　～　正義の二原理
第10回　法と正義③　Ｒ・ノージックのリバタリアニズム　～　Ｊ・ロールズとの関連から
第11回　法と正義④　Ｒ・ノージックのリバタリアニズム　～　Ｊ・ロックとの関連から
第12回　法と正義⑤　Ｒ・ドゥオーキンの権利論
第13回　法と正義⑥　Ｒ・ドゥオーキン（裁判と法解釈）
第14回　法と正義⑦　共同体主義　～　アリストテレスとの関連から
第15回　法思想史のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80％　　講義中に課す感想文…20％

法思想史 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前には、テキストの該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

「現代正義論」を１年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自然法論　法実証主義　正義論

外国法 【昼】

担当者名 /Instructor　森谷　克之 / Ｋａｔｓｕｙｕｋｉ　Ｍｏｒｉｙａ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	外国法における課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える外国法に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国法	LAW212M

授業の概要　/Course Description

二大法体系のひとつとして、大陸法との対比として論じられる英米法とはいかなる法体系なのかを、イギリス、コモン・ローの契約法および不法行為法の発展を通じて学んでいきます。
　契約法においては、simple contract が不法行為法から発展した過程を考察し、不法行為法では、不法行為の法的責任の根拠の変遷を考察します。

教科書　/Textbooks

なし、必要な資料は、講義において配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○別冊ジュリスト　英米判例百選

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　契約の成立1【約束：当事者の意思の合致、】
2回　契約の成立2【意思の合致だけでは約束は法的拘束力を持たない】
3回　契約の成立3【約束の法的拘束力の根拠】
4回　契約の成立4【約因とは何か】
5回　約因法理生成1【金銭債務訴訟と捺印契約訴訟】
6回　約因法理生成2【assumpsitの登場】
7回　約因法理生成3【Slade's Case】
8回　約因法理生成4【約因法理】
9回　約因法理生成5【simple contractの定義】
10回　不法行為【責任の根拠】
11回　不法行為【ネグリジェンス】
12回　不法行為【トレスパス】
13回　不法行為【ニューサンス】
14回　不法行為【過失責任主義の再検討】
15回　まとめ

講義内容については変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・60%　講義への取り組み40%
出席調査は行うが、出席はプラス評価としない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布プリントを講義までよく読んでおいてください。
重要なポイントは講義においてその旨指摘しますので、講義後において確認理解に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください (下記のメッセージ欄も参照のこと)。

外国法 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

配布資料をよく読み、講義とあわせて理解してください。
配布資料は定期試験時に必要となりますので、熟読の上大切に保管してください。

キーワード　/Keywords

英米法　コモン・ロー　契約法　約因　不法行為法　過失

日本法制史 【昼】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期 (ペア)　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本法制史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本法制史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、それらを検討する中で、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、歴史的な日本法の考え方や制度を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本法制史	LAW312M

授業の概要　/Course Description

本講義は、わが国における「法」のあり方、すなわち成文の法規・法典と呼ぶべきものだけでなく、それぞれの時代において「罪」や「制裁」、さらに広く法をめぐって観念される「権利」なるものがどのように考えられていたかについて、古代から近現代に至るまでのそれぞれの時代における国家や社会のあり方にも意識を置きつつ見通していく。またあわせて、諸外国法のわが国に与えた影響や、それらの法と我が国の法との比較にも積極的に触れていく。

教科書　/Textbooks

『概説 日本法制史 (仮題)』 (弘文堂・ 2017年出版予定)
※基本的にレジュメ(資料)と板書によって講義を進め、適宜上記テキストを参照する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

浅古弘・ 伊藤孝夫・ 植田信廣・ 神保文夫編『日本法制史』(青林書院・ 2010年)
水林彪・ 大津透・ 新田一郎・ 大藤修編『法社会史』(山川出版社・ 2001年) (図書館蔵書 : ○)
川口由彦『日本近代法制史[第2版]』(新世社・ 2014年) (図書館蔵書 : ○)
※このほか、講義中に適宜紹介していく。

日本法制史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ガイダンス（この講義について）
2 古代(1)【「法」の起源】
3 古代(2)【律令法】
4 古代(3)【公家朝廷法】
5 中世(1)【中世の土地と国家】
6 中世(2)【鎌倉幕府の法】
7 中世(3)【鎌倉幕府の訴訟とその手続】
8 中世(4)【室町期の法と裁判】
9 中世(5)【戦国期の法と裁判】
10 近世(1)【江戸幕府の法源と統治組織】
11 近世(2)【土地制度】
12 近世(3)【親族・相続法】
13 近世(4)【刑事法】
14 近世(5)【裁判制度】
15 前近代法から近代法へ
16 幕末～明治期の西欧法の受容
17 中央権力機構の形成と法
18 近代司法制度
19 近代裁判制度
20 明治憲法の形成
21 明治憲法体制の展開
22 刑事法(1)【近代刑法の形成】
23 刑事法(2)【明治時代の罪と罰】
24 陪審法制
25 訴訟法制の近代化
26 民事法(1)【民法典の編纂・民法典論争】
27 民事法(2)【土地法制・財産法制】
28 社会法制の形成と展開
29 近代法から現代の法へ
30 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
１．平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の20％）
２．講義全体の内容についての期末テスト（全体の80％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】それぞれの授業テーマごとに事前に参考書等を通読するとともに、それぞれの時代の方のあり方に各自で大体のイメージを持っていただきたい
【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た法のイメージがどのように変化したかを整理するとともに現代法のあり方との比較検討を行っていただきたい

履修上の注意 /Remarks

【注意事項】
・受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
・質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校において日本史Bを履修していない者は、同科目の教科書（出版社は問わない）の制度史・政治史に関する部分を通読した上で講義に臨んでいただきたい。

キーワード /Keywords

法制史 / 法史学 / 古代法 / 中世法 / 近世法 / 近代法 / 裁判 / 権利

法社会学 【昼】

担当者名 /Instructor　林田　幸広 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学	LAW211M

授業の概要　/Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、広い意味での法現象を観察・分析し、言語化する学問です。
みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするなら、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。
「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる――こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上にして多分に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」（＝別様でもありえた / ありえる視点）を実感していただければと思います。
でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためでのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシヴに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになります。
もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば（ちなみに「実は裏で○×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。
目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え / 追い込み考えてみる。そんな知的 / 時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授 / 暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか――ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。
受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『圏外に立つ法 / 理論』、ナカニシヤ出版、2012年 .
そのほかは講義中に指示します。

法社会学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（講義の進め方等についての説明）
２回　法社会学的観察とは何か（１）【法システムの「内部」と「外部」】という視点
３回　法社会学的観察とは何か（２）【法社会学的アプローチの多元性】
４回　法社会学的観察とは何か（３）【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
５回　社会秩序の根拠は何か（１）法学における【秩序問題】
６回　社会秩序の根拠は何か（２）社会学における【秩序問題】
７回　現代社会における法の機能（１）【法機能】の多元化
８回　現代社会における法の機能（２）【現代法化論】の両義性
９回　フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（１）【フリーライダー問題の「かたち」】
１０回　フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（２）【「正解」の出ない社会問題への対処】
１１回　フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（３）【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
１２回　現代法化社会を考える（１）法と【権力】
１３回　現代法化社会を考える（２）法と【リスク】
１４回　現代法化社会を考える（３）法と【主体】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

全編論述式の定期試験（70％）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30％）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる（ハズの）問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ / いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。
初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください（この場合の自己決定には自己責任が伴います）。なお、補助資料（プリント）を配布することがありますが、再配布（増刷）はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます）。（唯一の）正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思います。そんな授業です。

キーワード　/Keywords

法哲学 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法哲学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法哲学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法哲学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学	LAW310M

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）、2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
○平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）
○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）
○大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）
田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）
○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』［第２版］（有斐閣、1997年）
○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
○レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　法哲学とは　～　概要説明
第２回　法と道徳①　ラートブルフの法律を越える法
第３回　法と道徳②　ハート・フラー論争
第４回　法と道徳③　悪法論　～　ドイツの戦後処理をめぐって
第５回　法と道徳④　ハート・デブリン論争　～　法による道徳の強制
第６回　法と道徳⑤　理論史１　～　カント
第７回　法と道徳⑥　理論史２　～　ラートブルフ
第８回　法と強制①　～　ケルゼンの純粋法学
第９回　法と強制②　～　法と合意形成
第10回　法・社会・国家①　～　エールリッヒ・ケルゼン論争
第11回　法・社会・国家②　～　M・ヴェーバーと形式法の実質化
第12回　法・社会・国家③　～　ハーバーマスと法化
第13回　法と生命　～　安楽死・尊厳死
第14回　法と正義
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…80%　講義中に課す感想文…20%

法哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの該当箇所を読み予習しておくこと。講義後には、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を２年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と道徳　法と強制　ケルゼン　ハート

比較法文化論 【昼】

担当者名 /Instructor　篠森　大輔 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較法文化論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法文化を比較する上での課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、法文化間の比較をすることにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較法文化論	LAW313M

授業の概要　/Course Description

日本の民法典は、1898（明治31）年の施行以来、何度も改正を受けてきました。現在も債権法の改正作業が進行中です（2017年1月現在）。それにもかかわらず、その根幹部分は、今なお施行当時の民法典（いわゆる「明治民法」）のものを、ほぼ維持しています。明治民法は、近代西ヨーロッパ諸国（特にドイツ、フランス）の民法典の強い影響のもとで編纂されたため、「比較法の所産」と評されています。ドイツ、フランスの各民法典は、古代ローマ法の伝統を基礎として、それぞれの社会状況の中で成立し、展開してきました。したがって、日本の民法典は、ドイツ、フランス両国の民法典を通じて、ローマ法の影響下にあるということができるのです。民法の講義で、先生方がドイツやフランスの民法の規定を引き合いに出すことが多いのは、そうした方が日本の民法の理解をいっそう深められるからなのです。

この講義では、日本民法上の諸問題を、現在のドイツ、フランスの状況と比較し、さらにその淵源でローマ法にもさかのぼって検討していきます。この作業を通じて、民法が単なる技術の集積ではなく、歴史の所産であり、文化現象でもあることを確認する機会としたいと願っています。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。講義資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

原田慶吉『日本民法典の史的素描』（創文社、1954年）（○）
原田慶吉『ローマ法〔改訂版〕』（有斐閣、1955年）（○）
石部雅亮＝笹倉秀夫『法の歴史と思想––法文化の根柢にあるもの』（放送大学教育振興会、1995年）
ウルリッヒ・マンテ〔田中実＝瀧澤栄治訳〕『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008年）
木庭顕『ローマ法案内––現代の法律家のために』（羽鳥書店、2010年）（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、「比較法文化論」とはなにか　【比較法】【西洋法制史】【法解釈学】
2回　日本民法典の成立　【条約改正】【旧民法】【法典調査会】【明治民法】
3回　日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（日本）　【相続】【遺言】
4回　日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（ドイツ・フランス）　【ドイツ民法典】【フランス民法典】
5回　日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（ローマ）　【ローマ法】
6回　ローマ法史概説　【ユスティニアヌス帝】【ローマ法大全】【学説彙纂】【法の継受】
7回　日本民法の現代的問題：遺産の管理（日本）　【遺産管理】【遺言執行】
8回　日本民法の現代的問題：遺産の管理（ドイツ・フランス）
9回　日本民法の現代的問題：遺産の管理（ローマ）　【信託遺贈】
10回　ローマ遺言法と遺言実務　【パピルス学】【碑文学】
11回　ローマ私法概説：売買　【売買】【問答契約】【握取行為】
12回　ローマ私法概説：遺言　【銅衡遺言】
13回　ローマ私法概説：不法行為　【不法行為】
14回　ローマ私法概説：事務管理　【事務管理】
15回　筆記試験

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（60%）、筆記試験（40%）。

比較法文化論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

六法は必ず持参してください。また、講義のテーマに対応する民法の教科書が手許にあると便利です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「比較法文化論」という講義名は、格調の高い、たいへん有意義なものです。しかし、皆さんの先輩方の声を聞くと、講義名から講義内容をイメージしづらい面があるのは否定できないようです。そこで、皆さんには、「ちょっとかわった民法の講義を聞いてみよう」というつもりで話を聞きに来てほしいと思います。民法の基礎から解説するので、民法に苦手意識をもつ人も大いに歓迎します。民法を少し深く勉強したいと思っている人、民法上の諸問題について論文やレポートを書きたいと思っている人には、特に受講をすすめます。

キーワード /Keywords

民法　比較法　西洋法制史　ローマ法　法継受　ローマ法大全

紛争処理論 【昼】

担当者名 /Instructor　林田　幸広 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	紛争処理に関する理論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	紛争処理上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える紛争処理上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

紛争処理論	LAW311M

授業の概要　/Course Description

紛争処理論は法社会学の一分野です。よって、みなさんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視角から、広義の法現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは法社会学と共通です。そのうえで、本講義は、法に期待される重要な機能である民事紛争処理というテーマに照準をあわせ、それを法社会学的に考察していきます。
いうまでもなく、裁判をはじめとする司法システムには、日々さまざまな種類の紛争が持ち込まれます。その意味で司法は、それら多様な紛争を事案として受け入れ、法的な判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において－－いわゆる法的三段論法をはじめとする－－法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて（こそ）、紛争は「解決」へと至る、といったストーリーは、（とりわけ法学にとってみれば）それほど疑われる余地はない＝疑ってはいけない？のかもしれません。しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っているハズの個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面をもっているのではないでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落としたりする場面を生じさせるのではないでしょうか。
本講義は、こうした問題関心に基づき、まずは、紛争の多主体性・主観性・連続性を視野化することで、紛争の把握や解決が実はとても困難であることを提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、裁判をはじめとする民事の紛争処理手続は、いかなる対応が可能なのかについて、法解釈学とは異なる視角から考えてゆきます。その際、中心に置かれるのは紛争当事者の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である司法の中で、紛争と向きあい折り合っていく可能性を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。
以上から示唆されるように、本講義は、紛争を直ちに固定化・対象化し、迅速かつオートマティックに効率よく処理していく技法（スキル）－－ましてやそれがリーガルマインドだなんて！－－の体得に向けられるのではなく、ある意味でそれとは正反対の思考、すなわち、紛争のもつダイナミズムを直視した上で、それにいかにして向き合っていくのかについて考えることになります（よって本講義は、紛争を管理・解決する為の「ノウハウ」や「技術」、ひいては「正しい方法」――そういうものが実際にアレばの話ですが――などを求める期待には全く応えられません）。紛争事案に法を「あてはめる」のではなく、紛争当事者にとっての解決とは何か、その場合法や専門家は何をなしうるのか、といった「問い」と併走する講義です。

教科書　/Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『圏外からの法 / 理論』、ナカニシヤ出版、２０１２年．
そのほかの参考文献については講義中に指示します。

紛争処理論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション：授業の進め方等について説明します
２回　紛争概念の再構成（１）：【紛争の多主体性】･･･紛争主体は「甲と乙と丙」だけか？
３回　紛争概念の再構成（２）：【紛争の主観性】･････命はカネにかえられる？
４回　紛争概念の再構成（３）：【紛争の連続性】･････「判決＋執行」で本当に紛争は終わるか？
５回　紛争概念の再構成（４）：【紛争解決の困難性】･･法的解決／生活実態との乖離
６回　法＝権利とは何か？（１）：西欧継受の法＝権利･････････権利による【近代化】
７回　法＝権利とは何か？（２）：権利観念の氾濫と拡散･･････【法の三類型モデル】
８回　法＝権利とは何か？（３）：当事者同士の【共同体】･････【権利の言説】
９回　法専門職の臨界（１）：弁護士偏在の理由と変化････････需要の掘り起こしと【公設事務所】
１０回　法専門職の臨界（２）：弁護士像（モデル）の変遷･････社会正義とビジネスを超えて？
１１回　法専門職の臨界（３）：弁護士と当事者のかかわり･････････【関係】と【協働】
１２回　当事者主体の紛争処理に向けて（１）：【ＡＤＲ】の多層性
１３回　当事者主体の紛争処理に向けて（２）：【専門知】のあやうさ
１４回　当事者主体の紛争処理に向けて（３）【メディエーション論】の可能性
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

論述式の定期試験（70％）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30％）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる（ハズの）問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

皆さんが普段学んでいる法解釈学的思考が、実際の紛争現場に対していかなる作用を果たしているのか、そこに問題は無いのか、ということを常に念頭においておくこと。
事前に配布する資料をかならず通読しておくこと。
本講義は民事の紛争処理過程について考察しますが、法社会学同様、法解釈学的視点とは違った角度からの講義です。この点注意してください（「法社会学とはいかなる学問領域なのか」についての総論めいたお話は法社会学で扱っていますので、法社会学を受講している方が、よりスムーズに本講義に入ってゆけると思われます）。なお、同一プリントの再配布（増刷）はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「法は何のためにあるのか」－－少なくとも民事の紛争に限って言えば、法は、紛争を抱えた当事者たちのためにあるべきでしょう。本講義は、この「素朴な命題」を愚直に受け止め、話をすすめていきます。なお、本講義は––法社会学と同様––（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もってお伝えしておきます）。むしろ正解や情報の暗記を苦手とする（＝正解を覚えること自体に漠いたる疑問を抱く）方のほうがひょっとしたら向いているのかもしれません。憶えるのではなく考え／批判すること、その用意がある方を歓迎します。

キーワード　/Keywords

日本国憲法原論 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論	LAW120M

授業の概要　/Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各専門科目へ進んでいってもらいたい。

教科書　/Textbooks

安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○浦部法穂『憲法学教室　第3版』（日本評論社、2016年）
○芦部信喜『憲法　第6版』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法　第6版』（新世社、2014年）
○野中俊彦ほか『憲法I　第5版』『憲法II　第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　憲法とは何か①–国家と憲法
第2回　憲法とは何か②–近代国家の成立と憲法
第3回　憲法とは何か③–日本国憲法の基本原理と立憲主義
第4回　日本国憲法制定史①–大日本帝国憲法から新憲法制定へ
第5回　日本国憲法制定史②–マッカーサー草案から新憲法公布まで
第6回　平和主義①–その歴史性
第7回　平和主義②–日本国憲法の平和主義
第8回　平和主義③–日本の安全保障と平和主義
第9回　人権総論①–人権の歴史
第10回　人権総論②–人権の分類と制約
第11回　人権総論③–違憲審査の方法と私人間効力
第12回　統治機構総論①–国会
第13回　統治機構総論②–内閣
第14回　統治機構総論③–裁判所
第15回　地方自治制度

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

日本国憲法原論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業の概要にも書いたように、憲法関連科目の基礎となる講義なので、まずは本講義を受講してから他の憲法科目を受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法史　平和主義　基本的人権　統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	2学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論	LAW220M

授業の概要　/Course Description

日本国憲法は、基本的人権を保障している。人権は、原則として、市民が国家に対して自由や平等、社会的給付を要求できることを保障している。人権の内容は、歴史的にも、各国の憲法によっても様々である。

この講義のねらいは、次の3つである。
①人権の思想史的沿革や体系、
②各人権条項の意義や構成、法的判断の仕方、
③判例における実際の適用のあり方を学ぶこと。

また、海外の憲法における基本的人権のあり方との違いにもふれる。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。
詳しくは、初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）
○安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法〔第2版〕』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　総論①　–イントロダクション
第2回　総論②　–人権の分類と人権享有主体
第3回　人権の制約原理　–公共の福祉
第4回　幸福追求権
第5回　表現の自由①
第6回　表現の自由②　–知る権利と報道の自由
第7回　思想・良心の自由
第8回　信教の自由と政教分離
第9回　学問の自由
第10回　職業の自由
第11回　財産権
第12回　社会権①　–労働基本権
第13回　社会権②　–生存権
第14回　平等権
第15回　適正手続

※選挙権と裁判を受ける権利については、憲法機構論で取り扱う。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

憲法人権論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

レジュメの予習・復習、教科書等の該当箇所を読む。

履修上の注意　/Remarks

小型六法を持参すること。
事前に「学習支援フォルダ」にレジュメをアップすることがあるので、各自印刷して持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

基本的人権　憲法上の権利

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論	LAW221M

授業の概要　/Course Description

日本国憲法は、国家の統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）について大枠を定めている。

この講義のねらいは、次の3つである。
①統治の基本原則（国民主権や権力分立など）、
②国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
③国家機関相互の関係や、全体の構造を把握すること。

また、現実の政治動向や海外の情勢などへの関心も喚起するような内容とする。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。
詳しくは、初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○芦部信喜『憲法〔第6版〕』（岩波書店、2015年）
○野中俊彦ほか著『憲法〔第5版〕』（有斐閣、2012年）
○安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法〔第2版〕』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　総論　–イントロダクション
第2回　統治の諸原則　–国民主権と権力分立
第3回　代表民主制と選挙（権）
第4回　国会①　–立法権と国会
第5回　国会②　–国会の組織と活動
第6回　国会③　–国会および議院の権能
第7回　国会④　–国会議員の権能
第8回　内閣①　–行政権と内閣
第9回　内閣②　–内閣の組織と権能
第10回　内閣③　–議院内閣制
第11回　国法の諸形式
第12回　裁判所①　–司法権と裁判所
第13回　裁判所②　–裁判を受ける権利
第14回　地方自治と財政
第15回　象徴天皇制

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（70%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

レジュメの予習・復習、教科書等の該当箇所を読む。

憲法機構論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

小型六法を持参すること。
事前に「学習支援フォルダ」にレジュメをアップすることがあるので、各自印刷して持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国民主権　権力分立　代表民主制　国会　内閣　裁判所　地方自治

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論	LAW320M

授業の概要　/Course Description

憲法上の争点が含まれる訴訟（憲法訴訟）について、実際の憲法判例を素材としながら学ぶ。
憲法訴訟とは何か、違憲審査制の概要といった基礎を踏まえた上で、憲法判断に入る前のさまざまな"前さばき"、憲法判断の方法などを順次学んでいく。これらを通じて、憲法問題を訴訟により解決する道筋やその限界などを考えてもらいたい。

教科書　/Textbooks

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！』（有斐閣、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○『別冊ジュリスト憲法判例百選I　第6版』・『同II　第6版』（有斐閣、2013年）
　安藤高行編『新･エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）
○芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入–憲法訴訟とは
第2回　違憲審査制–抽象的審査制と付随的審査制
第3回　違憲判決の効力
第4回　憲法訴訟への途–「法律上の争訟」とは
第5回　違憲審査の対象①–自律権、統治行為、団体の内部事項
第6回　違憲審査の対象②–立法不作為
第7回　憲法判断の方法①–憲法判断回避のルール
第8回　憲法判断の方法②–違憲判断回避のルール（合憲限定解釈）
第9回　憲法判断の方法③–法令の部分違憲
第10回　司法審査基準①–二重の基準論
第11回　司法審査基準②–目的手段審査・立法事実・三段階審査
第12回　信教の自由・政教分離原則に関する司法審査
第13回　表現の自由に関する司法審査
第14回　経済的自由に関する司法審査
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回講義で取り上げる判例についてはできる限り指示するので、教科書の該当部分を予め読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

「憲法人権論」を履修していることが望ましい。

憲法訴訟論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法訴訟　違憲審査制　司法審査基準　二重の基準論

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor　福重 さと子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期 (ペア)　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論	LAW121M

授業の概要　/Course Description

〈授業の概要〉
行政法は、国や地方公共団体など、公益を実現する機関がいかなる活動をしうるかの限界を明らかにする学問です。
行政法総論では、様々な問題の検討を通して、この目的のために考慮すべき基本的な事柄が何であるかを学びます。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

①いくつかの行政法の基礎的な概念を理解し、説明することができる。
②習得した知識を用いて事案を検討することができる。
③行政法学の基本的な関心事である個人の自由の保障の必要性を理解する。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

宇賀克也ほか編『行政判例百選 I 〔第 6 版〕』(有斐閣) 定価2,400円
宇賀克也ほか編『行政判例百選II〔第 6 版〕』(有斐閣) 定価2,400円
原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』(学陽書房) 定価3 , 465円
石川敏行ほか『はじめての行政法〔第2版〕』(有斐閣)
藤田宙靖『行政法入門〔第5版〕』(有斐閣)
櫻井敬子 = 橋本博之『行政法〔第3版〕』(弘文堂)
塩野宏『行政法I〔第5版〕』(有斐閣)
芝池義一『行政法読本〔第2版〕』(有斐閣)
宇賀克也『行政法概説 I 〔第4版〕』(有斐閣)
藤田宙靖『行政法 I 総論〔第4版〕』(青林書院)

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、行政法の基礎概念
第2回　行政の役割
第3回　規制の方法（１）事前規制
第4回　許可と特許
第5回　規制の方法（２）事後規制
第6回　経過規定
第7回　法の種類
第8回　行政組織法概論（１）－総説、国の行政組織
第9回　行政組織法概論（２）－地方公共団体の行政組織
第10回　行政の裁量（１）根拠
第11回　行政の裁量（２）裁量統制の技術
第12回　行政の裁量（３）裁量基準
第13回　取消しと撤回
第14回　行政手続（１）基礎理論
第15回　行政手続（２）行政手続法
第16回　行政上の義務履行確保（１）－概論
第17回　行政上の義務履行確保（２）－具体的検討
第18回　行政指導の意義
第19回　行政指導の実効性確保
第20回　信頼の保護
第21回　行政立法
第22回　委任立法の限界
第23回　補助金の交付
第24回　行政手続による第三者の保護
第25回　情報公開
第26回　法律の留保
第27回　行政行為の概念と特別な訴訟手続
第28回　取消訴訟と国家賠償法
第29回　無効の行政行為
第30回　行政行為の効力
※ただし、授業の進度によって、各回の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80％、課題20％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、教科書を読んでおくこと。
授業後は、質問などにより、わからない点の理解につとめてください。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政法総論、行政手続法

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法	LAW222M

授業の概要　/Course Description

行政争訟とは、違法（・ 不当）な行政活動の是正を求める制度です。本講義では、行政機関に是正を求める行政上の不服申立てと裁判所に是正を求める行政訴訟について概説します。そのうえで受講者が、行政争訟の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、行政争訟法とは
第2回　行政上の不服申立て(1)【種類、要件】
第3回　行政上の不服申立て(2)【審理、裁決】
第4回　行政訴訟の全体像
第5回　取消訴訟の訴訟要件(1)【処分性①】
第6回　取消訴訟の訴訟要件(2)【処分性②】
第7回　取消訴訟の訴訟要件(3)【原告適格①】
第8回　取消訴訟の訴訟要件(4)【原告適格②】
第9回　取消訴訟の訴訟要件(5)【訴えの利益】
第10回　取消訴訟の審理・判決
第11回　無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
第12回　義務付け訴訟、差止訴訟
第13回　仮の救済
第14回　当事者訴訟、客観訴訟
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意　/Remarks

「行政法総論」を履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国家補償法 【昼】

担当者名 /Instructor　福重 さと子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国家補償法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国家補償法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国家補償法	LAW321M

授業の概要　/Course Description

国・公共団体の活動によって損害を被った個人は、国・公共団体に対して、その損害を償うよう求めることができます。このことを保障するのが国家補償制度です。
この授業では、国家補償制度の基本的なしくみを学びます。

具体的には、この授業の到達目標は、つぎのとおりです。
①国家賠償、損失補償を請求するための基本的な条件を理解する。
②具体的な事案を前に、損害賠償請求を、どの条文によって求めることができるか、また請求が認められる可能性があるかどうかを判断できる。
③国家補償制度が現代の社会的変化に応じて変化してきたことを理解する。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『行政判例百選II〔第6版〕』（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、国家補償制度の概論
第2回　国家賠償制度の歴史、国家賠償責任の本質
第3回　国家賠償法1条（公権力の行使に関する責任）の適用範囲
第4回　国家賠償法1条責任の成立要件①伝統的枠組み
第5回　国家賠償法1条責任の成立要件②近年における枠組みの変化
第6回　国家賠償法1条責任：規制権限の不行使による責任、立法者の責任
第7回　国家賠償法1条責任の復習（判例を使った復習）
第8回　国家補償法2条（営造物の設置・管理に関する責任）の適用範囲
第9回　国家賠償法2条責任の成立要件：基本的枠組み
第10回　国家賠償法2条責任の成立要件：判例の状況
第11回　国家賠償法2条責任の復習（判例を使った復習）
第12回　損失補償制度の概要、損失補償の要件
第13回　損失補償の内容
第14回　国家賠償と損失補償の谷間
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験100%

国家補償法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に出される問題について考えてきてください。
授業後は、復習問題で確認をしてください。

履修上の注意　/Remarks

「行政法総論」を履修していることを前提に授業を行います。
授業前に、各回のテーマについて、行政法の本（ガイダンスのときに紹介する）を読んでおくよう努めること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法、行政救済法、国家賠償、損失補償

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor　岡本　博志 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期 (ペア)　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える地方自治法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治法	LAW223M

授業の概要　/Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・ 分析と
解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

教科書　/Textbooks

中川義朗編　『これからの地方自治を考える』(法律文化社、2010年)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

宇賀克也　『地方自治法概説【第5版】』(有斐閣、2013年)
磯部力ほか編　『地方自治判例百選[第4版]』(有斐閣、2013年)

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 地方自治の基礎理論（１）
わが国における地方制度の沿革
第 2回 地方自治の基礎理論（２）
地方自治の意義、地方自治に関する法源
第 3回 地方自治の基礎理論（３）
自治権の本質、地方自治制度の基本枠組み
第 4回 地方公共団体の種類（１）
普通地方公共団体、特別地方公共団体
第 5回 地方公共団体の種類（２）
基礎的地方公共団体、広域の地方公共団体
大都市制度、市町村合併、道州制
第 6回 地方公共団体の事務（１）
地方公共団体の事務の区分
第 7回 地方公共団体の事務（２）
事務配分のあり方
第 8回 地方公共団体の権能（１）
自治のための権能
第 9回 地方公共団体の権能（２）
自治行政権とその統制原理
第10回 地方公共団体の権能（３）
自治立法権の意義と限界
第11回 地方公共団体の機関（１）

地方議会
第12回 地方公共団体の機関（２）
執行機関、補助機関
第13回 地方紅葉団体の機関（３）
長と議会との関係
第14回 住民の権利義務（１）
住民の参政権
第15回 住民の権利義務（２）
直接請求権
第16回 住民の権利義務（３）
参加権
第17回 住民の権利義務（４）
公の施設利用権
第18回 国と地方公共団体との関係（１）
相互関係の在り方、関与の在り方
第19回 国と地方公共団体との関係（２）
係争処理の仕組み
第20回 国と地方公共団体との関係（３）
事務配分と財源配分
第21回 国と地方公共団体との関係（４）
地方公共団体の財政、税源、補助金等
第22回 情報公開制度（１）
情報公開制度の概要
第23回 情報公開制度（２）
情報公開制度の諸問題
第24回 個人情報保護制度（１）
個人情報保護制度の概要
第25回 個人情報保護制度（２）
個人情報保護制度の諸問題
第26回 住民監査請求（１）
住民監査請求の制度

第27回 住民監査請求（２）
住民監査請求と住民訴訟
第28回 住民訴訟（１）
住民訴訟の意義と要件
第29回 住民訴訟（２）
住民訴訟における諸問題
第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ８０％ レポート（課題） ２０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論）および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・ 個人情報保護法 【昼】

担当者名 /Instructor　岡本　博志 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法	LAW322M

授業の概要　/Course Description

情報公開・ 個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開制度は、国民・ 住民が国・ 地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。
授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・ 分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書　/Textbooks

宇賀克也　『新・ 情報公開法逐条解説[第6版]』（有斐閣、2014年）
同　　『個人情報保護法の逐条解説[第4版]』（有斐閣、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集『個人情報保護法の解説≪改訂版≫』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第　1回　情報公開の意義
　　情報公開とは何か
第　2回　情報公開制度の憲法上の基礎
　　知る権利、国民主権者
第　3回　情報公開法・ 情報公開条例の仕組み（１）
　　情報・ 行政文書の意義
第　4回　情報公開法・ 情報公開条例の仕組み（２）
　　個人情報の不開示とプライバシー保護
第　5回　情報公開法・ 情報公開条例の仕組み（３）
　　法人等情報及び意思形成過程情報の不開示
第　6回　情報公開法・ 情報公開条例の仕組み（４）
　　事務事業情報、安全・ 公安情報、外交等情報の不開示
第　7回　情報公開法・ 情報公開条例の仕組み（５）
　　部分開示、応答拒否、裁量的開示
第　8回　情報公開法・ 情報公開条例の仕組み（６）
　　開示手続、不服申立て、審査会による審査
第　9回　個人情報保護の意義
　　個人情報保護とは何か
第10回　個人情報保護制度の憲法上の基礎
　　個人の尊厳とプライバシー
第11回　個人情報保護法・ 個人情報保護条例の仕組み（１）
　　個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第12回　個人情報保護法・ 個人情報保護条例の仕組み（２）
　　個人情報の収集、管理、利用
第13回　個人情報保護法・ 個人情報保護条例の仕組み（３）
　　開示請求、非開示情報、訂正等請求
第14回　個人情報保護法・ 個人情報保護条例の仕組み（４）
　　不服申立て、審査会による審査
第15回　まとめ

情報公開・個人情報保護法 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　８０％　　レポート（課題）　２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意　/Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑法犯罪論 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論	LAW130M

授業の概要　/Course Description

刑法総論の授業では、すべての犯罪に共通する、犯罪の一般的な成立要件の体系（犯罪論体系）について学びます。刑法は、刑罰という強力な規制手段と、その発動の前提条件（犯罪の成立要件）を定めています。それゆえ、犯罪の成否は恣意を排して安定的に判断されなければなりません。公平な法適用を実現するためには、基本的な概念を厳密に定義することと体系的・論理的に考えることが強く求められます。本講義では、具体的事例を議論の出発点として、刑法の基本原理や基本概念を正確に理解し、刑法解釈の「型」を修得することを目指します。

教科書　/Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねる。
参考までに、大塚裕史 / 十河太朗 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法I総論〔第2版〕』（日本評論社、2016年）を推奨する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○）

１．判例を学習するために
○十河太朗 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『刑法総論判例50！』（有斐閣、2016年）
２．各学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・総論』（有斐閣、2008年）
○山口厚『刑法総論〔第3版〕』（有斐閣、2016年）
○川端博『刑法総論講義〔第3版〕』（成文堂、2013年）
３．事例の解法を学習するために
島伸一編『たのしい刑法I　総論』（弘文堂、2012年）

刑法犯罪論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　刑法とは何か？刑法総論では何を学ぶのか？
第2回　刑法の機能・目的と刑罰の機能・目的：刑罰論、新旧刑法学派の争い
第3回　刑法の基本原理（罪刑法定主義、謙抑主義、責任主義）と刑法の適用範囲
第4回　犯罪の基本概念と犯罪論の体系（構成要件該当性、違法性、責任）
第5回　構成要件の概念と行為論（一般的行為概念、実行行為、犯罪の主体、作為と不作為の区別）
第6回　因果関係論①：条件説と相当因果関係説
第7回　因果関係論②：結果的加重犯、客観的帰属論
第8回　故意論：故意の種類、未必の故意
第9回　事実の錯誤①：具体的事実の錯誤
第10回　事実の錯誤②：抽象的事実の錯誤
第11回　過失犯の理論：新旧過失犯論、注意義務の内容、信頼の原則
第12回　不作為犯：真正不作為犯と不真正不作為犯の区別、作為義務
第13回　違法性の本質と違法性阻却事由
第14回　正当防衛①：正当防衛状況（対物防衛、急迫性、積極的加害意思、緊急救助）
第15回　正当防衛②：正当防衛行為（防衛意思、偶然防衛、過剰防衛）
第16回　緊急避難
第17回　正当行為と被害者の承諾
第18回　正当化事情の錯誤：誤想防衛
第19回　責任の意義と本質
第20回　責任能力と原因において自由な行為
第21回　違法性の錯誤
第22回　未遂犯
第23回　不能犯と中止犯
第24回　正犯と共犯の区別
第25回　共同正犯の意義と処罰根拠
第26回　共同正犯の諸問題：共謀共同正犯、承継的共同正犯
第27回　間接正犯
第28回　共犯の従属性と共犯の処罰根拠
第29回　教唆犯と幇助犯
第30回　罪数論：犯罪の個数と犯罪の競合
※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間考査（10％）、期末試験（90％）
各試験の形式については、講義の際に別途説明する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、配布用の資料をMoodleを通じてアップします。導入事例を確認した上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみて下さい。
授業後は、各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際に、事例に含まれた争点についても、教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。刑法総論は、学説が激しく対立し抽象的な議論が行われているので、最初は戸惑うかも知れません。予習と復習を通じて粘り強く学習に取り組んで下さい。その意味で、ノートの作成はじめ受講生の主体的な取り組みが期待されます。授業内外での質問も大歓迎です。
また、この科目の理解をより深めるためにも、同じ刑事法科目に属する刑法犯罪各論、刑事訴訟法、刑事司法政策をさらに履修することを推奨します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

法律学は実践の学問です。具体的な事例を常に想定して、条文に規定されたそれぞれの要件にあてはまる事実があるかどうかを検討することで、法的解決を導くよう意識して下さい。そのために、判例とそこに現れた事案は好個の材料を提供してくれます。一読してみましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　刑法総論　犯罪論

刑法犯罪各論I 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論Ⅰ	LAW230M

授業の概要　/Course Description

「刑法各論の体系的展開（１）」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論Iにおいては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布する（学習支援フォルダから各自がダウンロードすること。）。
初回の講義において、テキストや参考書について説明する。
①六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問わない。）。
②刑法各論の基本書（基本的には、受講者の任意に委ねる。）
山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）。
井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（有斐閣・2013.12）。
井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣・2016.12）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』5版（有斐閣・2013.12）。
○山口厚『刑法各論』2版補訂（有斐閣・2010.03）。
○西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（弘文堂・2012.03）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。
○曽根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例６刑法各論』2版（法学書院・2006.07）。

刑法犯罪各論I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
１回　ガイダンス・刑法各論の基礎
２回　生命に対する罪（１）殺人罪・堕胎罪（人の始期と終期）
３回　生命に対する罪（２）自殺関与罪
４回　生命に対する罪（３）遺棄罪（遺棄概念と遺棄罪の類型）
５回　身体に対する罪（１）暴行罪と傷害罪①（暴行行為の性質・傷害概念）
６回　身体に対する罪（２）暴行罪と傷害罪②（傷害罪の故意・同時傷害の特例）
７回　自由に対する罪（１）逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
８回　自由に対する罪（２）強姦罪・強制わいせつ罪
９回　私生活の平穏に対する罪　住居侵入罪・秘密侵害罪
１０回　名誉・信用に対する罪（１）名誉毀損罪と侮辱罪
１１回　名誉・信用に対する罪（２）信用毀損罪・業務妨害罪
１２回　国家の存立に対する罪　内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
１３回　国家の作用に対する罪（１）公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
１４回　国家の作用に対する罪（２）偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
１５回　国家の作用に対する罪（３）賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験…３０％、期末試験…７０％
この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の内容を要約して講義に臨む。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、講義後に講義ノートを整理して不足事項を基本書・参考書・判例集等で補う。
事前に事例問題を提示するので、解答を作成して講義に参加することを推奨する。講義後には、講義をもとに解答を再度作成することが望ましい。１回の授業で概ね２つの事例問題を検討する予定である。

履修上の注意　/Remarks

この講義では「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論Ⅱ	LAW330M

授業の概要　/Course Description

「刑法各論の体系的展開（２）」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪と社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布する（学習支援フォルダから各自がダウンロードすること。）。
初回の講義において、テキストや参考書について説明する。
①六法（2017年版・平成29年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問わない。）。
②刑法各論の基本書（基本的には、受講者の任意に委ねる。）
山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）。
井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（有斐閣・2013.12）。
井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣・2016.12）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』5版（有斐閣・2013.12）。
○山口厚『刑法各論』2版補訂（有斐閣・2010.03）。
○西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（弘文堂・2012.03）。
○山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。
○曽根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例６刑法各論』2版（法学書院・2006.07）。

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
１回　ガイダンス・財産罪（１）財産罪の基礎と窃盗罪①
２回　財産罪（２）財産罪の基礎と窃盗罪②
３回　財産罪（３）毀棄隠匿罪
４回　財産罪（４）強盗罪
５回　財産罪（５）強盗罪の諸問題（事後強盗・強盗致死傷罪）
６回　財産罪（６）詐欺罪・恐喝罪
７回　財産罪（７）詐欺罪の諸類型
８回　財産罪（８）横領罪・背任罪
９回　財産罪（９）盗品関与罪
１０回　公共危険罪（１）騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
１１回　公共危険罪（２）放火罪・失火罪（放火罪の基礎・焼損）
１２回　公共危険罪（３）放火罪・失火罪（公共危険の発生とその認識）
１３回　公共の信用に対する罪（１）文書偽造罪（文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念）
１４回　公共の信用に対する罪（２）通貨偽造罪・有価証券偽造罪
１５回　風俗に対する罪　わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験…３０％、期末試験…７０％
この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の内容を要約して講義に臨む。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、講義後に講義ノートを整理して不足事項を基本書・参考書・判例集等で補う。
事前に事例問題を提示するので、解答を作成して講義に参加することを推奨する。講義後には、講義をもとに解答を再度作成することが望ましい。１回の授業で概ね２つの事例問題を検討する予定である。

履修上の注意　/Remarks

この講義を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を受講した後に、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑事訴訟法総論 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法総論	LAW231M

授業の概要　/Course Description

本講義では、具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて概説する。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書　/Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年)等。以上の教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第９版〕」（有斐閣、2011年)、○「刑事訴訟法の争点」(有斐閣、2013年)等。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
第2回　刑事訴訟の関与者　(1)【法曹三者】
第3回　刑事訴訟の関与者　(2)【その他の訴訟参加者】
第4回　捜査総説
第5回　令状主義と強制処分法定主義
第6回　捜査の端緒
第7回　証拠の収集保全　(1)【捜索・差押え】
第8回　証拠の収集保全　(2)【鑑定、検証等】
第9回　逮捕
第10回 無令状捜索・差押
第11回 勾留
第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法学に関する議論の理解が前提となる部分が多く、憲法を履修していることが望ましいです。また、刑法上の概念が問題となる場面もあるので、刑法の履修が済んでいる、または平行して履修するとよいでしょう。

刑事訴訟法総論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。
市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード　/Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

刑事訴訟法各論 【昼】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法各論	LAW331M

授業の概要　/Course Description

本講義では、具体的事例を中心に公判の開始（公訴提起）から、裁判の終結（確定判決）までを中心に概説する。法学的思考方法を身につけ、未知の問題にも原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書　/Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年)等。以上の教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第９版〕」（有斐閣、2011年)、○「刑事訴訟法の争点」(有斐閣、2013年)等。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
第2回　審判対象論
第3回　訴因の特定・変更
第4回　訴訟条件
第5回　公判の諸原則、公判期日の手続
第6回　裁判員制度
第7回　被害者参加
第8回　公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
第9回　証拠裁判主義
第10回　自由心証主義、証拠能力と証明力
第11回　違法収集証拠排除法則
第12回　自白法則
第13回　伝聞法則
第14回　裁判
第15回　上訴、再審

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法、刑法の知識が必要となる場面があります。これらの講義を履修済み、平行して履修するのがよいでしょう。また、刑事訴訟法総論で学んだ知識（捜査の終了まで）が前提となります。復習しておいてください。

刑事訴訟法各論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。
市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード　/Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

犯罪学 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	犯罪学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪学上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

犯罪学	LAW232M

授業の概要　/Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書　/Textbooks

○守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円
○瀬川　晃『犯罪学』（成文堂、1998年）
○G.B.ヴォルド＝T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第３版]』（東大出版会、１９９０年)
○宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』（青林書院、１９９５年)
ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』（花伝社、2011年）
○リリー、カレン、＆ボール『犯罪学　理論的背景と帰結　第5版』（金剛出版、2013年）

犯罪学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション（犯罪学の学習方法についての助言・指導）
2回　犯罪学とは何か　【刑事学、犯罪学、刑事政策、刑事司法政策】
3回　犯罪の定義【不法行為、非行、異常行動、逸脱行動】
4回　犯罪学の調査研究方法論（その１）【サーベイ・リサーチ、コーホート調査、公式統計調査、実験、直接観察、面接法】
5回　犯罪学の調査研究方法論（その２）【公式犯罪統計、被害化調査、自己報告調査、暗数】
6回　犯罪学における理論の役割とは何か【理論、パラダイム、パースペクティブ】
7回　古典主義犯罪学
8回　実証主義犯罪学
9回　批判的犯罪学
10回　三大パラダイムの相互比較
11回　シカゴ学派
12回　異質的接触理論
13回　社会的学習理論
14回　アノミー理論
15回　一般的緊張理論（GST）と制度的アノミー理論（IAT)
16回　非行副次文化理論
17回　異質的機会理論
18回　ラベリング理論
19回　コンフリクト理論
20回　社会統制理論
21回　セルフ・コントロール理論
22回　被害者学理論（被害者特性論、被害者誘発仮説、状況的アプローチ）
23回　ライフスタイル・モデル
24回　犯罪の経済学理論（合理的選択理論）
25回　ルーティン・アクティヴィティ理論
26回　発達論的犯罪学（ライフコース犯罪学）
27回　各種犯罪の現状とその原因論的説明（その1）【暴力犯罪（殺人・強盗）】
28回　各種犯罪の現状とその原因論的説明（その2）【財産犯罪　(窃盗）】
29回　各種犯罪の現状とその原因論的説明（その3）【性犯罪（強姦）】
30回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…100％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

履修上の注意 /Remarks

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」をあわせて受講すればわかりやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策Ⅰ	LAW332M

授業の概要　/Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書　/Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版】』(成文堂、2017年4月刊行予定)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○①朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
○②国家公安委員会・警察庁編『平成28年度　警察白書』（ぎょうせい、2016年）
○③法務省法務総合研究所編『平成28年度　犯罪白書』（日経印刷、2016年）
○④内閣府『平成28年版　犯罪被害者白書』（印刷通販、2016年）
○⑤ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』花伝社　（2011年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　刑事政策の概念　【教科書　第１講　1-15頁】
２回　刑事政策の歴史　【教科書　第2講　16-42頁】
３回　刑事政策の動向　【教科書　第3講　43-55頁】
４回　犯罪予防　【教科書　第4講　56-72頁】
５回　刑事制裁　【教科書　第5講　73-84頁】
６回　刑事司法・少年司法機関の役割（１）【警察】【微罪処分】【教科書　第6講　85-88頁】
７回　刑事司法・少年司法機関の役割（２）【検察】【裁判】【起訴猶予】【執行猶予】教科書　第6講　88-94頁】
８回　刑事司法・少年司法機関の役割（３）【矯正保護】【少年司法機関】【】【教科書　第6講　95-110頁】
９回　犯罪被害者の支援と法的地位【教科書　第7講　111-126頁】
１０回　死刑　【教科書　第8講　127-141頁】
１１回　自由刑　【教科書　第９講　142-157頁】
１２回　財産刑　【教科書　第10講　158-169頁】
１３回　保安処分　【教科書　第11講　170-188頁】
１４回　予備日（実務家による特別講義予定）
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事司法政策I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「犯罪学」「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。刑事法関連科目のうち「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
刑事司法の実務家による特別講義を予定しています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 /Instructor　朴　元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策Ⅱ	LAW333M

授業の概要　/Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状、原因及び刑事政策的対応について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書　/Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版】』（成文堂、2017年4月刊行予定）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
○法務省法務総合研究所編『平成28年度　犯罪白書』（日経印刷、2016年）
○ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』花伝社（2011年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　犯罪者の処遇　【教科書　第12講189-203頁】
2回　施設内処遇(1)　【矯正処遇】【改善指導】【教科書　第13講204-233頁】
3回　施設内処遇(2)　【刑務作業】【刑事施設視察委員会】【教科書　第13講204-233頁】
4回　社会内処遇(1)　【保護観察】【教科書　第14講224-243頁】
5回　社会内処遇(2)　【仮釈放】【教科書　第14講224-243頁】
6回　個別犯罪と対策（1）交通犯罪　【教科書 262-279頁】
7回　個別犯罪と対策（2）薬物犯罪　【教科書　280-293頁】
8回　個別犯罪と対策（3）来日外国人犯罪　【教科書　294-305頁】
9回　個別犯罪と対策（4）組織犯罪　【教科書　306-318頁】
10回　個別犯罪と対策（5）高齢者犯罪　【教科書　319-331頁】
11回　個別犯罪と対策（6）企業犯罪　【教科書　332-343頁】
12回　個別犯罪と対策（7）性犯罪　【教科書　344-358頁】
13回　個別犯罪と対策（8）家庭内･近親者間犯罪　【教科書　359-383頁】
14回　実務家による特別講義予定
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事司法政策II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「犯罪学」「刑事司法政策I」とあわせて受講すればわかりやすい。刑事法関連科目のうち、「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
実務家による特別講義を一回予定しています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論	LAW140M

授業の概要　/Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、２年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。

一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？ 皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むろん、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書　/Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

第1回　イントロダクション～「社会法」とは？
第2回　労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
第3回　労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
第4回　労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
第5回　労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
第6回　労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
第7回　労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
第8回　社会保障法の世界①～労災保険って？
第9回　社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
第10回　社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
第11回　社会保障法の世界④～雇用保険って？
第12回　社会保障法の世界⑤～基本手当①【受給要件】
第13回　社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
第14回　労働法・社会保障法領域における近年の動向
第15回　まとめ

社会法総論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
　　* 期末試験…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意　/Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会サービス法 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法	LAW242M

授業の概要　/Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。
本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。
近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者総合支援法の制定や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。
本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書　/Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。
ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。
第１回　イントロダクション～「社会サービス法」とは？
第２回　医療保障①　～医療供給体制～
第３回　医療保障②　～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
第４回　医療保障③　～保険医療の仕組み～
第５回　医療保障④　～医療保険の保険給付①～
第６回　医療保障⑤　～医療保険の財政①～
第７回　医療保障⑥　～医療保険の財政②、高齢者医療～
第８回　社会福祉①　～社会福祉の法体系とその展開～
第９回　社会福祉②　～社会福祉の給付方式～
第10回　社会福祉③　～サービス利用の法律関係～
第11回　社会福祉④　～福祉サービスの提供体制～
第12回　社会福祉⑤　～権利擁護システム～
第13回　社会福祉⑥　～不服申立制度～
第14回　質問事項に対する講義（医療・福祉）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験…100％）。

社会サービス法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（事前学習） 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習） 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法	LAW243M

授業の概要　/Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。
本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。
近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、芸能ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。
本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書　/Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。
ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。
第１回　イントロダクション～「所得保障法」とは？
第２回　年金保険①　～公的年金保険の構造～
第３回　年金保険②　～公的年金保険の保険関係～
第４回　年金保険③　～公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）～
第５回　年金保険④　～公的年金保険の保険給付②（遺族給付）～
第６回　年金保険⑤　～公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）～
第７回　年金保険⑥　～公的年金保険の財政及び不服申立～
第８回　年金保険⑦　～公的年金制度と私的年金制度～
第９回　公的扶助①　～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原理①（生保1・2条）～
第10回　公的扶助②　～生活保護制度の基本原理②（生保4条）～
第11回　公的扶助③　～生活保護実施に関する４つの原則～
第12回　公的扶助④　～保護の種類と方法～
第13回　公的扶助⑤　～保護の実施機関とプロセス～
第14回　公的扶助⑥　～不服申立制度～
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験…100％）。

所得保障法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意　/Remarks

・「社会保障法」としての一体的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
・応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法	LAW240M

授業の概要　/Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集団的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書　/Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○菅野和夫『労働法　第11版』（弘文堂、2016年）
土田道夫『労働法概説　第３版』（弘文堂、2014年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　「就労」の意義と労働法の役割
２回　労働契約関係の成立
３回　労働条件決定の法的仕組み
４回　労働時間規制
５回　休暇、休日、休業
６回　健康と安全
７回　懲戒処分
８回　人事異動
９回　労働条件の変更
10回　労働契約の終了
11回　期間の意義と定年制
12回　労働者派遣の法規制
13回　雇用差別禁止法
14回　企業組織の変動と労働関係
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意　/Remarks

雇用関係法 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード　/Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法	LAW241M

授業の概要　/Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集団的労働関係法に焦点を当てます。集団的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集団的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集団的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書　/Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○菅野和夫『労働法　第11版』（弘文堂、2016年）
土田道夫『労働法概説　第3版』（弘文堂、2014年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　労使関係法の意義と目的
２回　労働組合の歴史と機能
３回　団体交渉の仕組みとその主体
４回　団体交渉の目的と態様
５回　争議行為
６回　組合活動
７回　労働協約
８回　不当労働行為制度（１）【不利益取扱いと支配介入】
９回　不当労働行為制度（２）【制度の趣旨とその主体】
10回　労働組合による労働者の統制
11回　労働組合の衰退と合同労組
12回　公共部門の労使関係法
13回　従業員代表制度
14回　労使関係法の将来
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意　/Remarks

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード　/Keywords

独占禁止法 【昼】

担当者名 /Instructor　高場　俊光 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法	LAW340M

授業の概要　/Course Description

我国の経済システムは、市場主義の経済である。そこでは、自由・公正な「競争」により経済効率の向上が図られるのである。ところが現実には、高度寡占化、政府規制、カルテル（談合）、不公正な取引方法等により「競争」が制限され、市場機能が十分発揮されない状況にあり、いかにして「競争」を維持・促進するかがますます重要な課題となってきている。そのような状況を背景として、「競争理念」の実現を法目的とし、経済憲法ともいわている独占禁止法について学ぶ。この法律は、自由を促進するといいながら、他方、過度の自由を規制するものである。したがってこの授業では、自由と規制の線引きをどのような切り口で、どのような論理過程で考えればよいかを多数の事例を通して学ぶことになる。

「競争」の意義・メリットを理解すれば、この法律が大企業、中小企業、一般消費者という経済のプレーヤーの全てに強く支持されている理由がわかってくる。学生諸君には、この法律を学ぶことによって、「競争」の意義・メリットをよく理解し、実社会において、カルテルなどで競争を回避することなく、自信を持って自由闊達に経済活動ができるようになることを期待しています。

教科書　/Textbooks

「独占禁止法」（プリントを製本したもの。生協で販売します。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

波光巌・栗田誠『解説　独占禁止法』　青林書院　2015年　税込価格　6,264円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　講義の進め方。競争の意義・効果
２回　独占禁止法の目的・構成・沿革
３回　不当な取引制限　【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
４回　〃　【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
５回　〃　【事業者団体によるカルテル】
６回　私的独占　【排除による独占】【支配による独占】【自然独占】
７回　不公正な取引方法　【公正競争阻害性】【一般指定】【特殊指定】
８回　〃　【取引拒絶（ボイコット）】【差別的取扱い】【不当廉売】
９回　〃　【排他的取引】【再販売価格の高速】【事業活動の不当拘束】
１０回　〃　【不当な顧客誘引・取引強制】【優越的地位の不当利用】【取引妨害】
１１回　国際取引と独占禁止法　【国際カルテル】【並行輸入】
１２回　企業結合　【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
１３回　〃　【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的状態】
１４回　独占禁止法の運用手続　【排除措置命令】【課徴金納付命令】
１５回　〃　【不服審査手続】　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…８０％。日常の授業への取り組み…２０％。

独占禁止法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきてください。

履修上の注意　/Remarks

「競争」の意義・効果を経済学的に理解するには、「産業組織論」の受講を勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義の内容は、現実の経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード　/Keywords

独占力（市場支配力）　私的独占　カルテル　談合　不当廉売　流通系列化　特約店制度
再販売価格維持制度　優越的地位の濫用　合併　持株会社　公正取引委員会　排除措置命令　課徴金納付命令

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor　木村　友久 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法	LAW341M

授業の概要　/Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴なう新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書　/Textbooks

山口大学作成「知的財産権法テキスト」　教室で配布します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
２．情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
３．著作権法～著作物と著作者の権利（著作権、著作者人格権）、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
４．著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
５．特許法・実用新案法～工業所有権四法（特実意商）の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
６．特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
７．特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
８．意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
９．商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
１０．商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
１１．不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
１２．不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等（スクランブル解除等）
１３．デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
１４．ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

評価は，毎時間実施する小テスト（小レポート）計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

著作権の基礎知識は下記ＷＥＢサイト上の学習用ビデオを事前に視聴してください。
http://www.kim-lab.info/domescon/2015video/cp/cp.html

知的財産法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回，ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ　http://www.patentsalon.com/
最高裁判所ホームページ　　http://www.courts.go.jp/
単なる教科書の知識だけでなく，ウェブ上の情報も取捨選択しながら，企業経営等の実務的側面から考えてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので，何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス　kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ　http://www.kim-lab.info/

キーワード　/Keywords

知的財産　特許　実用新案　意匠　商標　著作者の権利

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor　下村　英嗣 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法	LAW342M

授業の概要　/Course Description

環境法は、環境基本法を頂点とした環境問題にかかわる法律群・法体系の総称である。環境法の対象領域は、各種の公害の防除、開発事業の環境影響評価、循環型社会の形成、自然保護や文化財保護、化学物質の管理・規制など多岐にわたる。循環型社会や持続可能な社会、環境にやさしい社会を家とするならば、環境法は、その家の柱、骨組みといえよう。

この講義では、環境基本法の規定を中心に環境法全般に共通する理念や原則、手法を学んだ上で、重要な国内環境問題を事例として取り上げ、個別の環境法に関する内容・特質・問題・判例・学説を概説する。授業は、１つないし少数の個別環境法を詳細に講義するのではなく、現代社会が直面する環境問題に関連する個別環境法を幅広く取り上げる。また、環境法の理解を深め、特徴をとらえやすくするため、比較法的視点も取り入れて講義を行う。

講義で取り上げる具体的な環境問題や個別環境法は、後述の「授業計画・内容」を参照すること。

教科書　/Textbooks

北村喜宣『環境法』(有斐閣、2015年)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

①『ベーシック環境六法』(第一法規)
②北村喜宣『環境法(第３版)』(弘文堂、2015年)
①は講義時にできる限り持参してください。
②は発展的に学習したい人向けです。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　概要(環境と法律)、環境法の史的展開
第２回　環境法の理念・原則
第３回　環境権の意義と機能
第４回　環境法の手法 / 小テスト(30分)
第５回　規制的手法①（大気汚染防止法）
第６回　規制的手法②（水質汚濁防止法）
第７回　環境法のその他の手法
第８回　土壌汚染対策法(汚染土壌の浄化制度) / 小テスト(30分)
第９回　廃棄物処理法①(廃棄物の定義)
第10回　廃棄物処理法②(適正処理の確保：業と施設の許可制)
第11回　リサイクル関連法(容器包装、家電、自動車)
第12回　環境影響評価法(開発事業の事前審査) / 小テスト(30分)
第13回　自然保護関連法①(土地利用規制)
第14回　自然保護関連法②(生物多様性)
第15回　エネルギー問題と環境法(原発事故の影響) / 小テスト(30分)

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト４回・・・ 100%　（１回あたり25%)

環境法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画を参照して、講義テーマに対応する教科書の部分を一読し、予習すること。
教科書とノートを参照して、授業内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

①教科書に書いていない内容を講義することもあるため、受講時は、しっかりと話を聞き、ノートを取ること。
②講義で取り上げた環境法の条文を六法等でチェックすること。
③予習として教科書を一読しておくこと

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一方通行の講義にならないよう、受講生と対話しながら(問題を投げかけながら)講義を進めたいと思っています。

キーワード　/Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor　柴田　滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法における現代的問題の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法の現代的展開	LAW343M

授業の概要　/Course Description

労働法と社会保障法を柱とする社会法は、現代人の社会生活の安定と充足の実現、その将来に向けての希望や展望の形成に関して、他の法系にはゆだねられない固有の役割を担っている。

しかし、近年の世界的な経済社会の大きな変動は、雇用不安など労働生活の困難や格差と貧困の拡大などの社会的課題をもたらしている。これに伴って、一面では、社会法による労働者保護と国民の生活保障の必要性が増大するとともに、他面では、国際的な市場競争の激化を背景として、今日の経済事情に適合的な社会法の在り方を求める要請も高まっている。

この講義では、社会法の本質的意義とその基本法理を理解し、現代社会法の将来の方向を判断するために必要となる基本的知識を身に着けるとともに、社会法の現代的展開の中で生じている課題を客観的で広い視野に立って判断し、みずから積極的にその解決に関与する態度を習得することを目的として授業を行う。

＜学習目標＞
1.社会法の歴史と現代社会法の概要を学ぶ。
2.統計資料等を基にして、国民の社会権保障の現況について理解する。
3.古今の諸学説を参照にして、市民法の基礎的規律との関係から社会法の本質的意義を学習する。
4.社会法の定義的意義、原理ないし存在根拠、各部門の目的と伝統的諸原則など、現代社会法の基本法理を学習する。
5.近年の社会法改革の動向、および現代の労働法と社会保障法の到達点と課題を学習する。

教科書　/Textbooks

柴田滋著「社会法総論–社会法の基本法理とその現代的展開」大学教育出版.ISBN978-4-86429-346-4.2800円
および、パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、ジンツハイマー著・楢崎二郎他訳「労働法原理第二版」など、その他はテキストに案内しています。

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<第1部、社会法の歴史と現代社会法の概要>
第1回.社会法の形成
第2回.戦後社会法の発展
第3回.現代労働法の概要
第4回.現代社会保障法の概要
第5回.国民の社会権保障の現況
＜第2部、市民法の基礎的規律＞
第6回.市民法
第7回.市民法的客観的労働関係規範
第8回.労働契約
第9回.市民法的生活資料の配分
＜第3部、社会法の基本法理とその展開＞
第10回.労働法の基本法理
第11回.社会保障法の基本法理
第12回.社会法原理
第13回.市場原理主義と社会法
＜第4部、現代社会法の到達点と課題＞
第14回.労働法の到達点と課題
第15回.社会保障法の改革動向と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習（比重30％）、および定期試験（比重70％）によって評価します。
定期試験は記述式試験（テキスト等持込み可）で行う予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。特に、テキストを復習に活用することを進めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

労働法や社会保障法を履修していなくても受講できるように第1部において予備的な講義を行うように配慮しています。
雇用不安や格差と貧困の拡大を抑止することは、今日の喫緊の課題となっています。日ごろ身近に経験する生活上の諸問題に注目しながら、この講義のテーマについて学習を進めていってほしいと思います。

キーワード /Keywords

人格権不可譲、「民法典の欠缺」、契約外的労働関係規範、労働契約に関する債権契約説と身分契約説、ロックの「労働所有論」、ヘーゲルの市民社会論、メンガーの経済的基本権論、ハイエクの「隷属への道」、現代配分的正義論、平等主義的自由主義、市場原理主義的社会政策、市民法的自由、個人の尊厳、社会的排除、「見えない貧困」、アクティベーション

国際法I 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ	LAW250M

授業の概要　/Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書　/Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010）　2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年）　1500円＋税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」
第２回　条約の締結
第３回　条約への留保
第４回　条約の国内的効力と国内適用
第５回　まとめ

第II部「特別法と一般法」
第６回　条約と第三国
第７回　慣習国際法の成立
第８回　慣習国際法の法典化
第９回　条約の無効
第10回　まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」
第11回　国際責任
第12回　紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
第13回　自衛権
第14回　国際司法裁判所(ICJ)
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①…16.7%　課題②…16.7%　学期末試験…66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

４つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ	LAW251M

授業の概要　/Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書　/Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010）　2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年）　1500円＋税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」
　第２回　国家と承認制度：国家承認・政府承認
　第３回　国家の基本的権利
　第４回　国家の基本的義務
　第５回　まとめ

第II部「国際法主体としての個人」
　第６回　人権の国際的保障：枠組み・基準設定
　第７回　人権の国際的保障：監視・技術支援
　第８回　国際犯罪
　第９回　国際刑事裁判所(ICC)
　第10回　まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」
　第11回　陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
　第12回　海と国際法：海上交通
　第13回　海と国際法：海洋資源
　第14回　空と国際法
　第15回　まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
　　課題①…16.7%　課題②…16.7%　学期末試験…66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

５つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system ）の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能･役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード　/Keywords

【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】

国際私法 【昼】

担当者名 /Instructor　中林　啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法	LAW252M

授業の概要　/Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。
国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

教科書　/Textbooks

使用しません（レジュメを配布しますが、授業時に口頭や板書等で適宜補足する場合もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第3版）』（有斐閣、2012年）○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
２回　国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
３回　国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
４回　国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
５回　国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
６回　国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
７回　国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
８回　国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
９回　国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
10回　国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
11回　国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
12回　国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
13回　国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
14回　国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
15回　まとめ

※順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に指示する課題…３０％　　期末試験…７０％
※出席点はありません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、レジュメを中心にして事後の学修（集中講義なので特に迅速におこなう必要があろう）をおこなうことが求められる。

国際私法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。

受講に際しては六法が必要です。
法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には（もしあれば）厳しく対処します。

キーワード　/Keywords

国際結婚、国際家族法、国際財産法、国際民事紛争の解決

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor　大隈　一武 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法	LAW350M

授業の概要　/Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の３つに分類して授業を行う。

教科書　/Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定ＷＴＯ』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　国際契約：英米法契約理論–例えば、【約因】【コモンロー】【衡平法】理論・判例検討
2回　契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
3回　国際取引と制限：OECD賄賂禁止条約、輸出管理ワッセナー取り決め、歴史的展開
4回　国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
5回　国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
6回　海外進出：投資・企業経営–単独進出と企業買収・合弁など実務的な展開と内容を検討
7回　企業経営：株式会社・パートナーシップの異同を理解し、海外合弁事業の方法論、実務
8回　投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】
9回　OECD多国籍企業ガイドライン
10回　通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
11回　ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
12回　GATTから WTOへ：WTO、TPPなど国際機関・協定
13回　WTOの組織、諸協定
14回　紛争解決のメカニズム
15回　OECD、IBRD、IMFなどの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、
　　わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験１００％
なお、出席が授業回数の３分の２に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことが重要である。

履修上の注意　/Remarks

特になし

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

集中講義修了次第、試験となる日程なので、特に毎日復習をすること。

国際取引法 【昼】

キーワード　/Keywords

現代国際関係法 【昼】

担当者名 /Instructor　春　具 / HARU, Ere / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法	LAW351M

授業の概要　/Course Description

本授業は国際機関（国際連合、専門機関、地域機関・・・）の国際社会における役割について、学生とインターアクティブに論じます。講座は「国際機構論」ですが、時の国際政治のダイナミズム理解が大切なので、多分に「近代外交史」的な内容になります。

1）国際機関からみた近代外交史（国際機関の期待される役割とその実際）
2）国際機関はどのようにつくられるか
3）国際機関はどのように運営されるか
4）近代外交史に置ける国際機関の役割（期待と発展）
5）リーダーシップ論（国連事務総長は外交官か、経営者か、政治家か？）
6）国際機関に貢献した日本人とその仕事（彼らからの教訓）

教科書　/Textbooks

特定の書籍はつかいません。論文等をその都度、印刷して配布します。邦文だけでなく英文（生徒の事情がゆるせば仏文も）をつかいます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考書は参考のためであり、必読書ではありません。
明石康『国際連合』岩波新書1985 あるいは 2006
篠原初枝『国際連盟』中公新書 2010
横田洋三・編『入門国際機構』法律文化社 2016
MIchael Akehurst 『The Law Governing Employment in International Organisations』Cambridge Univ. Press, 1967
Kent Kille 『From Manager to Visionary』 Palgrave Macmillan 2016

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

このクラスは四日間の集中講義で、上記「授業の概要」で示した6つのテーマはその四日間に扱います。講義はおおむね以下のような流れで行われます。ただしそのスピードは受講者の集中力、事前準備、天候（熱暑の日は無理をしません）、その他の条件に応じて臨機応変、緩急自在におこないます。講義とゼミ形式を併用し、英語のみでおこなう日もあります。集中講義なので予習の徹底が期待されます。期末試験はレポートのみとします（テーマは指定しますが、卒業論文と同様に、その扱いについてコンサルテーションに応じます）。

第1回　コースガイダンス
第2回　国際機関からみた近代外交史①　（帝国主義外交の終焉と十九世紀型国際機関）
第3回　国際機関からみた近代外交史②　（冷戦構造の展開と二十世紀型国際機関。新世界秩序と二十一世紀型国際機関）
第4回　国際機関はどのようにつくられるか①　（課題、条約交渉、条約締結、本部地の選定、特権免除）
第5回　国際機関はどのようにつくられるか②　（家財調達、人事雇用、財政確保・・・）
第6回　国際機関はどのように運営されるか①　（人事（雇用、人事管理、職員福祉、不服処理・・・）
第7回　国際機関はどのように運営されるか②　（財務＝拠出、任意拠出、支出、会計検査）
第8回　近代外交史に置ける国際機関の役割①　（その政治性＝国際連盟と国際連合を比較して）
第9回　近代外交史に置ける国際機関の役割②　（その専門性＝専門機関と各種国際機関を比較して）
第10回　リーダーシップ論①　（事務総長は外交官か、経営者か、政治家か＝エリック・ドラモンドとジョゼフ・アヴェノルを例として）
第11回　リーダーシップ論②　（事務総長は外交官か、経営者か、政治家か＝ダグ・ハマーショルド、クルト・ワルトハイム、コフィ・アナンを例として）
第12回　国際機関に貢献した日本人とその仕事①（新渡戸稲造、安達峯一郎、杉村陽太郎・・・）
第13回　国際機関に貢献した日本人とその仕事②（明石康、緒方貞子、小和田恒・・・）
第14回　国際機関に貢献した日本人とその仕事③（横田洋三、吾郷真一、北谷和秀、藤崎一郎、佐藤地、吉川元偉・・・）
第15回　むすび

成績評価の方法　/Assessment Method

集中講義終了後に、レポートを提出していただいて、それを評価します。レポートは英文でもかまいません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

国際法の初歩的知識は必須です。そのうえに近代外交史の知識があることが好ましい。

履修上の注意　/Remarks

質問はいつでもうけつけます。メールでいただいても、面談でもかまいません。電話はめんどうなのでダメです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国際機関について理解を深めていただくことが目的です。ひいては、あんなところで働いてみたらおもしろいだろうなと思っていただければ望外の幸せです。希望があれば国際機関の雇用プロセスについても言及します。

キーワード　/Keywords

民法総則 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則	LAW160M

授業の概要　/Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家族生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分（財産法）の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思っています。

教科書　/Textbooks

佐久間　毅著『民法の基礎I総則〔第３版〕』有斐閣　２００８年　３，０００円
潮見佳男＝道垣内弘人編「民法判例百選①総則･物権［第７版］」有斐閣　２０１５年　２，１００円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○内田　貴『民法I［第４版］総則･物権総論』東京大学出版会　２００８年　３，３００円
○川井　健『民法概論１民法総則第３版』有斐閣　２００５年　３．８００円
○川島武宜『民法総則』有斐閣　１９６５年
○四宮和夫＝能見善久『民法総則　第８版』弘文堂　２０１０年　3、３００円
○我妻　栄『新訂民法総則（民法講義I）』岩波書店１９６５年　３，９００円

民法総則 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
２回　民法上の権利義務、権利の相対性
３回　権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
４回　制限行為能力者制度①【未成年】
５回　制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
６回　制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
７回　法人の必要と役割、法人の種類
８回　法人の設立、組織
９回　権利の客体ー「物」
１０回　法律行為 - 種類と解釈
１１回　法律行為の有効要件
１２回　法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
１３回　法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
１４回　法律行為の構成要素 - 意思表示
１５回　意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
１６回　意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
１７回　意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認･困惑】
１８回　代理制度、表見代理と無権代理
１９回　表見代理①代理権授与の表示による表見代理
２０回　表見代理②権限踰越の表見代理
２１回　表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
２２回　無権代理
２３回　無権代理と相続
２４回　無効と取り消し
２５回　条件と期限
２６回　時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
２７回　時効制度②【時効の援用･放棄】
２８回　時効制度③【時効の中断･停止】
２９回　取得時効
３０回　消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題･････２０％　定期試験･････８０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所や関連判例を読んで講義に参加してください、事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

レジュメに添って講義を行います。教科書の該当箇所、参照判例は適宜指示します。教科書の他に毎回必ず六法、判例百選も持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法	LAW260M

授業の概要　/Course Description

民法典は、その第二編において、一定の物を直接に支配して利益を受ける排他的権利として、「物権」に関する規定を設けている（民法175条～398条の22）。本講義では、講学上、「物権（法）総論」と呼ばれる、①物権の性質、②その効力、および③その変動に関する一般原則を明らかにする領域と、「物権（法）各論」と呼ばれる、個々の物権に関して、その成立・効力・消滅に関するルールを明らかにする領域（本講義では、特に、所有権、占有権、および用益物権に重点を置く。）を講義する。

また、本講義では、物権に関わる民法典の諸規定の基本理念（制度趣旨）・解釈（論）を解説し、物権法制の基本構造について理解を深めてもらう。なお、担保物権（債権の履行の確保のために、目的物の交換価値を支配する物権である、と一応定義することができよう。）に関しても、その概要を略説し、物権全体の有機的関連および現代社会における物権の役割を理解できるようになってもらう。そのためにも、具体的事案をできるだけ多く用いて講義を進める。また、民法総則や債権各論との「つながり」も意識してもらえるような講義内容としたい。

教科書　/Textbooks

① 河上正二『物権法講義』（日本評論社、2012年）；定価（3,300円＋税）
※担保物権の部分については、教科書を用いず、レジュメのみで講義を行う。
② 潮見佳男＝道垣内弘人（編）『民法判例百選I総則・物権 [第7版]（別冊ジュリストNo.223）』（有斐閣、2015年）；定価（2,100円＋税）
③最新版（年度）の小型六法
※上記「3点セット」を必ず購入・毎回持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○石崎泰雄ほか（編著）『新民法講義2　物権・担保物権法』（成文堂、2010年）；定価（3,500円＋税）をさしあたり挙げておく。その他の参考書については、レジュメの【文献案内】欄で紹介する予定である。

物権法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するが、教科書等での予・復習は必須である。レジュメは、あくまで「補助教材」でしかないことに注意すること（【】内はキーワード）。
第1回；物権法序論 【債権との違い】【用益物権】【担保物権】【物権法定主義】【一物一権主義】
第2回；所有権①【所有権の特徴】【物権的請求権】
第3回；所有権②【承継取得・原始取得】【共有】【持分権】【合有・総有】
第4回；物権変動入門【物権変動に関する意思主義と形式主義】【所有権の移転時期】【対抗要件主義 【「対抗できない」とは？】【公示の原則と公信の原則】
第5回；不動産物権変動①【不動産登記法】【中間省略登記】【仮登記】【変動原因無制限説】【民法177条】
第6回；不動産物権変動②【法律行為（契約）の取消しと登記】【相続と登記】
第7回；不動産物権変動③【取得時効と登記】【「第三者」の意味】【無制限説から制限説へ】【背信的悪意者】
第8回；動産物権変動①【引渡し】【占有改定と指図による占有移転】
第9回；動産物権変動②【即時取得】
第10回；占有（権）①【直接占有・間接占有】【自主占有・他主占有】
第11回；占有（権）②【占有訴権】【交互侵奪】
第12回；用益物権①【地上権】【永小作権】
第13回；用益物権②【地役権】【入会権】
第14回；担保物権①【担保物権の効力】【担保物権の通有性】【抵当権】【物上代位】
※この回以降はレジュメのみで講義する。
第15回；まとめおよび担保物権② 抵当権【抵当権侵害】【利用権との調整】、抵当権以外の担保物権【質権】【先取特権】【留置権】【非典型担保】

成績評価の方法 /Assessment Method

選択式（受講生各自、下記2方式から選択して評価を受けること。）
・A方式（期末定期試験＋レポートで評価）＝期末定期試験（80分）70％＋レポート（4,000字前後）30％の合計100％
または
・B方式（期末定期試験のみで評価）＝期末定期試験（80分）100％

※なお、「レポート」＝楽勝科目（提出すれば点がもらえる）を意味するのでないことに注意すること。また、期末定期試験についていえば、一夜漬け程度の勉強では単位取得は不可能である点に留意すること。世の中はそれほど甘くない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】毎回配布するレジュメに、【事前学習】欄を設けておく。そこに記されている教科書①の要参照頁、裁判例、および論点などについて学習したうえで本講義を受講すること。
【事後学習】毎回配布するレジュメに、【事後学習】欄を設けておく。そこに記載されている一行問題（論述問題）を各自解いておくこと。それらの問題の中から一定数が期末定期試験に出題される可能性がある。

履修上の注意 /Remarks

法律学のどの科目についてもいえることだが、「予習・復習」を常に心がけること。また、「民法総則」の内容を復習しておくと、本講義の理解がより深まるであろう。そして、併せて「債権各論」を受講すれば、両科目の相互理解にも資するであろう。
逆に、「民法総則」を履修していない場合、本講義の理解は相当困難なものとなるであろう。したがって、自学習でよいから、最低限、民法総則の内容を学習しておくことを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問等をしてください。お待ちしています。

キーワード /Keywords

物権、物権変動、民法176条、民法177条、第三者、「対抗することができない」の意義、不動産登記、占有（権）、用益物権、担保物権

担保物権法 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	担保物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	担保物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、担保物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

担保物権法	LAW261M

授業の概要　/Course Description

この授業では，民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうちの担保物権部分（留置権，先取特権，質権，抵当権）及び民法典に規定がない非典型担保（仮登記担保，譲渡担保，所有権留保）について，判例・学説の解説を中心に講義を行う。全15回の講義を通して，担保物権法に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが，この授業の目的である。

教科書　/Textbooks

淡路剛久ほか『民法II---物権〔第3版補訂〕』（有斐閣Sシリーズ，平成22年）　本体1900円＋税
このほか，適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

近江幸治『民法講義III　担保物権〔第2版補訂〕』（成文堂，平成19年）　本体3300円＋税　○
道垣内弘人『担保物権法　第3版』（有斐閣，平成20年）　本体3200円＋税　○
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I　総則・物権〔第7版〕』（有斐閣，平成27年）　本体2100円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス，担保物権の意義・種類・性質
第2回　留置権
第3回　先取特権
第4回　質権
第5回　抵当権(1)【抵当権の意義，設定，被担保債権・目的物の範囲】
第6回　抵当権(2)【物上代位】
第7回　抵当権(3)【抵当権の実行】
第8回　抵当権(4)【第三取得者の保護，抵当権の侵害】
第9回　抵当権(5)【抵当権の処分，消滅，共同抵当】
第10回　抵当権(6)【法定地上権】
第11回　抵当権(7)【根抵当権】
第12回　非典型担保総論，仮登記担保
第13回　譲渡担保(1)【譲渡担保の意義，譲渡担保権の設定，対内的効力】
第14回　譲渡担保(2)【譲渡担保権の対外的効力，実行，消滅】
第15回　所有権留保，まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

担保物権法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

可能であれば，民法総則･ 物権法･ 債権総論の講義科目を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので，分からないことは放置せず，積極的に質問して欲しい。

キーワード　/Keywords

民法　担保物権

債権総論 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論	LAW263M

授業の概要　/Course Description

この授業では，民法第3編「債権」（民法399条～724条）のうちの第1章「総則」部分（民法399条～520条）について，判例・学説の解説を中心に講義を行う。全30回の講義を通して，債権総論に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが，この授業の目的である。

教科書　/Textbooks

野村豊弘ほか『民法III――債権総論〔第3版補訂〕』（有斐閣Sシリーズ，平成24年）　本体1700円＋税
このほか，適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

債権総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス，債権の意義，債権法の内容
第2回　債権の目的(1)【序説，特定物債権と種類債権】
第3回　債権の目的(2)【金銭債権，選択債権】
第4回　債権の効力(1)【はじめに】
第5回　債権の効力(2)【履行の強制】
第6回　債権の効力(3)【債務不履行】
第7回　債権の効力(4)【損害賠償】
第8回　債権の効力(5)【損害賠償（続き），受領遅滞】
第9回　債権者代位権(1)【意義，要件，行使方法】
第10回　債権者代位権(2)【効果，債権者代位権の転用】
第11回　詐害行為取消権(1)【意義，要件】
第12回　詐害行為取消権(2)【行使方法，効果】
第13回　債権譲渡と債務引受(1)【序説，指名債権譲渡の成立要件】
第14回　債権譲渡と債務引受(2)【指名債権譲渡の対抗要件】
第15回　債権譲渡と債務引受(3)【指名債権譲渡の対抗要件（続き），指名債権譲渡の効果】
第16回　債権譲渡と債務引受(4)【指名債権譲渡の原因関係，将来債権譲渡】
第17回　債権譲渡と債務引受(5)【証券的債権の譲渡，将来債権譲渡】
第18回　債権譲渡と債務引受(6)【債務引受，契約譲渡】
第19回　債権の消滅(1)【序説，弁済の意義と性質，弁済の提供，第三者の弁済】
第20回　債権の消滅(2)【弁済による代位，弁済の受領権】
第21回　債権の消滅(3)【弁済の充当，代物弁済，供託】
第22回　債権の消滅(4)【相殺】
第23回　債権の消滅(5)【相殺（続き），更改，免除，混同】
第24回　多数当事者の債権関係(1)【序説，分割債権（債務），不可分債権（債務）】
第25回　多数当事者の債権関係(2)【連帯債務の意義，連帯債務の要件，連帯債務の効力】
第26回　多数当事者の債権関係(3)【連帯債務の効力（続き），不真正連帯債務，連帯債権】
第27回　多数当事者の債権関係(4)【保証債務の意義，保証債務の成立，保証債務の効力】
第28回　多数当事者の債権関係(5)【保証人の求償権，連帯保証，共同保証】
第29回　多数当事者の債権関係(6)【継続的保証】
第30回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

可能であれば，民法総則・物権法の講義科目を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので，分からないことは放置せず，積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法　債権総論

債権各論 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期 (ペア)　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	債権各論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	債権各論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権各論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権各論	LAW262M

授業の概要　/Course Description

この科目では、民法の中の債権各論と呼ばれる部分を扱う。契約法と法定債権関係がその内容である。財産法のまとめと言うこともでき、この科目を学習することで、財産法が終了となる。

教科書　/Textbooks

開講時までに新しいテキストが出る可能性があるので、講義開始前 (夏休み頃) に、何らかの方法で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１週　(１) ガイダンス、(２) 民法全体の復習と債権各論の位置づけ
第２週　(３) 契約自由の原則、(４) 契約の当事者論
第３週　(５) 申込みと承諾、(６) 同時履行の抗弁権
第４週　(７) 危険負担の534条、(８) 536条
第５週　(９) 解除の要件、(１０) 効果
第６週　(１１) 契約の分類、(１２) 贈与
第７週　(１３) 売買、特に担保責任、(１４) 瑕疵担保責任
第８週　(１５) 貸借型契約のうちの消費貸借、(１６) 使用貸借と賃貸借
第９週　(１７) 借地借家法、(１８) 労務提供型契約
第１０週　(１９) その他の契約、(２０) 無名契約と債権法改正
第１１週　(２１) 事務管理、(２２) 不当利得
第１２週　(２３) 転用物訴権、(２４) 不法行為の一般的要件
第１３週　(２５) 不法行為の効果、(２６) 賠償範囲
第１４週　(２７) 使用者責任、(２８) 工作物責任と共同不法行為
第１５週　(２９) 特別法による不法行為責任、(３０) 債権各論の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験 (持ち込みは、一切、不可) の予定　- -　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、学習箇所の民法の条文を読むことと、テキストの該当頁を読むことが重要である。事後学習としては、講義で扱った重要判決について、実際に判決文を読んで、実際の事件にどのように適用されているかを確認することが重要である。

履修上の注意　/Remarks

最新版の六法を必ず持参すること。有斐閣の六法は信頼できるので、お勧めである。
他の民法科目を学習していることが、この科目の受講のための (一応の) 前提となる。

債権各論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

民法に関心のある学生は、自分の手で自分のノートに講義内容をメモすることをお勧めします。

キーワード　/Keywords

債権各論、契約、事務管理、不当利得、不法行為

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法	LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法･相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著 『講説親族法･相続法[第２版]』不磨書房 / 信山社 ２００７年　３，０００円
水野紀子他編著『民法判例百選III親族･ 相続』有斐閣　２０１５年　２、２８６円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣　１９９７年　３，５００円
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年　２，６２５円
○窪田充見『家族法』有斐閣　２０１１年　４，０００円
○中川善之助＝泉久雄『相続法[第４版]』有斐閣　２０００年　６，０００円
○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』 法律文化社　２００５年　３，８００円
○二宮周平『家族法〔第３版〕』新世社　２００９年　３，２００円

授業計画･ 内容 /Class schedules and Contents

１回　家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
２回　婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
３回　婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
４回　婚姻制度③【婚姻の効果】
５回　離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
６回　離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
７回　離婚制度③【離婚の一般的効果】【親権者決定】【面会交流】
８回　離婚制度④【離婚の財産的効果】【財産分与】
９回　親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
１０回　親子制度②【養子】
１１回　親子制度③【親権】【後見】
１２回　扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
１３回　法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
１４回　法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
１５回　遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題…２０％　　定期試験…８０％

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

相続法 【昼】

担当者名 /Instructor　小野 憲昭 / ONO　NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	相続法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	相続法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、相続法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相続法	LAW265M

授業の概要　/Course Description

民法第五編相続が講義の内容です。家族法（親族・相続法）の後半部分にあたります。現行の法定相続制度や遺言相続制度の歴史的位置づけを明らかにするとともに、判例理論や学説の紹介を織り込みながら、現行相続法上の問題点をできるだけ平易に解説します。

教科書　/Textbooks

木幡文徳他著 『講説親族法･相続法[第２版]』不磨書房 / 信山社 ２００７年　３，０００円
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続』有斐閣　２０１５年　２、２８６円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中川善之助＝泉久雄『相続法[第４版]』有斐閣　２０００年　６，０００円
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年　２，６２５円
○窪田充見『家族法』有斐閣　２０１１年　４，０００円
○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』 法律文化社　２００５年　３，８００円
○二宮周平『家族法〔第３版〕』新世社　２００９年　３，２００円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　相続制度の意義、相続の形態【法定相続】【遺言相続】【相続の機能・根拠】
２回　相続人①【法定相続人】【相続欠格】
３回　相続人②【廃除】【代襲相続】【相続人不存在】【特別縁故者】
４回　相続分①【指定相続分】【法定相続分】
５回　相続分②【特別受益者】【寄与分】【相続分の譲渡】
６回　相続の承認と放棄①【相続の仕方】【熟慮期間】【単純承認】
７回　相続の承認と放棄②【限定承認】【相続放棄】
８回　相続回復請求・相続財産①【相続回復請求権】【遺産承継の原則】【遺産の範囲】
９回　相続財産②【遺産の範囲】【遺産承継の例外】
１０回　相続財産③】【遺産の共有】【遺産管理】
１１回　遺産分割①【遺産分割の前提問題】【遺産分割の方法】
１２回　遺産分割②・財産分離【遺産分割禁止】【遺産分割の効力】【第一種財産分離】【第二種財産分離】
１３回　遺言【遺言の方式】【遺言の効力】
１４回　遺言の執行【遺言書の検認】【遺言執行者】
１５回　遺留分【遺留分の算定】【遺留分減殺請求権】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…２０％　　定期試験…８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義に臨む際は、事前に教科書の該当部分と参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください

相続法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「民法総則」、「物権法」「債権各論」「債権総論」「親族法」を履修していると理解が一層深まります。また、「担保物権法」と併せて受講することを勧めます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「親族法」も受講することによって、家族法の全体像を理解し、現在の家族、これからの家族関係のあるべき姿を考えていただきたいと思っています。

キーワード　/Keywords

相続人、相続欠格、相続人の廃除、代襲相続、特別縁故者、指定相続分、法定相続分、特別受益、寄与分、単純承認、限定承認、放棄、相続回復請求、遺産共有、遺産管理、遺産分割、財産分離、遺言、遺贈、遺言執行、遺留分

民事訴訟法総論 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法総論	LAW266M

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する基本的な知識について解説する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。
① 民事訴訟法の基本的構造を理解するために必要な専門的知識を修得できる。
② 民事訴訟法についての原則､重要単語を理解することができるようになる。
③ 民事裁判についての手続構造を理解することができるようになる。
④ 修得した知識により、簡易裁判所で民事裁判を自ら提起できるようになる。

教科書　/Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　民事訴訟とは　【各種訴訟】　【判決手続】
第 2回　訴訟手続の概要について　【手続の流れ】
第 3回　当事者　【当事者能力】　【訴訟能力】
第 4回　裁判所　【裁判権】　【管轄】
第 5回　訴えの提起　【訴えの種類】
第 6回　訴えの利益　【訴えの利益】　【当事者適格】
第 7回　争点整理手続１　【弁論準備手続】
第 8回　争点整理手続２　【弁論準備手続】
第 9回　口頭弁論１　【処分権主義】　【弁論主義】
第10回　口頭弁論２　【口頭弁論】
第11回　証拠１　【証拠】
第12回　証拠２　【証明責任】
第13回　訴訟の終了１　【判決】　【既判力】
第14回　訴訟の終了２　【既判力】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　４０％　（第4回と第8回授業終了時に提出、各回、２０％配分）
期末試験　６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

民事訴訟法総論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献等を利用しての授業の予習､配布プリントを利用しての復習をかかさないようにすること。
民法の知識を修得していることが望ましい。
民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的かつ自主的な学習を期待します。

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法各論	LAW267M

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する重要な問題（重要な判例があるもの、学説が対立しているもの）について学習します。
民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度です。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。
① 民事訴訟法についての法的な問題点を見出すことができるようになる。
② 問題解決に必要な判例・学説を分析、整理できるようになる。
③ 具体的な解決方法について、自ら考えることができるようになる。
④ 学習した知識を将来の社会生活で実践できるようになる。

教科書　/Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　当事者について　【当事者】
２回　代理人について　【法定代理人】、【任意代理人】
３回　裁判所について　【管轄】、【民事裁判権】
４回　訴えの提起I　【訴えの類型】
５回　訴えの提起II　【二重起訴】
６回　口頭弁論I　【訴訟要件】、【処分権主義】
７回　口頭弁論II　【弁論主義】、【主要事実】
８回　訴訟行為I　【訴訟上の合意】、
９回　訴訟行為II　【訴訟行為の性質、効果】
１０回　証拠I　【自白】
１１回　証拠II　【違法収集証拠】
１２回　判決I　【既判力の時的限界】、【口頭弁論終結後の承継人】
１３回　判決II　【既判力の客観的範囲】、【訴訟の終了】
１４回　上訴　【上訴の利益】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　４０％（第５回と第９回授業終了時に提出、各回、２０％配分）

期末試験　６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、教科書を読んで理解できない点を確認しておく。
事後に、図書館の参考文献等を利用して、授業で理解できなかった点について、理解できるよう努める。

民事訴訟法各論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「民事訴訟法総論」を履修しておくこと。
・ １学期に比べ､内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント･ 板書ノート等による予習･ 復習を欠かさないことが重要である。
・ 授業の進行状況等により、授業項目（【当事者】等の授業での主要テーマ）が、変更、前後することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倒産処理法制度の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える倒産処理法制度上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倒産処理法	LAW362M

授業の概要　/Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人の間の利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義を受講することにより、倒産処理の中心となる破産法についての知識を得ることができます。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。
1　倒産処理の基本的な法的手続構造を理解できるようになる。
2　倒産処理についての専門用語が理解できるようになる。

教科書　/Textbooks

宗田親彦編　『やさしい倒産法［第９版］』　（法学書院）　2014年　2808円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　倒産とは、　【破産】、【民事再生】、【会社更生】
2回　破産手続の概要
3回　手続の開始、　【裁判所】、【破産管財人】
4回　債権の行使方法I　【債権の届出】
5回　債権の行使方法II　【債権の確定】
6回　担保権の行使　【担保権】
7回　相殺権の行使　【相殺権】
8回　否認権の行使I　【否認権】
9回　否認権の行使II
10回　取戻権の行使　【取戻権】
11回　双務契約の処理　【売買契約】
12回　賃貸借契約、雇用契約等の処理　【賃貸借契約】、【雇用契約】
13回　配当、免責、手続の終了　【免責】
14回　民事再生法について
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…　１００　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

倒産処理法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

自主的にテキストを使った予習、講義ノートを使った復習をしてください。
進行状況等により、講義スケジュールが前後することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民事執行法 【昼】

担当者名 /Instructor　春日川　路子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　集中
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事執行法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事執行法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事執行法	LAW363M

授業の概要　/Course Description

この授業では、民事執行法の体系的理解に必要な専門知識を学習します。具体的には、強制執行手続、担保権実行手続、形式的競売、財産開示手続について取り扱います。これら民事執行手続につき課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力の習得を図ります。その過程で、現代社会が抱える民事執行法上の諸問題への関心が高まり、法と社会のつながりを再認識することにもなるでしょう。

教科書　/Textbooks

上原敏夫・長谷部由紀子・山本和彦著『民事執行・保全法』（第4版、有斐閣アルマ、2014）￥1900＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

上原敏夫・長谷部由紀子・山本和彦編『別冊ジュリスト　民事執行・保全判例百選』（第2版、有斐閣、2012）
その他、適宜授業中にも紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業の進捗状況等により、計画を変更する場合がある。
第1回　ガイダンス、民事執行手続の世界
第2回　執行手続の主体　執行当事者、執行機関
第3回　強制執行手続の開始と進行（１）　強制執行の要件
第4回　強制執行手続の開始と進行（２）　債務名義、執行文
第5回　強制執行手続の開始と進行（３）　執行の対象
第6回　強制執行手続の開始と進行（４）執行関係訴訟、手続の進行
第7回　金銭執行（１）　不動産に対する強制執行その1
第8回　金銭執行（２）　不動産に対する強制執行その2
第9回　金銭執行（３）　船舶・動産に対する強制執行
第10回　金銭執行（４）　債権及びその他財産権に対する強制執行その1
第11回　金銭執行（５）　債権及びその他財産権に対する強制執行その2
第12回　金銭執行のまとめ、非金銭執行
第13回　担保権実行手続および換価のための競売（１）
第14回　担保権実行手続および換価のための競売（２）
第15回　授業のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…80％、小テスト…10％、ミニレポート…10％

民事執行法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習
授業で使用した教科書を再度読み返すなど、民事訴訟法の内容を復習しておくこと。
教科書でなくともよいので、民事執行法について説明している書籍に授業開始前に目を通しておくこと。
事後学習
教科書やテキストを読み返すなど、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する前に、民法および民事訴訟法の授業を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事法の理論的展開 【昼】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事法学の理論に関する横断的・総合的学習を通じ、民事法学の体系的理解に必要な専門的知識を深く修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民事法理論に関する課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事法に関わる諸問題に対して、民事法学の理論的視点から自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事法の理論的展開	LAW360M

授業の概要　/Course Description

今年度のテーマは、「契約解除制度の基礎理論・要件論の比較法的および学説史的考察」である。契約の解除（民法540～548条）とは、債権各論で学んだように、「契約が締結された後に、その一方当事者の意思表示によって、契約関係を遡及的に解消し、未履行債務は履行の必要がないものとし、既に履行されたものがあるときには、お互いに返還することにして、法律関係を清算することを目的とする法律行為（単独行為）」である。解除には、法定解除・約定解除の2種類があり、民法が定める要件を満たすことで解除権が発生する「法定解除」の最も重要とされる要件は、債務不履行（債務者の責めに帰すべき事由による債務の不履行）である。

ところで、現在、わが国では、「民法（債権法）改正」が最終盤の段階を迎えており、国会において、「民法の一部を改正する法律案」が審議中である（本シラバス公開時には改正民法が可決・成立しているかもしれない。）。この「民法改正法案」は、解除制度（およびその要件である債務不履行制度）を大きく変える内容を含んでおり、それ自体、学理的考究の対象となりうる（具体的には、解除の要件である債務不履行について、債務者の「帰責事由」が要求されなくなる。）。他方、ヨーロッパに目を転じると、たとえば、一足お先に民法典（債務法）を改正したフランスでも、1804年の同国民法典制定以来、一度も改正されることのなかった契約解除規定（同国民法1184条）は、大きく変容した（黙示の解除条件構成から解除権構成へ）。

このように、わが国およびフランス各民法典において、契約解除制度は、その機能および要件を改正によって大きく変貌させ、または、変貌させようとしている。本講義では、契約解除制度の基礎理論および要件（論）に焦点を絞り、わが国・フランス両国のこれまでの解除制度の在り方、現在の在り方、そして、来るべき民法（債権法）改正において従来の在り方がどのように変わっていくか（フランスでは"どのように変わったか"となる。）について、理論面から考察を深めていく。

本講義の目標は、①現行民法の契約解除制度についての理解を深めること、②外国（本講義では、フランス民法）の契約解除制度の過去・現在・未来について、その概略を学び、わが国の解除制度との比較的検討を行うことができるようになること、そして、③日・仏両国の民法（債権法）改正という文脈のなかで、契約解除制度がどのように変わっていくのかについて考察ができるようになること、である。本講義では、この①～③を念頭に解説を進める。

教科書　/Textbooks

※契約法（契約総論が含まれているものに限る）の体系書・基本書のなかで、受講生が普段使用しているものを1冊、必ず持参すること。
※最新版（年度）の小型六法（民法改正法案付きのもの）必携。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

※講義の際に配布するレジュメの【文献・論文案内】欄で紹介する。

民事法の理論的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンスおよび「契約の解除」の復習その①（民法典の規定の再確認、解除制度の意義・機能など）
第2回：「契約の解除」の復習その②（法定解除の要件〔論〕を中心に）
第3回：「契約の解除」の復習その③（法定解除の要件〔論〕詳論～危険負担と解除の関係を中心に～）
第4回：フランスの契約解除制度論史①：ローマ法における契約解除制度
第5回：フランスの契約解除制度論史②：中世ローマ法およびカノン法における解除制度から16世紀の解除制度まで
第6回：フランスの契約解除制度論史③：ドマ、ポティエの契約解除理論とフランス民法典1184条の誕生
第7回：フランスの契約解除制度論史④：19世紀註釈学派および20世紀以降現代の契約解除基礎理論（fondement juridique）
第8回：日・仏両国の民法改正における契約解除制度①：フランス債務法改正草案（カタラ草案、テレ草案）の概要
第9回：日・仏両国の民法改正における契約解除制度②：フランス司法省事務局改正諸草案の検討
第10回：日・仏両国の民法改正における契約解除制度③：わが国の『債権法改正の基本方針』から『中間試案』までの検討
第11回：日・仏両国の民法改正における契約解除制度④：わが国の『民法（債権関係）の改正に関する要綱』の検討
第12回：日・仏両国の民法改正における契約解除制度⑤・完：『民法の一部を改正する法律案』の検討（解除規定関連）
第13回：フランス改正民法典における契約解除規定の概観
第14回：いわゆる「危険負担の解除権構成」に関する検討（近時のわが国の学説の動向）
第15回：まとめ（本講義担当者の論文のプレゼンテーションも兼ねて）

成績評価の方法 /Assessment Method

※レポート（〆切は7月下旬予定）……100％（本文・脚注含めて5,000字以上。文献引用の方法など、レポートとしての体裁をきちんと備えていないものは不可〔0点〕。その他詳細は、講義の際に適宜説明する。）
【注記】：受講人数が10名未満の場合は、レポート50％、平常点（対話形式の講義とし、質問の鋭さや議論への積極的参加の度合いを評価する。）50％の合計100％とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】① 開講前（および開講後の早い段階で）、拙稿「フランス債務法における法定解除の法的基礎（fondement juridique）と要件論（1）、（2・完）―19世紀の学説・判例による『黙示の解除条件』構成の実質的修正に着目して―」〔※（1）は立命館法学299号（2005年1号）321～406頁 2005年6月発行。（2・完）は同誌302号（同年4号）181～285頁 2006年1月発行。〕に目を通し、適宜、理解しにくい箇所をノート等にメモして講義に臨むこと。
② わが国の「契約の解除」制度について、体系書を読み直すことが求められる。
【事後学習】配布レジュメに、毎回、【復習問題（その回の講義をきちんと聴き、文献等を調べれば容易に解答できる内容のもの）】を掲げておくので、各自取り組み、解答を記したペーパーを提出すること。レポート点に加算評価する。

履修上の注意 /Remarks

「（理論的）展開科目」であるから、少なくとも、民法（財産法）科目を履修済みの者（ないしは、それに相当する自学習をしてきた者）の受講が望ましい。なかなか難解な科目であるが、努力する気持ちがあるならば、受講大歓迎である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「レポート」＝楽勝科目（＝とにかく提出すれば単位がもらえる）ではないので、その点に充分注意すること。字数もさることながら、「レポート論題」については、かなり難解なものを予定している。

キーワード /Keywords

契約の解除、「民法の一部を改正する法律案」、フランス民法1184条、フランス民法（債務法）改正

民事法の実務的展開 【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤　聖一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事法学の実務に関する横断的・総合的学習を通じ、民事法学の体系的理解に必要な専門的知識を深く修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民事法実務に関する課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事法に関わる諸問題に対して、民事法学の実務的視点から自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事法の実務的展開	LAW361M

授業の概要　/Course Description

・ 土地や建物の所有者は、どうやったら確認できる？
・ 自分の土地や建物について、自称所有者の第三者が登場したらどうする？
・ 不動産を相続したら、何か手続きをしなければならない？

多額の金銭をともなうことの多い不動産の取引は、不動産登記制度を利用することによって、安全かつ円滑におこなわれています。この授業では、不動産の売買に関する取引における一連の流れを題材に、実体法である民法と手続法である不動産登記法について学びます。

教科書　/Textbooks

指定なし。
配付資料と六法を使って授業をすすめます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

一般財団法人不動産適正取引推進機構　『不動産売買の手引』　￥１２９
一般財団法人不動産適正取引推進機構　『住宅賃貸借（借家）契約の手引』　￥１２９
○　山野目章夫　『不動産登記法概論　登記先例のプロムナード』　有斐閣　￥２９１６

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　不動産
第２回　不動産登記をすることの意味
第３回　不動産登記記録の見かた
第４回　不動産登記制度の仕組み
第５回　不動産取引と契約の解除
第６回　不動産取引と担保責任
第７回　不動産取引と損害賠償
第８回　不動産取引と危険負担等
第９回　不動産取引と抵当権等
第１０回　不動産取引と代理
第１１回　マンションとアパート
第１２回　借地と借家
第１３回　不動産の相続
第１４回　不動産取引と現代社会（認知症と成年後見制度）
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト・・ ５０％　レポート・・ ３０％　日常の授業への取り組み・・ ２０％

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

民事法の実務的展開 【昼】

履修上の注意　/Remarks

六法を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、司法書士試験や宅地建物取引士（宅建）資格試験に関係がある内容を多く扱います。

キーワード　/Keywords

民事法　実務　民法　不動産登記法　不動産　土地　建物　登記　司法書士　宅建

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法	LAW273M

授業の概要　/Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は，企業法として，個人であれ，法人であれ，およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題（課題）をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書　/Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。
六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の理解度等により進度・順番が変わりうることをご了解願います。

第１回　商法の学習法––新聞を読もう！　民法との関連を見よう！　条文に立ち返ろう！
第２回　商人・商行為とは何か
第３回　商法の特色(1)【営利主義】
第４回　商法の特色(2)【外観主義】
第５回　商法の特色(3)【公示主義】
第６回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（１）　【商号・商標】
第７回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（２）　商法総則・会社法総則による保護
第８回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（３）　不正競争防止法上の保護
第９回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（４）　名板貸人の責任
第10回　現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
第11回　企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（１）　【商業使用人とは何か】
第12回　企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（２）　【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
第13回　企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（３）　【表見支配人】【支配人の義務】
第14回　営業・事業譲渡をめぐる法律問題
第15回　総まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート２０％　期末試験８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に配布されるレジュメには、①予習すべき教科書の箇所、②授業後に取り組むべき復習問題、③レポート提出用の課題などが、随時記載されて行きます。事前に配布される「レジュメ」や「判例資料」をよく読んで、指示された範囲の予習・復習を心がけ、課題に積極的に取り組んで下さい。

企業活動と法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

１，本講義が対象とする「商法」は，私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を，ビジネス世界により適合するように，補完･ 修正したものです。従って，民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか，または，並行して受講する場合は，本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
２，配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したものも持参の上、講義を受けるようにしてください。配布済レジュメや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。
３，欠席した場合には、教員研究室前に置かれている残余分レジュメを受領してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

会社法I 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅰ	LAW270M

授業の概要　/Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書　/Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　会社法総論（１）【個人企業】【組合】【法人】
３回　会社法総論（２）【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
４回　会社法総論（３）【株式会社の基本構造】
５回　株式会社の設立
６回　株式と株主の権利
７回　株式会社の機関（１）【株主総会】
８回　株式会社の機関（２）【取締役】【取締役会】
９回　株式会社の機関（３）【代表取締役】
１０回　株式会社の機関（４）【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
１１回　株式会社の機関（５）【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
１２回　株式会社の機関（６）【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
１３回　株式会社の機関（７）【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
１４回　株式会社の機関（８）【役員等の第三者に対する責任】
１５回　まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分（民法総則、債権法等）、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく（又は同時受講する）と効果的に学習できると思います。

会社法I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

会社法II 【昼】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ	LAW271M

授業の概要　/Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書　/Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　株式会社の資金調達（１）【株式の種類】
３回　株式会社の資金調達（２）【株式の発行】
４回　株式会社の資金調達（３）【株式発行の瑕疵】
５回　株式会社の資金調達（４）【株式の譲渡】
６回　株式会社の資金調達（５）【自己株式】
７回　株式会社の資金調達（６）【新株予約権】
８回　株式会社の資金調達（７）【新株予約権発行の瑕疵】
９回　株式会社の計算（１）【貸借対照表】【損益計算書】
１０回　株式会社の計算（２）【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
１１回　株式会社の解散・清算
１２回　株式会社の組織再編（１）【概要】【合併】
１３回　株式会社の組織再編（２）【会社分割】【事業譲渡】
１４回　株式会社の組織再編（３）【株式交換】【株式移転】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分（民法総則、債権法等）、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく（又は同時受講する）と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

会社法II 【昼】

キーワード　/Keywords

企業取引法I 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業取引法（商取引法）上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法 I	LAW272M

授業の概要　/Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは，個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において，その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。

また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。

火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書　/Textbooks

初回講義時に指示します。
六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

概ね，以下の通りですが，受講生の理解の度合い等により進度順番が変わる可能性につきご了承ください。
（【】はキーワード）

第1回　保険制度の目的と役割　【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
第2回　保険契約の種類と特徴　【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
第3回　保険法改正の概要
第4回　保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
第5回　保険契約における告知義務（１）告知義務制度の背景・告知者とその相手方
第6回　保険契約における告知義務（２）告知義務の内容・告知事項
第7回　保険契約における告知義務（３）告知義務違反の効果
第8回　保険契約における告知義務（４）事例研究とまとめ
第9回　保険契約における事情変更・失効
第10回　損害保険契約　【被保険利益】
第11回　損害保険契約　【保険代位】
第12回　保険者（保険会社）の免責と約款における免責条項の有効性
第13回　各種の損害保険契約ー個別的問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
第14回　生命保険契約・傷害保険に特有の問題
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験８０％、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

企業取引法I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に配布されるレジュメには、①予習すべき教科書の箇所、②復習問題、③レポート提出用の課題などが、随時記載されて行きます。よく読んで、指定された範囲の予習や講義後の復習を心がけて下さい。

履修上の注意　/Remarks

１，配布される資料は、以後の講義のために「事前に」配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジュメについても持参の上、講義を受けるようにしてください（講義当日配布される予習用のレジュメでは当日の講義には役に立たない場合が多いです）。
２，欠席した場合、配付済レジュメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください（残余部数には限りがあります）。
３，配布済レジュメや裁判例プリントなどを持参しないままで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１，企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
２，また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード　/Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor　前越　俊之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅱ	LAW372M

授業の概要　/Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジット・カードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書　/Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手〔第4版〕」（有斐閣Sシリーズ・2011年）2,100円。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」（新世社・2005年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法務研究会・2003年）。
②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　手形・小切手法を学ぶこと
第 2回　手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
第 3回　手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（１）【有価証券】
第 4回　手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（２）【証拠証券、免責証券、金券】
第 5回　手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（３）【原因関係、商業手形、融通手形】
第 6回　手形・小切手を振り出してみる（1)【手形署名、手形行為】
第 7回　手形・小切手を振り出してみる（２）【手形理論、権利外観理論】
第 8回　手形・小切手を振り出してみる（３）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
第 9回　手形・小切手を振り出してみる（４）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
第10回　手形・小切手を振り出してみる（５）【手形要件】
第11回　手形・小切手を振り出してみる（６）【白地手形】
第12回　手形を満期前に譲渡する（１）【裏書、裏書の連続】
第13回　手形を満期前に譲渡する（２）【人的抗弁の制限】
第14回　手形が盗まれてしまった！（１）【善意取得】
第15回　手形が盗まれてしまった！（２）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験９０％、小テスト・レポート等１０％を目安として総合的に評価する。

企業取引法II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。また、講義前に学習支援フォルダに講義レジュメ、資料等をアップしておくので、これに目を通して予習しておくこと。予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である（手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが…）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義後は、講義中に採ったノートを整理して、どのような内容を学んだのか、適宜、復習して定期試験に備えること。

履修上の注意　/Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどによう に解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（できれば最新の）六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

約束手形　為替手形　小切手　有価証券　企業決済　企業金融

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor　前越　俊之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融商品取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	金融商品取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場と法	LAW370M

授業の概要　/Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達の場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。近年でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件であった。続いてギリシャ国債等のデフォルト危機は、ＥＵばかりでなく、世界経済全体を揺さぶった。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。
本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題（粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等）を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分（第1回～第4回）の後、情報開示（第5回～第9回）、市場規制（第10回～第11回）および投資勧誘規制（第12回～第15回）まで、全体で4部構成である。

教科書　/Textbooks

松岡啓祐「最新金融商品取引法講義〔第3版〕」（中央経済社・2016年）2,400円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦郎「金融商品取引法入門〔第4版〕」（商事法務研究会・2015年）、河本一郎＝大武泰南他「新・金融商品取引法読本」（有斐閣・2014年）、松尾直彦「金融商品取引法〔第4版〕」（商事法務研究会・2016年）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　百年に一度の危機？！　証券市場の暴落で大損した人あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引法】
第 2回　金融商品とは何か？（１）【有価証券、デリバティブ取引】
第 3回　金融商品とは何か？（２）【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
第 4回　金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
第 5回　発行会社として情報を開示する（１）【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
第 6回　発行会社として情報を開示する（２）【内部統制システム、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
第 7回　粉飾決算で投資者から訴えられた！【粉飾決算】
第 8回　粉飾決算で投資者から訴えられた！【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
第 9回　企業買収に関する情報開示【TOB、５％ルール】
第10回　証券市場はどのように規制されているのか？（１）【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
第11回　証券市場はどのように規制されているのか？（２）【インサイダー取引】
第12回　金融商品取引業者とは何だろうか？【証券会社、登録制】
第13回　証券会社は顧客を喰い物にしていないか？（１）【適合性原則】
第14回　証券会社は顧客を喰い物にしていないか？（２）【説明義務】
第15回　証券会社は顧客を喰い物にしていないか？（３）【金融庁、証券取引等監視委員会】

証券市場と法 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験９０％、小テスト・レポート等１０％を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義を受ける前に教科書・講義レジュメを予習した上で講義に出席すること。講義前に学習支援フォルダに講義レジュメ、資料等をアップするので、これに目を通し、予習して講義に出席すること。予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である（金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが…）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。
講義後は、講義中に採った講義ノートを整理し、適宜、復習して、定期試験に備えておくこと。

履修上の注意　/Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。
講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（金融商品取引法は毎年のように改正されるので）最新の六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

金融商品　有価証券　株式　株券　社債　デリバティブ取引　セキュリタイゼーション　粉飾決算　有価証券報告書虚偽記載　内部統制システム　公認会計士　ＴＯＢ　相場操縦　インサイダー取引　証券会社　証券市場　適合性原則　説明義務　金融庁　証券取引等監視委員会　金融商品取引法　証券取引

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor　木村　友久 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法の現代的展開	LAW371M

授業の概要　/Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱い，特許法領域については職務発明等の知財管理で要点となる部分のみを扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律･ ･ ･ 等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書　/Textbooks

判決文を木村研究室ホームページから配信します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標･ 意匠･ 不正競争判例百選」

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１．著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
２．著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
３．著作者～著作者、法人著作
４．著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
５．著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
６．著作権（著作財産権）I～複製権、上演権及び演奏権、上映権、公衆送信権、口述権、展示権、頒布権
７．著作権（著作財産権）II～譲渡権、貸与権、翻訳権･ 翻案権等、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利
８．著作隣接権～概論
９．出版権～概論
１０．著作権侵害
１１．音楽産業と契約実務
１２．映画産業と契約実務
１３．放送事業と契約実務
１４．商標権侵害･ 不正競争行為
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

評価は，毎時間実施する小テスト（小レポート）計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

ネット上の最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に直近の知財判決速報を参照して準下さい。
最高裁判所ホームページ　http://www.courts.go.jp/

企業法の現代的展開 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回，パテントサロンの情報を利用します。事前に参照して下さい。
パテントサロンホームページ　http://www.patentsalon.com/
単なる教科書の知識だけでなく，企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので，何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス　kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ　http://www.kim-lab.info/

キーワード　/Keywords

著作権　著作者人格権　著作隣接権　原盤権　出版権

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor　秦　正樹 / HATA Masaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学	PLS100M

授業の概要　/Course Description

本講義では，①「政治」が必要であることの理由，②戦後日本における政治過程，③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など，政治学の基盤となる理論や概念について概説します．また本講義では，現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し，その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します．

教科書　/Textbooks

特に教科書は指定せず，毎回，レジュメを作成し配布します．

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

木寺元編（2016）『政治学入門』弘文堂．
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社．
伊藤光利編（2009）『ポリティカル・サイエンス事始め（第3版）』有斐閣．
加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦（2012）『現代政治学（第4版）』有斐閣．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.イントロダクション　【政治と政治学】【規範】【実証】
2.政治と権力(1)　【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3.政治と権力(2)　【権力】【権威】
4.日本の政治（1）　【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
5.日本の政治（2）　【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
6.日本の政治（3）　【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
7.政治制度　【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
8.政党制度　【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
9.議員と官僚　【官僚主導】【政治主導】【本人―代理人理論】
10.地方政治（1）　【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
11.地方政治（2）　【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
12.市民と政治(1)　【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
13.市民と政治(2)　【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
14.国際政治　【リアリズム】【コンストラクティビズム】【紛争発生】
15.まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末試験：80%
・講義への参加の積極性（リアクションペーパー）：20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください．また，各授業内容のレジュメには毎回参考文献を示しているので，それら文献を読むなどの復習をしてください．

政治学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義の性質上，授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので，積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが，本講義では，むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています．政治学の知見の習得を通じて，さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード /Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市環境に関しての政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論	PLC111M

授業の概要　/Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？　また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォータが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれぐらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書　/Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
* 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
* 北九州市環境局『北九州市の環境　平成26年度版』（北九州市役所HP掲載）
* 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
* 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
* 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
第２回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）
：：簡単な環境意識度チェック 【ESD】
第３回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト 【環境学習旅行】
第４回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
第５回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
第６回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、３Ｒ 【廃棄物管理】
第７回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
第８回 上水道 ：：（アクティビティ＝きき水比べ） 【おいしい水】
第９回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
第10回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？ 【大気汚染】
第11回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
第12回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
第13回 途上国の都市環境問題 【途上国】
第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝ エコツーリズムに関わろう！ 【エコツーリズム】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢…20% 小課題の提出 … 20% 期末試験 … 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業２回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ２回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor　秦　正樹 / HATA Masaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論	PLS110M

授業の概要　/Course Description

数年前までは崩壊寸前だった自民党が，今や無類の「強さ」を誇っているのはなぜなのだろう．逆に，歴史的な政権交代を果たした民主党（現・民進党）が未だ復調できないのはなぜなのだろう．一定の期待を受けているにも関わらず，維新の会が分裂を繰り返すのはなぜなのだろう．本講義では，こうした日本政治のパズルを解く鍵として，「イデオロギー」の役割に着目します．一般的に「右派と左派」「保守と革新」で表現されるイデオロギーは，いわば「政治を見るモノサシ」を意味します．イデオロギーは，政治家と世論が相互に影響し合いながら，時代に応じてその意味を変化させるのです．
本講義では，「イデオロギーの変遷」の視点から戦後日本政治の構造とそれが形作られてきた社会的背景との関係を概説します．そのため，本講義では①戦後日本のイデオロギー概念の変遷，②戦後日本では政治家と有権者はいかなる対応関係を有していたのかを説明します．

教科書　/Textbooks

特に教科書は指定せず，毎回，レジュメを作成し配布します．

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

蒲島郁夫・竹中佳彦（2012）『イデオロギー』東京大学出版会．
石川真澄・山口 二郎 (2010)『戦後政治史 第三版』岩波新書 ．
山田真裕（2016）『政治参加と民主政治』東京大学出版会．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション　【民主主義】【規範理論】【実証】
2回　政治を見る「ものさし」　【イデオロギー】【保革】【日本国憲法】
3回　日米安保とイデオロギー　【占領政策】【日米安保】【55年体制】
4回　高度経済成長とイデオロギー　【経済政策】【学生運動】【もはや戦後ではない】
5回　革新自治体とイデオロギー　【革新勢力】【市民の台頭】
6回　多様化する政党とイデオロギー　【公明党】【環境権】【包括政党】【福祉政策】
7回　自民党派閥とイデオロギー　【三角大福】【派閥政治】【自民党システム】
8回　新自由主義とイデオロギー【第二次臨調】【サッチャリズム】【小さな政府】
9回　ポスト冷戦とイデオロギー　【脱イデオロギー】【非自民政権】【政治腐敗】
10回　バブル崩壊とイデオロギー　【失われた20年】【選挙制度改革】【無党派層】
11回　萌芽する「改革」イデオロギー　【小泉改革】【自民党の集票構造】【規制緩和】
12回　政権交代とイデオロギー　【古い自民党】【民主党】【みんなの党】
13回　「回帰する保守」と自民党　【アベノミクス】【憲法改正】【不安定化するアジア】
14回　「リベラル」の民進党・「改革」の維新　【野党共闘】【新自由主義】【改革勢力】
15回　市民の中のイデオロギー　【SEALDs】【労働組合】【日本会議】【右傾化】

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末試験：85%　・日常授業への取り組み：15%

日本政治論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各授業で扱う時代の社会的背景を簡単に調べておいてください．また，日本政治論は時系列的に連続しているため，各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしてください．

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合，本講義の理解がより深いものになります．
「日本政治論」は，具体的な日本の政治過程や構造の紹介を重点的に取り扱います．こうした実際の現象に関する理論的な位置付けについては「政治過程論」で詳しく説明しますので，併せて受講することが望ましいです．
また，予習や復習，授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください．とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の性格の大部分は，どのような生活を送ってきたかに依存すると言われます．（私を含む）みなさんの中で「今の自分は完璧で性格を変える必要はない！」と胸を張っていえる人はそれほど多くないと思います．しかしそれでも，よりよくなるように前に進んでいくものです．日本政治も同じです．今の日本政治の性格も，「これまでの政治」の何を反省し，どのような過ちを繰り返しているのかを知らずして理解することはできないはずです．本講義を通じて，ぜひ一緒に日本政治の「性格診断」をしてみましょう．

キーワード /Keywords

日本政治・イデオロギー・自民党・民進党・維新の会

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学	PAD100M

授業の概要　/Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書　/Textbooks

今村都南雄（2009）『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○西尾勝（2001）『行政学』有斐閣
○真渕勝（2009）『行政学』有斐閣

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
2回　行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
3回　行政の歴史②【行政国家化】
4回　行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
5回　行政学史①【官僚制の理論】
6回　行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
7回　行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
8回　行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
9回　行政統制①【行政の責任】【FF論争】
10回　行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
11回　行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
12回　行政統制④【政治的任命職】
13回　行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
14回　「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
15回　「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100%（試験といっても，講義で習得した知識のみならず，日頃からの政治行政に対する観察力，そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

行政学 【昼】

キーワード　/Keywords
行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

ＮＰＯ論 【昼】

担当者名 /Instructor	楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科 狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・ＮＰＯとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論	PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかというと必ずしもそうとはいえないのではないでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

＊『北九州NPOハンドブック（第６版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○楢原真二編集代表『北九州ＮＰＯハンドブック［第５版］』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論–理論と実証の最前線–』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 導入–講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
２回 NPOの基礎知識(1)
３回 第１回講演会
４回 NPOの基礎知識(2)
５回 第２回講演会
６回 福祉NPO(1)
７回 第３回講演会
８回 福祉NPO(2) –社会福祉法人
９回 第４回講演会
10回 環境NPO(1)
11回 第５回講演会
12回 環境NPO(2)
13回 第6回講演会
14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 … 50% レポート… 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

ＮＰＯ論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

第１回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ＮＰＯ、ＮＧＯ、福祉ＮＰＯ、アドボカシー、ミッション、寄付

政策構想論 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論	PLC110M

授業の概要　/Course Description

政策構想とは、社会の諸問題に政策を通じて適切に対処するために、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」を構想することです。履修者が自分自身の価値観に立って自分自身の政策構想を作り上げるための基礎力を身に着けることが、最終的な授業の目的です。

授業では、まず、政策と価値はどのように関わっているのかを学びます。その上で、現代の政策の価値理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策構想が可能かを考えていきます。

なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムなどの価値理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　政策構想とは何か
第2回　政策の構造と価値
第3回　社会設計と政策構想
第4回　デモクラシーと政策構想
第5回　功利主義と政策構想
第6回　功利主義への批判
第7回　リベラルな平等の基礎理論I　【不平等の意味】
第8回　リベラルな平等の基礎理論II　【正義の二原理】
第9回　リベラルな平等の展開　【財産所有のデモクラシー】
第10回　リバタリアニズムの基礎理論I　【最小国家論】
第11回　リバタリアニズムの基礎理論II　【自己所有権】
第12回　コミュニタリアニズムの基礎理論　【負荷なき自己と共同体】
第13回　日本の格差：正規・非正規雇用
第14回　格差問題への政策構想
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　授業への取り組み…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意　/Remarks

政策構想論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード　/Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor　秦　正樹 / HATA Masaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論	PLS210M

授業の概要　/Course Description

政治家が政党に所属したり，あるいは離党したりするのはなぜなのか．有権者はなぜ，投票に行く（行かない）のか．マス・メディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか．本講義では，こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します．
具体的には，①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で，②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します．また本講義を通じて，民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します．

教科書　/Textbooks

特に教科書は指定せず，毎回，レジュメを作成し配布します．

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

木寺元編（2016）『政治学入門』弘文堂．
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア．
久米郁男（2013）『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣．
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション　【民主主義】【規範理論】【実証】
2回　Scienceとしての政治学（１）　【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
3回　Scienceとしての政治学（２）　【３つのI】【文化】【合理的選択】
4回　政治制度(1)　【選挙制度】【デュベルジェの法則】
5回　政治制度 (2)　【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
6回　政治家と政党(1)【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
7回　政治家と政党(2)【ダウンズモデル】【政党システム】【離党と新党】
8回　政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェンシー・スラック】
9回　政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
10回　政治参加と選挙 (1)【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
11回　政治参加と選挙(2)【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
12回　政治参加と選挙(3)　【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
13回　マス・メディア(1)【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
14回　マス・メディア(2)【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
15回　まとめ　【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末試験：85%　・日常授業への取り組み：15%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておくこと．また，政治過程論は連続しているテーマを扱うため，各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしておくこと．

政治過程論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「政治学」をすでに履修している場合，本講義の理解がより深いものになります．
「政治過程論」は，政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います．これらのモデルが日本政治においていかなる意味を持つかについては「日本政治論」で詳しく説明しますので，併せて受講することが望ましいです．
また，予習や復習，授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください．とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

政治学は「いろんな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です．シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが，授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると，授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないでしょうか．「政治」と聞いて食わず嫌いにならず，ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード　/Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論	PLC112M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の２つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、Ｂ４のレジュメを配布するのでしっかりノートをとり、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回「自由と平等の規範」　個人の責任、国家の責任
第２回「社会保障の行財政」　社会保障の行政組織、社会保障給付費
第３回「年金保険」　被保険者、保険料、保険給付
第４回「年金保険」　財政悪化と空洞化
第５回「年金保険」　世代間格差と世代内格差
第６回「年金保険」　改革の論点
第７回「医療保険」　被保険者、保険料、保険給付
第８回「医療保険」　年金と共通する問題
第９回「医療保険」　診療報酬をめぐる問題
第１０回「医療保険」　医療サービスの量と質
第１１回「生活保護」　原理・原則
第１２回「生活保護」　扶助の種類
第１３回「生活保護」　保護の透明性
第１４回「福祉国家の類型」　３つの福祉国家
第１５回「福祉国家の類型」　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 100%
原則として、毎回、出席をとります。欠席１回につき、期末試験得点より２点程度減点します。

＊ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。
確定された成績評価基準は、第３回目の授業でおしらせします。

福祉国家論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
・ 第１回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

西洋政治史 【昼】

担当者名 /Instructor　西　貴倫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史	PLS111M

授業の概要　/Course Description

本講では、戦間期（第1次世界大戦と第2次世界大戦の間の時期）のヨーロッパに現れた「ファシズム」の思想・運動・体制を、政治学の専門的な知見を用いて分析・再構成する。
「ファシズム」はある意味でデモクラシーの陰画であり、「ファシズム」についての理解は今日の規範化されたデモクラシーについての理解を助けるだろう。また、本講は、「ファシズム」を政治学の知見を用いて分析・再構成することよって、政治学的思考に触れる機会だけでなく、その有効性と限界を考える素材を提供することになるだろう。

教科書　/Textbooks

なし。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ケヴィン・パスモア『ファシズムとは何か』福井憲彦訳、岩波書店、2016年（2,400円＋税）。
山口定『ファシズム』岩波現代文庫、2006年（1,400円＋税）。
○篠原一『ヨーロッパの政治––歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年（3,200円＋税）。
その他適宜講義中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに【歴史の政治的分析とは？】
第2回　ファシズム小史【イタリア・ファシズムとドイツ・ナチズムを中心に】
第3回　政治発展の理論（1）【政治体制論、発展段階論、統合の類型論】
第4回　政治発展の理論（2）【政治変動の諸要素と諸段階】
第5回　ファシズムとは何だったのか？（1）【反動か革新か、コミュニズムとの異同】
第6回　ファシズムとは何だったのか？（2）【プレモダン、モダン、ポストモダン】
第7回　ファシズムはどこから来たのか？（1）【政治的近代化、階級、ナショナリズム、帝国主義】
第8回　ファシズムはどこから来たのか？（2）【戦時動員、反革命】
第9回　ファシズムはなぜ権力を握りえたのか？（1）【権力の真空】
第10回　ファシズムはなぜ権力を握りえたのか？（2）【大衆の組織化、同盟理論】
第11回　ファシズムはなぜ存続しえたのか？（1）【カリスマ的指導者、指導のカオス】
第12回　ファシズムはなぜ存続しえたのか？（2）【テロルの支配、社会的上昇に対する期待】
第13回　ファシズムは避けえなかったのか？（1）【歴史におけるifの問題】
第14回　ファシズムは避けえなかったのか？（2）【不可逆点の問題】
第15回　おわりに【政治的分析の有効性と限界】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末の定期試験でおこなう（100％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参考文献を積極的に読むことが特に望まれる。

西洋政治史 【昼】

履修上の注意　/Remarks

初回はオリエンテーションもおこなう。
講義の進め方や定期試験について詳しく説明するので必ず出席されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

暗記ばかりではない歴史学の面白さ、政治談議とは一味違う政治学の魅力をみなさんと共有できるよう努めたいと思います。

キーワード　/Keywords

ファシズム　政治的近代化　危機の政治学

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論	PLC113M

授業の概要　/Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見ていきます。さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
○川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論
○佐藤泰裕[2014]『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
○山崎朗他[2016]『地域政策』中央経済社
○藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
○小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2．競争の激化と地域格差の拡大
3．都市の経済的課題
4．都市の社会的課題
5．都市はなぜできるのか？
6．都市空間の形成
7．都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8．都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9．地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10．地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11．立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12．立地戦略と都市経済② - 立地創造
13．都市経済の実際① - 商店街活性化
14．都市経済の実際② - 観光振興
15．まとめ

都市経済論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 出席レポート30％、期末試験70％
・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに学習支援フォルダにレジュメをアップしておくので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は反復学習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード　/Keywords

公共政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論	PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。 受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということを意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものを挙げておきます。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）
伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法 - 』（東京大学出版会、2011年）
ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法–問題解決を「成果」に結び付ける 8 つのステップ－』（東洋経済新報社、2012年）。
阿部彩『子どもの貧困–日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）
阿部彩『子どもの貧困II–解決策を考える』（岩波書店、2014年）

公共政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
２回　公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
３回　小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
４回　子どもの貧困（１）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
５回　子どもの貧困（２）・・・日本における子どもの貧困を考える
６回　子どもの貧困（３）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
７回　子どもの貧困（４）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
８回　子どもの貧困（５）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
９回　シルバー・デモクラシーと日本の現状
１０回　シルバー・デモクラシーと公共政策
１１回　ソーシャル・キャピタルと公共政策
１２回　介護保険（１）・・・導入
１３回　介護保険（２）・・・現状分析
１４回　介護保険（３）・・・問題点とその検討（「下流老人」の問題も含む）
１５回　介護保険（４）・・・介護保険の改革

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート　…　50　％、授業貢献度など…50％。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加すること。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定ですので第一回目の講義には必ず参加するようにして下さい。また、「シルバー・デモクラシーと公共政策」、「ソーシャル・キャピタルと公共政策」をはじめ講義内容等は、学生の理解度などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor　松田　憲忠 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講	PLS213M

授業の概要　/Course Description

政策は，社会問題に対する解決策として定義されます．政策に関する知識，政策についての研究の進め方，政策をめぐる議論のあり方を理解し習得することは，社会が直面する問題を発見し，その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かすことができません．そこで，本講義は，政策が必要とされる要因，政策を取り巻く環境や政策の捉え方の変化等を概説することから始めます．そのうえで，政策について研究するとは如何なる活動なのかに焦点を当てます．最後に，現代社会において議論が有する重要性を描出し，政策に関する議論のあり方に論及します．本講義の到達目標は，政策に関する基礎的な概念等を理解することと，社会問題を発見し，その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かせない社会科学的視点を習得することです．

教科書　/Textbooks

特に指定しません．

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

第一回授業で紹介・説明します．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

01. イントロダクション––政策とは？政策分析とは？
02. 政策について考える①––問題解決策としての政策
03. 政策について考える②––政策を取り巻く環境
04. 政策について考える③––政策をめぐる新たな展開
05. 政策について考える④––政策と市民
06. 政策研究について考える①––政策研究の科学性
07. 政策研究について考える②––政策研究のプロセス
08. 政策研究について考える③––政策研究における計量分析と事例研究
09. 政策研究について考える④––政策研究における演繹的・数理的考察
10. 政策研究について考える⑤––政策研究における規範的・哲学的考察
11. 政策研究について考える⑥––政策研究と政策決定
12. 政策研究について考える⑦––政策研究と知識活用
13. 政策議論について考える①––現代社会における議論
14. 政策議論について考える②––議論の構造
15. 総括

※　受講生の人数や理解度等に応じて，上記スケジュールは変更される可能性があります．

政策理論特講 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

(A) レポート試験……30%
(B) 授業内ディスカッションへの積極的参加……70%

※　「レポート試験」では，社会問題やその問題に対する政策的対応等について進められている諸研究を，本講義で提供された知識や社会科学的思考を活用して，比較し評価することが求められます．
※　「ディスカッションへの積極的参加」では，単に授業に出席するだけでなく，授業内に行われるディスカッションに対して積極的に貢献（発言等）をすることが求められます．
※　詳細については授業中に説明します．

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1) 集中講義開始前
これまで受講してきた法学部の講義のなかで，特に研究のあり方や研究の目的に関わる内容を復習しておいてください．

(2) 集中講義期間中
各回の授業で解説された内容をきちんと振り返ったうえで，次の授業に臨んでください．

(3) 集中講義期間終了後
集中講義15回の授業で解説された内容について，適宜参考文献を活用しながら，復習してください．そのうえで，レポートを作成してください．

履修上の注意　/Remarks

現代社会が直面する問題やその問題への解決策をめぐる議論に，常に目を向けることを心掛けていてください．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「せっかくの夏休みなのに授業に出るなんてあり得ない！」って感じるかもしれません．しかし，せっかくの夏休みだからこそ，ちょっと頭脳を理論的思考に触れさせて，悶々と考え悩むアクティビティを楽しんでみませんか？
社会のあり方や研究の進め方等について受講生と教員の皆で考え込んだり，その考え込んだ頭で一人でレポート作成に苦悶したりする経験は，今後の法学部生としての生活でも卒業後の社会生活でも有用となる指針を皆さんに提供してくれると確信しています．

キーワード　/Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論	PLC212M

授業の概要　/Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定：Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。

②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構) とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskannenの官僚利益追求論・ 政府間関係]) について理解してもらう。

教科書　/Textbooks

『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 2004年 ￥ 2,730)
『公共政策学の基礎　新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ￥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ￥2,940)
○『政治過程論』 (伊藤光利・ 真渕勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ￥2,625)
○『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ￥3,568)
『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ￥2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　授業や本の紹介など
２回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・Free Rider)、費用と利益、政策の類型など
３回　政策参加者、政策資源（事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD）
４回　政策過程の理論１　（政策過程論・Elite論・多元主義論とIssue Network・
制度論と合理的決定 Path dependence・Idea・Game theory etc.）
５回　政策過程と事例分析１　（新聞、インターネットで検索した事例分析）
６回　政策過程の理論２　（アジェンダ形成・ゴミ箱決定Garbage Can Model・政策の窓）
７回　政策過程の理論３　（無意思決定論、相互浸透理論など）
８回　政策過程と事例分析２　（新聞、インターネットで検索した事例分析）
９回　政策事例のポスター発表I
１０回　政策実施、政策調整（実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・
Top-Down Approach ＆Street Bureaucracy Approach）
１１回　政府間関係と自治体の政策（政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・事例：名古屋市）
１２回　本のレポート発表
１３回　政策終了・政策評価と市民参加
１４回　政策事例を選び、政策過程の分析
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 20%、　ポスター 30%　期末試験 50%
（本のレポート発表・ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定､実施、政策調整、終了、
利益・価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

現代政治思想 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想	PLS212M

授業の概要　/Course Description

私たちが政治や政策について語るとき、それは常に、いかに政治と社会はあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想（政治哲学）の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。

この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

教科書　/Textbooks

『政治哲学入門』（ジョナサン・ウルフ著、坂本知宏訳、晃洋書房、２０００年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　政治哲学の問い
第2回　自然状態（１）　【歴史的理解】
第3回　自然状態（２）　【アナーキズム】
第4回　国家の正当化（１）　【社会契約説】
第5回　国家の正当化（２）　【功利主義】【公正の原理】
第6回　支配者（１）　【プラトン】【ルソー】
第7回　支配者（２）　【代議制民主主義】
第8回　自由の位置づけ（１）　【ミル】【自由原理】
第9回　自由の位置づけ（２）　【自由主義】
第10回　財産の分配（１）　【財産】【自由市場】
第11回　財産の分配（２）　【ロールズの正義論】
第12回　財産の分配（３）　【ロールズ批判】
第13回　個人主義の問題
第14回　政策的応用
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80％ 授業への取り組み...20％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現代政治思想 【昼】

キーワード　/Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論	PAD211M

授業の概要　/Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書　/Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業のガイダンス
２回　地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
３回　自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】【主務大臣の包括的指揮監督権】
４回　自治体首長と中央地方関係②【首長と議会】【二元代表制】
５回　自治体首長と中央地方関係③【中央地方関係】
６回　縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
７回　縮小する地方財政の中で②【地方債】
８回　縮小する地方財政の中で②【ふるさと納税】
９回　合併の価値は①【市町村合併】
10回　合併の価値は②【自治体内分権】
11回　地域の戦い①　【外発型発展と内発型発展】【交流人口】【定住人口】
12回　地域の戦い②　【外発型発展】【原子力発電】
13回　地域の戦い③　【交流人口】【インバウンド】
14回　地域の戦い④　【アニメ聖地巡礼の事例比較考察】
15回　地域の戦い⑤　【定住人口】【婚活支援】【恋愛と結婚】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100%（試験といっても，講義で習得した知識のみならず，日頃からの政治行政に対する観察力，そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

地方自治論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード　/Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論	PAD213M

授業の概要　/Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が議論される中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、ＮＰＭ、ガバナンスとパートナーシップなど、今後の都市経営の方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書　/Textbooks

・ 特に指定しません。学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○吉田民雄[2003]『都市政府のマネジメント』中央経済社
○宮脇淳[2012]『図解　財政のしくみ　ver.2』東洋経済新報社
講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション - 都市のマネジメント
２．都市の現状と課題
３．都市の成長と都市経営
４．地方自治制度
５．地方財政制度
６．地方自治体の諸制度
７．地方公務員の人材マネジメント
８．地方行財政改革
９．公共部門の民営化
10．ガバナンスとパートナーシップ
11．ビジネス手法の活用による地域課題の解決
12．企業と社会の関わり - 企業の社会的責任と協働
13．地域資源の活用による地域創造
14．公共施設・空間のマネジメント
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 出席レポート30%、期末試験70%
・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに学習支援フォルダにレジュメをアップしておくので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は反復学習を行ってください。

都市経営論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。前期科目の都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。

キーワード　/Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論	PLC215M

授業の概要　/Course Description

グローバリゼーションの波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書　/Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ　持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
* 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
* Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起
第2回　開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義　【持続可能な開発（SD）】
第3回　成長概念と貧困概念～貧困線と余るティ・線の考え方　【貧困概念】【アマルティア・セン】
第4回　急速の経済発展～インドのIT産業を事例として　【IT産業】
第5回　人口問題～中国の1人っ子政策の成果と先進国の少子化対策　【一人っ子政策】
第6回　都市産業問題～インフォーマルセクターの存在　【インフォーマルセクター】
第7回　居住問題～スラム・スクォッタ居住区　【スクォッタ居住区】
第8回　資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）　【資源配分】
第9回　環境問題～森林破壊、海洋汚染など　【森林破壊】
第10回　環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に　【廃棄物管理問題】
第11回　保健・医療問題　～感染症、下痢を中心に　【感染症】
第12回　途上国での農漁村での農業・漁業の在り方　【農業・漁業】
第13回　途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とＯＤＡ　【ODA】
第14回　台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より　【NGO】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢…20%　小課題の提出　…　20%　試験　…　60　%

途上国開発論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴していてください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようにしていてください。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国（インド・バングラデシュなど）、アマルティ・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論	PLC310M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにあります。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにして下さい。

講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討します。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにします。

次に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価やその問題点を検討し、今後の日本における行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにします。

教科書 /Textbooks

教科書は用いません。ほぼ、毎回プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）
龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）
安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）
古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで - 』（日本加除出版株式会社、2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 導入–「評価」とは何か？
第２回 「実験としての改革」–アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
第３回 実際に評価してみよう！（演習形式で）
第４回 セオリー評価（ロジック・モデル）
第５回 より複雑なロジック・モデルについて
第６回 プロセス評価
第７回 前半のまとめ–ロジック・モデル再考（ＮＰＯとの関連も含めて ）
第８回 「行政評価」とは何か–最近15年の動向・潮流を中心に
第９回 先進事例の検討（三重県など）
第１０回 「事務事業評価表」の批判的な考察
第11回 「評価結果」の評価
第１２回 評価者が必要なものとは何か？
第１３回 評価システムを支える外部評価制度？（ １ ）–全国市区の外部評価の実態
第１４回 評価システムを支える外部評価制度？（ ２ ）–外部評価がもたらすもの
第１５回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40%、レポート30%、 授業貢献度…30% 授業に出席しない学生には単位は与えないのでそのつもりで履修して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するプリント教材の復習を必ず行って下さい。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加するようにして下さい。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意して下さい。

政策評価論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究、政策調査論などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトカム、行政評価、業績測定（パフォーマンス・メジャーメント）

政党政治論 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論	PLS211M

授業の概要　/Course Description

本講義では政党政治の諸相について，①政党間の競争②政党内の組織運営，の双方を基軸にして，国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は（良くも悪くも）政党を中心として展開しており，政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です（それは，企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません）。全体の授業回のうち，前半では理論や分析概念を中心に，後半では事例や応用を中心に進めていきます。

教科書　/Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ◯)　/References (Available in the library: ◯)

○川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙（新版）』有斐閣
○待鳥聡史（2015）『政党システムと政党組織』東京大学出版会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．イントロダクションと科目の位置づけ
２．概論１：【デモクラシーと政党】【歴史的展開】
３．概論２：【政党と有権者のつながり】
４．政党システム論１：【政党システム概論】【有効政党数】
５．政党システム論２：【政党システムの規定要因】【政党位置の計測】
６．政党システム論の先端：【新党台頭】【政党システムの変質】
７．政党組織論１：【集権と分権】【党内組織と政策形成】
８．政党組織論２：【党内人事・プライマリー】【国家と政党（政党助成金）】
９．政党組織論の先端：【組織と有権者】【大統領制化】
１０．２つの政党政治の狭間で：【ウェストミンスター型】【コンセンサス型】
１１．事例①東アジアの政党政治：【国家間比較】【日本の時代間・地域間比較】
１２．事例②欧州の政党政治１：【政党政治史概略】【西欧国家間比較】
１３．事例③欧州の政党政治２：【政党政治史概略】【東欧国家間比較】
１４．事例④英米圏の政党政治史：【イギリス政党政治】【アメリカ政党政治】
15．まとめ・予備回

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末試験：80%
・日常授業への取り組み（自主小レポートを予定）：20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回授業の内容についてシラバスに挙げた参考図書の該当箇所を示しますので，適宜予習してきてください。復習用に授業スライドはmoodleにアップします。

政党政治論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 履修上の注意や追加参考資料については第1回授業でアナウンスします。
・ 政治過程論を履修済（or受講中）であるほうが理解が深まるでしょう。
・ 授業各回の最後に，次回内容の予習箇所を指示します。復習用として授業内資料を配布するので各自で入手してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 政党政治論は，政治学のなかでも科学的・計量的な分析が早くから蓄積されてきた分野の一つです。そのため，授業中は頻繁に数字（時には数式）が出てきますが，高度な数学的知識は必要ありませんので，驚かずに学んでください。むしろ，その「現代政治を明確に分析できる」強力さや面白さを楽しんでください。

キーワード　/Keywords

政党・選挙・比較政治学・実証政治学

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論	PLC219M

授業の概要　/Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、安全安心政策、環境政策、文化政策などの様々な政策分野の状況と、政策展開の実際を学んでいく。都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史的変遷や多重性・多層性を有する都市政策の構造的理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
・講義の中で適宜紹介します

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2．人口減少と都市政策課題
3．都市政策の変遷と都市ビジョン
4．都市政策と政策手法
5．政策形成の実際
6．経済産業政策
7．社会保障制度と少子化対策
8．地域コミュニティと市民活動
9．安全安心のまちづくり
10．社会資本の老朽化と空き家対策
11．環境創造と持続可能性
12．都市文化政策と文化創造
13．インバウンドと観光まちづくり
14．町並み景観の保存と活用
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・出席レポート30%、期末試験70%
・一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに学習支援フォルダにレジュメをアップしておくので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は反復学習を行ってください。

都市政策論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。後期科目である都市経営論と併せての受講をお勧めします。

キーワード　/Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論	PLC217M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本的特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。毎回、Ｂ４のレジュメを配布するのでしっかりノートをとり、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「社会福祉の意味」
第２回　「社会福祉の行財政」　社会福祉の専門機関
第３回　「高齢者福祉と介護保険」　介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
第４回　「高齢者福祉と介護保険」　介護サービスと民間企業
第５回　「高齢者福祉と介護保険」　自治体間の保険料格差
第６回　「高齢者福祉と介護保険」　介護は社会化されたか？
第７回　「児童福祉」　児童福祉のサービス
第８回　「児童福祉」　保育所改革（公立保育所民営化など）
第９回　「児童福祉」　児童虐待
第１０回　「児童福祉」　男女共同参画をめぐる議論
第１１回　「障害者福祉」　障害の定義
第１２回　「障害者福祉」　障害者福祉のサービス
第１３回　「障害者福祉」　障害者の雇用
第１４回　「利用者保護制度」
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 100%
毎回、出席をとります。欠席１回につき、期末試験得点から３点程度減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
・ 第１回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード　/Keywords

特になし。

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論	PLC216M

授業の概要　/Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

①日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
③地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書　/Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・ 孫 穎・ 竹歳 一紀・ 在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ￥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

○『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ￥3,990）
○『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ￥2,310）
○『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ￥735 ）
○『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ￥7,748）
○『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発伝所著 集英社 ￥735 ）
『欧州のエネルギーシフト』　（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ￥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
２回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
３回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴１（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
４回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
５回 環境権、環境政策の特徴２（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
６回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
７回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
８回 発表会
９回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
１０回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
１１回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
１２回 地球温暖化とエネルギー政策
１３回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
１４回 水・川･ダムによる水資源、干潟、地域再生
１５回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない（原発なくても）と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～！！
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当！！
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの？？

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力。

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論	PLC222M

授業の概要　/Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバリゼーションの中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んでは調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、最初にアジア地域全体の社会を概観・分類し、次に、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、マスコミの情報に振り回されることなく、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書　/Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ　持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
* パク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか？』講談社＋α新書、2008年、840円
* 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む
第２回 アジア地域の社会の概観～統計数値、料理写真を通しての社会の特徴の分類～グループ討論 【統計数値】
第３回 韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く 【スタディツアー】
第4回 韓国の1960~70年代の政治・社会と現在～映画の一コマ「クラシック」を通して（１） 【映画部分鑑賞】
第5回 韓国の1960~70年代の政治・社会と現在～映画の一コマ「クラシック」を通して（２） 【映画部分鑑賞】
第6回 韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る 【バングラデシュ人労働者】
第7回 韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁 【多文化家族】
第8回 韓国の現代史、韓国社会の国際化（留学事情、学歴社会） 【現代史】
第9回 韓国の宗教と文化 【価値教育】
第10回 イスラームとは？ 【イスラーム】
第11回 バングラデシュの都市社会（中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童） 【雑業層】
第12回 バングラデシュの農村社会～農業の特徴 【農業】
第13回 バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論 【コミュニティ】
第14回 それでも、バングラデシュ！ 小ネタ集～教員の仰天体験を通して？ 【参与観察】
第15回 まとめ ～ 途上国に行く気になったか ～ グループ討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢…30% 小課題の提出 … 20% 試験 … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は教科書や参考文献で授業箇所を読んでおくことと日ごろから途上国の話題を探すこと、事後学習は授業で習ったことの復習と小課題への適用です。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施
上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きます）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。
1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復していてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。片やバングラデシュへの道は厳しいが、チャレンジしてほしい。

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解

地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論	PLS214M

授業の概要　/Course Description

近年の欧州政治の状況が示すように，ある地域統合の枠組みを巡って重要になるのは，統合を目指す利害と統合に反発する利害の，せめぎあいである。そしてそのせめぎあいを理解するにあたっては，統合の主体となっているアクター（EUの場合は国家）それぞれ固有の事情と，その内部での政治ダイナミズムを把握することが有用である。
本講義では，もっとも先駆的な統合事例とされるヨーロッパ統合を題材とし，その拡大過程で発生した大きな政治経済上の変化や，構成メンバーの利害の一致や対立を学ぶことを通じて，地域統合が抱える成果や問題点を考察する。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回授業時に数冊推薦する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．イントロダクションと科目の位置づけ
２．概論１：ヨーロッパの多様性と社会を理解する
３．概論２：国内政治と国際政治の緊張に関する理論
４．欧州統合１：欧州統合発足：独仏政治との諸制度の発展
５．欧州統合２：英国への拡大：大陸欧州とアングロサクソンの衝突
６．欧州統合３：南欧への拡大：軍政と経済格差の問題
７．欧州統合４：北欧・中立国への拡大：冷戦崩壊と加盟判断の分裂
８．欧州統合５：東欧への拡大：きわめて異質な社会を統合する
９．欧州統合６：さらなる加盟候補の拡大と軋轢の拡大
10．前半のおさらい・予備回
11．近隣との政治１：移民・難民・国籍政策をめぐる統合と反発
12．政策との政治２：EU圏の外交・安保政策をめぐる統合と分裂
13．近隣の地域統合１：EEU&上海条約機構とユーラシアの政策形成
14．近隣の地域統合２：アフリカ圏や米州圏の地域統合枠組
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末筆記試験80%
・学期内の小レポート提出20%（任意とするか必須とするかは第1回に決定する）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回，次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので，それらを参照して予習する事。
本科目の特質上，固有の政治的事実や固有名詞が頻繁に登場し，また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから，特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

地域統合論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ヨーロッパとひとまとめにされる国々ですが，統合を巡る政治の中で様々に異なる様相を見せています。それらを，単に「それぞれ異なる事実の羅列」と捉えるのではなく（つまらないですよね！），その背景に価値・利害・信念・制度といった人間の多様性がある（他方である程度の共通性や普遍性も見え隠れしている），という点に思いを巡らせることができると，面白いと感じることができるでしょう。

キーワード　/Keywords

自治体政策研究 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究	PLC214M

授業の概要　/Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④移住政策、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々のレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

教科書　/Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』（学芸出版社、2001年）。
○鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
○大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
○大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
○芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
山下祐介『限界集落の真実–過疎の村は消えるのか？』（ちくま書房、2012年）。
藤山浩『田園回帰１％戦略–地元に人と仕事をとり戻す–』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　問題提起と本講義の目的–超高齢人口減少社会の到来
２回　人口減少期のまちづくり–コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
３回　富山市のコンパクトシティ構想–串とお団子のコンパクトシティ構想
４回　紫川マイタウンマイリバー整備事業
５回　限界集落（１）–限界集落とは何か
６回　限界集落（２）–限界集落の事例の検討
７回　限界集落（３）–綾部市の「水源の里」条例
８回　限界集落（４）–限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
９回　都市の「限界コミュニティ」–限界コミュニティとは何か？
１０回　北九州市の局地的高齢化
１１回　限界コミュニティとその再生
１２回　団地の超高齢化、買い物難民（買い物弱者）を考える
１３回　ふるさと納税
１４回　小さな自治体は消滅するのか？–島根県海士町から考える
１５回　移住１％戦略–地方は消滅しない！！

自治体政策研究 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　　授業貢献度…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第１回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

キーワード　/Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

公共経営論 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論	PAD212M

授業の概要　/Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。毎回、Ｂ４のレジュメを配布するのでしっかりノートをとり、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「新公共経営の理論」　ＮＰＭ (New Public Management)
第２回　「新公共経営の理論」　能率と責任、政策手法
第３回　「教育編①図書館」　図書館のしくみ
第４回　「教育編②図書館」　指定管理者制度
第５回　「教育編③図書館」　ＰＦＩ
第６回　「教育編④図書館」　ＰＦＩの問題点
第７回　「教育編⑤学校」　学校のしくみ
第８回　「教育編⑥学校」　学校選択制
第９回　「道路編①」　道路のしくみ
第１０回　「道路編②」　道路公団民営化
第１１回　「道路編③」　道路の必要性
第１２回　「道路編④」　入札改革
第１３回　「公共サービス従事者編①」非正規職員
第１４回　「公共サービス従事者編②」特殊法人、天下りをめぐる議論
第１５回　「まとめ」

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・ 100%
毎回、出席をとります。欠席１回につき、学期末試験の得点から３点程度減点。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

* 2015年度より、レポートではなく、筆記試験によって成績評価しています。

公共経営論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
・ 第１回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

＊私語は厳しく注意します。

キーワード　/Keywords

特になし。

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論	PLS215M

授業の概要　/Course Description

政治全体を社会の問題解決のための大きなシステムと考えた時、人々が政治システムに対して様々な態度をとるのはなぜでしょうか。
欧米諸国では多くの人々が民主主義を通じて政治システムに積極的に関わりますが、日本ではそうではありません。このような人々の態度を決めるものの一つに、政治文化を考えることができます。
この授業では、「政治に参加しよう」という意識の根底にある「ものの見方・考え方」とはどのようなものかを、民主主義を発展させた欧米諸国と日本の思想史的比較を通じて、考えていきます。そして、政治文化が現実政治に果たす役割を理解し、日本の民主主義政治の将来について深く考える力を養うことを目指します。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　政治システムと政治文化
第2回　ヨーロッパ中世の世界観・社会観（１）【グレゴリウス改革】
第3回　ヨーロッパ中世の世界観・社会観（２）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
第4回　「特殊」の発展
第5回　ルネサンス・国家理性・主権
第6回　宗教改革の時代
第7回　ホッブズの社会契約論
第8回　ロックの社会契約論
第9回　文化芸術の発展とルソー
第10回　ルソーの社会契約論
第11回　フランス革命後の展開と保守主義
第12回　江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
第13回　丸山真男の超国家主義論
第14回　丸山真男の古層論
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80％ 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意　/Remarks

政治文化論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

民主主義社会が真っ当に成立し、それが安定的に運用されるためにはどのような政治文化が必要になるのでしょうか。この授業では、「リベラル」・「保守」・「国家」など、政治を動かすさまざまな要素が発生、展開してきた過程を追いながら、日本の民主主義文化とはどのようなものであるべきか、ともに考えたいと思います。

キーワード　/Keywords

地方行政改革論 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論	PAD310M

授業の概要　/Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業のガイダンス
２回　地方自治体の組織【官僚制の理論】
３回　地方自治体の組織【自治体の特性】
４回　組織改革①【自治体組織の改革：総論】
５回　組織改革②【自治体組織の改革：フラット化、人事評価】
６回　職員改革①【人材育成】【政策形成】
７回　職員改革②【ネットワークのマネジメント】
８回　公共サービスの質と民間化①【グレーゾーン】
９回　公共サービスの質と民間化②【民間移管】【サービスの質】
10回　行政と住民の関係改革①【地域自治組織】【自治体内分権】
11回　行政と住民の関係改革②【コミュニティ運営協議会】【行政の支援】
12回　政府間関係改革①【都道府県と市町村】
13回　政府間関係改革②【市町村と市町村】
14回　議会と行政【議会改革】
15回　議会と行政【議会の政策形成】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期レポート試験…89%　特定課題…11%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います（もちろん、2年生でも受講は可能です）。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。

地方行政改革論 【昼】

キーワード　/Keywords
地方自治体、公務員、行政改革

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor　中道　壽一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講	PAD214M

授業の概要　/Course Description

今年度は、「歴史政策学の試み」というテーマで講義をしたいと考えています。
歴史政策学とは、「過去に生起した事象から類似した事象、類似性を見出し、その類似性と、現在の事象との異同一同質と異質一を腑分けし、そこから未来を予測し、あるべき政策を選択するという方法」です。すなわち、過去のさまざまな政策事例を取り上げながら、そこから、現在の諸問題を考察するうえで重要な教訓を引き出し、そうした教訓を、現在および未来をデザインする政策構想に役立てようとするものです。
今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察しながら、今日のデモクラシーのグローバル化の中で、デモクラシーをいかにして構想し実現するかについて、すなわち、デモクラシーの政策構想について考えてみます。また、「ワイマル民主主義の崩壊とナチズムの台頭」を手がかりに、文化的ペシミズムと政治の問題についても検討してみます。さらに、遅れて近代化したドイツと日本双方の「ポスト・モダン」を取り上げながら、ポスト・モダンと政治の問題を考察し、今後の新しい政治について検討します。

教科書　/Textbooks

中道寿一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（O)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。
たとえば、
アーネスト・メイ『歴史の教訓』岩波現代文庫、２００４年（O)、
S・P・ハンチントン『第三の波』三嶺書房、１９９５年(O)など。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業計画・内容は以下の通りです。
第１回　序・・・歴史政策学とは何か【歴史】【政策学】【政治文化】【政治的社会化】
第２回　デモクラシーのグローバリゼーション【東欧革命】【民主化】【市民社会】
第３回　政治文化と政治変動【政治文化】【政治変動】
第４回　まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
第５回　民主主義体制の崩壊について【民主主義体制】【権威主義体制】【体制変動】
第６回　ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
第７回　政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
第８回　議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
第９回　まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
第１０回　ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
第１１回　文化的絶望の政治について【文化ペシミズム】【ラガルド】【ラングベーン】【メラー】
第１２回　まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
第１３回　ポストモダンの政治（日本）【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
第１４回　ポストモダンの政治（ドイツ）【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
第１５回　終わりに・・・新しい政治を求めて【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】【環境倫理学】【コモンズの原理】

応用政策特講 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
講義への積極的取組…３０％
小テスト…１０％
試験…６０％
(レポート：任意　２０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストおよび配布レジュメ（講義内容をまとめたもの）の該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

レジュメを多く配布するので、すべてを一つにファイルし、毎回の講義に持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

３～４回の講義の後、３～４人のグループに別れ、共通のテーマについて議論し、その内容を発表する、という方法をとりますので、講義に積極的に取り組んでください。

キーワード　/Keywords

楽しく学びましょう。

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論	PAD210M

授業の概要　/Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体、と周囲に溢れる組織は数え切れないほどで、誰しも皆、幾つかの組織に所属し、自分が属する組織や他の組織からの影響を受けずに生活することは不可能です。また1990年代以降、日本の中央省庁や地方自治体といった行政組織の変化には著しいものがあります。このようななか、組織論を学ぶことは、複雑な現代社会を理解する一助になると考えています。特に政策の形成・決定・実施・評価と関連、あるいは各過程において主体として行動する場合もある行政組織に着目することで、過去から現在までの制度・政策の変化や内容に関する関心・洞察を深めることにつながるのではないでしょうか。講義全体のキーフレーズは、「組織論を通じてみるひとと社会」です。

教科書　/Textbooks

特に指定はしません。毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
○スティーブン・P・ロビンス[高木晴夫訳]（2009）『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
○西尾勝（2001）『新版行政学』有斐閣
その他、適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　組織の定義と概念
３回　組織と環境・組織構造
４回　官僚制の誕生と変容
５回　官僚制：その原則と逆機能
６回　日本の行政組織（１）【官吏】【公務員】【任用と身分】
７回　日本の行政組織（２）【行政改革】
８回　中間テスト
９回　中間テストの解説と復習
１０回　ストリート・レベルの官僚制、組織文化
１１回　組織のリーダーシップ
１２回　ひとのモチベーション
１３回　組織における学習
１４回　行政サービスを担う組織
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
（遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時間外の学習として、事前にこのシラバスをよく読んで全体の流れと個々の回のつながりを意識できるようにしておくこと、事後は（中間テストを実施する予定であるため）授業で配布したレジュメを見返すなど、適宜振り返りの作業を行うことをおすすめします。

行政組織論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「行政学[日本行政論]」や「地方行政改革論」、「公共経営論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお、講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります（特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　坂本　隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論	PLC213M

授業の概要　/Course Description

このクラスでは、資本・貿易・経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下どのような経済政策を実行し、そしてその経済政策が今度は国際システムや自国・他国経済にどのような影響を及ぼすのかを検証する。まず資本・貿易・経済の国際化がどのような経済環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいかなる制約を課するかを分析する。そしてその制約下、各国政府がいかなる経済政策を施行し、その経済政策が自国・他国経済にどのような影響を与えるのかを検証する。

ここでいう「経済政策」とは、広い意味での経済政策で、具体的には雇用、経済成長、福祉、財政、教育、貿易、金融、通貨などの政策を含む。このクラスは、言葉を変えて言えば、「国際化された経済から、先進諸国はどのような影響を受け、それに各国政府がどのように対応し、どのような政策を実行するか。また、その政策が各国の社会経済（社会や人々の生活、企業など）にどのような影響を与えるのか」についてのクラスである。

教科書　/Textbooks

Thomas Oatley. 2011. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 5th ed. New York: Pearson Longman.

（なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

後日指示

対外政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 国際政治経済とは何か
3. Political Economy of International Trade Cooperation
4. Society-Centered Approach to Trade Politics
5. State-Centered Approach to Trade Politics
6. International Monetary System
7. International Monetary Arrangements
8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
10. Catch-Up and Review
11. Catch-Up and Review
12. International Finance
13. Import Substitution Industrialization
14. Market Reform
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、（１）テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、（２）研究論文あるいは期末総合テストが60%（どちらかひとつ）。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。（１）の授業での発言・参加と（２）の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。（1）はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。（2）は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、Ａ４紙にダブルスペースで１３枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにすること。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：（1）オリジナルな研究、論文にする、（2）理論や説明の論理的整合性、（3）理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうかが問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に立って行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　坂本　隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較政策論	PLC210M

授業の概要　/Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える際に、その分析の基礎となる分析的枠組みを学ぶ。また、これらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。

これらのサブジェクトの学習により、比較政治経済、比較福祉政策、比較政治学の基礎知識を得る。

教科書　/Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2007. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

（なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

後日指示。

比較政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人はしりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 政策決定のモデル
3. 政策決定の理論I (経済)
4. 政策決定の理論II (政治)
5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI (経済)
6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII (政治)
7. 先進各国の政治システム
8. 社会・福祉政策
9. Catch-up
10. 財政政策
11. 教育政策
12. 税政策
13. Catch-up and review
14. 国際化の中の政策決定
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、（１）テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、（２）研究論文あるいは期末総合テストが60%（どちらかひとつ）。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。（１）の授業での発言・参加と（２）の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。（1）はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。（2）は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、Ａ４紙にダブルスペースで１３枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにすること。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：（1）オリジナルな研究、論文にする、（2）理論や説明の論理的整合性、（3）理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうかが問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に立って行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

国際機構論I 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論Ⅰ	IRL312M

授業の概要　/Course Description

現代世界では、少なくとも数百にのぼる国際機構が活動している。これらの機構は、国家や私たちの生活にとっていかなる意味をもつのか。
この講義では、第１に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題等を学習する。
第２に、国際連合のような普遍的機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がいかなる史的展開をみてきたのかを考察する。

教科書　/Textbooks

『国際条約集2017年版』有斐閣、2017年．
複数の出版社が条約集を出しているが、授業では有斐閣のものを用いる。

なお次の場合にかぎり2016年版を用いることができる。
・ 2016年度開講の同科目を履修登録し、かつ単位を取得しなかったひと、
・ 2016年度開講の国際人権論を履修登録したひと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○明石康『国際連合　軌跡と展望』岩波書店、2006年．
○高坂正堯『国際政治』岩波書店、1966年．
○篠原初枝『国際連盟』中央公論新社、2010年．
○最上敏樹『国際機構論　第2版』東京大学出版会、2006年．
○渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論　総合編』国際書院、2015年．
ほか適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　国際機構の定義と理論
第3回　国際機構の歴史
第4回　国際連盟（１）設立の背景と組織
第5回　国際連盟（２）活動
第6回　国際連合（１）設立の背景
第7回　国際連合（２）組織
第8回　国際連合（３）活動
第9回　国際政治と国際機構（１）国連安保理：概論
第10回　国際政治と国際機構（２）国連安保理：ケース・スタディ
第11回　国際政治と国際機構（３）国連PKO：概論
第12回　国際政治と国際機構（４）国連PKO：ケース・スタディ
第13回　国際政治と国際機構（５）国連と日本：概論
第14回　国際政治と国際機構（６）国連と日本：ケース・スタディ
第15回　まとめ

国際機構論I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20%　期末試験80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回課題を出す。課題をこなしたうえで授業に出席すること。授業の終了後は、その内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

教科書に書き込むための附箋と極細ペン（青）を用意すると便利です。
次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論Ⅱ	IRL313M

授業の概要　/Course Description

地理的に近接する諸国が独自の国際機構（地域的国際機構）を設立する動きは、現代世界における特質となっている。ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北アメリカ自由貿易協定（NAFTA）、南部共同市場（MERCOSUR）、アラブ連盟、アフリカ連合（AU）、南アジア地域協力連合（SAARC）等は、活動目的や分野が異なれど、そのような動きの代表的なものである。
このような動きは、日本が位置する東アジアないし環太平洋の地域でも例外ではなくなりつつある。
講義では、第1に、このような動きの先駆となったEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びたい。第2に、地域的機構がもつ含意を、現代の日本を取り巻く状況から探究する。

教科書　/Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在　第3版』創元社、2012年．
初版および第2版とは内容が異なる。第3版を準備すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○庄司克宏『欧州連合』岩波書店、2006年．
○中村民雄『EUとは何か』信山社、2015年．
○遠藤乾『欧州複合危機』中央公論新社、2016年．
○鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年．
ほか適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　地域的国際機構の定義と理論
第3回　国際関係の中の地域的国際機構
第4回　テキスト「プロローグ」
第5回　テキスト第1章（ヨーロッパ共同体の設立）
第6回　テキスト第1章（EUの歴史）
第7回　テキスト第2章（EUの組織）
第8回　テキスト第2章（EUの政策決定）
第9回　テキスト第3章（EUの共通政策）
第10回　テキスト第3章（EUの人権保護等）
第11回　テキスト第4章（EUの対外関係）
第12回　テキスト「エピローグ」
第13回　地域的国際機構とアジア太平洋（1）これまでの経緯
第14回　地域的国際機構とアジア太平洋（2）今後の展望
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20%　期末試験80%

国際機構論II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回課題を出す。課題をこなしたうえで授業に出席すること。授業の終了後は、その内容を復習すること。

履修上の注意　/Remarks

教科書に書き込むための附箋とペン（青）を用意すると便利です。
次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際協力論I 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論Ⅰ	IRL211M

授業の概要　/Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書　/Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第４版）』有斐閣、2009年。
○下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
第2回　WWII後から1960年までの開発援助　【ポイント・フォア】
第3回　南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
第4回　1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
第5回　南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
第6回　1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
第7回　途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
第8回　1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
第9回　グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
第10回　グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
第11回　新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
第12回　日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
第13回　日本のODAの仕組み、理念【開発協力大綱】、【自助努力】
第14回　開発協力の今日的課題
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題の提出…40％（10回×4％）　学期末試験…60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。事後学習としては、授業で学んだ内容の要点を提出してもらいます（10回程度、Moodleを活用する予定）。

履修上の注意　/Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイトを参照すると、授業理解に役立ちます。

国際協力論I 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード　/Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論Ⅱ	IRL212M

授業の概要　/Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○メアリー・ B・ アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。
○リンダ・ ポルマン『クライシス・ キャラバン–紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　冷戦の終結と新しい戦争
第2回　国家の破綻と崩壊１ - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
第3回　国家の破綻と崩壊１ - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
第4回　国家の破綻と崩壊１ - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
第5回　国家の破綻と崩壊２ - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
第6回　国家の破綻と崩壊２ - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
第7回　国家の破綻と崩壊３ - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
第8回　国家の破綻と崩壊３ - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
第9回　ＰＫＯの変容と限界
第10回　「人道的介入」から「保護する責任」論へ
第11回　平和構築アプローチ
第12回　紛争後復興における開発の役割
第13回　Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
第14回　Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題の提出…40%（10回×4%）　　学期末試験…60%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、各回の要点をまとめて提出してもらいます（10回程度、Moodleを活用する予定）。

国際協力論II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

JICAのホームページから『課題別指針　平和構築』（2009年）をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード　/Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名 /Instructor　山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論	IRL213M

授業の概要　/Course Description

人間の権利には、どのようなものがあるのか。それを誰がどのように保護するのか。あるいは、なぜ保護する必要があるのか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いに応えればよいというわけでは必ずしもない。
講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度が国際連合においてどのように形成されているのかを考察し、その課題を探究する。

教科書　/Textbooks

『国際条約集2017年版』有斐閣、2017年。
複数の出版社が条約集を出しているが、授業では有斐閣のものを用いる。

なお次の場合にかぎり2016年版を用いることができる。
・ 2016年度開講の同科目を履修登録し、かつ単位を取得しなかったひと、
・ 2016年度開講の国際機構論Ⅰを履修登録したひと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法』第3版、日本評論社、2009年 .
○トーマス・バーゲンソル『国際人権法入門』東信堂、1999年 .
○畑博行・水上千之編『』第4版、有信堂高文社、2006年 .
○山本直『EU人権政策』成文堂、2011年 .
ほか授業で指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに
第2回　人権概念の創出
第3回　国際社会と人権保護：19世紀まで
第4回　国際社会と人権保護：国際連盟の時代
第5回　国際連合における人権の規範と制度（国連憲章）
第6回　国際連合における人権の規範と制度（世界人権宣言）
第7回　国際連合における人権の規範と制度（社会権規約と自由権規約）
第8回　国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）概観
第9回　国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）ケース・スタディ
第10回　国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）概観
第11回　国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）ケース・スタディ
第12回　国際刑事裁判所の設立と活動
第13回　現代アジアと人権：人権外交と価値観
第14回　現代世界と人権：近年の情勢
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20%　期末試験80%

国際人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回課題を出す。課題をこなしたうえで授業に出席すること。授業の終了後は、その内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

教科書に書き込むための附箋と極細ペン（青）を用意すると便利です。
次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor　川上　耕平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論	IRL214M

授業の概要　/Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを簡潔にみていくが、その際、「覇権」と「分析レベル」をキーワードにしていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史学上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書　/Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに、関連文献を紹介するが、講義全体に関わるものとして、以下の文献を挙げておく。

○K.ウォルツ（渡邊昭夫・岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家――国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
○菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
○黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
J.ゴールドステイン（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
○G.モデルスキー（浦野起央・信夫隆司 訳）『世界システムの動態――世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。
篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
○J.ナイ（田中明彦・村田晃嗣 訳）『国際紛争――理論と歴史』第9版、有斐閣、2013年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　国際紛争を考えるための視角：【「分析レベル」】、【覇権】
第3回　三十年戦争【主権国家】：【ウエストファリア体制】
第4回　覇権と国際紛争（１）――スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
第5回　覇権と国際紛争（２）――パックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
第6回　第一次世界大戦：【帝国主義】
第7回　第一次世界大戦：【三国同盟】、【三国協商】
第8回　第二次世界大戦：【ナチズム】
第8回　第二次世界大戦：【連合国】、[枢軸国】
第9回　冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
第10回　冷戦期の国際紛争（１）――二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
第11回　冷戦期の国際紛争（２）――中国と台湾：【台湾海峡危機】
第12回　冷戦期の国際紛争（３）――朝鮮半島：【朝鮮戦争】
第13回　冷戦期の国際紛争（４）――中東①：【パレスチナ問題】
第14回　冷戦期の国際紛争（５）――中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
第15回　冷戦後の国際紛争――9.11テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争：【テロリズム】、【「新しい戦争」】

国際紛争論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…70％　　小テスト…30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各テーマのレジュメが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおし、講義で紹介した文献のいずれかにも当たってみること。。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校などで世界史などを履修したことがない学生でも、十分についていけるよう説明をするので、あとは各自がどれだけ発展的な学習（講義で紹介した文献の消化）に結びつけていけるのか、ということが課題となる。

キーワード　/Keywords

上記の授業計画を参照。

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　満 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学	PHR210M

授業の概要　/Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理学的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書　/Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献を紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理（１）　ソクラテス
第２回　古代ギリシャの倫理（２）　プラトンの倫理思想　【イデアと国家】
第３回　古代ギリシャの倫理（３）　アリストテレスの倫理思想　【賢慮と公共性】
第４回　キリスト教の倫理（１）　イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
第５回　キリスト教の倫理（２）　アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
第６回　キリスト教の倫理（３）　ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
第７回　近代の倫理思想（１）　デカルトの倫理思想【旅とコギト】
第８回　近代の倫理思想（２）　ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
第９回　近代の倫理思想（３）　スピノザの倫理思想 【オランダの自由】
第10回　近代の倫理思想（４）　カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
第11回　近代の倫理思想（５）　フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
第12回　近代の倫理思想（６）　ヘーゲルの倫理思想 【理性の神話】
第13回　近代の倫理思想（７）　マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
第14回　現代の倫理思想（１）　フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
第15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

平常時の学習状況（リアクション・ペーパーを含む）40パーセント
講義で紹介した原典と参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

講義で紹介した原典、参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意　/Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

倫理学 【昼】

キーワード　/Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

担当者名 /Instructor　小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M

授業の概要　/Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、戦後の障がい者福祉施策を俯瞰しながら地域生活、施設利用などでの問題を取り上げ、以下の点について吟味する。
①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
②障がい者の権利保障とは何かについての検討する。
③また障がいのある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
④さらにはこれまでタブー視されてきた障がい者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書　/Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　受講上の諸注意と総論
２回　障害者施策の現状と課題①　【自立とは何か】
３回　障害者施策の現状と課題②　【障害者総合支援法の概要と課題】
４回　障害者施策の現状と課題③　【地域生活】
５回　障害者施策の現状と課題③　【ケアマネージメント】
６回　権利擁護システム①　【成年後見制度】【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
７回　権利擁護システム②　【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
８回　障害者福祉実践の到達点と課題①　【就労支援】
９回　障害者福祉実践の到達点と課題②　【生活支援】
１０回　障害者福祉実践の到達点と課題③　【家族支援】
１１回　障害者福祉のこれから①　【障害者介護】
１２回　障害者福祉のこれから②　【施設解体】
１３回　障害者福祉のこれから③　【地域生活支援】
１４回　障害者福祉のこれから④　【恋愛・性の支援】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　…　30%　　試験　…　70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、障がいのある人の生活実態について理解を深めること。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

履修上の注意　/Remarks

その都度配布する講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自立、地域生活、施設生活、恋愛と性、生命倫理

高齢者に対する支援と介護保険制度１ 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　優 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適応可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度１	SOW220M

授業の概要　/Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む）について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方（人間観や倫理観を含む）について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論１」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度１」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書　/Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度（社会福祉士シリーズ１３）弘文堂

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2017年版
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
第２回　高齢者の特性と疾病
第３回　高齢者の福祉需要と介護需要
第４回　高齢者福祉制度の発展過程１【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
第５回　高齢者福祉制度の発展過程２【介護保険制度】
第６回　人口減少･少子高齢社会の現状と課題
第７回　介護の概念や対象【介護の理念と対象】
第８回　介護の概念や対象【介護予防の必要性】
第９回　介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
第10回　認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
第11回　認知症ケア【認知症ケアの実際】
第12回　高齢者虐待と予防
第13回　終末期ケア
第14回　老人福祉法と関連法
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験５０％　授業態度２０％　授業への参加（レポートなど）３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意　/Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度１　【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度２ 【昼】

担当者名 /Instructor　石塚　優 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度２	SOW221M

授業の概要　/Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む）について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方（人間観や倫理観を含む）について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論２」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度２」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書　/Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度（社会福祉士シリーズ１３）弘文堂

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2017年版
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
第２回　介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
第３回　介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
第４回　介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
第５回　介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
第６回　介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
第７回　介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
第８回　介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
第９回　介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
第10回　介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
第11回　介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
第12回　介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
第13回　介護保険法におけるケアマネジメントと実際
第14回　地域包括支援センターの役割１【地域包括支援センターの組織体系】
第15回　地域包括支援センターの役割２【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法　/Assessment Method

試験５０％　授業態度２０％　課題の提出（レポートなど）３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意　/Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度２ 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　山中　亜紀 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治や政策に関する情報を外国語で理解し、知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	外国の政治現象や政策に関する議論を習得し、地域社会の政策能力につなげる。
	コミュニケーション力	●	政策現象や知識の多様性について理解し、他者とのコミュニケーション能力を高める。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ｂ	SEM392M

授業の概要　/Course Description

本講義では、現代の国際情勢、とりわけ国際紛争や安全保障について、英語で書かれた論文やレポート、新聞・雑誌記事、政府声明などを講読します。世界各地で人々の日常生活が陰に陽に脅かされている現況をふまえ、不安定を生み出す要因、そして解決に向けた国際社会の取り組みについての情報を読み解きながら、ともすれば何気なく聞き流している「海外ニュース」を私たちの日常と結びつけて考える、知的習慣を身につけたいと思います。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回～第４回　Thinking about International Society①Your Pocketbook
第５回～第７回　Thinking about International Society②The Roles of Power and Justice
第８回～第１０回　Insecurity①Causes of War
第１１回～第１３回　Insecurity②Terrorism
第１４回～第１５回　International Organization
受講者の英文講読経験等に応じて、テキストを選択したり、講読ペースを決定したりしますので、各回の内容は流動的です。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回課す提出課題７０％、受講姿勢３０％を目安として総合的に評価します。
・「提出課題」とは、授業内容の十全な理解を促すと同時に、成績評価のために、文書化された予習（復習）成果を事前（事後）提出してもらうものです。「要求事項を満たした課題を、指定日までに提出する」という作業の「着実な積み重ね」を高く評価します。
・「受講姿勢」とは、授業の円滑な進行を促す参加態度（十分な予習、意欲的な質問・発言）を意味します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

参加者全員の確実な理解を促すため、各回の講読分量自体はさして多くはありませんので、受講者は、毎回必ず、テキストの指定された範囲を読んできてください。「予習はしたけど分からなかった」としても、気後れする必要はまったくありません。ただし、「読み解けない理由」（たとえば、「文章構造が理解できない」とか「指示語の内容がつかめない」とか「逐語訳しても文意がつかめない」など）を自己分析し、授業の際、きちんと説明・質問してください。

履修上の注意　/Remarks

予習の際には、書籍形式の英和辞書（英英辞書）を利用してください。また講義には辞書（電子辞書も可）を必ず携帯してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

予習の最大の利点は、「あなたが理解できていないポイントが明確になる」点にあります。そうすることで、授業の際に「読解のためのヒント」を的確に提示することができますし、そのヒントをもとに、自分自身で「正しい読解」にたどり着くことができます。そうした作業は、あなたの英文読解能力（と、日本語の表現能力）を着実に高めてくれるでしょう。

外国文献研究Ｂ 【昼】

キーワード　/Keywords
国際社会　紛争　安全保障

公共経済学 【昼】

担当者名 /Instructor　牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学	ECN262M

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要（ねらい・テーマ）＞
1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。
① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書　/Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済 (有斐閣ストゥディア)』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース　公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール　公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I　ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：公共経済学について
2回　経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
3回　経済学の復習（2）【取引】、【市場】
4回　需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
5回　市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
6回　市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
7回　費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
8回　独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
9回　規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
10回　政府の失敗【公共選択論】
11回　投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
12回　利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
13回　財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
14回　社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
15回　まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

公共経済学 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（12回）...40%、課題…10%、期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論	BUS212M

授業の概要　/Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では，組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書　/Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年 (○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年 (○)
三井泉編『フォレット』文眞堂、2013年 (○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ–経営組織論の新展開』文眞堂、2009年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス　【現代社会における組織】
第２回　組織とは何か　【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
第３回　管理とは何か①　【管理過程】【意思決定論】
第４回　管理とは何か②　【事実の認識】【イナクトメント】【円環的対応】
第５回　現代組織の諸特徴①　【官僚制】【支配の3類型】
第６回　現代組織の諸特徴②　【法・規則の機能性】【科学的管理】
第７回　現代組織の諸特徴③　【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
第８回　第２回～７回のまとめ
第９回　組織構造①　【権限の原則】【権限と権威】
第１０回　組織構造②　【ライン組織】【コンティンジェンシー理論】
第１１回　組織構造③　【職能部門制組織】【事業部制組織】
第１２回　動機づけ理論①　【金銭による動機づけ】【人間関係】
第１３回　動機づけ理論②　【欲求階層説】【自己実現】【X-Y理論】【動機づけ-衛生理論】【達成動機】
第１４回　現代組織と意思決定　【コンフリクト】【統合】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 50%　中間テスト・・・ 30%　レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。

履修上の注意　/Remarks

「経営学入門」「マネジメント論基礎」「企業論基礎」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

経営組織論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

【組織の三要素】【官僚制】【環境適応】【随伴的結果】【自由と責任】

企業ファイナンスI 【昼】

担当者名 /Instructor　松本　守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスＩ	BUS214M

授業の概要　/Course Description

本講義は，企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には，企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から，企業がどのように資本調達を行い，実物資産へ投資し，また，投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書　/Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる　コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門〈第2版〉』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie，『コーポレートファイナンスの原理 【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション　コーポレート・ファイナンスの世界
2回　コーポレート・ファイナンスの世界(1)【期待リターン，リスク（標準偏差）】
3回　コーポレート・ファイナンスの世界(2)【証券，発行市場，流通市場】
4回　コーポレート・ファイナンスの世界(3)【ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
5回　投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
6回　資本調達の基礎知識：自己資本調達(1)【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株】
7回　資本調達の基礎知識：自己資本調達(2)【ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
8回　資本調達の基礎知識：負債資本調達(1)【普通社債，ワラント債】
9回　資本調達の基礎知識：負債資本調達(2)【転換社債，MSCB】
10回　配当の基礎知識(1)【配当政策，配当性向，配当利回り】
11回　配当の基礎知識(2)【自社株買い戻し，株式分割】
12回　コーポレート・ガバナンス(1)【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード】
13回　コーポレート・ガバナンス(2)【取締役会制度，執行役員制度，大株主】
14回　コーポレート・ガバナンス(3)【敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習について
(1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので，必ず参照し準備すること。
(2)授業終了後には，授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は，「企業論基礎」・「経営統計」・「簿記論I」・「簿記論II」・「経済学入門A」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor　松本　守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスⅡ	BUS215M

授業の概要　/Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて，株主の観点から，企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には，「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」，「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書　/Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる　コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門〈第2版〉』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
大津広一，『ファイナンスと事業数値化力』，日本経済新聞社（2010年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション　企業ファイナンスIの復習
2回　現在価値計算(1)【現在価値（PV），将来価値（FV），安全利子率】
3回　現在価値計算(2)【リスクプレミアム，投資信託】
4回　株式価値・負債価値と企業価値(1)【金融商品，利付債，割引債，クーポン】
5回　株式価値・負債価値と企業価値(2)【配当割引モデル（DDM）】
6回　株式価値・負債価値と企業価値(3)【企業価値，株式価値，負債価値】
7回　資本コスト(1)【資本コスト，最低要求収益率】
8回　資本コスト(2)【加重平均資本コスト】
9回　資本コスト(3)【マーケット・ポートフォリオ，資本資産評価モデル（CAPM），β（ベータ）】
10回　投資決定の基礎理論(1)【投資決定，割引キャッシュフロー（DCF）法，正味現在価値（NPV）】
11回　投資決定の基礎理論(2)【内部収益率（IRR），回収期間法】
12回　資本構成の基礎理論(1)【レバレッジ効果，MM理論，裁定取引】
13回　資本構成の基礎理論(2)【法人税，倒産コスト】
14回　資本構成の基礎理論(3)【トレード・オフ・モデル】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験・・・ 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習について
(1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので，必ず参照し準備すること。
(2)授業終了後には，授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は，「企業論基礎」・「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経営戦略論 【昼】

担当者名 /Instructor　浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論	BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。（○）
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉 - 論理性・創造性・社会性の追求---』有斐閣、1997年。（○）
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。（○）
他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　ガイダンスおよび「経営戦略とは」
第 2回　経営戦略論の議論の歴史１【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
第 3回　経営戦略論の議論の歴史２【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【ＲＢＶ】
第 4回　ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
第 5回　事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
第 6回　新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【Ｍ＆Ａ】
第 7回　プロダクトポートフォリオマネジメント【ＰＰＭ】、【ＰＬＣ】、【経験曲線】、【マトリックス】
第 8回　競争の戦略１【5フォーセズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
第 9回　競争の戦略２【市場地位】、【リーダ】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
第10回　事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
第11回　産業進化とイノベーション【技術】【市場】【オープン・クローズ】
第12回　ビジネスシステム戦略　【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
第12回　経営戦略と組織１【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
第13回　経営戦略と組織２【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】
第14回　経営戦略と組織３-事例研究-【組織文化】【組織構造】、【インセンティブシステム】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（８０％）と学期中の小レポート等提出物の結果（２０％）によります。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意　/Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード　/Keywords

経営環境　経営戦略　イノベーション　組織変革

財務会計論I 【昼】

担当者名 /Instructor　西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論Ⅰ	ACC214M

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要＞
財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは，さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書　/Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版　会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
２回　財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
３回　会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
４回　損益計算書について【費用】【収益】【利益】
５回　貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
６回　動態論と静態論【取得原価】【時価】
７回　会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
８回　貨幣評価の公準について　【財務報告】【非財務報告】
９回　財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
１０回　収益・費用の認識・測定　【実現概念】
１１回　中間のまとめ
１２回　会計談話その１ - 会計学とは何か？ -【資本循環範式、現金、ホスピタリティ】
１３回　会計談話その２ - 会計学とは何か？【会計のアカデミズム】【会計学者の群像】
１４回　財務諸表等を知る【投資家、ステイクホルダー】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（小テスト等を含む）…２０％　　課題…１０％　期末試験…７０％

財務会計論I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意　/Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記３級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提にしている。未履修者は、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード　/Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 /Instructor　西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論Ⅱ	ACC215M

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要＞
財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編である。

教科書　/Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房円○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
中央経済社編『新版　会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　会計の考え方【ビジネスの言語】
２回　繰延資産の会計【動態】【静態】
３回　会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
４回　費用配分という考え方【期間損益】
５回　減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
６回　減価償却の考え方について【自己金融】
７回　引当金の会計（その１）【退職給付引当金】【賞与引当金】
８回　引当金の会計（その２）【条件付債務】【修繕引当金】
９回　負債概念について【退職給付会計】
１０回　新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
１１回　実現主義の「実現」概念について【販売基準】
１２回　工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
１３回　財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
１４回　純資産の会計【払込資本】【留保利益】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　課題…１０％　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：『学習支援フォルダ』のレジュメや、簿記論のテキストや、会計学の入門書を読むことをすすめる。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

財務会計論II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。

キーワード　/Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor　任　章 / NIN Akira / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会計監査の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	会計監査の諸問題を解決するための方法を考え、監査一巡の手続きについて、それらを理論的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	会計監査に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会計監査に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会計監査論	ACC216M

授業の概要　/Course Description

この講義では、独立した公認会計士（監査法人）が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。税理士、会計士試験受験志望者にあっては、これまで学んできた会計関連科目のまとめ、あるいは会計学を学ぶ意味をあらためて再確認することにもなろう。しかしながら、本講義では公認会計士が社会に対して担う責任の拡がりについて幅広く考察する。過去に会計科目を学んだことのない人であっても、関心があれば積極的に受講されたい（簿記の知識が無くても授業内容は理解できる。履修者にとっては、意外と面白い科目になるに違いない）。講義時間中にあっては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう。本講義の到達目標は、受講後、修了者が、時に新聞やマスコミを通じて報道される、監査に関わりある論点を理解し、また会計関連資格取得希望者にあっては、会計監査論のフレームワーク全体に展望を得ることにある。ところで「監査論」は国家試験たる公認会計士試験の一試験科目である。会計士志望の履修者は、本科目の履修によって、難関国家資格にチャレンジする意欲とその土台造りにつながれば幸いと考える。

教科書　/Textbooks

未定（初回オリエンテーション時に指定する。生協には事前に入荷依頼をする）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

未定（教室にて別途指示をすることがある）。他に、教室でほぼ毎回、プリントを配布する。それと、各回授業後、本学イントラネット内（マネジメント研究科任章）の「学習支援ホルダー」の類に復習のチェック問題等を挙げるので、積極的に利用すること。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【　】内は各回の授業内容に関わるキーワード：（授業内容の順番は大きく変わることがある。指定する教科書が未定にて、下記は参考に過ぎない）。

第1回　：　オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
第2回　：　会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
第3回　：　「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
第4回　：　「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
第5回　：　監査契約と監査計画について【監査計画】
第6回　：　内部統制について【内部統制】
第7回　：　監査リスクについて【監査リスク】
第8回　：　監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
第9回　：　監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
第10回　：　企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
第11回　：　四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
第12回　：　企業改革法（SOX）とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
第13回　：　過去の学期末試験の内容のレビュー【定期試験の傾向と対策指導】
第14回　：　利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
第15回　：　まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験の結果　凡そ70%、レポート　凡そ20%、その他積極性等　凡そ10%、あわせて100%で評価する。

会計監査論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習：（事前学習）初回講義時に知らせる講義予定に従って、教科書の定められた章を読んでおくこと。（事後学習）各回教室で学んだ用語や概念を、あとでリポートにまとめて提出できるよう、復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

定期試験以外にレポートも課す。復習ができるよう、教室にては毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。なお期末の定期試験は、普段の出席率の良い人が得点しやすくなるよう、講義した内容の全体からまんべんなく出題する。
簿記会計の知識はあれば良いが、しかし履修科目の前提としては求めない。講義中には「たとえ話」を多く交えるので、事前知識がなくても誰でも十分に理解できるはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない（出席点それ自体はないが、できるだけ多く出席しないと、期末定期試験でさほど得点できないであろう）。履修の動機付けをしっかり持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

財務諸表、公認会計士、SOX法、金融商品取引法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算、他。

国際貿易論I 【昼】

担当者名 /Instructor　水戸　康夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論Ⅰ	ECN345M

授業の概要　/Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考え方を持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくならないのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グルーバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
第3回　保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
第4回　自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
第5回　重商主義の問題点【ヒュームの理論】
第6回　絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
第7回　比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
第8回　比較優位成立の確認【数値例を通じて】
第9回　貿易利益１【計算を通じて】
第10回　貿易利益２【図を用いて】
第11回　ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
第12回　リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
第13回　要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
第14回　ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート15%　学期末試験85%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

国際貿易論I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード　/Keywords

自由貿易　保護貿易　TPP　比較優位　トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor　水戸　康夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論Ⅱ	ECN348M

授業の概要　/Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完･代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することとともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書　/Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グルーバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　直接投資理論を紹介1【直接投資】
３回　直接投資理論を紹介2【直接投資】
４回　対外直接投資概説【直接投資】
５回　発展途上国の発展について【貧困の悪循環】
６回　中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
７回　ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
８回　アジアNIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジアNIES】
９回　ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
１０回　アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
１１回　組織モデル【組織】･ 海外子会社の役割【海外子会社】
１２回　富士ゼロックス事例【事例】
１３回　チャーター逸脱事例【事例】
１４回　ポスト･トランスナショナル組織【組織】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート15%　期末試験85%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

完全に理解しようとすると、幅広い知識を必要とする。直接投資理論に関しては、国際経済に関する基本的な本を参考にして欲しい。中国、ASEAN4、アジアNIES、ヨーロッパ、アメリカに関する概説を行なった上で、教科書の説明を行なうので、中国等に興味関心があれば、予め、概説本を読んでおくことが望ましい。

国際貿易論II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

キーワード　/Keywords

海外子会社　海外孫会社　直接投資理論

産業組織論I 【昼】

担当者名 /Instructor　川﨑　晃央 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論Ⅰ	ECN341M

授業の概要　/Course Description

産業組織論を学ぶうえで必要な最低限のミクロ経済学の理論及びゲーム理論を確認したうえで，産業組織論で用いられる基本的な理論モデルについて解説する．

教科書　/Textbooks

『経営の経済学』（第3版）　丸山雅祥　著　有斐閣　2017年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』　泉田成美，柳川隆　著　有斐閣　2008年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション・産業組織論とは
第2回：需要の特性１（価格効果，弾力性）
第3回：需要の特性２（消費の外部性）
第4回：費用の基礎概念
第5回：規模の経済・範囲の経済・経験の経済
第6回：独占の基礎理論
第7回：独占の応用理論
第８回：ゲーム理論１（同時手番ゲーム）
第９回：ゲーム理論２（逐次手番ゲーム）
第１０回：寡占と競争１（クールノー競争）
第１１回：寡占と競争２（ベルトラン競争）
第１２回：寡占と競争３（垂直的製品差別化モデル）
第１３回：寡占と競争４（水平的製品差別化モデル）
第１４回：寡占と競争５（一般的な製品差別化モデル）
第１５回：講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直しておくこと

履修上の注意　/Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）．
講義中の私語に対しては厳正に対処します．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

産業組織論I 【昼】

キーワード　/Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor　川崎　晃央 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論Ⅱ	ECN342M

授業の概要　/Course Description

産業組織論の基本的なツールを用いて，様々な応用問題についてのモデルの紹介，並びにモデル分析について解説を行う．

教科書　/Textbooks

『経営の経済学』（第3版）　丸山雅祥　著　有斐閣　2017年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』　泉田成美，柳川隆　著　有斐閣　2008年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション・基本モデルの復習
第2回：競争戦略の分類
第3回：価格戦略１（価格差別）
第4回：価格戦略２（二部料金制）
第5回：製品戦略１（バンドリング）
第6回：製品戦略２（垂直的製品差別化）
第7回：製品戦略３（水平的製品差別化）
第８回：流通と販売促進１（流通のコントロール）
第９回：流通と販売促進２（二重マージン）
第１０回：流通と販売促進３（流通サービスの調整）
第１１回：流通と販売促進４（小売店舗数の調整）
第１２回：プラットフォーム１（基礎概念）
第１３回：プラットフォーム２（ツーサイド・プライシング）
第１４回：プラットフォーム３（プラットフォームの選択）
第１５回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直しておくこと

履修上の注意　/Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）．
講義中の私語に対しては厳正に対処します．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

産業組織論II 【昼】

キーワード　/Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 /Instructor　久多里　桐子

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	証券市場の仕組の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論	BUS330M

授業の概要　/Course Description

この授業では、証券と証券市場の仕組み・役割といった基礎事項を学ぶ。株式や債券の価格等の理論的側面に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、日本市場の現況というような、証券に関する制度および実務的側面等についても触れる予定である。

教科書　/Textbooks

テキストは指定せず、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

釜江廣志 (編) (2015)「入門証券市場論 (第3版補訂)」有斐閣
小林 孝雄, 芹田敏夫 (2009) 「新・証券投資論Ⅰ」日本経済新聞出版社
花枝英樹 (2005) 「企業財務入門」白桃書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1 回: 証券市場論の概要 (ガイダンス)
第 2 回: 証券市場と金融市場
第 3 回: 株式発行市場
第 4 回: 株式流通市場
第 5 回: 株式の投資尺度
第 6 回: 債券市場
第 7 回: 債券と株式の評価
第 8 回: 中間テスト
第 9 回: ポートフォリオ理論
第 10 回: 証券市場の経済理論 (1) CAPM
第 11 回: 証券市場の経済理論 (2) 市場モデル
第 12 回: 先物: スワップとオプション
第 13 回: 日本の株式市場の歴史
第 14 回: 近年の証券市場コーポレート・ガバナンス
第 15 回: まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験70% + 中間テスト30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義内容を毎回復習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

証券市場論 【昼】

キーワード　/Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor　別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論	BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。
本講義では、わが国の従業者数の８割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学，マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2016年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣
中小企業庁編「2016年版小規模企業白書」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　中小企業とは
第3回　わが国中小企業の現状
第4回　中小企業の基本問題　【二重構造論】
第5回　中小企業の経済理論　【最適規模論】【独占・寡占理論】
第6回　下請関係と流通系列化　【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
第7回　地場産業問題　【構造転換】
第8回　ケース演習
第9回　〃　(解説)
第10回　中小商業問題　【サービス経済化】【大店立地法】
第11回　革新的中小企業論　【無制限労働供給理論】
第12回　「中小企業白書」のポイント整理I
第13回　〃　II
第14回　〃　III
第15回　まとめ
適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・・50%　期末レポート・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I 【昼】

担当者名 /Instructor　前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学Ⅰ	ECN361M

授業の概要　/Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状　そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もあると思いますが、財政学とくに政府の役割の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも教科書をベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書　/Textbooks

『財政学をつかむ』　畑農鋭矢　林正義　吉田浩　著　有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１）『公共経済学』　林正義　小川光　別所俊一郎　著　有斐閣アルマ
２）わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ -　篠原総一　著　有斐閣

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　イントロダクション：財政の役割
２　財政の仕組み
３　租税の概観と財政収支について
４　価格メカニズムと資源配分および所得分配
５　市場と資源配分の効率性①　【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
６　市場と資源配分の効率性②　【純粋交換経済における競争市場】
７　社会厚生と再分配政策
８　公共財①　【公共財とは何か】
９　公共財②　【公共財の自発的供給と非効率性】
１０公共財③　【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
１１景気変動と経済成長について　【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
１２景気安定化機能の役割
１３財政政策の乗数効果
１４演習
１５まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。（予習箇所は講義中にお知らせします。）
事後学習として配布資料・プリントの復習を十分に行ってください。

財政学I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

１）主に配布資料･プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
２）やむおえない事情により配布資料･プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。　それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
３）授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。　授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学の エッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード　/Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor　前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学Ⅱ	ECN362M

授業の概要　/Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。　バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。　しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。　後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。　少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書　/Textbooks

『財政学をつかむ』　畑農鋭矢　林正義　吉田浩　著　　有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１）マンキュー　マクロ経済学　Ｉ入門編 と　II 応用編
N. グレゴリー・ マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
２）マクロ経済学
二神孝一　堀敬一　（著）　有斐閣
３）公共経済学
林正義・ 小川光・ 別府俊一郎　（著）　有斐閣アルマ

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1　イントロダクション：マクロ経済政策と財政
2　４５度線モデルと乗数効果
3　乗数効果：公債発行と均衡財政
4　IS - LMモデル①　財・ サービス市場の均衡
5　IS - LMモデル②　貨幣市場の均衡
6　財政政策の効果とその有効性①（IS―LMモデルからの考察）
7　長期経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
8　長期経済モデル②企業による異時点間の最適化行動
9　財政政策の効果とその有効性②（リカード＝バローの中立命題）
１０　財政赤字の問題点
１１　財政赤字の持続可能性
１２　財政再建の議論
１３　公的年金の財政方式
１４　少子高齢化と年金収益率
１５　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験100％

財政学II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。（予習箇所は講義中にお知らせします。）
事後学習として配布資料・プリントの復習を十分に行ってください。

履修上の注意　/Remarks

１）主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
２）やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。　それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
３）授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。　授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード　/Keywords

財政

地方財政論 【昼】

担当者名 /Instructor　難波　利光 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論	ECN365M

授業の概要　/Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房　2008年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.財政とはなにか
2.住民生活と地方財政
3.財政の役割と機能
4.公共財の理論
5.国と地方の財政関係
6.租税原則と地方税
7.地方財政計画
8.財政調整制度
9.中間試験
10.自治体財政分析
11.財政破綻の教訓
12.地方財政と地域経済
13.地方財政と福祉政策
14.財政の自治を考える
15.地方財政のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験４０％　　期末試験６０％
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

地方財政論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることのできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意　/Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

労働経済学I 【昼】

担当者名 /Instructor　畔津　憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労働に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学Ⅰ	ECN343M

授業の概要　/Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．
『労働経済学』，樋口美雄，東洋経済新報社．
『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　経済学の視点から見た労働　【労働】【給与水準】
第２回　社会的分業と生産性　【分業の利益】【規模の経済】
第３回　労働市場という概念と機能　【労働力の取引】【労働市場】
第４回　企業の労働需要　【一般的技能】【労働の限界生産力】
第５回　市場の労働需要　【労働需要曲線】【代替と補完】
第６回　個人の労働供給　【労働の限界不効用】【労働参加率】
第７回　市場の労働供給　【労働供給曲線】【労働移動】
第８回　労働市場のメカニズム　【市場メカニズム】【補償賃金】
第９回　労働力の質と人的資本　【人的資本】【賃金格差】
第１０回　労働市場への介入とその帰結　【価格規制】【数量規制】
第１１回　中間試験
第１２回　失業の原因と対策（１）　【失業の定義】【オークンの法則】【賃金の下方硬直性】
第１３回 失業の原因と対策（２）　【ミスマッチ】【摩擦的失業】【構造的失業】
第１４回　公的部門の労働市場　【公的部門】【民間準拠】
第１５回　労働市場の内部化　【内部労働市場】【正社員】

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・・・ 40%　定期試験・・・ 60%

労働経済学I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意　/Remarks

履修済みであることが望ましい科目
経済学入門A・B、ミクロ経済学、マクロ経済学、現代日本経済入門A・B

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会的分業、労働市場、失業、賃金格差

労働経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor　畔津　憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労働に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学Ⅱ	ECN344M

授業の概要　/Course Description

企業にとって「労働」は最も重要な生産要素であると同時に、最も扱いにくい生産要素の一つです。したがって、企業は「労働」をどのように活用していくべきかについて十分に考察しなければなりません。本講義では、企業の立場から「労働」をいかに活用していくべきかを経済学的に考えるために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）ＮＴＴ出版．
『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　人事マネッジメントとは　【人事経済学】
第２回　組織構造とインセンティブ（１）　【情報伝達】【インセンティブ】【権限】
第３回　組織構造とインセンティブ（２）　【管理職】【残余利潤請求権】
第４回　インセンティブ設計　【参加制約】【インセンティブ制約】
第５回　雇用量の決定と調整　【雇用調整】【採用費用】【解雇費用】
第６回　採用選抜（１）　【自己選抜】【シグナリング】
第７回　採用選抜（２）　【採用基準】
第８回　離職・解雇と選定　【解雇】【早期退職】
第９回　中間試験
第１０回　インセンティブと報酬体系（１）　【固定給】【変動給】
第１１回　インセンティブと報酬体系（２）　【リスクとインセンティブのトレードオフ】
第１２回　インセンティブと報酬体系（３）　【CEO】
第１３回　インセンティブと人事評価　【評価指標】【絶対評価】【相対評価】
第１４回　インセンティブと昇進　【トーナメント】
第１５回　インセンティブと職場訓練　【賃金プロファイル】【OJT】

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験・・・ 40%　　定期試験・・・ 60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

労働経済学II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

履修済みであることが望ましい科目：労働経済学I
並行学習が効果的である科目：人事管理論、経営組織論、雇用関係法

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人事経済学、インセンティブ設計、報酬体系、採用、離職、解雇

人的資源管理論 【昼】

担当者名 /Instructor　福井　直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論	BUS310M

授業の概要　/Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。本講義では、担当教員も執筆者として参加している上林(2015)を教科書として用いるので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できると思いますが、講義の順序は教科書の配列とは少し変えています。

教科書　/Textbooks

上林憲雄編(2015)『ベーシック＋ 人的資源管理』中央経済社。（2,592円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

岩出　博(2013)『Lecture人事労務管理（増補版）』泉文堂。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
（上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理–理論と実践–(第3版)』文眞堂）
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１回　オリエンテーション、人的資源管理論へのプロローグ
２回　人的資源管理入門【企業経営】【人的資源】
３回　モチベーション理論【やる気】【モチベーション】
４回　リーダーシップとコミットメント【リーダーシップ】【コミットメント】
５回　組織構造論【分業】【調整】
６回　雇用管理【採用】【異動】
７回　人材育成【キャリア】【OJT】
８回　昇進管理【昇進】【出世】
９回　賃金制度【属人給】【仕事給】
１０回　労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
１１回　国際人的資源管理【多国籍企業】【海外派遣者】
１２回　人的資源管理学説の変遷（１）【科学的管理法】【人間関係論】
１３回　人的資源管理学説の変遷（２）【行動科学】【戦略人事】
１４回　人的資源管理と組織能力の連関【組織能力】【ダイナミック・ケーパビリティ】
１５回　近年における人的資源管理の動向、総まとめ【ダイバーシティ】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。
事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意　/Remarks

（１）「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくとよいでしょう。
（２）教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
（３）教科書は昨年度使用した本と同じです。
（４）大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずです。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。
なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード　/Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

ビジネス英語研究 【昼】

担当者名 /Instructor　松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究	ENG232M

授業の概要　/Course Description

The objectives of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabulary in English.

このクラスは英語で行います。The lectures are basically conducted in English.

Foreign students are extremely welcome. You might touch upon with Japanese business and economy affairs.

教科書　/Textbooks

Essentials of Economics 6th edition　N. Gregory Mankiw　　South-Western cenage learning　2011

ただし、書き込みしない場合は貸し出しまたはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

マンキュー入門経済学
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書
池上彰のやさしい経済学

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics
week2 Thinking like an economist
week3 Interdependence and the gains from trade
week4 Supply and Demand
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets
week6 Measuring a nation's income
week7 International trade
week8 Mid-term examination
week9 Production and growth
week10 The cost of production
week11 The firm in competitive markets
week12 Measuring cost of living
week13 Basic tools of finance
week14 The monetary system
week15 Money growth and inflation: Abenomics

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation 20%
(2)Class presentation 20%
(3)Mid-quizzes 30%
(3)Final test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students can use lecture slides on "Gakushu Shien" on the university website for pre-class preparation and post-class follow up.

履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Foreign Students are the most welcome, you will learn about the Japanese Economy as well.

内容は易しいですので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, opportunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Sholes, derivative, purchasing power parity, interest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

１．教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。

２．ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。

３．これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。

４．参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教職の意義と教員の役割
３．教員という仕事の魅力と困難さ　(外部講師　中学校長)
４．教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
５．教員の仕事の理想と現実(外部講師　本学卒業生の中学校教員)
６．教員に求められる資質　　ー　子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
７．教員の仕事　その１　教科指導と授業づくり(中学校教諭)
８．教員の仕事　その２　教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
９. 教員の仕事　その３　８，９回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事　その４　道徳教育実践の主体としての教師　-　道徳は教えられるか？
11. 教員の仕事　その５　生活指導実践主体としての教師 -　子どもたちと一緒に「発達の糧」となる生活を創造する
12.「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師　-　その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために　-　体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

＊講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　３０点、期末試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類–１」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション：教育とは何か
２回　教育の関係　：教育のモデル
３回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
４回　発達段階と発達課題：思春期・青年期
５回　感覚・身体と教育：五感・感覚教育
５回　教育思想①　：諸外国の教育思想
６回　教育思想②：日本の教育思想
７回　教育史①：西洋の教育史
８回　教育史②：日本の教育史
１０回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
１１回　学校教育の課題：学校で生じる問題
１２回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
１３回　国際化と教育：言語・文化
１４回　仕事と教育：進路形成
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor　税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 教育制度の基本原理（１） 教育制度とは
２回 教育制度の基本原理（２） 日本の教育法制
３回 学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
４回 学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
５回 学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
６回 教科書に関する制度
７回 教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
８回 教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
９回 教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
１０回 教育行財政の仕組み（１） 中央教育行政、地方教育行政
１１回 教育行財政の仕組み（２） 教育委員会と学校
１２回 学校関係者による協力支援の制度
１３回 地域社会の変容と学校
１４回 教育制度改革の動向
１５回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 教育課程編成の基本原理
第 2回 日本の教育課程の変遷
第 3回 学習指導要領と教育課程編成
第 4回 学力と教育課程
第 5回 学校における教育課程編成
第 6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第 7回 教育課程の評価
第 8回 諸外国の教育課程・カリキュラム（１）東アジアを中心に
第 9回 諸外国の教育課程・カリキュラム（２）英語文化圏を中心に
第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム（３）欧州を中心に
第11回 教育課程の開発
第12回 今日的課題と教育課程（１）アクティブラーニング
第13回 今日的課題と教育課程（２）人の国際移動と教育
第14回 今日的課題と教育課程（３）ESD
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題（試験） 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法Ｃ 【昼】

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・演習
クラス /Class	３年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。
本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

『中学校学習指導要領解説　社会編』（平成20年9月　文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』（二谷貞夫・和井田清司　編　学文社　2007）
他に授業で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　オリエンテーション　教育の目的と社会科の役割
第　２回　社会科教育の現状　学習指導要領と改訂のポイント
第　３回　地理的分野の目標とその取り扱い
第　４回　歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
第　５回　公民的分野の目標と内容とその取り扱い
第　６回　社会科の授業づくり　教材研究
第　７回　社会科の授業づくり　グループワークについて
第　８回　社会科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第　９回　社会科の授業づくり　体験学習・発見学習・アクティブラーニングについて
第１０回　社会科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む
第１１回　単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１２回　単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１３回　政治および宗教に関する事項の取扱い
第１４回　社会科教師に求められる資質・能力
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習（グループワークや質疑などへの参加）　３０％
ミニレポート（毎授業後に提出）　４０％
学習指導案　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　学習指導要領解説について読み込んでおく。発表資料の作成。

事後学習　学習指導要領解説について読み込みながら、関連する事例や実践について検討する

履修上の注意　/Remarks

・グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。
・発表や簡単なレポート課題の提出があります。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。報告者への質疑などを考えておくことが望ましい。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｄ 【昼】

担当者名 /Instructor　吉村　義則 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は、社会科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
（１）学習指導要領に基づき、現在の社会科教育の位置づけを理解する。
（２）教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
（３）地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。（４）コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（平成25年）定価167円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　学習指導案の作成
第　３回　模擬授業（地理的分野①）【世界地理・総論】
第　４回　模擬授業（地理的分野②）【世界地理・各論】
第　５回　模擬授業（地理的分野③）【日本地理・総論】
第　６回　模擬授業（地理的分野④）【世界地理・各論】
第　７回　模擬授業（歴史的分野①）【原始・古代】
第　８回　模擬授業（歴史的分野②）【古代・中世】
第　９回　模擬授業（歴史的分野③）【中世・近世】
第１０回　模擬授業（歴史的分野④）【近世・近現代】
第１１回　模擬授業（公民的分野①）【憲法】
第１２回　模擬授業（公民的分野②）【政治】
第１３回　模擬授業（公民的分野③）【経済】
第１４回　模擬授業（公民的分野④）【現代社会】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

◎授業への参加・貢献度　70%
◎模擬授業の際に提出する指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意　/Remarks

◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

公民科教育法Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・演習
クラス /Class	３年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。
公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。
学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

・『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省　平成22年版　320円＋税
・他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司　編　『中等社会科の理論と実践』　学文社　2007　1900円＋税
・他に授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　教育の目的と公民科の扱い
第２回：学習指導要領と改訂のポイント
第３回：公民科授業の構成　年間計画と単元計画
第４回：公民科科目の取り扱いと内容　現代社会
第５回：公民科科目の取り扱いと内容　倫理
第６回：公民科科目の取り扱いと内容　政治経済
第７回：公民科の授業づくり　教材研究・開発
第８回：公民科の授業づくり　グループワークについて
第９回：公民科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第１０回：公民科の授業づくり　アクティブラーニングについて
第１１回：公民科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む
第１２回：単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１３回：単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１４回：政治および宗教に関する事項の取扱い
第１５回：社会科教師に求められる資質・能力
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
最終試験・・・ ３０％
学習指導案作成　・・・ ４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　学習指導要領解説を読み込んでおく

事後学習　講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
出席は７割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

公民科教育法Ｂ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor　吉村　義則 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
（１）学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
（２）教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
（３）現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
（４）コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
　上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

・授業の際に配布するレジュメ・資料等
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版（平成22年）定価336円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

・谷田部玲生ほか『高等学校 現代社会』第一学習社（平成26年）定価610円
・伊東光晴ほか『高校 現代社会』実教出版（平成25年）定価610円
・三浦軍三ほか『高等学校 政治・経済』第一学習社（平成26年）定価450円
・宮本憲一ほか『高校 政治・経済』実教出版（平成26年）定価450円
・越智貢ほか『高等学校 倫理』第一学習社（平成26年）定価450円
・矢内光一ほか『高校 倫理』実教出版（平成25年）定価450円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　新学習指導要領における公民科の位置づけ
第　３回　社会科学的手法について
第　４回　シティズンシップと公民科教育
第　５回　学習指導案作成上の留意点
第　６回　学習指導案の作成
第　７回　生徒の実態を踏まえた教材研究
第　８回　模擬授業（参加型授業の展開）
第　９回　模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
第１０回　模擬授業（現代社会の諸問題）
第１１回　模擬授業（政治・経済・法）
第１２回　模擬授業（現代の諸課題と倫理）
第１３回　模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
第１４回　模擬授業（社会参加の授業理論）
第１５回　まとめ（主権者教育など）

成績評価の方法　/Assessment Method

◎授業への参加・貢献度　70%
◎模擬授業の際に提出する指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意　/Remarks

◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

公民科教育法Ｂ 【昼】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　戦後から「改正教育基本法」、まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　生命倫理をめぐる問題について考える (グループ討論)
第８回：道徳教育の現代的課題②　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　住み良い社会とは何かを考える (グループ討論)
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える (グループ討論)
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

特別活動の目標･ 内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい教育の方法と技術　2012　篠原 正典 (著), 宮寺 晃夫 (著)　ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１
第１２回：授業の研究２
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は。実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。
一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
① 生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。 また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規＋教育で考える 生徒指導ケース１００」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション ＋ 課題レポートの説明
２回 生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回 教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他） その１ - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回 教育課程と生徒指導 その２ 学級活動・学校行事と生徒指導
５回 生徒指導に関する法制度等（第７章他） その１
６回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
９回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その１ 少年期
14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その２ 思春期
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【昼】

教職に関する科目
必修科目

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　一　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【昼】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 学校で求められる人権教育について
６回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
７回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
８回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
９回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
11回 模擬授業②(特別活動 その１ 何らかの場面指導他)
12回 模擬授業③（特別活動 その２ 学級活動）
13回 模擬授業④（各教科 その１）
14回 模擬授業⑤（各教科 その２）
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習１　【昼】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

教育実習２ 【昼】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回	； オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 ２回	； 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 ３回	； 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 ４回	； 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
第 ５回	； 実習校実習②	【教育実習指導】
第 ６回	； 実習校実習③	【教育実習指導】
第 ７回	； 実習校実習④	【教育実習指導】
第 ８回	； 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 ９回	； 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第１０回	； 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第１１回	； 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第１２回	； 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第１３回	； 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第１４回	； 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第１５回	； 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【昼】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回 ； 実習校実習① 【教育実習指導】
第 ２回 ； 実習校実習② 【教育実習指導】
第 ３回 ； 実習校実習③ 【教育実習指導】
第 ４回 ； 実習校実習④ 【教育実習指導】
第 ５回 ； 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
第 ６回 ； 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
第 ７回 ； 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
第 ８回 ； 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
第 ９回 ； 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
第１０回 ； 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
第１１回 ； 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
第１２回 ； 実習校実習⑫ 【教育実習指導】
第１３回 ； 実習校実習⑬ 【教育実習指導】
第１４回 ； 実習校実習⑭ 【教育実習指導】
第１５回 ； 実習校実習⑮ 【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修（教育実習の時間数の単位換算のため）。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教育心理学 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。
　とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習することを通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を持てること」を目標とする。
　講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書　/Textbooks

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：なぜ教育心理学を学ぶのか　教育を心理学で考える
第３回：記憶に関する理論　認知心理学の理論
第４回：学習とは何か　教えて考えさせるということ
第５回：学習の理論　学習心理学・発達心理学の理論
第６回：子どもの発達を考える　発達心理学の理論
第７回：学習意欲とは何か　学習意欲の構造論から
第８回：子どもをいかに評価するか　学習意欲の観点から
第９回：「学力」について考える　学習意欲と態度
第１０回：教育測定・評価（１）　評価の尺度について
第１１回：教育測定・評価（２）　教師の視点と生徒の視点
第１２回：学校カウンセリング　スクールカウンセラーの役割
第１３回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
第１４回：学習の方法と意欲　学習方略の理論
第１５回：まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ２０％
講義でのミニレポート・・・ ３０％
最終試験・・・ ５０％

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：簡易レポート・授業で扱うプリントについて、その都度指示をする。

事後学習：講義内で学んだ心理学的手法について学校現場の課題や実践と関連して考えるよう、都度指示を出す。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード　/Keywords

障害児の心理と指導 【昼】

担当者名 /Instructor　税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：障害児の心理と指導について
第２回　障害の概念とノーマライゼーション
第３回　人々の障害者観：障害をどう捉えるか
第４回　障害の重積・深化の過程と発達援助
第５回　視覚障害について
第６回　聴覚障害について
第７回　姿勢・運動の障害について
第８回　知的障害について
第０回　障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
第10回　自閉症スペクトラムについて
第11回　注意欠陥多動性障害について
第12回　学習障害について
第13回　青年期以降に診断される障害について
第14回　障害児・者への地域支援の在り方
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくること。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育社会学 【昼】

担当者名 /Instructor	作田　誠一郎 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	集中	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。
・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

I.イリッチ,東洋・ 小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・ J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・ 熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・ 山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・ 伊藤茂樹，2010，『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター
酒井朗・ 多賀太・ 中村高康編著，2012，『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育社会学の対象と方法
第３回：子どもの社会化と家族・ 学校
第４回：学校という組織
第５回：学校社会と生徒文化
第６回：学校社会と教師文化
第７回：文化的再生産論にみる学校社会
第８回：少年非行と逸脱理論（１）–アノミー論と文化的接触理論
第９回：少年非行と逸脱理論（２）–コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会化　近代教育制度　学校文化　文化的再生産　教育改革

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor　弓野　勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

○人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。
　文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
○教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研き、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
○「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書　/Textbooks

○「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論 【昼】

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造
第1回　「体罰」と人権
○ 教育現場の体罰の実態。
○ 体罰のない学校を創るため、懲戒・ 体罰・ 正当防衛を正しく理解する。
第2回　「いじめ問題」と人権①
○「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、
教育内容の創造の道筋を考える。
第3回「　いじめ問題」と人権②
○ 文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
○ いじめ認知調査「レジリエンス」（自己回復力）
第4回　文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
「人権が尊重される授業づくり」「自尊感情と学習理解力・ 人権意識の相関関係」
「全国学力テストの結果の分析と課題」
第5回　②人間関係づくり。なかまづくり。
「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」
第6回　③教育環境、雰囲気づくり
「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」
第7回　④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。
「人権教育の技能・ スキル・ 態度」「アサーティブな表現を研く」
「金子みすずの詩と東京大学入試問題」
第8回　個別の人権課題に学ぶ①
○発達障害と子どもの人権
第9回　個別の人権課題に学ぶ②
○「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業
第10回　①近世の文学者の人権感覚に学ぶ
○一茶・ 蕪村・ 芭蕉の俳句から学ぶ。
②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
○「腑分け」の主人公
第11回　③現代の社会問題としての同和問題の起こり（成立）について学ぶ
○明治時代～大正時代～昭和時代
「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」
第12回　○「水平社宣言と水平社の結成」
「竹田の子守唄と少女たちの叫び」
第13回　○「結婚差別」（２人の若者の遺書）
「憲法14条・ 24条」「人権意識調査」から考える。
第14回　○「教科書無償運動と親たちの願い」
「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」
第15回　○同和問題解決への国の施策
「同和対策審議会・ 答申～同和対策事業特別措置法」
○「部落差別の解消の推進に関する法律」について
○法律制定の経緯と意義。
○部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点」

成績評価の方法　/Assessment Method

○毎時間の「受講票」「定期的な小テスト（レポート）」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
○「受講票」は「質問・ 意見・ 理解内容」を記入し提出。
○評価の割合は「テスト」（60％）、「受講票」（20％）、「小テスト（レポート）」（20％）です。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

○この授業科目の単位（2単位、週90分授業）を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
○基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
○テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
○「小テスト、レポート（100字以内）」は、事前に予告します。
「レポート用紙」は、事前に配布します。
○自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意　/Remarks

人権教育論 【昼】

教職に関する科目
選択科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生涯学習学 【昼】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
○　雑誌『月刊　社会教育』国土社
○雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
○雑誌『月刊　公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回生涯学習・社会教育の意義
第2回　生涯学習ボランティア　–学習への支援と学習成果の活用–
第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
第4回社会教育施設と生涯学習施設　–管理運営と連携–
第5回生涯学習関連施策の動向　–社会教育の歴史と発展–
第6回学習者の特性と学習の継続発展–学習相談、サービス、学習情報の提供
第7回社会教育の内容・方法・形態–学級・講座の企画
第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
第9回社会教育施設–公民館
第10回社会教育施設–博物館
第11回社会教育施設–図書館
第12回大都市における公民館–北九州市　–自治体行財政制度と施策立案・推進–
第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
第14回成人教育の国際的動向　–日本の特質と学習権–
第15回住民の力量形成と地域づくり　–家庭教育・学校教育・社会教育の連携–

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート…７０％　課題レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　序(1)：ことばの不思議
第2回　序(2)：ことばの習得
第3回　ことばの単位(1)：音韻
第4回　連濁
第5回　鼻濁音
第6回　ことばの単位(2)：語
第7回　語の基本：なりたち・構造・意味
第8回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第9回　ことばの単位(3)：文
第10回　動詞の自他
第11回　日本語と英語の受動態
第12回　数量詞
第13回　時制と相：方言比較
第14回　ことばと脳：言語野と他の領域
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度…10%　課題…30%　期末試験…60%

ことばの科学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要　/Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示する。

国際学入門 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
○ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
○ホルクハイマー / アドルノ『啓蒙の弁証法––哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
○ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
○ハンナ・アレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　近代とは何か【概説】
３回　近代の勃興【ガリレイと科学革命】
４回　生活世界の概念（１）【フッサールの科学批判】
５回　生活世界の概念（２）【ハイデガーの世界論】
６回　生活世界の変容（１）【機械化の進行】
７回　生活世界の変容（２）【近代産業社会】
８回　確認テスト
９回　生活世界の変容（３）【戦争の美学】
１０回　生活世界の変容（４）【政治の美学】
１１回　生活世界の変容（５）【ホロコースト】
１２回　生活世界の変容（６）【全体主義と思考能力】
１３回　生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
１４回　古代世界の公共空間（１）【ギリシャ概説】
１５回　古代世界の公共空間（２）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…50%　　学期末試験…50%
（第８回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。）

生活世界の哲学 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード　/Keywords

科学技術　生活世界　活動　ポリス

日本の防衛 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促し

本年度は特に「平和安全法制」について力点を入れて解説する。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識･理解の獲得、②課題発見･分析･解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　安全保障と防衛(1)
　安全保障を学ぶことの重要性、
第3回　安全保障と防衛(2)
　安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
第4回　安全保障と防衛(2)
　脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
第5回　日本の安全保障(1)
　安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
第6回　日本の安全保障(2)
　安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献)
第7回　日本の防衛(1)
　防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
第8回　日本の防衛(2)
　海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
第9回　日本の防衛(3)
　平和安全法制の概要
第10回　日本の防衛(4)
　平和安全法制の論点
第11回　日本の脅威(1)
　北朝鮮の脅威①　兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
第12回　日本の脅威(2)
　北朝鮮の脅威②　弾道ミサイル及び大量破壊兵器
第13回　日本の脅威(3)
　中国海空軍の脅威①　中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
第14回　日本の脅威(4)
　中国海空軍の脅威②　中国軍の戦略と行動
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてくだい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生命と環境 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2015年（羊土社）3024円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1890円
宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）903円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（日高・中尾）
２回　自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）　【物質の単位】【自然科学】
３回　自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）　【元素】【原子】【超新星爆発】
４回　自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）　【DNA】【タンパク質】
５回　生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）　【種】【学名】【系統樹】
６回　生物の多様性（２）単細胞生物と多細胞生物（日高）　【細胞膜】【共生説】
７回　生物の多様性（３）生態系と進化（日高）　【食物連鎖】【絶滅】【進化】
８回　遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）　【突然変異】【遺伝学】
９回　遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）　【有性生殖】【減数分裂】
１０回　遺伝子の多様性（３）多様な生命の紹介（外部講師）
１１回　科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）　【血液型】【星座】
１２回　科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）　【太陽活動】【地球温暖化問題】
１３回　科学的な方法とは（３）人類の起源を調べるには（日高）【ミトコンドリア】
１４回　関連ビデオ鑑賞（日高）
１５回　質疑応答とまとめ（日高）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題４０％、期末テスト６０％

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は参考書を入手し、授業に備えること。
・ ２学期開講「人間と生命」を合わせて受講すると理解がより深まるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

情報社会への招待 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，情報社会を総合的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎として，変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの １【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの ２【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウエア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

情報社会への招待 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 75%
日常の授業への取り組み … 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って，授業の資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，授業中に配布した課題プリントを持ち帰って，次回の授業時に提出したり，北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

環境問題概論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

地球の生いたち 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　長井　孝一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地球の生いたち	G0L001F

授業の概要　/Course Description

我々の住む地球は太陽系の第３惑星として，今から約４６億年前に誕生した。その４６億年の地球史の中で，大地や海，大気が形成され，地球生命が誕生し，さらに，そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約３８億年前に誕生し，長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今，地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として，その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在，我々はこれまでにも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では，地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず，プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会），1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店），861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）,1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回目：イントロダクション-- 地球の歴史の表し方　【地質時代と絶対年代】
２回目：生きている地球１ 【地球惑星の構成としくみ】
３回目：生きている地球２ 【ウェゲナーと大陸移動説】
４回目：生きている地球３ 【プレートテクトニクストとプルームテクトニクス】
５回目：地球惑星の起源と進化 【水の惑星の誕生】
６回目：地球地球史を記録する地層と化石１　【地層（堆積岩）の種類と生成のしくみ】
７回目：地球地球史を記録する地層と化石２　【化石の種類と形成過程、化石観の変遷】
８回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史 【生物圏の通史】
９回目：目に見えない生物の長い長い時代 【先カンブリア時代】
１０，１１回目：生物進化史上最大の事変 【カンブリア爆発】
　　１０回目：カンブリア爆発の特徴と原因
　　１１回目：カンブリア爆発の生物進化史上の意義
１２回目：繰り返す大量絶滅１【ペルム紀（古生代）末の大量絶滅】
１３回目：繰り返す大量絶滅２ 【白亜紀（中生代）末の大量絶滅】
１４回目：人類の起源と進化 【人類の変遷】
１５回目：まとめと演習 【人間圏の成立と地球環境問題】

地球の生いたち 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し，授業の内容を復習すること。また，シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない，可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて，授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意　/Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して，地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード　/Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

思想と現代 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊原木　大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

思想と現代	PHR004F

授業の概要　/Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、現代の人間と思想との関係を総合的に理解し、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書　/Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『哲学の歴史　第９巻--反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
○『哲学の歴史　第１２巻--実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
○小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション
２回　実存の思想（１）【概説】
３回　実存の思想（２）【キルケゴール】
４回　実存の思想（３）【ハイデガー】
５回　実存の思想（４）【サルトル】
６回　実存の思想（５）【メルロ=ポンティ】
７回　実存の思想（６）【補足】
８回　確認テスト
９回　精神分析の思想（１）【前期フロイト】
１０回　精神分析の思想（２）【後期フロイト】
１１回　精神分析の思想（３）【フロイト以後】
１２回　フェミニズムの思想（１）【第一波～第二派】
１３回　フェミニズムの思想（２）【日本のウーマン・リブ】
１４回　フェミニズムの思想（３）【フレンチ・フェミニズム】
１５回　フェミニズムの思想（４）【クイア】

成績評価の方法　/Assessment Method

確認テスト…５０％　　期末テスト…５０％
（※第８回に予定している確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代 【夜】

履修上の注意　/Remarks

第８回に確認テスト（第３回～第７回が試験範囲）を実施するので、受講希望者は遅くとも第３週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則として、このテストを受験していない者には単位を認めない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気･ 就活･ 実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の４年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

民主主義とは何か 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　中道　壽一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の３つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運 動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、１９３８年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。
そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書　/Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○Ｊ・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
第１回　はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
第２回　「デモス」と「クラティア」について
第３回　二つの民主主義伝統について
第４回　近代市民革命と自由民主主義について
第５回　現代民主主義の理論の比較・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第６回　現代民主主義の理論の比較・・参加民主主義論、共生の民主主義論
第７回　現代民主主義の理論の比較・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第８回　まとめのグループ討論、グループ発表
第９回　民主主義の運動（組織）について・・１９８９年の東欧革命、１９６８年の「青年の反乱」の日独比較
第１０回　民主主義の運動（組織）について・・１９３８年の日独青少年交歓事業について
第１１回　民主主義の制度について・・議院内閣制と大統領制の比較
第１２回　議院内閣制民主主義の諸問題について
第１３回　大統領制民主主義の諸問題について
第１４回　民主主義制度の比較のまとめ・・首相公選制について
第１５回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。
日常の授業への取り組み　２０％
小テスト　１０％
レポート（任意）　２０％
定期試験　５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布した講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）の当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書く留めた穴埋め個所を中心に復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、
国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。
多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。
毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失しないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落したら、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

人権論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。
その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標
１．人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
２．人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
３．現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
４．自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。
※５～１４については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心をもち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
一定の出席をした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
授業中に不正（代筆、代返を含む）を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのかーそのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ–女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　日本語とジェンダー–戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
２回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学–村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
３回　現代アートとジェンダー–映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
４回　男もつらいよ–アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
５回　ジェンダー家族を超えて–週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
６回　セクシュアリティを考える–あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
７回　学校教育の今昔–学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
８回　社会保障とジェンダー–津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
９回　ジェンダーの視点からみる農業–エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
１０回　アジア現代女性史の試み–ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
１１回　女性差別撤廃条約と人権–絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
１２回　ジェンダーと平和学–女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
１３回　グローバリゼーションと労働市場–国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
１４回　デートDV–TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス（DV）】
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言…25%、プレゼン…25%、レポート…25%、期末試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

社会調査 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		

社会調査	SOC003F

授業の概要　/Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書　/Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
○『ガイドブック社会調査（第２版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　何のための社会調査か
第２回　量的調査と質的調査
第３回　調査と研究の進め方
第４回　社会調査を企画する
第５回　ワーディング（１）【質問文の作成】
第６回　ワーディング（２）【選択肢の作成】
第７回　調査票の構成
第８回　サンプリングの考え方
第９回　サンプリングの方法
第10回　実査の準備
第11回　データファイルの作成（実習）１【入力フォームの作成】
第12回　データファイルの作成（実習）２【ＳＰＳＳファイルの作成とデータクリーニング】
第13回　データファイルの作成（実習）３【度数分布表の作成】
第14回　分布と統計量、クロス集計、相関係数
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…３０％　日常の授業への取り組み…１０％　レポート…６０％
（総合的に判断する。）

社会調査 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード　/Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

市民活動論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

企業と社会 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わる全ての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業観の変遷】【6つの企業観】
第2回「財・サービスの提供機関」としての企業①　【豊かな社会】【企業の財・サービスの生産活動】
第3回「財・サービスの提供機関」としての企業②　【製品戦略】【広告活動】【国際化】【社会への影響】
第4回「株式会社」としての企業①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第5回「株式会社」としての企業②　【株式会社の機能と構造】【株式会社の現実】
第6回「大企業」としての企業①　【大企業とは何か】【大企業の支配構造】
第7回「大企業」としての企業②　【大企業の性格の変化】【コーポレート・ガバナンス】
第8回2-7回のまとめ
第9回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象（１）　【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第10回「家」としての日本企業②　人事における日本企業特有の現象（２）　【日本的経営の組織原則】【企業別労働組合】
第11回「家」としての日本企業③　株式会社制度の運用における日本企業特有の現象【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第12回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第13回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第14回「社会的器官」としての日本企業　【社会的問題と企業】【転倒する企業と社会】【今後の企業のあり方】
第15回総括

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 50%　　中間テスト・・・ 30%　　レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

企業と社会 【夜】

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財・サービス、株式会社、大企業、家の論理、社会的器官

現代の国際情勢 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 大平　剛 / 国際関係学科 北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 白石　麻保 / 中国学科 松田　智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 山本　直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科 アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書　/Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　尹明憲　オリエンテーション
第2回　　アダム・ヘイルズ　演劇とインターナショナリズム　【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】【協力】
第３回　　アーノルド・ウェイン　The Role of Public Spaces in New York City　【urban space】【parks】【recreation】【enjoyment】【renovation】
第４回　　大平　　変容するアジア情勢と日本の国際協力（１）中国ファクター
第５回　　大平　　変容するアジア情勢と日本の国際協力（２）日本の安全保障戦略
第６回　　北　　現代アメリカ合衆国の社会（１）　【人種】
第７回　　北　　現代アメリカ合衆国の社会（２）　【移民】
第８回　　白石　　中国の持続的発展の可能性　【経済成長・SNA・投資】
第９回　　松田　　総合商社と海外プロジェクト　【プロジェクトファイナンス・世界銀行】
第１０回　山本　　ヨーロッパの危機（１）　【地域主義】【民主主義】
第１１回　山本　　ヨーロッパの危機（２）　【ユーロ】【難民】
第１２回　尹　　在日外国人と多文化共生　【在日コリアン】【ニューカマー】
第１３回　尹　　在日外国人と多文化共生　【ヘイトスピーチ】【多文化共生】
第１４回　尹　　東アジアの経済事情（１）【地域的特徴】【経済関係】
第１５回　尹　　東アジアの経済事情（２）【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　（8回）100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従って学習を進める。

現代の国際情勢 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

開発と統治 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治	IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションが刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ（明石書店）、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 「開発と統治」をはじめるにあたって 担当：三宅
第２回 民主化問題を考える視座（１） 【民主化問題】 担当：伊野
第３回 民主化問題を考える視座（２） 担当：伊野
第４回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐって 【ミャンマー】 担当：伊野
第５回 世界と日本のフードバンク 【フードバンク】 担当：原田正樹・三宅
第６回 NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？ 【ライフアゲイン】 担当：原田・三宅
第７回 子ども食堂「もがるか」の運営と取り巻く人々 【子ども食堂】 担当：原田・三宅
第８回 フードバンク運動参加の学生の取組みと討論 【学生】 担当：原田・三宅
第９回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
第10回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあてて 【米国】 担当：申
第11回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
第12回 グループワーク「会社を作る」を通してのガバナンスの理解 【グループワーク】 担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念を考える 担当：三宅・伊野・申
第15回まとめ～ガバナンスに関してのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度…30% 小課題の提出…20 % 試験…50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、マスメディアに見られる「ガバナンス」に関する情報を収集しておき、自らのガバナンス概念を考えておく。事後学習は、授業で習ったそれぞれの「ガバナンス」概念・説をノートに整理しておく。最後のグループワークで活かす。

開発と統治 【夜】

履修上の注意　/Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード　/Keywords

ガバナンス　ミャンマー　民主主義　フードバンク　韓国　米国　地域社会　子ども会　グループワーク

国際紛争と国連 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

国際紛争と国連	IRL005F

授業の概要　/Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書　/Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考書　財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）。
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　コースガイダンス
第2回　国連情報へのアクセス方法　【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
第3回　国連を知る①【国連　1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
第4回　国連を知る②【国連　1990's-】【冷戦後の国連】
第5回　紛争を知る　【難民】【発生国】【受入国】
第6回　国際紛争を見る分析軸　【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
第7回　国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム　【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
第8回　国連による平和の創出②：平和創造　【事務総長による周旋】【The Team】
第9回　国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開　【6章半の活動】【PKO原則】
第10回　国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化　【多機能化】【キャップストーン報告】
第11回　国連による平和の強制①：決定プロセス　【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
第12回　国連による平和の強制②：実施上の課題　【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
第13回　国連による持続的平和の定着　【平和構築】【平和構築委員会】
第14回　国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国　【財政的貢献】【人的貢献】
第15回　まとめ

国際紛争と国連 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
　　課題等への対応…30%　学期末試験…70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

３つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際紛争】　【国連】　【平和創出】　【平和維持】　【平和強制】　【平和構築】

歴史の読み方I 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　赤司　友徳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史の読み方Ⅰ	HIS004F

授業の概要　/Course Description

後藤新平（1857-1929）は医師、内務省衛生官僚、台湾総督府民政長官、満鉄総裁、逓信大臣、内務大臣、外務大臣、東京市長、帝都復興院総裁などを歴任し、多彩な経歴を持つ人物である。後藤は入念な調査と分析に基づく、経費積算、計画立案を行うという科学的視点を重視し、「科学的政治家」などと評された。
本講義では、後藤の「科学」に着目し、彼が関わった行政・政治・外交の重要な局面において、その科学的視点がどのように活かされたのかを読み解く。またそれらの歴史的転換点において、後藤と関わった著名人の史料もあわせて読みながら、史料に基づいた歴史学的な考え方を身につけることを目標とする。

教科書　/Textbooks

なし。毎回レジュメを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○鶴見祐輔『後藤新平』全4巻、勁草書房、1965～67年〔復刻版〕
○北岡伸一『後藤新平』中央公論社、1988年
鶴見祐輔『決定版　正伝・後藤新平』全8巻、藤原書店、2004～2007年
この他は講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　愛知県病院長兼医学校長時代：自由党異変【板垣退助】、健康警察医官設置之建白書
第3回　内務省衛生局時代：『国家衛生原理』、万国衛生会議、【北里柴三郎】
第4回　内務省衛生局長時代（１）：「医師免許規則改正法案」、伝染病研究所設置問題【北里柴三郎、福沢諭吉】
第5回　内務省衛生局長時代（２）：『陸軍検疫部報告書』【児玉源太郎】
第6回　内務省衛生局長時代（３）：「台湾阿片二関スル意見」【伊藤博文】【桂太郎】
第7回　台湾民政長官時代：台湾公債事業【児玉源太郎】【新渡戸稲造】
第8回　南満州鉄道総裁時代：「満州経営作梗概」、【原敬】
第9回　国務大臣時代（１）：【桂太郎】【西園寺公望】【山本権兵衛】
第10回　国務大臣時代（２）：【水野錬太郎】、シベリア出兵
第11回　第一次世界大戦後の欧米遍歴時代：【新渡戸稲造】【原敬】
第12回　東京市長時代：「大調査機関設置構想」【原敬】、東京市政調査会【安田善次郎】
第13回　在野時代：対ヨッフェ交渉
第14回　国務大臣時代（３）：関東大震災と帝都復興
第15回　まとめ

※【　】の人名は、後藤新平以外に取り上げる史料の作成者

歴史の読み方I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験（80％）と平常点（授業への参加態度、コメント等で20％）で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回授業の終わりに、次回使用する史料を配付するので、よく読んで予習をしておくこと。また授業の中で参考文献を紹介するので、各自で調べて、予習や復習に活用すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

そのとき世界は 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

そのとき世界は	HIS002F

授業の概要　/Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、その時々の世界情勢と東南アジア・ミャンマーの状況を対比させながら考えていく。

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション。
第２回：ミャンマー概説１（風土、文化）。
第３回：ミャンマー概説２（社会）。
第４回：１９３０年代の世界。
第５回：１９３０年代のミャンマー。
第６回：1930年農民大反乱。
第７回：第２次世界大戦と世界。
第８回：第２次世界大戦とミャンマー。
第９回：1960年代の世界。
第１０回：1960年代のミャンマー。
第１１回：1980年代の世界。
第１２回：1980年代のミャンマー
第１３回：現代のミャンマー。
第１４回：民主化のゆくえ。
第１５回：まとめ。
第１５回：質問日。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

履修上の注意　/Remarks

世界情勢についても随時言及するが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

そのとき世界は 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「祖父母の生きた時代」「世界とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　山﨑　勇治 / 北方キャンパス　非常勤講師, 新村　昭雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

人物と時代の歴史	HIS001F

授業の概要　/Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
　なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
　二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。
まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、３代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
　さらに、大英帝国の後を継いで１００年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第３代ジェファーソン大統領、第７代ジャクソン大統領、第１６代リンカン大統領、第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山﨑は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の２人について人物と時代を語る。その際、２人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。
　２１世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第１主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。
　イギリスでは１昨年からのＥＵ離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なＥＵ離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればＥＵ存続にも影響を与えかねない。
　こうした背景も視野に入れながら、第２次世界大戦後に果たした世界のアメリから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にＥＵ（ヨーロッパ連合）の形成過程において３度もＥＥＣ（とＥＣ）に申請してやっと認められたイギリスがなぜＥＵから出て行くと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書　/Textbooks

資料を配付します。（新村）

口述講義。その際資料を配布する。（山﨑）

人物と時代の歴史 【夜】

参考書(図書館蔵書には ◯) /References (Available in the library: ◯)

新渡戸稲造『武士道』（ＢＵＳＨＩＤＯ）
○藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
○中村彰彦『保科正之』（中公新書）
『歴代アメリカ大統領」（ブティック社）

毎日の新聞（朝日、毎日、読売などどの新聞でも良い）を購読のこと。（山﨑）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
（新村）
第1回　「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回　【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回　【３・１１東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回　乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回　聖徳太子（厩戸皇子）と【飛鳥・奈良時代】
第6回　アメリカ大統領I（初代ワシントン大統領、３代ジェファーソン大統領、７代ジャクソン大統領、１６代リンカン大統領）【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回　アメリカ大統領II（第２６代セオドール・ルーズベルト大統領、第３２代フランクリン・ルーズベルト大統領、第３５代J・F・ケネディ大統領、第４４代バラク・フセイン・Obama大統領）第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

（山﨑）
第8回　２１世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケ　　ル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
第9回　イギリスとＥＵの関係について
第10回　キャメロン首相と国民投票
第11回　なせＥＵ離脱派の投票率がが残留派より多かったのか
第12回　トランプ候補とクリントン候補との争点とは何かー
第13回　トランプ候補が勝利した理由
第14回　トランプ大統領は何を目指しているのか–グローバル経済はどんな影響を受けるのか
第15回　総まとめーレポート提出の要件、提出締切日などの説明–

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70％）と平常の学習状況（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ ヘルスI 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・ スキル科目

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスＩ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　メンタルヘルスに関する基礎知識（１）【日本における現状と課題】
第3回　メンタルヘルスに関する基礎知識（２）【問題の種類】
第4回　メンタルヘルスに関する基礎知識（３）【よくある誤解】
第5回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【子ども】
第6回　ライフサイクルとメンタルヘルス（２）【大人】
第7回　精神と行動の異変（１）【精神症状】
第8回　精神と行動の異変（２）【精神疾患①】
第9回　精神と行動の異変（３）【精神疾患②】
第10回　精神と行動の異変（４）【子どものころから現れやすい問題】
第11回　セルフケア①【ストレスの仕組み】
第12回　セルフケア②【ストレスマネジメント】
第13回　セルフケア③【相談の有用性】
第14回　セルフケア④【ソーシャルサポート】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

メンタル・ヘルスI 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰しも精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード　/Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスII 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅡ	HSS002F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　（講義）運動と身体の健康
３回　（実習）仲間づくりを意図したウォーミングアップ
４回　（実習）運動強度測定
５回　（講義）運動の効果（精神的側面）
６回　（実習）ウエイトトレーニングのやり方
７回　（実習）体脂肪を減らすトレーニング
８回　（実習）テーピングによる簡単な予防法
９回　運動の効果（身体的側面）
１０回　（実習）レクリエーションスポーツ①（ペタンク・インディアカ）
１１回　（実習）レクリエーションスポーツ②（風船バレー）
１２回　（実習）レクリエーションスポーツ③（アルティメット）
１３回　（講義）運動の効果（社会的側面）
１４回　これからのスポーツ
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。また講義の場合には、講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。実技のときには、その内容を無理のない程度で、自宅で試してみる。

フィジカル・ヘルスII 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード　/Keywords

フィジカル･エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・ スキル科目

担当者名 /Instructor　徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・ 栄養・ 休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・ 知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（３）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（４）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル･エクササイズI（バドミントン）【夜】

履修上の注意　/Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

データ処理 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要　/Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・ 分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書　/Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　本学の情報システム利用環境について 【ID】 【パスワード】 【ポータルサイト】【北方Moodle】
２回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法 【タイピング】 【電子メール】
３回　ネットワークの光と影１ 【情報倫理】 【セキュリティ】
４回　ネットワークの光と影２ 【著作権】 【個人情報保護】
５回　表作成の基本操作 【セル】 【書式】 【罫線】 【数式】 【合計】
６回　見やすい表の作成 【列幅】 【結合】 【ページレイアウト】 【印刷】
７回　関数を活用した集計表 【セルの参照】 【平均】
８回　グラフ作成の基礎 【グラフ】
９回　グラフ作成の応用 【目的に合ったグラフ】 【複合グラフ】
１０回　表・ グラフ作成演習
１１回　データ処理の基礎 【散布図】 【相関】
１２回　データ処理演習１ 【データ処理の計画】
１３回　データ処理演習２ 【データ処理の実践】
１４回　データ処理演習３ 【データ処理手法の見直し】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) … 50%

データ処理 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現 【夜】

担当者名 /Instructor　浅羽　修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。

情報表現	INF230F

授業の概要　/Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書　/Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　コンピュータを用いた情報表現 【ガイダンス】
２回　データの収集 【検索エンジン】 【情報の信頼性】
３回　データの加工 【表計算の復習】 【グラフ】 【チャート】
４回　データの表現 【レイアウト】 【デザイン】
５回　論理的な思考法の基礎１ 【課題発見】
６回　論理的な思考法の基礎２ 【原因分析】 【解決手段検討】
７回　プレゼンテーション作成演習
８回　個人発表
９回　個人発表とふりかえり
１０回　グループによる発表テーマ設定
１１回　グループによるスライド作成演習
１２回　発表配布資料作成演習
１３回　グループによる発表
１４回　グループによる発表と相互評価
１５回　まとめ

情報表現 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題… 90% 、積極的な授業参加 … 10%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意　/Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ ラーニングを導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード　/Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

法学総論 【夜】

担当者名 /Instructor　山口　亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論	LAW100M

授業の概要　/Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
１．社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
２．こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書　/Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成29年版』(有斐閣・2016年)
※ 基本的に配布するレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書：○)
笹倉秀夫『法学講義』(東京大学出版会・2014年)(図書館蔵書：○)
※ このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

・第1回　ガイダンス
・第2回　法とは何か（１）【法の存在形式】
・第3回　法とは何か（２）【法と道徳】【法と正義】
・第4回　法とは何か（３）【法と強制】【法の機能】
・第5回　裁判と法（１）【裁判制度と裁判手続】
・第6回　裁判と法（２）【法の解釈】
・第7回　裁判と法（３）【国民の司法参加】
・第8回　国家と法（１）【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
・第9回　国家と法（２）【日本国憲法の基本構造】
・第10回　刑事法【刑法の基本原理】【犯罪と法】
・第11回　民事法（１）【財産と法】【契約の主体と客体】
・第12回　民事法（２）【家族関係と法】
・第13回　資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
・第14回　国際社会と法【国際法の諸原則】
・第15回　講義のまとめ
※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法　/Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
１．平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30％）
２．講義全体の内容についての期末テスト（全体の70％）

法学総論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

【諸注意】
・受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
・質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

憲法人権論 【夜】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論	LAW220M

授業の概要　/Course Description

憲法学の中の、人権論と呼ばれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が憲法上の権利として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書　/Textbooks

安藤高行編『新･エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○浦部法穂『憲法学教室　第3版』（日本評論社、2016年）
○芦部信喜『憲法　第6版』（岩波書店、2015年）
○長谷部恭男『憲法　第6版』（新世社、2014年）
○野中俊彦ほか『憲法I　第5版』『憲法II　第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　人権思想史–人権と憲法上の権利
第2回　憲法上の権利の類型
第3回　権利の享有主体
第4回　制約原理–公共の福祉
第5回　幸福追求権
第6回　平等権
第7回　思想･ 良心の自由と表現の自由①
第8回　思想･ 良心の自由と表現の自由②
第9回　信教の自由①
第10回　信教の自由②–政教分離原則
第11回　職業選択の自由と財産権
第12回　受益権
第13回　社会権①
第14回　社会権②
第15回　参政権

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100%）。

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

憲法人権論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

「日本国憲法原論」を予め履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

基本的人権　憲法上の権利

行政法総論 【夜】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論	LAW121M

授業の概要　/Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、行政法とは
第2回　行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
第3回　行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
第4回　行政組織(1)【行政組織の概念】
第5回　行政組織(2)【国、地方の行政組織】
第6回　行政立法(1)【法規命令】
第7回　行政立法(2)【行政規則】
第8回　行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
第9回　行政行為(2)【行政行為の効力】
第10回　行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
第11回　行政行為(4)【職権取消しと撤回】
第12回　行政行為(5)【行政行為の附款】
第13回　行政裁量(1)【行政裁量の概念】
第14回　行政裁量(2)【裁量の所在】
第15回　行政裁量(3)【裁量審査】
第16回　行政契約
第17回　行政指導
第18回　行政計画
第19回　行政の義務履行確保(1)【行政上の強制執行】
第20回　行政の義務履行確保(2)【行政罰】
第21回　即時強制と行政調査
第22回　行政手続(1)【行政手続の意義】
第23回　行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
第24回　行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
第25回　行政情報(1)【情報公開制度】
第26回　行政情報(2)【情報公開争訟】
第27回　行政情報(3)【個人情報保護制度】
第28回　公法と私法
第29回　進度調整
第30回　まとめ

行政法総論 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会法総論 【夜】

担当者名 /Instructor　石田　信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論	LAW140M

授業の概要　/Course Description

現代社会では、大学卒業後あるいは高校卒業後に何らかの仕事に就いて生計を立てることになる人が多く、仕事を取り巻く法規制をどのように考えるかが重要な問題となっています。本講義では、仕事にかかわる法規制（労働法）、失業期間中の所得保障や仕事から引退した後の所得保障に関する法規制（社会保障法）の基本的な仕組みを理解することに主眼に置きつつ、仕事にかかわる法規制がなぜ必要なのか、憲法や民法といった基本法が労働法や社会保障法といった先端法学とどのように関わっているか等を学びます。

教科書　/Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　社会法とは――市場、契約、資本主義とSocialism
2　社会法とは――雇用、所得、社会保障
3　雇用への編入――男女差別、障害差別、年齢差別
4　最低限度の労働条件
5　労働組合への加入
6　キャリアの展開と人事異動
7　職務発明
8　育児、介護と労働市場
9　解雇と失業保険
１０　雇用関係の脱統合化
１１　生活保護
１２　格差社会と社会法の再編
１３　引退と公的年金
１４　社会法は必要か？
１５　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（100%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会法総論 【夜】

キーワード　/Keywords

会社法I 【夜】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅰ	LAW270M

授業の概要　/Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書　/Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　会社法総論（１）【個人企業】【組合】【法人】
３回　会社法総論（２）【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
４回　会社法総論（３）【株式会社の基本構造】
５回　株式会社の設立
６回　株式と株主の権利
７回　株式会社の機関（１）【株主総会】
８回　株式会社の機関（２）【取締役】【取締役会】
９回　株式会社の機関（３）【代表取締役】
１０回　株式会社の機関（４）【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
１１回　株式会社の機関（５）【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
１２回　株式会社の機関（６）【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
１３回　株式会社の機関（７）【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
１４回　株式会社の機関（８）【役員等の第三者に対する責任】
１５回　まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分（民法総則、債権法等）、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく（又は同時受講する）と効果的に学習できると思います。

会社法I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

会社法II 【夜】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ	LAW271M

授業の概要　/Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書　/Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　株式会社の資金調達（１）【株式の種類】
３回　株式会社の資金調達（２）【株式の発行】
４回　株式会社の資金調達（３）【株式発行の瑕疵】
５回　株式会社の資金調達（４）【株式の譲渡】
６回　株式会社の資金調達（５）【自己株式】
７回　株式会社の資金調達（６）【新株予約権】
８回　株式会社の資金調達（７）【新株予約権発行の瑕疵】
９回　株式会社の計算（１）【貸借対照表】【損益計算書】
１０回　株式会社の計算（２）【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
１１回　株式会社の解散・清算
１２回　株式会社の組織再編（１）【概要】【合併】
１３回　株式会社の組織再編（２）【会社分割】【事業譲渡】
１４回　株式会社の組織再編（３）【株式交換】【株式移転】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分（民法総則、債権法等）、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく（又は同時受講する）と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

会社法II 【夜】

キーワード　/Keywords

ＮＰＯ論 【夜】

担当者名 /Instructor	楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科 狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・ＮＰＯとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論	PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかというと必ずしもそうとはいえないのではないでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

＊本年から『北九州NPOハンドブック(第６版)』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○楢原真二編集代表『北九州ＮＰＯハンドブック［第５版］』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論–理論と実証の最前線–』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 導入–講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
２回 NPOの基礎知識(1)
３回 第１回講演会
４回 NPOの基礎知識(2)
５回 第２回講演会
６回 福祉NPO(1)
７回 第３回講演会
８回 福祉NPO(2) –社会福祉法人
９回 第４回講演会
10回 環境NPO(1)
11回 第５回講演会
12回 環境NPO(2)
13回 第6回講演会
14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 … 50% レポート… 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

ＮＰＯ論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

第１回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ＮＰＯ、ＮＧＯ、福祉ＮＰＯ、アドボカシー、ミッション、寄付

地方自治論 【夜】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論	PAD211M

授業の概要　/Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書　/Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業のガイダンス
２回　地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
３回　自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】【主務大臣の包括的指揮監督権】
４回　自治体首長と中央地方関係②【首長と議会】【二元代表制】
５回　自治体首長と中央地方関係③【中央地方関係】
６回　縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
７回　縮小する地方財政の中で②【地方債】
８回　縮小する地方財政の中で②【ふるさと納税】
９回　合併の価値は①【市町村合併】
10回　合併の価値は②【自治体内分権】
11回　地域の戦い①　【外発型発展と内発型発展】【交流人口】【定住人口】
12回　地域の戦い②　【外発型発展】【原子力発電】
13回　地域の戦い③　【交流人口】【インバウンド】
14回　地域の戦い④　【アニメ聖地巡礼の事例比較考察】
15回　地域の戦い⑤　【定住人口】【婚活支援】【恋愛と結婚】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100%（試験といっても，講義で習得した知識のみならず，日頃からの政治行政に対する観察力，そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

地方自治論 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード　/Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

福祉政策論 【夜】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論	PLC217M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本的特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。毎回、Ｂ４のレジュメを配布するのでしっかりノートをとり、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「社会福祉の意味」
第２回　「社会福祉の行財政」　社会福祉の専門機関
第３回　「高齢者福祉と介護保険」　介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
第４回　「高齢者福祉と介護保険」　介護サービスと民間企業
第５回　「高齢者福祉と介護保険」　自治体間の保険料格差
第６回　「高齢者福祉と介護保険」　介護は社会化されたか？
第７回　「児童福祉」　児童福祉のサービス
第８回　「児童福祉」　保育所改革（公立保育所民営化など）
第９回　「児童福祉」　児童虐待
第１０回　「児童福祉」　男女共同参画をめぐる議論
第１１回　「障害者福祉」　障害の定義
第１２回　「障害者福祉」　障害者福祉のサービス
第１３回　「障害者福祉」　障害者の雇用
第１４回　「利用者保護制度」
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験・・・ 100%
毎回、出席をとります。欠席１回につき、期末試験得点から３点程度減点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
・ 第１回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード　/Keywords

特になし。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

担当者名 /Instructor　高崎　陽子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M

授業の概要　/Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史とともに変遷をたどってきた障害者施策を概観することと併せて、「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を読み解くことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び昨年４月に施行された「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への「合理的配慮」の意義と目的を理解する。
　その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書　/Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編　「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第５版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス　「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
第２回　障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
第３回　「障害」とはなにか。　「障害の概念と構造的理解」
第４回　障害福祉施策の変遷　「障害者権利条約に至るまでの歴史」
第５回　障害福祉に関する諸制度について　「法律における定義と制度利用との関連」
第６回　障害者総合支援法の理念と概要　「理念と目的、支給決定プロセス」
第７回　障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
第８回　障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
第９回　障害児に対する支援　「障害児福祉施策の経過と現状」
第１０回　障害のある人の「働きたい」を支える　「就労支援」
第１１回　障害のある人の権利を守るということ①　「障害者虐待防止法に関連して」
第１２回　障害のある人の権利を守るということ②　「障害者差別解消法に関連して」
第１３回　障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
第１４回　障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

試験：８０％　日常の授業への取り組み：２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前に予め教科書に目を通し疑問点を整理しておくこと。授業終了後には配布したプリントを復習しファイル化して反復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

履修上の注意　/Remarks

テレビ・ラジオ、新聞等のメディアや書籍に取り上げられる障害者に関する情報を意識的に収集すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ミクロ経済学I 【夜】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学 I	ECN112M

授業の概要　/Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書　/Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック　ミクロ経済学』新世社 (○)
・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
2回　【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
3回　需要、供給、および政府の施策 (１)：【価格規制】
4回　需要、供給、および政府の施策 (２)：【課税】
5回　市場と厚生 (１)：【余剰】
6回　市場と厚生 (２)：市場の【効率性】
7回　需給分析の応用 (１)：【価格規制の余剰分析】
8回　需給分析の応用 (２)：【課税の余剰分析】
9回　市場と企業行動(1):【生産】【費用】【長期と短期】
10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
11回 市場と企業行動(3):【利潤最大化】、供給曲線の導出
12回 様々な【市場構造】
13回 ミクロ経済学の展開 (１)：【市場メカニズムの限界】
14回 ミクロ経済学の展開 (２)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 課題・授業態度など　…　２０　%　　期末試験　…　８０　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートやを配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意　/Remarks

・「経済学入門Ａ・Ｂ」の授業内容を十分に理解しておくこと

ミクロ経済学I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 学生証を持参すること

キーワード　/Keywords

・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学Ⅱ	ECN210M

授業の概要　/Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）
・金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック　ミクロ経済学』新世社（○）
・J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション:　経済と経済分析手法
2回　ミクロ経済学と数学：微分・積分
3回　家計の理論【消費者行動の理論】（１）：消費と選好、効用
4回　家計の理論【消費者行動の理論】（２）：無差別曲線、予算線
5回　家計の理論【消費者行動の理論】（３）：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
6回　家計の理論【消費者行動の理論】（４）：需要の決定要因
7回　【消費者行動の理論】とその応用
8回　企業の理論【生産者行動の理論】（１）：企業の目的、生産、費用、利潤
9回　企業の理論【生産者行動の理論】（２）：等量曲線、等費用線
10回　企業の理論【生産者行動の理論】（３）：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
11回　【生産者行動の理論】とその応用
12回　市場と市場の効率性（１）：【パレート最適】
13回　市場と市場の効率性（２）：「厚生経済学」の基本的考え方
14回　ミクロ経済学再考、展開
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・課題・授業態度など　…　２０　%　　期末試験　…　８０　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートやを配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意　/Remarks

・新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておくこと

ミクロ経済学II 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 学生証を持参すること

キーワード　/Keywords

・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I	ECN113M

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（１）　【金融取引と金融市場】
３回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（２）　【株式の適正価値】
４回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（３）　【割引現在価値計算】
５回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（４）　【資産価格バブル】【投機的取引】
６回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（５）　【バブルと資源配分】
７回　GDPとマクロ経済循環（１）　【GDP】【付加価値】【最終財】
８回　GDPとマクロ経済循環（２）　【三面等価】【貯蓄投資バランス】
９回　GDPとマクロ経済循環（３）　【GDPデフレーター】
１０回　GDP決定理論（１）　【完全雇用GDP】【有効需要原理】
１１回　GDP決定理論（２）　【ベビーシッター組合の寓話】
１２回　GDP決定理論（３）　【消費関数】【45度線分析】
１３回　GDP決定理論（４）　【乗数効果】【節約のパラドックス】
１４回　GDP決定理論（５）　【外国貿易乗数】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…　100　%

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

マクロ経済学I 【夜】

キーワード　/Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学Ⅱ	ECN211M

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズ的な短期モデル（＝45度線モデルやIS-LMモデル）を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期モデルを説明し、物価や賃金が伸縮的に調整される経済においてケインズ的な短期モデルで成立した諸結果がどのように変化するか、一国の経済成長を規定する要因は何か、などを学ぶ。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　45度線モデル（１）　【有効需要原理】【均衡GDP】
３回　45度線モデル（２）　【政府支出乗数】【均衡予算乗数】【デフレギャップ】
４回　45度線モデル（３）　【ケインズ政策の問題点】
５回　流動性選好理論（１）　【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
６回　流動性選好理論（２）　【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
７回　流動性選好理論（３）　【中央銀行】【公開市場操作】
８回　流動性選好理論（４）　【信用創造】【貨幣乗数】
９回　IS-LMモデル（１）　【IS曲線】【LM曲線】
１０回　IS-LMモデル（２）　【財政政策】【金融政策】
１１回　新古典派マクロ経済学（１）【伸縮価格モデル】【貸付資金説】
１２回　新古典派マクロ経済学（２）【フィッシャー方程式】【貨幣の中立性】
１３回　新古典派マクロ経済学（３）【マクロ生産関数】【TFP】【資本労働比率】
１４回　新古典派マクロ経済学（４）【新古典派成長モデル】【成長会計】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…　100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

マクロ経済学II 【夜】

キーワード　/Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 /Instructor　末永　勝昭 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論Ⅰ	ECN240M

授業の概要　/Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。　特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引ー国際金融&国際投資–）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになろう。

＜本講義の到達目標＞

1．国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2．国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3．国際資本の流れ–国際金融の視点–から日本経済を分析できること。
＊日本経済新聞を読めるようになればなお良い。

教科書　/Textbooks

＊末永勝昭著　『国際マクロ経済学』　税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

（１）伊藤元重著　『ゼミナール国際経済入門』　日本経済新聞社
（２）末永勝昭著　『マクロ経済学』　税務経理協会

国際経済論I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション–経済のグローバル化と日本経済の動向–
第２回　国際経済の現状（Ⅰ）：国際経済の新潮流–グローバル経済化と新興経済諸国（BRICｓ）–
【東西冷戦の終焉】　【資源大国】　【国際資本】
第３回　国際経済の現状（Ⅱ）：アメリカ経済の動向と今後–その変遷と戦略–
【レーガノミクス】　【クリントノミクス】　【IT革命】　【ニュー・エコノミー】　【ドル基軸通貨】　【双子の赤字】　【グローバル・インバランス】　【トランプショック】
第４回　国際経済の現状（Ⅲ）：欧州連合（EU)と通貨統合（統一通貨ユーロ）　【欧州連合】　【ユーロ】
【英国のEU離脱】
第5回　国際経済と日本経済（１）：戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】　【政府主導の成長政策】　【高度経済成長】　【オイルショック】
【バブル崩壊と低成長】
第6回　国際経済と日本経済（Ⅱ）：外需（輸出）主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【プラザ合意】　【円高不況】　【経常収支の黒字】　【外貨準備高】　【アベノミクス】
第7回　国際経済と日本経済（Ⅲ）：国際金融市場の動きと日本経済　【ジャパン・マネー】　【オイル・マネー】　【国際資本】
【経常収支黒字】　【資本収支赤字】　【外貨準備率】　【世界経済の不均衡問題】
第8回　国際貿易の基礎理論（Ⅰ）–基本構造（メカニズム）と基本理念–　【国際分業】　【交易条件】
第9回　国際貿易の基礎理論（Ⅱ）–自由貿易と比較優位（生産費）の理論–
【リカード】　【比較生産費】　【ヘクシャ–＝オーリンの理論】　【国際競争力】
第10回　貿易政策の基礎分析（Ⅰ）：貿易摩擦と保護政策　【日米貿易摩擦】　【市場開放】　【非関税障壁】
第11回　貿易政策の基礎分析（Ⅱ）：保護政策の具体的手段とその効果　【関税政策】　【数量割当政策】
第12回　戦後の国際貿易制度：GATT&WTO、及びFTA（EPA)　TPP
第13回　TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）と日本経済　【関税撤廃】　【市場開放】　【高コスト構造の是正】
第14回　グローバル経済化と直接投資–日本経済の問題点：対外直接投資と対内直接投資–
【対外純資産】　【産業の空洞化】　【産業構造の変化】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

（１）定期試験・・・８０％
（２）日常の授業への取り組み・・・２０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（１）授業の中で指示された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
（２）授業に関連した記事（雑誌記事、新聞記事etc）を収集して、授業のさらなる理解に役立てて下さい。
（３）授業の中で配布された資料は、テキストと一緒に事前・事後学習に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

（１）日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
（２）授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済　グローバル・インバランス　BRICｓ　資源大国　国際資本　基軸通貨　米ドル　ユーロ　円高・円安　経常収支　資本収支　外貨準備　アベノミクス　国際分業　比較優位　交易条件　国際競争力　関税障壁　市場開放　対外債権　対外債務　対外純資産　対外直接投資　対内直接投資　産業の空洞化

国際経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor　末永　勝昭 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論Ⅱ	ECN241M

授業の概要　/Course Description

国際経済論IIは、世界の様々な国々・ 地域の経済動向について学び、国際経済の動き（動向）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、I学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをより的確・ 理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。

なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」　「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

＜国際経済論IIの基本的視点＞ー授業の流れー

＊授業展開における基本視点　➡　下記のように、「通貨」の視点からも国際経済の現状＆将来を分析していきます。

1．世界の三大通貨　➡　基軸通貨（国際通貨）：「米ドル」（＄）、欧州連合（EU）における統一通貨：「ユーロ」（€）、日本通貨：「円」（￥）　英国通貨：「ポンド」（£）

2．その他の注目通貨　➡　中国通貨：「人民元」、スイスの通貨：「スイスフラン」etc

教科書　/Textbooks

＊末永勝昭著　『国際マクロ経済学』　税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

(1)伊藤元重著　『ゼミナール国際経済入門』　日本経済新聞社：○
(2)末永勝昭著　『マクロ経済学』　税務経理協会

国際経済論II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：世界経済と資金の流れ
第2回　国際収支表と国際収支の諸概念　・・・・・・・・・・・・・・・【経常収支】　【資本収支】　【外貨準備】
第3回　国際収支と日・米経済関係（Ｉ）：世界経済の不均衡問題・・・・・【経常赤字と財政赤字】【双子の赤字】【資本収支の黒字】【債務大国：アメリカ】【グローバル・インバランス】
第4回　国際収支と日・米経済関係（II）：資本輸出国日本・・・・・・・・【経常収支の黒字】【資本収支の赤字：資本輸出】【外貨準備高】【債権大国：日本】　【対外投資】　【対外純資産】
第5回　経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」・・・・・・【貯蓄超過】【財政収支赤字】【経常収支黒字】
第6回　国際通貨制度とその変遷＆現状・・・【金本位制度】【固定相場制度】　【変動相場制度】【管理通貨制度】【IMF 体制】【基軸通貨：米ドル】【国際通貨制度の三位一体説】【トリフィンのジレンマ】【最適通貨制度】　【共通通貨：ユーロ】　【複数通貨制度】　【SDR】
第7回　外国為替取引と為替レート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【邦貨（円）建て】【外貨（ドル）建て】
第8回　外国為替制度：固定相場制度・・・・・・・・・・・・・【平価】【為替介入】【固定レート】【資本規制】
第9回　外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度・・・・・・・・・・・・・・【市場レート】【円高】【円安】
第10回　変動為替相場制度と為替介入（Ｉ）・・・・・【管理フロート制】【通貨当局】【為替介入】【外貨準備高】
第11回　変動為替相場制度と為替介入（II）・・・・・・・・・・・【FB：政府短期証券】　【外国為替資金特別会計】
第12回　外国為替レートとマクロ経済政策の効果・・・・・・・・・・・・・【財政政策】【金融政策】【金利の動き】【為替変動】【不胎化介入】【非不胎化介入】
第13回　固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析・・・・・・・・・・【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
第14回　グローバル経済化と自由な国際資本移動・・・・・・・・【マンデル＝フレミング・モデル】　【資本移動】
第15回　まとめ　–世界経済の動向と今後の展望–

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)　学期末試験　・・・　80%
(2)　日常の授業への取り組み・・・２０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（１）授業の中で指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
（２）授業に関連した資料【雑誌記事、新聞記事etc】を収集して、授業で学んだ知識を深めてください。
（３）授業の中で配布された資料は、テキスト＆ノートと共に事前・事後の学習に役立てて下さい。

履修上の注意 /Remarks

＊遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
(2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
(3)日本経済新聞を読めるようになって下さい。

キーワード /Keywords

国際収支の均衡　経常収支黒字・赤字　資本収支赤字・黒字　財政収支赤字　外貨準備高　輸出超過　輸入超過内需・外需　邦貨（円）建レート　外貨（ドル）建レート　円高・円安　通貨当局　管理フロート制　外国為替市場　市場レート　平価　為替介入　外国為替資金特別会計　FB（政府短期証券）　不胎化介入　非不胎化介入
国際通貨制度　基軸通貨（国際通貨）　MF 体制　国際通貨制度の三位一体説　トリフィンジレンマ　最適通貨制度
複数通貨制度　共通通貨:：ユーロ　SDR　グローバル・インバランス　国際資本移動　マンデル・フレミング理論

経済地理学I 【夜】

担当者名 /Instructor　近江　貴治 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学Ⅰ	ECN242M

授業の概要　/Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション　【経済地理学】、【地域構造論】
2回　産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
3回　企業の立地行動（Ⅰ）・・・ 市場圏モデル　【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
4回　企業の立地行動（Ⅱ）・・・ 市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
5回　商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
6回　１～５回の復習とまとめ　【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
7回　企業の立地行動（Ⅲ）・・・ 最小コストモデル　【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
8回　素材/装置型工業の立地行動　【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
9回　企業の立地行動（Ⅳ）・・・ 労働力指向立地　【マッセィ】【バーノン】【空間分業】
10回　先端/組立型工業の立地行動　【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
11回　６～10回の復習とまとめ　【輸送費理論】【企業内空間分業】
12回　企業の立地行動（Ⅴ）・・・ 集積とネットワーク　【スコット】【マークセン】【ポーター】
13回　在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
14回　現代の立地行動　【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
15回　全体のまとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

課題　…　10%
期末試験　…　90%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済活動が実際の空間・地域でどのように行われるのか、理論と現実を結び付けて解説していきます。

経済地理学I 【夜】

キーワード　/Keywords
立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor　柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学Ⅱ	ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション　【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
２回　オフィスの立地論　【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
３回　地点をめぐる立地競争　【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
４回　都市内システム　【都市】【バージェス】【ホイト】
５回　都市間システムと中枢管理機能　【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
６回　１～５回の復習とまとめ
７回　企業活動と地域　【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
８回　立地政策（１）・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業　【全総】【拠点開発方式】
９回　立地政策（２）・・・三全総と組立型産業　【定住圏構想】【テクノポリス】
10回　立地政策（３）・・・四全総　【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
11回　６～10回の復習とまとめ
12回　産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン　【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
13回　立地から見た地域構造の変遷（１）　【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
14回　立地から見た地域構造の変遷（２）　【現代の地域構造】
15回　全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 … 10%　期末試験 … 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
２、３、４、５、８、９、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

経済地理学II 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード　/Keywords

立地論、都市システム、立地政策

金融論I 【夜】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論Ⅰ	ECN260M

授業の概要　/Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I（および「金融論II」）では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書　/Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 金融とは
２回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
３回 家計の金融活動【資産選択】
４回 家計の金融活動【負債】
５回 企業の金融活動【MM定理】
６回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
７回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
８回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
９回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験 … 100 %

金融論I 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりしておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

金融論II 【夜】

担当者名 /Instructor　後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論Ⅱ	ECN261M

授業の概要　/Course Description

「金融論I」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書　/Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　オーバーバンキング【日本の資金循環】
３回　オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
４回　不良債権処理問題【不良債権処理方法】
５回　不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
６回　BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
７回　BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
８回　BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
９回　オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
10回　オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
11回　郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
12回　郵政民営化【郵政民営化の問題点】
13回　郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
14回　サブプライム問題【サブプライム問題とは】
15回　サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験　…　100　%

金融論II 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくと、講義内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際金融論I 【夜】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論Ⅰ	ECN363M

授業の概要　/Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることを目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【】はキーワード。
１回　円高・円安とは　【クロスレート】
２回　為替レートによる換算　【経常収支】【資本収支】
３回　国際収支表　【フロー統計】
４回　国際収支表における複式簿記の原理　【貸借対照表】
５回　貿易取引と国際決済　【並為替と逆為替】
６回　貿易取引と国際決済　【信用状】【荷為替信用制度】
７回　グローバル化と直接投資　【直接投資】
８回　国際証券投資と外貨準備　【証券投資】【外貨準備】
９回　為替レートの変動　【購買力平価】【アセットアプローチ】
１０回　為替レートの変動　【為替リスク】【マーシャル・ラーナー条件】
１１回　国際収支を左右するもの　【ISバランス】
１２回　国際収支を左右するもの　【キャリートレード】
１３回　実質為替レートと実効為替レート　【幾何平均】
１４回　バラッサ＝サミュエルソン効果　【中所得国の罠】
１５回　まとめと総復習　【24時間ディーリング】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験… 100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国際金融論I 【夜】

キーワード　/Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 /Instructor　前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論Ⅱ	ECN364M

授業の概要　/Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることを目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【】はキーワード。

1回　基軸通貨と国際通貨体制　【為替媒介通貨】
2回　各種の国際通貨体制　【固定相場制】【変動相場制】
3回　為替リスクと為替持高・資金調整　【スクエア】【カバー取引】
4回　デリバティブ取引　【先渡し】【先物】【オプション】【スワップ】
5回　国際金融市場と国際資本移動　【オフショア市場】【キャリー取引】
6回　欧州通貨統合の目的と経緯　【ユーロ】【ERM】
7回　欧州通貨統合の構造的問題　【安定成長協定】
8回　途上国の発展と国際資金フロー　【G20】
9回　国際的な金融危機の類型　【資本収支型の危機】
10回　頻発する通貨危機・国際金融危機　【サブプライムローン危機】
11回　頻発する通貨危機・国際金融危機　【世界金融危機】
12回　デフォルトか救済か　【IMFコンディショナリティー】
13回　国際金融危機の予防　【自己資本比率規制】【プルーデンス政策】
14回　国際金融危機の予防　【流動性規制】【ボルカールール】
15回　まとめと総復習–望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験… 100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国際金融論II 【夜】

キーワード　/Keywords

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor　別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論	BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の８割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学，マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2016年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣
中小企業庁編「2016年版小規模企業白書」日経印刷

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　中小企業とは
第3回　わが国中小企業の現状
第4回　中小企業の基本問題　【二重構造論】
第5回　中小企業の経済理論　【最適規模論】【独占・寡占理論】
第6回　下請関係と流通系列化　【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
第7回　地場産業問題　【構造転換】
第8回　ケース演習
第9回　〃　(解説)
第10回　中小商業問題　【サービス経済化】【大店立地法】
第11回　革新的中小企業論　【無制限労働供給理論】
第12回　「中小企業白書」のポイント整理I
第13回　〃　II
第14回　〃　III
第15回　まとめ
適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・・50%　期末レポート・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論 【夜】

担当者名 /Instructor　福井　直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論	BUS310M

授業の概要　/Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。本講義では、担当教員も執筆者として参加している上林(2015)を教科書として用いるので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できると思いますが、講義の順序は教科書の配列とは少し変えています。

教科書　/Textbooks

上林憲雄編(2015)『ベーシック＋ 人的資源管理』中央経済社。（2,592円）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

岩出　博(2013)『Lecture人事労務管理（増補版）』泉文堂。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
（上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理–理論と実践–(第3版)』文眞堂）
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１回　オリエンテーション、人的資源管理論へのプロローグ
２回　人的資源管理入門【企業経営】【人的資源】
３回　モチベーション理論【やる気】【モチベーション】
４回　リーダーシップとコミットメント【リーダーシップ】【コミットメント】
５回　組織構造論【分業】【調整】
６回　雇用管理【採用】【異動】
７回　人材育成【キャリア】【OJT】
８回　昇進管理【昇進】【出世】
９回　賃金制度【属人給】【仕事給】
１０回　労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
１１回　国際人的資源管理【多国籍企業】【海外派遣者】
１２回　人的資源管理学説の変遷（１）【科学的管理法】【人間関係論】
１３回　人的資源管理学説の変遷（２）【行動科学】【戦略人事】
１４回　人的資源管理と組織能力の連関【組織能力】【ダイナミック・ケーパビリティ】
１５回　近年における人的資源管理の動向、総まとめ【ダイバーシティ】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。
事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意　/Remarks

（１）「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくとよいでしょう。
（２）教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
（３）教科書は昨年度使用した本と同じです。
（４）大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずです。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。
なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード　/Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

１．教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。

２．ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。

３．これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。

４．参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教職の意義と教員の役割
３．教員という仕事の魅力と困難さ　(外部講師　中学校長)
４．教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
５．教員の仕事の理想と現実(外部講師　本学卒業生の中学校教員)
６．教員に求められる資質　　ー　子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
７．教員の仕事　その１　教科指導と授業づくり(中学校教諭)
８．教員の仕事　その２　教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事　その３　８，９回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事　その４　道徳教育実践の主体としての教師　-　道徳は教えられるか？
11. 教員の仕事　その５　生活指導実践主体としての教師 -　子どもたちと一緒に「発達の糧」となる生活を創造する
12.「反省的実践家」(ドナルド・ショーン)としての教師　-　その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために　-　体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ、授業アンケート(「教職課程を履修する意識がどう変わったか」)

＊講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　３０点、期末試験７０点
なお、欠席した場合には一回につき５点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション：教育とは何か
２回　教育の関係　：教育のモデル
３回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
４回　発達段階と発達課題：思春期・青年期
５回　感覚・身体と教育：五感・感覚教育
６回　教育思想①　：諸外国の教育思想
７回　教育思想②：日本の教育思想
８回　教育史①：西洋の教育史
９回　教育史②：日本の教育史
１０回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
１１回　学校教育の課題：学校で生じる問題
１２回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
１３回　国際化と教育：言語・文化
１４回　仕事と教育：進路形成
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【夜】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2700

文部科学省（2011）「生徒指導提要」 ￥298
※ただし、文科省HP（下記）より「生徒指導提要」の第3章部分（p.43-81）を印刷して用いてもよい。
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第２回　乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
第３回　ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
第４回　ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
第５回　イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
第６回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
第７回　自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
第８回　学習の過程【学習理論、論理的思考】
第９回　友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
第10回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第11回　他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
第12回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第13回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第14回　発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　40%　　期末試験　…　60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　教育制度の基本原理（１）　教育制度とは
２回　教育制度の基本原理（２）　日本の教育法制
３回　学校制度の基本的事項（１）機会均等、義務教育
４回　学校制度の基本的事項（２）中等教育、学校体系
５回　学校制度の基本的事項（３）就学・懲戒
６回　教科書に関する制度
７回　教員制度の基本的事項（１）教員免許法制
８回　教員制度の基本的事項（２）教員の指導力、研修
９回　教員制度の基本的事項（３）公務員としての教師、教員の待遇
１０回　教育行財政の仕組み（１）　中央教育行政、地方教育行政
１１回　教育行財政の仕組み（２）　教育委員会と学校
１２回　学校関係者による協力支援の制度
１３回　地域社会の変容と学校
１４回　教育制度改革の動向
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ･資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　教育課程編成の基本原理
第 2回　日本の教育課程の変遷
第 3回　学習指導要領と教育課程編成
第 4回　学力と教育課程
第 5回　学校における教育課程編成
第 6回　「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
第 7回　教育課程の評価
第 8回　諸外国の教育課程・カリキュラム（１）東アジアを中心に
第 9回　諸外国の教育課程・カリキュラム（２）英語文化圏を中心に
第10回　諸外国の教育課程・カリキュラム（３）欧州を中心に
第11回　教育課程の開発
第12回　今日的課題と教育課程（１）アクティブラーニング
第13回　今日的課題と教育課程（２）人の移動と教育
第14回　今日的課題と教育課程（３）ESD
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法Ａ 【夜】

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・演習
クラス /Class	３年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

・「中学校学習指導要領解説　社会編」（平成20年9月・文部科学省）　167円＋税
・他にも講義内で資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司　編　『中等社会科の理論と実践』　学文社　2007　1900円＋税
・他に授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　教育の目的と社会科の役割
第２回：社会科教育の現状　学習指導要領と改訂のポイント
第３回：地理的分野の目標とその取り扱い
第４回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
第５回：公民的分野の目標と内容とその取り扱い
第６回：社会科の授業づくり　教材研究
第７回：社会科の授業づくり　グループワークについて
第８回：社会科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第９回：社会科の授業づくり　「地誌作成」について
第１０回：社会科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む
第１１回：単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１２回：単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１３回：政治および宗教に関する事項の取扱い
第１４回：社会科教師に求められる資質・能力
第１５回：まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
最終試験・課題レポート・・・ ３０％
学習指導案作成　・・・ ４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
　　グループワークの準備

事後学習：学習指導要領に関する理解と確認、講義後に指示を行う

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は７割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｂ 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　2学期
授業形態 /Class Format　講義・演習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、一学期の社会科教育法Aの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成をめざす。また教育方法論や授業理論について学習する。現代社会の諸問題を取り上げ、教材開発につなげる。
本授業は、全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、社会科を担当する教員として、学習指導要領、教材開発、授業形式、授業内容に関する知識などを習得した上で受講者は模擬授業を行い、受講者全員で検討していく。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

教科書　/Textbooks

『中学校学習指導要領解説　社会編』（平成20年9月　文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　学習指導要領における中学社会科と社会の諸問題
第　３回　教育方法論・教材開発
第　４回　個が育つ教育・個性をみるために
第　５回　授業研究・教員評価について
第　６回　学習指導案の作成作業　教師による影響の注意
第　７回　模擬授業
第　８回　提案する社会科の授業理論、模擬授業
第　９回　体験学習・発見学習・アクティブラーニングについて、模擬授業
第１０回　グローバル化について、模擬授業
第１１回　環境問題について、模擬授業
第１２回　情報化社会について、模擬授業
第１３回　意思決定の授業理論、模擬授業
第１４回　規範意識について、模擬授業
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

演習　30%、各授業でのミニレポート　40%、模擬授業時に作成する学習指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　模擬授業のための教材開発・教材研究・指導案の作成

事後学習　模擬授業の評価・実践した模擬授業について仮想の試験問題作成を行う

履修上の注意　/Remarks

受講生の人数、参加状況によって、予定が変更されることがある。
積極的な参加が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【夜】

教職に関する科目
必修科目

担当者名 /Instructor　田中　友佳子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより 、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　授業のねらいや計画、注意点の説明
第２回：道徳とは何か、なぜ必要か　倫理、哲学、法と道徳との関係性
第３回：道徳教育の変遷①　近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
第４回：道徳教育の変遷②　戦後から「改正教育基本法」、まで
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①　生命倫理をめぐる問題について考える (グループ討論)
第８回：道徳教育の現代的課題②　性の多様性について知る(グループ討論)
第９回：道徳教育の現代的課題③　住み良い社会とは何かを考える (グループ討論)
第10回：道徳教育の現代的課題④　「世代間の平等」の問題を考える (グループ討論)
第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
第12回：「道徳の時間」の教材研究①　読み物教材に対する批判的検討
第13回：「道徳の時間」の教材研究②　問題解決的な学習に対する批判的検討
第14回：学習指導案の発表とコメント
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード　/Keywords

特別活動論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

特別活動の目標･ 内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学 【夜】

担当者名 /Instructor	下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。
　そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書　/Textbooks

新しい教育の方法と技術　2012　篠原 正典 (著), 宮寺 晃夫 (著)　ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：教育と学習・理論と方法・実践
第３回：授業の歴史（欧米）
第４回：授業の歴史（日本）
第５回：学習の理論・協同的な学び
第６回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：授業の過程・デザイン-実践-評価
第９回：情報機器・メディア活用の授業
第１０回：「学力」について考える
第１１回：授業の研究１
第１２回：授業の研究２
第１３回：教師の専門性・専門職性
第１４回：教材研究・教材開発
第１５回：まとめ
定期試験
（２~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は。実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。）

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ ３０％
発表・レジュメ作成・・・ ２０％
最終試験・課題レポート・・・ ５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。

キーワード　/Keywords

生徒・進路指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。
① 生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。 また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規＋教育で考える 生徒指導ケース１００」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション ＋ 課題レポートの説明
２回 生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回 教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他） その１ - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回 教育課程と生徒指導 その２ 学級活動・学校行事と生徒指導
５回 生徒指導に関する法制度等（第７章他） その１
６回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
９回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その１ 少年期
14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その２ 思春期
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート２０%、期末試験８０%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【夜】

教職に関する科目
必修科目

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

１．　学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談）、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。

２．教育相談の基本的な理念と技法（傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を修得すること。

３．　不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

○　文科省編　「生徒指導提要」
○　楠 凡之　「虐待　いじめ　悲しみから希望へ」　高文研　第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○　広木克行　「教育相談」（教師教育テキストシリーズ）　学文社
○　吉田圭吾　教師のための教育相談の技術　金子書房
○　日本学校教育相談学会　学校教育相談学ハンドブック　ほんの森出版
一丸藤太郎・菅野信夫編著　学校教育相談　ミネルヴァ書房
楠　凡之　「いじめと児童虐待の臨床教育学」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　課題レポートの説明
２回　子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
３回　子どもの発達課題と教育相談
４回　教育相談の基本的な理念について　一　受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
５回　教育相談の基本的なスキルについて　-　共感的応答
６回　教育相談の基本的なスキルについて　-　直面化
７回　教育相談の基本的なスキルについて　-　ロールプレイ体験
８回　子どもの「問題行動」と教育相談　その１　不登校問題
９回　子どもの「問題行動」と教育相談　その２　発達障害の問題
10回　子どもの「問題行動」と教育相談　その３　薬物問題（外部講師　北九州ダルク施設長）
11回　保護者理解と教育相談
12回　教育相談における関係諸機関との連携
13回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　少年期
14回　今日のいじめ問題への理解と指導　-　思春期　全体のまとめ
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
課題として出されたレポートについては必ず提出すること
学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの”ｖｉｅｗ”の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の”ｖｉｅｗ”を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード　/Keywords

教育相談の理念と技法、　子どもの発達課題と教育相談、関係諸機関との連携

教育実習１ 【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚

２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など

３．生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 学校で求められる人権教育について
６回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
７回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
８回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
９回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
11回 模擬授業②(特別活動 その１ 何らかの場面指導他)
12回 模擬授業③（特別活動 その２ 学級活動）
13回 模擬授業④（各教科 その１）
14回 模擬授業⑤（各教科 その２）
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習１　【夜】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords

教育実習２ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回	； オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 ２回	； 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 ３回	； 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 ４回	； 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
第 ５回	； 実習校実習②	【教育実習指導】
第 ６回	； 実習校実習③	【教育実習指導】
第 ７回	； 実習校実習④	【教育実習指導】
第 ８回	； 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 ９回	； 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第１０回	； 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第１１回	； 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第１２回	； 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第１３回	； 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第１４回	； 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第１５回	； 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 １回 ； 実習校実習① 【教育実習指導】
第 ２回 ； 実習校実習② 【教育実習指導】
第 ３回 ； 実習校実習③ 【教育実習指導】
第 ４回 ； 実習校実習④ 【教育実習指導】
第 ５回 ； 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
第 ６回 ； 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
第 ７回 ； 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
第 ８回 ； 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
第 ９回 ； 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
第１０回 ； 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
第１１回 ； 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
第１２回 ； 実習校実習⑫ 【教育実習指導】
第１３回 ； 実習校実習⑬ 【教育実習指導】
第１４回 ； 実習校実習⑭ 【教育実習指導】
第１５回 ； 実習校実習⑮ 【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修（教育実習の時間数の単位換算のため）。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習（中・高）【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の４つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、III類の４　に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理、プレゼンテーション方法の説明
２回　子どもたちから学び、一緒に成長できる教師であるために(実践報告とグループ討論)
３回　生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのロールプレイ実習
４回　教員に求められる対人関係能力について
５回　生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
６回　教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の検討
７回　教科の授業のスキルアップその１（わかりやすい話し方、板書の仕方等（模擬授業及びグループ討論））
８回　教科の授業のスキルアップその２（生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等（模擬授業及びグループ討論））
９回　教科の授業のスキルアップその３（わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等（模擬授業及びグループ討論））
10回　教科の授業のスキルアップその４（効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方（模擬授業及びグループ討論））
11回　保護者との信頼関係づくりの課題（グループ討論）
12回　家庭・地域との連携・協力に向けての課題（グループ討論）
13回　学校現場でのフィールドワークの報告　その１（教科教育を中心に）
14回　学校現場でのフィールドワークの報告　その２(教科外教育、生徒指導を中心に)
15回　教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物（教育実践演習ワークシート、学級経営案）　２０％　平常点３０％　期末レポート　５０％　で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習（中・高）【夜】

教職に関する科目
必修科目

キーワード　/Keywords
教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学 【夜】

担当者名 /Instructor　田島　司 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となってほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書　/Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション、学校の意義、教育の意義【心理学】【学際性】
２回　幼児，児童の心身の発達と教育【表象世界】【しつけ】【不適応】
３回　児童期の発達【学級崩壊】
４回　学習過程【条件づけ】、【強化】、【般化】、【モデリング】、【洞察等】
５回　動機づけ【内発的動機づけ、帰属】
６回　家庭における教育【育児】【しつけ】
７回　家庭における教育【教育への動機】
８回　学校組織と教師【組織としての学校の特殊性】【職業としての教師の特殊性】
９回　教室内過程【教師生徒との関係】
１０回　教室内過程【生徒間関係】
１１回　教育評価【測定】
１２回　発達の個人差と障害児【障害理解】
１３回　発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
１４回　現代の教育問題について
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の小テスト　…　100％
※小テストは３～４回行う。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前の予習としては、教育心理学に関する内容を特定のテーマに偏ること無く、図書館等で参考になる本を自主的に読むなどしておくことが望ましい。講義後の復習としては、学修したキーワードに関して深く掘り下げるための本を読んでほしい。その際、教育心理学のみならず、発達心理学、社会心理学、学習心理学などの本も参考になるので幅広い分野の本を手にとって欲しい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人権教育論 【夜】

教職に関する科目
選択科目

担当者名 /Instructor　弓野　勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

○人権教育とは、「自他の人権の実現と擁護のための必要な資質や能力を育成し発展させることを目指す総合的な教育」です。
　文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、「私の人権教育の創造」をめざす。
○教育現場の具体的な人権問題の事象に学び、人権教育の知識を豊かにすると共に、人権感覚を研き、人権教育の技能・スキル・態度を培う。
○「部落差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「教育・啓発の推進」が求められています。同和問題への「正しい理解と科学的認識」を培い、解決への道筋を確かにすると共に、「授業内容の創造」をめざす。

教科書　/Textbooks

○「手づくり資料」を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○授業中に「テーマ毎に紹介」します。

人権教育論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)私の人権教育の創造
第1回 「体罰」と人権
○教育現場の体罰の実態。
○体罰のない学校を創るため、懲戒・体罰・正当防衛を正しく理解する。
第2回 「いじめ問題」と人権①
○「いじめ問題」の実態に学び、いじめの構図、加害者の心理、傍観者の心理を理解し、
教育内容の創造の道筋を考える。
第3回「 いじめ問題」と人権②
○文部科学省の「いじめの定義」、「いじめ防止対策推進法」を理解する。
○いじめ認知調査「レジリエンス」(自己回復力)
第4回 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
「同和教育の成果と手法の評価を踏まえ、教育内容の創造へチャレンジ」する。
①人権尊重の精神に立った学習活動の創造。学力と進路の保障。
「人権が尊重される授業づくり」「自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係」
「全国学力テストの結果の分析と課題」
第5回 ②人間関係づくり。なかまづくり。
「なかまづくりの原点と実践例」「金子みすずさんからのメッセージ」
第6回 ③教育環境、雰囲気づくり
「学級人権文化の創造」「子どもの居場所づくり」
第7回 ④隠れたカリキュラム。空間的意識の大切さ。
「人権教育の技能・スキル・態度」「アサーティブな表現を研く」
「金子みすずの詩と東京大学入試問題」
第8回 個別の人権課題に学ぶ①
○発達障害と子どもの人権
第9回 個別の人権課題に学ぶ②
○「障害者差別解消法」「性の多様性」

(2)気づきと発見の部落史授業
第10回 ①近世の文学者の人権感覚に学ぶ
○一茶・蕪村・芭蕉の俳句から学ぶ。
②近代医学の夜明け。「解体新書」と出会い直す。
○「腑分け」の主人公
第11回 ③現代の社会問題としての同和問題の起こり(成立)について学ぶ
○明治時代~大正時代~昭和時代
「解放例の目的と意義」「近代化への政策と差別の再生産」
第12回 ○「水平社宣言と水平社の結成」
「竹田の子守唄と少女たちの叫び」
第13回 ○「結婚差別」(2人の若者の遺書)
「憲法14条・24条」「人権意識調査」から考える。
第14回 ○「教科書無償運動と親たちの願い」
「全国高等学校統一応募用紙と就労保障の取り組み」
第15回 ○同和問題解決への国の施策
「同和対策審議会・答申~同和対策事業特別措置法」
○「部落差別の解消の推進に関する法律」について
○法律制定の経緯と意義。
○部落差別の現状と課題。「授業内容創造への視点

成績評価の方法 /Assessment Method

○毎時間の「受講票」「定期的な小テスト(レポート)」「要点整理プリント」「テスト」を合わせて総合的に評価します。
○「受講票」は「質問・意見・理解内容」を記入し提出。
○評価の割合は「テスト」(60%)、「受講票」(20%)、「小テスト(レポート)」(20%)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

○この授業科目の単位(2単位、週90分授業)を修得するためには、授業とは別に「毎週180分程度」の自習が必要と考えます。
○基本的には、「前もって配布された資料」に必ず目を通し、学習内容をチェックしておく。
○テーマ毎に「要点整理プリント」を配布します。次の授業で提出します。
○「小テスト、レポート(100字以内)」は、事前に予告します。
「レポート用紙」は、事前に配布します。
○自習内容の詳細に関しては、授業の中で指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人権教育論 【夜】

教職に関する科目
選択科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育工学 【夜】

担当者名 /Instructor	大塚　一徳 / 北方キャンパス　非常勤講師						
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	２年						

対象入学年度 /Year of School Entrance

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○

授業の概要　/Course Description

本講義は，教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術，教材と教具，指導方法等を学び，授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術）の進展を踏まえ，PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに，模擬授業の実施及び評価等を通して，教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し，各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500 円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】はキーワード）
１．　オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
２．　授業と教育方法　【教育方法】
３．　授業と教育技術　【教育技術】
４．　授業のシステム化の方法と授業設計の手順　【授業設計】
５．　授業過程の分析と改善　【授業過程】
６．　授業実施の技術　【授業技術】
７．　授業の評価　【授業評価】
８．　教育における情報化社会の影響【情報化社会】
９．　教育におけるICT（情報通信技術）の活用【ICT】
１０．学習指導案の作成　【学習指導案】
１１．教材研究　【教育メディアとその活用】
１２．模擬授業　【模擬授業】
１３．テストと学習内容の評価　【テスト】
１４．授業実践能力の改善と向上　【教育の方法と技術の実践能力】
１５．現代の教育課題と講義のまとめ　【現代の教育課題】

成績評価の方法　/Assessment Method

教材研究課題（２０％），模擬授業（３０％），試験（５０％）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
事後学種としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意　/Remarks

教材研究，模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords